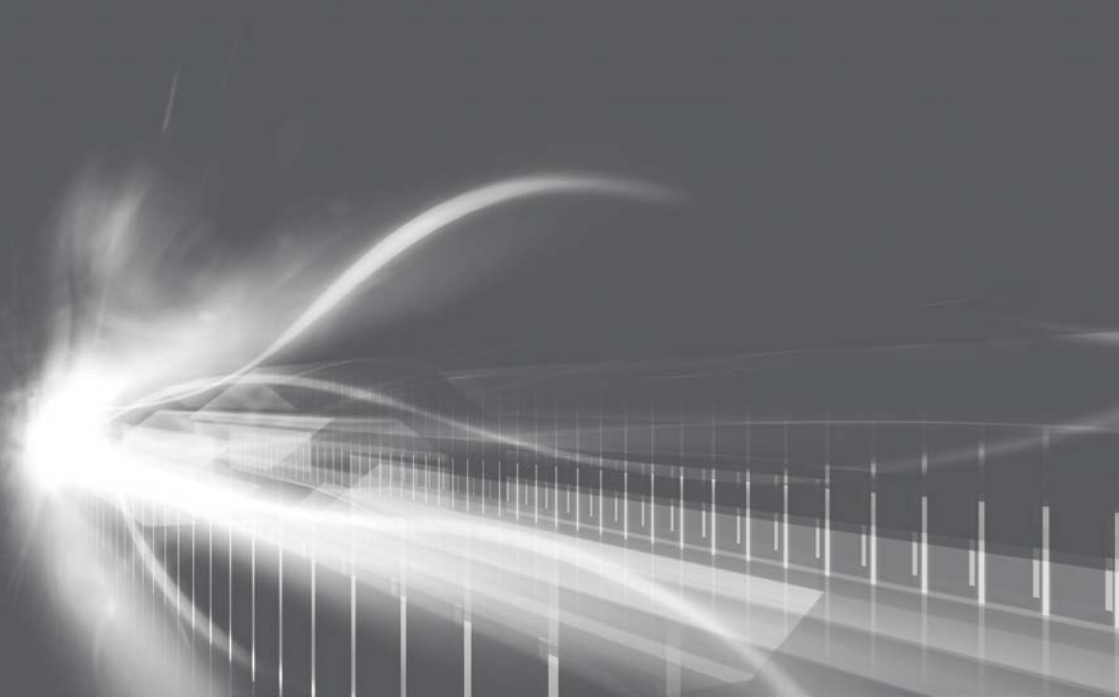


取　扱　書

よくお読みになってご使用ください。
取扱書は車の中に保管しましょう。

SAI

TOYOTA

イラスト目次　イラストから検索

1 安全・安心のために　お客様に必ずお読みいただきたいこと

2 メーターの見方　メーター・警告灯／表示灯の種類・見方など

3 各部の操作　ドア・ドアガラスの開閉や、運転操作前の調整など

4 運転　運転に必要な操作やアドバイス

5 室内装備・機能　室内装備の使い方など

6 お手入れのしかた　車のお手入れ・メンテナンスの方法

7 万一の場合には　故障したときや、緊急時などの対処

8 車両情報　車の仕様やお好みに合わせて選べる機能の情報など

さくいん
- 症状から検索
- 音から検索
- アルファベットで検索
- 五十音で検索

知っておいていただきたいこと 6
本書の見方 10
検索のしかた 11
イラスト目次 12

1 安全・安心のために

1-1. 安全にお使いいただくために
運転する前に 24
安全なドライブのために 26
シートベルト 28
SRS エアバッグ 33
お子さまの安全のために 41
子供専用シート 42
チャイルドシートの取り付け 50
排気ガスに対する注意 56

1-2. ハイブリッドシステム
ハイブリッドシステムの特徴 57
ハイブリッドシステムの注意 61

1-3. 盗難防止装置
イモビライザーシステム 67
オートアラーム 68

2 メーターの見方

2. 計器の見方
警告灯／表示灯 72
計器類 76
マルチインフォメーションディスプレイ 80
エネルギーモニター／燃費画面／ ESPO 画面 85

3 各部の操作

3-1. キー
キー 92

3-2. ドアの開閉、ロックのしかた
ドア 95
トランク 100
スマートエントリー&スタートシステム 104

3-3. シートの調整
フロントシート 110
マイコンプリセットドライビングポジションシステム 113
ヘッドレスト 118

3-4. ハンドル位置・ミラー
ハンドル 120
インナーミラー 123
ドアミラー 126

3-5. ドアガラス・ムーンルーフの開閉
パワーウインドウ 130
ムーンルーフ 133

4 運転

4-1. 運転にあたって
運転にあたって 138
荷物を積むときの注意 146

4-2. 運転のしかた
パワー（イグニッション）スイッチ.....147
EV ドライブモード.....152
トランスミッション.....154
方向指示レバー.....160
パーキングブレーキ.....161
4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方
ランプスイッチ.....162
フォグランプスイッチ.....164
ワイパー&ウォッシャー.....167
ヘッドランプクリーナー.....171
4-4. 給油のしかた
給油口の開け方.....172
4-5. 運転支援装置について
クルーズコントロール.....175
レーダークルーズコントロール.....179
LKA（レーンキーピングアシスト）.....191
運転を補助する装置.....200
PCS（プリクラッシュセーフティシステム）.....205
後方プリクラッシュセーフティシステム.....211
4-6. 運転のアドバイス
ハイブリッド車運転のアドバイス.....214
寒冷時の運転.....216

5 室内装備・機能

5-1. エアコンの使い方
オートエアコン（リモートタッチ非装着車）.....220
オートエアコン（リモートタッチ装着車）.....228
ステアリングスイッチ／助手席ドアパネルスイッチでの操作.....239
シートヒーター（快適温熱シート）.....240
5-2. 室内灯のつけ方
室内灯一覧.....242
・インテリアランプ.....243
・パーソナルランプ.....243
5-3. 収納装備
収納装備一覧.....245
・グローブボックス.....246
・コンソールボックス.....246
・カップホルダー.....247
・ボトルホルダー.....251
・小物入れ.....252
・オープントレイ.....253
トランク内装備.....254

5-4. その他の室内装備の使い方
その他の室内装備 256
・サンバイザー.....256
・バニティミラー.....256
・時計 257
・リヤアームレスト.....257
・電動リヤサンシェード.....258
・コートフック.....260
・アシストグリップ.....261
・アクセサリーソケット.....262
アクセサリーコンセント 263
ステアリングスイッチ 269

6 お手入れのしかた

6-1. お手入れのしかた
外装の手入れ.....272
内装の手入れ.....276
6-2. 簡単な点検・部品交換
ボンネット.....279
ガレージジャッキ.....282
エンジンルームカバー 283
ウォッシャー液の補充 285
タイヤについて.....287
タイヤ空気圧について 291
エアコンフィルターの交換....293
電子キーの電池交換 295
ヒューズの点検・交換 297
電球（バルブ）の交換 300

7 万一の場合には

7-1. まず初めに
故障したときは 316
非常点滅灯
（ハザードランプ）..... 317
発炎筒 318
車両を緊急停止するには..... 320
7-2. 緊急時の対処法
けん引について 321
警告灯がついたときは 327
警告メッセージが
表示されたときは..... 331
パンクしたときは
（応急用タイヤ装着車）..... 349
パンクしたときは
（タイヤパンク応急修理
キット装着車）..... 359
ハイブリッドシステムが
始動できないときは..... 372
電子キーが正常に
働かないときは 374
補機バッテリーが
あがったときは 376
オーバーヒートしたときは... 381
スタックしたときは 385

8 車両情報

8-1. 仕様一覧
メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）.....388
8-2. カスタマイズ機能
ユーザーカスタマイズ機能一覧.....393

さくいん

こんなときは（症状別さくいん）..... 404
車から音が鳴ったときは（音さくいん）..... 407
アルファベット順さくいん..... 409
五十音順さくいん 410

次の装備は、別冊「ナビゲーションシステム取扱書」をお読みください。

- GPS ボイスナビゲーション
- オーディオ&ビジュアル
- 音声操作システム
- クリアランスソナー
- ETC システム /ITS スポット対応 DSRC システム
- バックガイドモニター
- ワイドビューフロントモニター
- ハンズフリー
- T-Connect

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。
そのため、お客様の車にはない装備の説明が記載されている場合があります。また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。
トヨタ販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱説明書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様の車の装備と一致しない場合があります。

不正改造について

- トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。
- 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルには SRS エアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。
  - ・タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換
    異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。
  - ・電装品・無線機の取り付け・取りはずし
    電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。
    RF 送信機の取り付けについては、P. 9 も参照してください。
- フロントウインドウガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けないでください。視界をさまたげるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

車両データの記録について

お車には、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが複数装備されており、主に次のようなデータを記録します。

・エンジン回転数
・電気モーター回転数
・アクセルの操作状況
・ブレーキの操作状況
・車速
・シフトポジション
・駆動用電池の状態

グレード･オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。なお、コンピューターは会話などの音声や映像は記録しません。

● データの取り扱いについて

トヨタはコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、トヨタは取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

・お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
・警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
・統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

● T-Connect によるデータの取り扱いについて

お客様が T-Connect をご利用の場合、記録データとその使用について、T-Connect 利用規約をご覧ください。

イベントデータレコーダー

お車には、最適な車両性能を維持するためのコンピューターを搭載しています。このコンピューターはシステムが正常に作動していることを診断すると共に、衝突のときや衝突に近い状態（SRS エアバッグの作動および路上障害物との接触など）のときのデータを記録するイベントデータレコーダー（EDR）を装備しています。ただし、衝突の程度と形態によっては、データが記録されない場合があります。

エアバッグコンピューターに搭載しているイベントデータレコーダーが、衝突のときや衝突に近い状態のときに次のデータを記録します。

・エンジンの回転数
・車速
・ブレーキペダルの操作状況
・アクセルペダルの操作状況
・ハイブリッドトランスミッションのシフトポジション
・エアバッグ作動に関する情報
・エアバッグシステムの故障診断情報

イベントデータレコーダーは会話などの音声や映像は記録しません。

● EDR データの開示について

トヨタおよびトヨタが委託した第三者は、イベントデータレコーダーに記録されたデータを、車の研究開発を目的に取得・流用することがあります。なお、トヨタおよびトヨタが委託した第三者は、取得したデータを次の場合を除き、第三者へ開示・提供することはありません。

・お車の使用者の同意がある場合
・裁判所命令などの法的強制力のある要請に基づく場合
・統計的な処理を行うなどの、使用者や車が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

RF 送信機の取り付けについて

お車へ RF 送信機を取り付けると、次のようなシステムに影響をおよぼす可能性があります。

- ハイブリッドシステム
- EFI コンピュータ
- レーダークルーズコントロール
- クルーズコントロール
- ABS（アンチロックブレーキシステム）
- SRS エアバッグ
- シートベルトプリテンショナー

悪影響を防ぐための措置や取り付け方法については、必ずトヨタ販売店にお問い合わせください。

ご希望により、RF 送信機の取り付けに関する詳しい情報（周波数帯域・電力レベル・アンテナ位置・取り付け条件）をトヨタ販売店にてご提供します。

高電圧部位や高電圧配線は、電磁シールド構造になっています。従来の車や家電製品と比べて、電磁波が多いということはありません。

アマチュア無線の一部（遠距離通信）において、受信時に雑音が混入する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務付けられています）

本書の見方

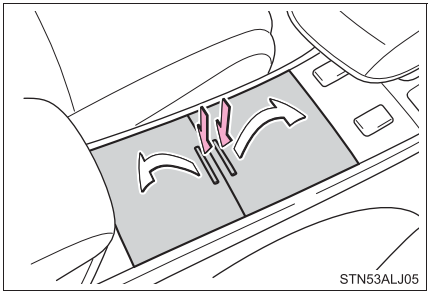
警告 お守りいただかないと、お客様自身と周囲の人々が死亡、または重大な傷害につながるおそれがあることを説明しています。

注意 お守りいただかないと、車や装備品の故障や破損につながるおそれがあることを説明しています。

1 2 3… 操作・作業の手順を示しています。番号の順に従ってください。

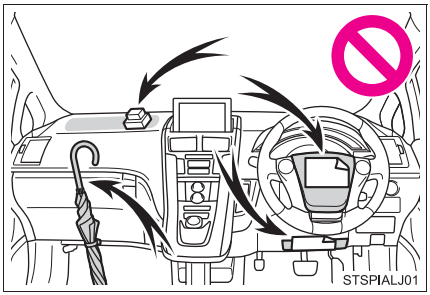
押す・まわすなど、していただきたい操作を示しています。

フタが開くなど、操作後の作動を示しています。



説明の対象となるもの・場所を示しています。

“してはいけません”“このようにしないでください”“このようなことを起こさないでください”という意味です。

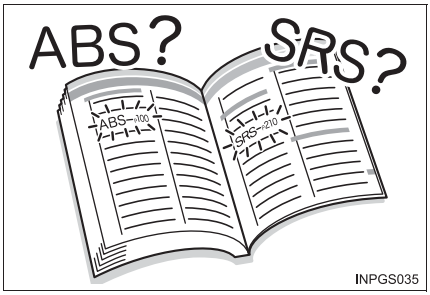


知識 機能や操作方法の説明以外で知っておいていただきたい、知っておくと便利なことを説明しています。

検索のしかた

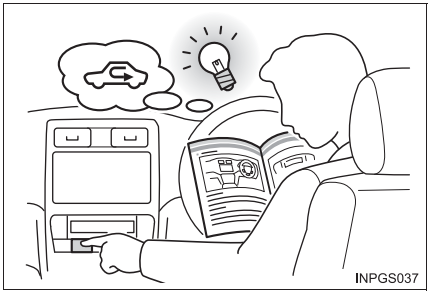
■ 名称から探す

・五十音順さくいん.....410
・アルファベット順
さくいん.....409



■ 取り付け位置から探す

・イラスト目次.....12

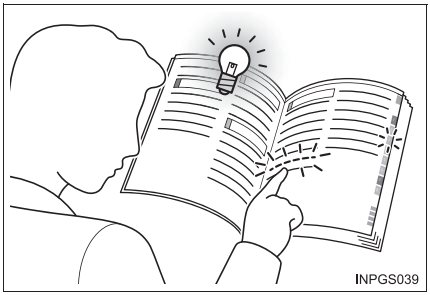


■ 症状や音から探す

・こんなときは
（症状別さくいん）.....404
・車から音が鳴ったときは
（音さくいん）.....407

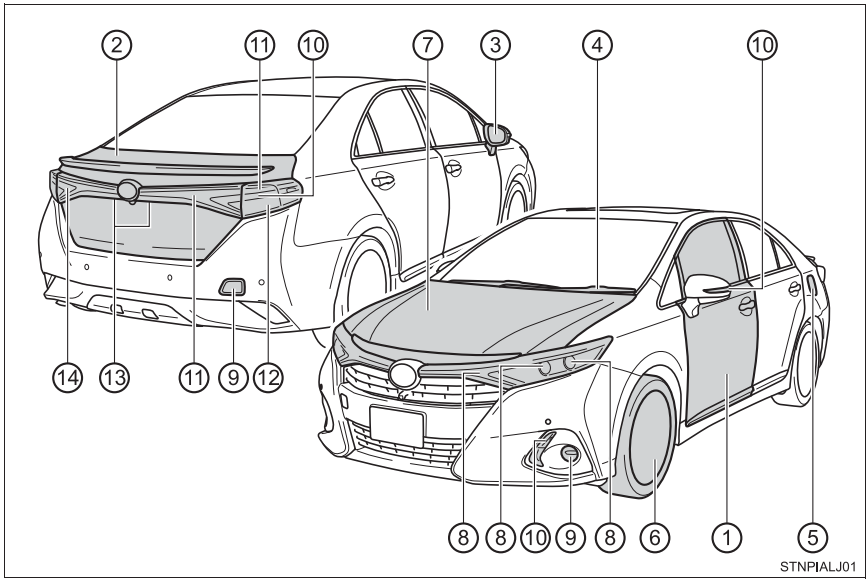
■ タイトルから探す

・目次 2



イラスト目次

■ 外観



① **ドア . . . . . P. 95**
施錠／解錠 . . . . . P. 95, 97
ドアガラスの開閉 . . . . . P. 130
メカニカルキーでの施錠／解錠 . . . . . P. 374
警告灯・警告メッセージ . . . . . P. 329, 335
② **トランク . . . . . P. 100**
車内から開ける . . . . . P. 100
車外から開ける . . . . . P. 100
警告灯・警告メッセージ . . . . . P. 329, 335
③ **ドアミラー . . . . . P. 126**
鏡面の角度調整 . . . . . P. 126
ミラーの格納 . . . . . P. 127
調整位置の登録（ポジションメモリー）★ . . . . . P. 114
曇りを取る（ミラーヒーター）★ . . . . . P. 224, 232

★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

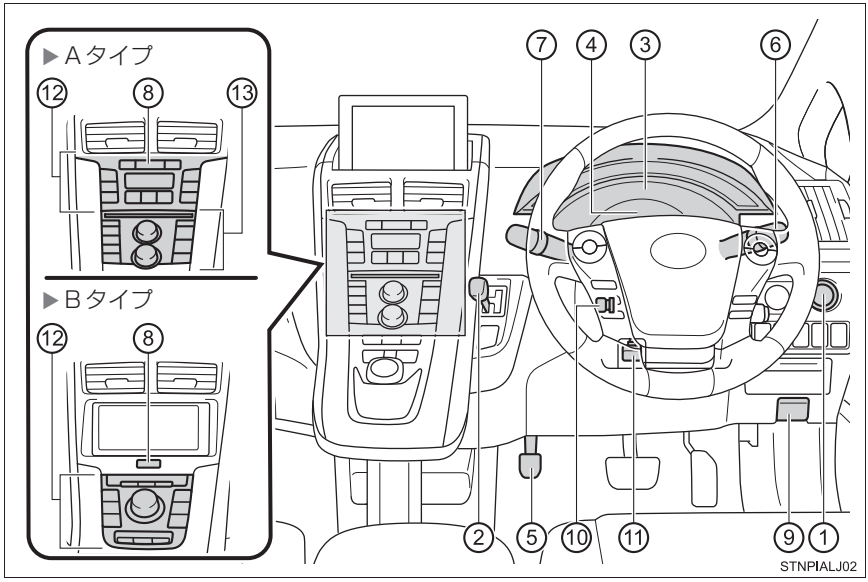
④ **ワイパー**.....**P. 167**
冬季の注意.....P. 216
凍結防止（フロントワイパーデアイサー）★.....P. 224, 234
洗車時の注意.....P. 274
⑤ **給油口**.....**P. 172**
給油方法.....P. 172
燃料の種類・燃料タンク容量.....P. 388
⑥ **タイヤ**.....**P. 287**
サイズ・空気圧.....P. 391
冬用タイヤ・タイヤチェーン.....P. 216
点検・ローテーション.....P. 287
パンク時の対処.....P. 349, 359
⑦ **ボンネット**.....**P. 279**
開け方.....P. 279
エンジンルームカバー.....P. 283
エンジンオイル.....P. 388
オーバーヒート時の対処.....P. 381
警告メッセージ.....P. 335

走行に関わる外装のランプバルブ
（交換要領：P. 300, ワット数：P. 392）

⑧ **ヘッドランプ・車幅灯**.....**P. 162**
⑨ **フロントフォグランプ★・リヤフォグランプ★**.....**P. 164**
⑩ **方向指示灯**.....**P. 160**
非常点滅灯.....**P. 317**
後方車両への警報
（後方プリクラッシュセーフティシステム）★.....P. 211
⑪ **尾灯**.....**P. 162**
⑫ **制動灯**
緊急ブレーキシグナル.....P. 201
⑬ **番号灯**.....**P. 162**
⑭ **後退灯**
シフトポジションをＲにする.....P. 154

★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

■ インストルメントパネル



A タイプ :リモートタッチ装着車

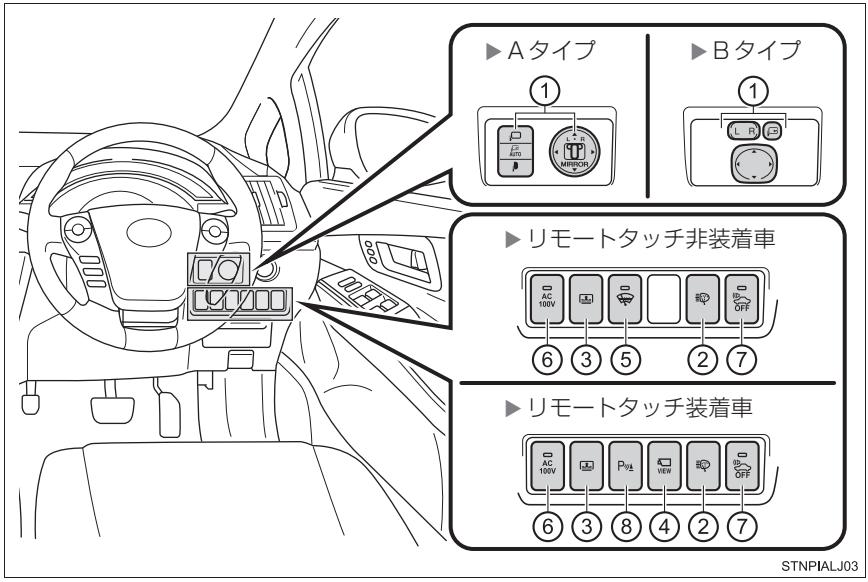
B タイプ :リモートタッチ非装着車

① **パワースイッチ . . . . . P. 147**
ハイブリッドシステムの始動・モード切りかえ . . . . . P. 147
ハイブリッドシステムの緊急停止 . . . . . P. 320
ハイブリッドシステムが始動できないときの対処 . . . . . P. 372
警告メッセージ . . . . . P. 331
② **シフトレバー . . . . . P. 154**
シフトポジションの切りかえ . . . . . P. 154
けん引時の注意 . . . . . P. 321
③ **メーター . . . . . P. 76**
見方・明るさの調整 . . . . . P. 77
警告灯／表示灯 . . . . . P. 72
警告灯点灯時の対処 . . . . . P. 327

④ **マルチインフォメーションディスプレイ . . . . . P. 80**
表示内容 . . . . . P. 80
エネルギーモニター . . . . . P. 86
警告メッセージ表示時の対処 . . . . . P. 331
⑤ **パーキングブレーキ . . . . . P. 161**
かける・解除する . . . . . P. 161
冬季の注意 . . . . . P. 217
警告ブザー・警告メッセージ . . . . . P. 336
⑥ **方向指示レバー . . . . . P. 160**
ランプスイッチ . . . . . P. 162
ヘッドランプ・車幅灯・尾灯 . . . . . P. 162
フロントフォグランプ★・リヤフォグランプ★ . . . . . P. 164
⑦ **ワイパー&ウォッシャースイッチ . . . . . P. 167**
使い方 . . . . . P. 167
ウォッシャー液の補充 . . . . . P. 285
⑧ **非常点滅灯スイッチ . . . . . P. 317**
⑨ **ボンネット解除レバー . . . . . P. 279**
⑩ **ハンドル位置調整スイッチ★ . . . . . P. 120**
調整方法 . . . . . P. 120
調整位置の登録（ポジションメモリー） . . . . . P. 114
⑪ **ハンドル位置調整レバー★ . . . . . P. 120**
調整方法 . . . . . P. 120
⑫ **オートエアコン . . . . . P. 220, 228**
操作方法 . . . . . P. 220, 228
リヤウィンドウの曇り取り
（リヤウインドウデフォッガー） . . . . . P. 224, 232
フロントワイパーデアイサー★ . . . . . P. 234
⑬ **オーディオ★※**
音楽を聴く★※
電話をかける・受ける（ハンズフリー）★※

★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。
※：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

■ スイッチ類

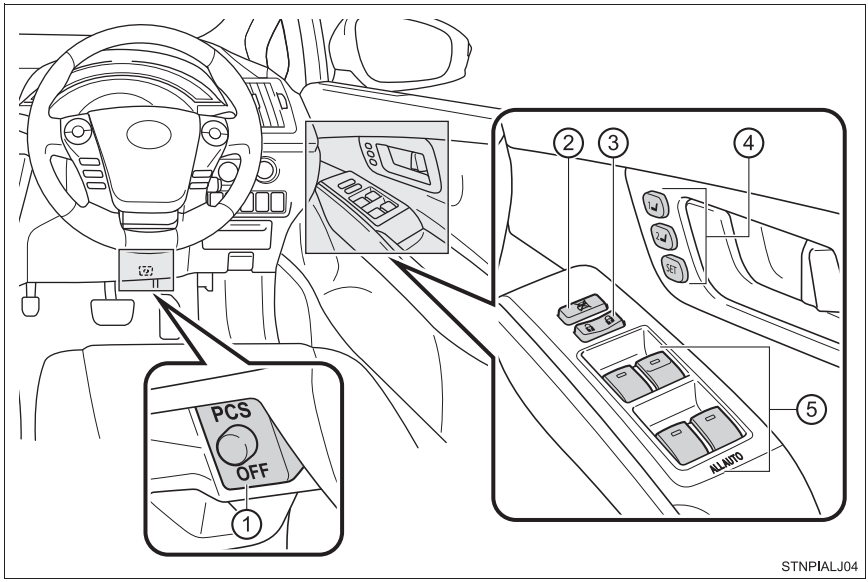


A タイプ :オート格納式ミラー装着車

B タイプ :オート格納式ミラー非装着車

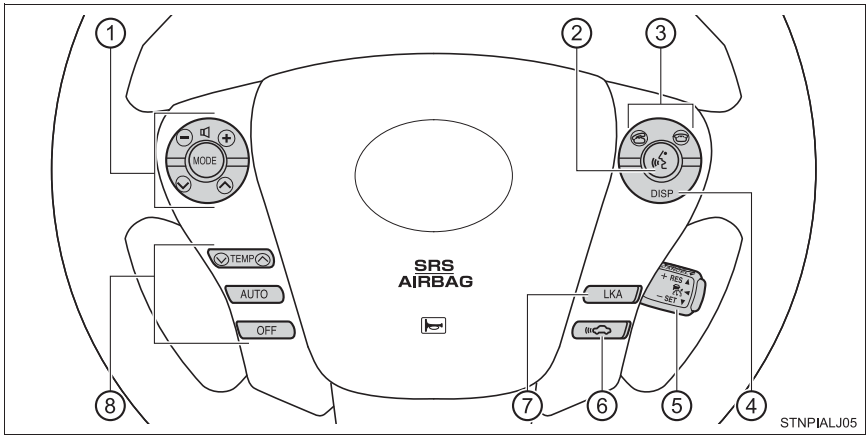
① **ドアミラースイッチ** . . . . . P. 126
② **ヘッドランプクリーナースイッチ★** . . . . . P. 171
③ **電動リヤサンシェードスイッチ★** . . . . . P. 258
④ **ワイドビューフロントモニターメインスイッチ★※**
⑤ **フロントワイパーデアイサースイッチ★** . . . . . P. 224
⑥ **アクセサリーコンセント★** . . . . . P. 263
⑦ **車両接近通報一時停止スイッチ** . . . . . P. 58
⑧ **クリアランスソナースイッチ★※**

★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。
※：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。



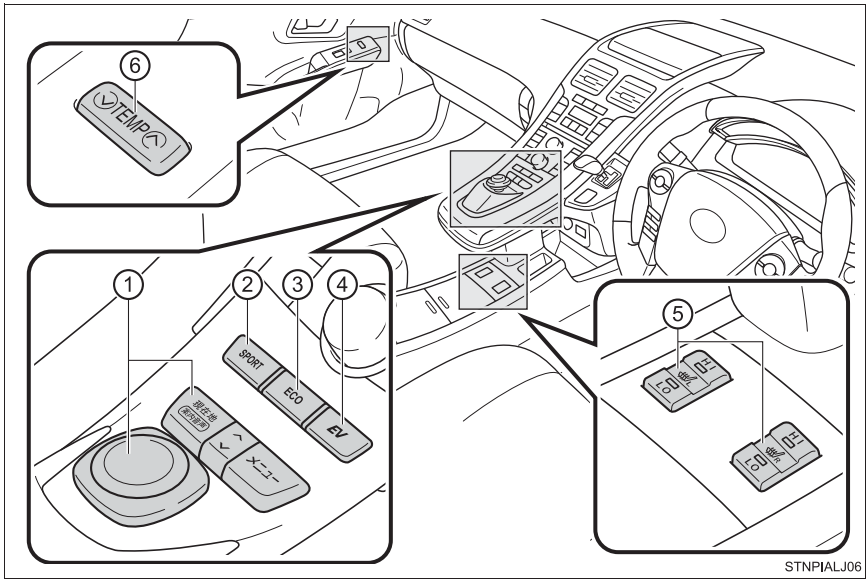
① プリクラッシュブレーキ OFF スイッチ★ . . . . . .P. 206
② ウインドウロックスイッチ . . . . . .P. 130
③ ドアロックスイッチ . . . . . .P. 97
④ ポジションメモリースイッチ★ . . . . . .P. 114
⑤ パワーウインドウスイッチ . . . . . .P. 130

★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。



① オーディオスイッチ※ . . . . . P. 269
② トークスイッチ※ . . . . . P. 269
③ 電話スイッチ※ . . . . . P. 269
④ DISP スイッチ . . . . . P. 80
⑤ クルーズコントロールスイッチ★
クルーズコントロール★ . . . . . P. 175
レーダークルーズコントロール★ . . . . . P. 179
⑥ 車間距離切りかえスイッチ★ . . . . . P. 179
⑦ LKA（レーンキーピングアシスト）スイッチ★ . . . . . P. 191
⑧ エアコンスイッチ . . . . . P. 239

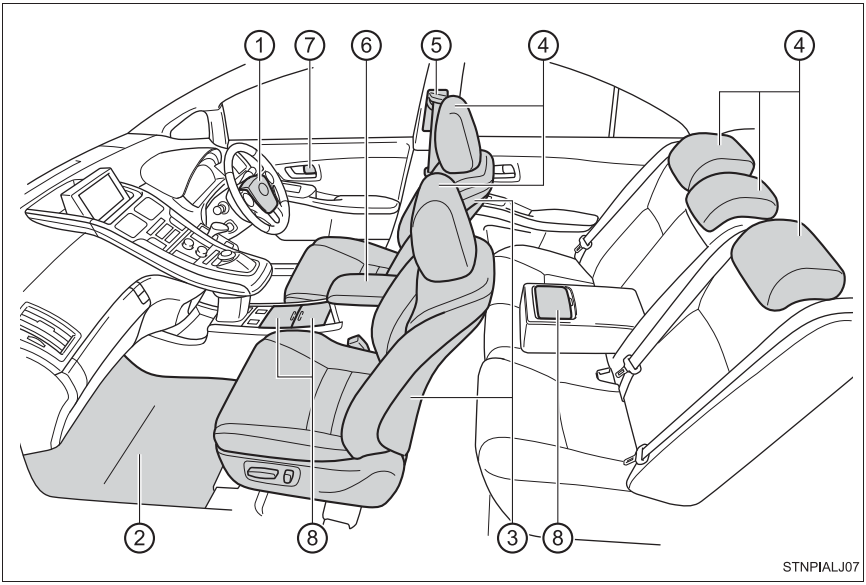
★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。
※：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。



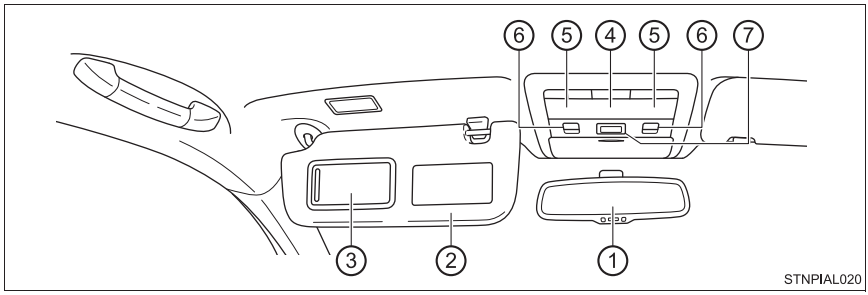
① リモートタッチ★※ . . . . . P. 232
② SPORT MODE スイッチ . . . . . P. 156
③ ECO MODE スイッチ . . . . . P. 156
④ EV ドライブモードスイッチ . . . . . P. 152
⑤ シートヒータースイッチ★ . . . . . P. 240
⑥ エアコン TEMP スイッチ（助手席側） . . . . . P. 220, 228, 239

★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。
※：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

■ 室内



① **SRS エアバッグ** . . . . . P. 33
② **フロアマット** . . . . . P. 24
③ **フロントシート** . . . . . P. 110
④ **ヘッドレスト** . . . . . P. 118
アクティブヘッドレスト★ . . . . . P. 111
プリクラッシュインテリジェントヘッドレスト★ . . . . . P. 211
⑤ **シートベルト** . . . . . P. 28
⑥ **コンソールボックス** . . . . . P. 246
⑦ **ロックレバー** . . . . . P. 97
⑧ **カップホルダー** . . . . . P. 247



① インナーミラー.....P. 123
② サンバイザー※1.....P. 256
③ バニティミラー.....P. 256
④ インテリアランプ.....P. 243
⑤ パーソナルランプ.....P. 243
⑥ ムーンルーフスイッチ★.....P. 133
⑦ ヘルプネットスイッチパネル★※2

★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

※1：やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。（→P. 54）

※2：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

安全・安心のために

～必ずお読みください～

1

1-1. 安全にお使いいただくために

運転する前に.....24
安全なドライブのために 26
シートベルト.....28
SRS エアバッグ.....33
お子さまの安全のために 41
子供専用シート.....42
チャイルドシートの
取り付け.....50
排気ガスに対する注意 56

1-2. ハイブリッドシステム

ハイブリッドシステムの
特徴 57
ハイブリッドシステムの
注意 61

1-3. 盗難防止装置

イモビライザーシステム 67
オートアラーム.....68

運転する前に

点検整備

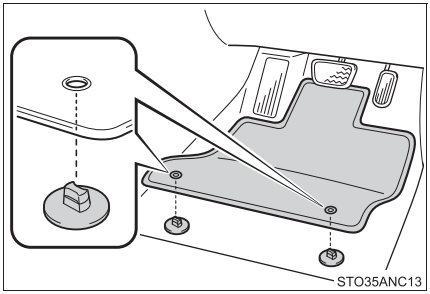
日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。適切な時期に点検整備を実施し、車に異常がないことを確認してください。

日常点検整備や点検項目などの詳細については、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。
異常が見つかった場合は、トヨタ販売店で必ず点検整備を受けてください。

フロアマット

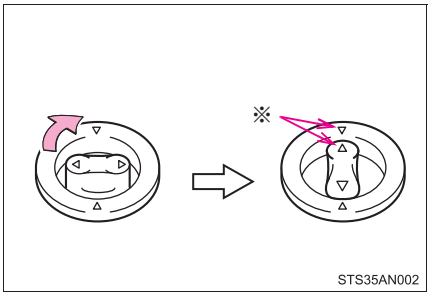
専用のフロアマットを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

1 固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む



2 固定フック（クリップ）上部のレバーをまわして、フロアマットを固定する

※ △マークを必ず合わせてください。



固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

⚠ 警告

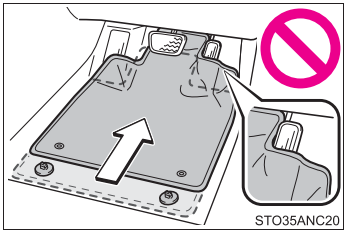
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、事故の原因になり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■運転席にフロアマットを敷くとき

- トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 固定フック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

■運転する前に

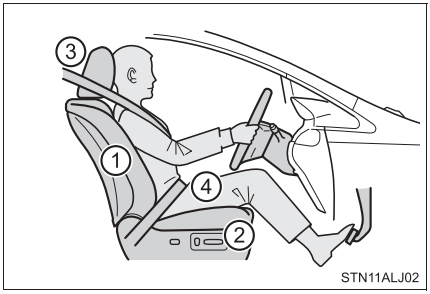
- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行う
- ハイブリッドシステム停止およびシフトポジションが P の状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する



安全なドライブのために

安全に運転するために、走行前にシートやミラーなどを適切に調整してください。

正しい運転姿勢について



① まっすぐ座り、運転操作時に体が背もたれから離れないよう、背もたれの角度を調整する（→P. 110）

② ペダルがしっかりと踏み込め、ハンドルを握ったときにひじが少し曲がるようなシート位置にする（→P. 110）

③ ヘッドレストの中央が耳のいちばん上のあたりになるようにする（→P. 119）

④ シートベルトを正しく着用する（→P. 28）

シートベルトを正しく着用する

すべての乗員は、走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。（→P. 28）

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切な子供専用シートをご用意ください。（→P. 42）

ミラーを調整する

後方が確実に確認できるように、インナーミラー・ドアミラーを正しく調整してください。（→P. 123, 126）

⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中は運転席の調整をしないでください。
  運転を誤るおそれがあります。
- 背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
  正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。
- フロントシートの下にものを置かないでください。
  ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故や調整機構の故障の原因になります。
- 他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。
- 飲酒運転は絶対にしないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。
- 運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。
- 長距離ドライブの際は、疲れを感じる前に定期的に休憩してください。
  また、運転中に疲労感や眠気を感じたときは、無理に運転せず、すみやかに休憩してください。

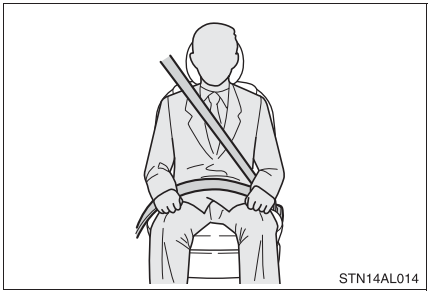
シートベルト

走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

正しく着用する

- 肩部ベルトを肩に十分かける

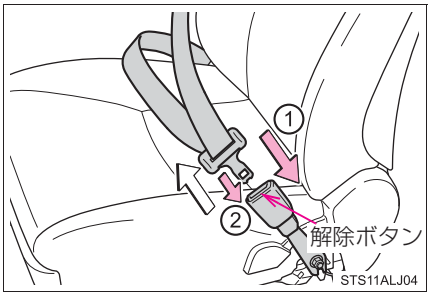
  首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。
- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれがないようにする



着け方・はずし方

① ベルトを固定するには、“カチッ”と音がするまでプレートをバックルに挿し込む

② ベルトを解除するには、解除ボタンを押す

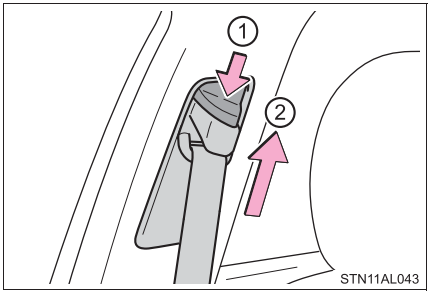


シートベルトの高さ調節（フロント席）

① 解除ボタンを押しながら、アジャスターを下げる

② アジャスターを上げる

“カチッ”と音がして固定されるところまで動かしてください。

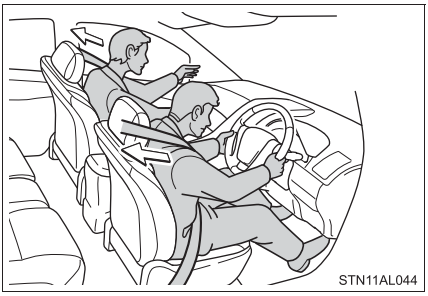


シートベルトプリテンショナー

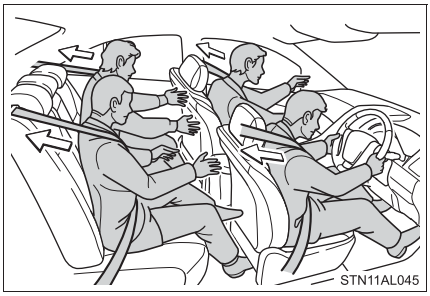
前方から強い衝撃を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

前方からの衝撃が弱いときや、横やうしろからの衝撃、横転のときは通常は作動しません。

▶ フロント席のみ



▶ フロント席・リヤ外側席



プリクラッシュシートベルト（プリクラッシュセーフティシステム装着車フロント席）

衝突が避けられないと判断したとき、衝突前にフロントシートベルトを巻き取ります。（→ P. 205）

知識

■シートベルトロックの解除方法

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

■お子さまのシートベルトの使い方

この車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合った子供専用シートを使用してください。(→ P. 42)
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。(→ P. 28)

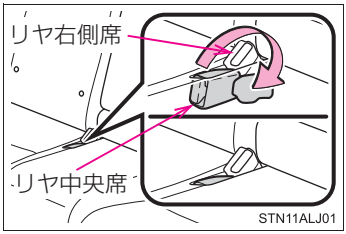
■シートベルトプリテンショナーについて

シートベルトプリテンショナーは一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

■リヤ中央席シートベルトについて

リヤ中央席シートベルトを使用しないときは、リヤ右側席のシートベルトバックル下側にリヤ中央席シートベルトバックルを収納してください。

その際は、リヤ中央席シートベルトバックルのベルトを図の矢印のように、リヤ右側席のシートベルトバックルの後ろ側を通るように収納してください。



⚠ 警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

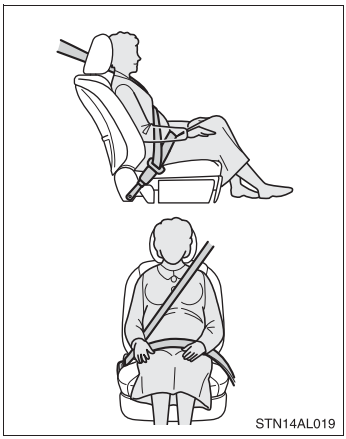
■シートベルトの着用について

- 全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトは一組につき一人で使用する
  お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- お子さまはリヤ席に座らせてシートベルトを着用させる
- 背もたれは必要以上に倒さず、上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する

■妊娠中の女性の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。(→ P. 28)
通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。


STN14AL019

■疾患のある方の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。

⚠ 警告

■お子さまを乗せるとき

お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。
万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

■プリテンショナー付きシートベルトについて

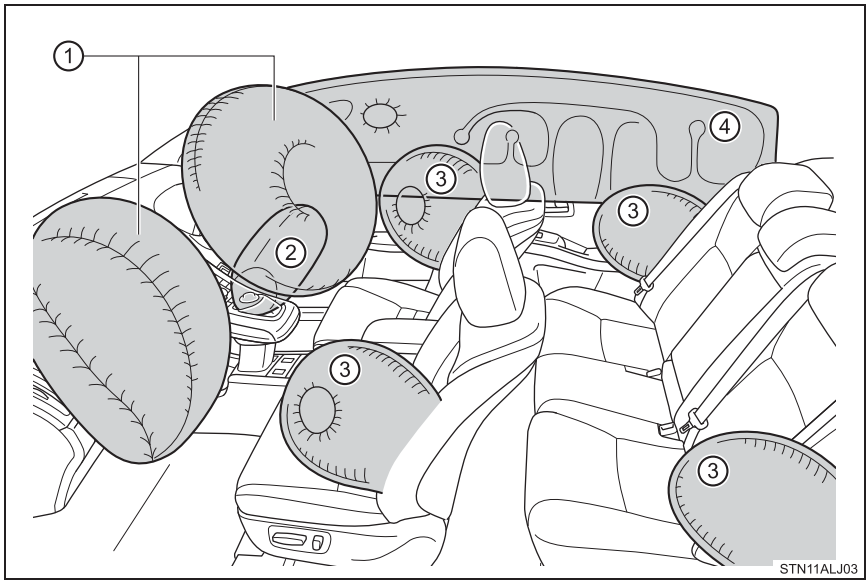
シートベルトプリテンショナーが作動すると、SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合は、シートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。

■シートベルトの損傷・故障について

- ベルトやプレート・バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。
- プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにトヨタ販売店に連絡してください。
- もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート、シートベルトを交換してください。
- プリテンショナー付きシートベルトの取り付けや取りはずし・分解・廃棄などは、トヨタ販売店以外でしないでください。
  不適切に扱うと、正常に作動しなくなるおそれがあります。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。



◆ フロント SRS エアバッグ

① 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ
（運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和）

② SRS ニーエアバッグ
（運転者の衝撃緩和を補助）

◆ SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ

③ SRS フロントサイドエアバッグ
（フロント席乗員の胸などへの衝撃を緩和）

SRS リヤサイドエアバッグ★
（リヤ外側席乗員の胸などへの衝撃を緩和）

④ SRS カーテンシールドエアバッグ
（フロント席とリヤ外側席乗員の主に頭部への衝撃を緩和）

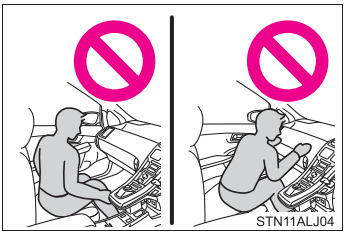
★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

⚠ 警告

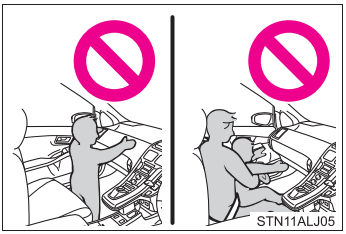
■SRS エアバッグについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
  SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。
- 助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。
- お子さまが小さくてシートベルトを使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。お子さまはリヤ席に乗せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめします。（→ P. 42）
- シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない



- お子さまを助手席 SRS エアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない
- 運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない



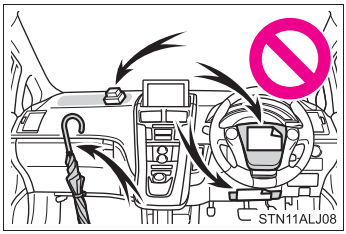
- ドアやフロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールへ寄りかからない

⚠ 警告

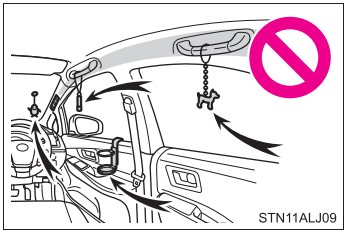
■SRS エアバッグについて

●助手席やリヤシートでは、ドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない

●ダッシュボード・ハンドルのパッド部分・インストルメントパネル下部などには何も取り付けたり、置いたりしない



●ドア・フロントガラス・ドアガラス・フロントピラーおよびリヤピラー・ルーフサイドレール・アシストグリップなどには何も取り付けない
（速度制限ラベルを除く：→ P. 364）



●コートフックにハンガーなどの硬いものをかけないでください。
SRS カーテンシールドエアバッグが作動したときに投げ出されるおそれがあります。

●SRS　ニーエアバッグがふくらむ場所にビニールカバーが付いている場合は、取り除いてください。

●SRS サイドエアバッグがふくらむ場所を覆うようなシートアクセサリーを使用しないでください。エアバッグが作動する際、アクセサリーが干渉するおそれがあります。そのようなアクセサリーがエアバッグが正常に作動するのをさまたげ、システムを不能にしたり、またはエアバッグが誤って作動したりするおそれがあります。

⚠ 警告

■SRS エアバッグについて

- SRS エアバッグシステム構成部品の周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
  SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。
- SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。
- SRS　エアバッグが収納されているパッド部およびフロントピラーガーニッシュ部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずトヨタ販売店で交換してください。

■改造・廃棄について

トヨタ販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理
- ハンドル・インストルメントパネル・ダッシュボード・シート・シート表皮・リヤシートサイドガーニッシュ・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール周辺の修理・取りはずし・改造
- フロントフェンダー・フロントバンパー・車内側面部の修理・改造
- グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）・除雪装置・ウインチなどの取り付け
- サスペンションの改造
- CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

知識

■SRS エアバッグが作動するとき

- SRS エアバッグは高温のガスにより非常に速い速度でふくらむため、すり傷、やけど、打撲などを受けることがあります。
- 作動音と共に白いガスが発生します。
- フロント席・リヤ席・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールの一部分などだけでなくエアバッグ構成部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。
- フロントウインドウガラスが破損することがあります。
- T-Connect DCM パッケージの契約期間内は、SRS エアバッグが作動すると自動的に緊急通報がヘルプネットセンターに送信されます。オペレーターからの呼びかけに応答がない場合は、緊急車両を手配します。
  詳しくは別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

■SRS エアバッグが作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

- フロント SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、車速約 20 ～ 30km/h で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
  ただし、次のような場合はエアバッグが作動する車速は設定値より高くなります。
  - ・駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合
  - ・もぐり込むような衝突の場合（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになるなど）
- 衝突条件によってはシートベルトプリテンショナーのみ作動する場合があります。

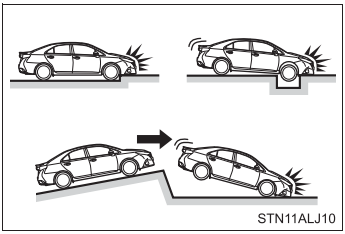
■SRS エアバッグが作動するとき（SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ）

- SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグは、衝撃の強さが設定値（約 1.5 t の車両が約 20 ～ 30km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
- 前面衝突時でも、とくに衝撃が大きい場合は左右の SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグが開く場合があります。

■衝突以外で作動するとき

次のような状況で車両下部に強い衝撃を受けたときも、フロント SRS エアバッグと SRS サイド&カーテンシールドエアバッグが作動する場合があります。

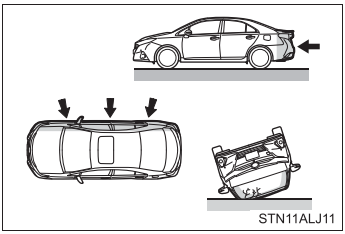
- ●縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき
- ●深い穴や溝に落ちたり、乗りこえたとき
- ●ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき


STN11ALJ10

■SRS エアバッグが作動しないとき（フロント SRS エアバッグ）

フロント SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転・または低速での前方からの衝撃では、通常は作動しません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロント SRS エアバッグが作動することがあります。

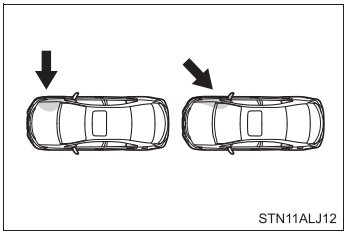
- ●側面からの衝突
- ●後方からの衝突
- ●横転


STN11ALJ11

■SRS エアバッグが作動しないとき（SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ）

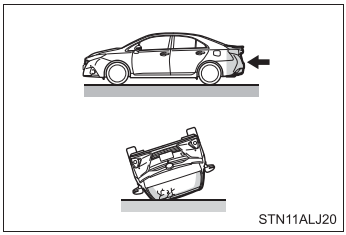
斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときには、SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグが作動しない場合があります。

- ●客室部分以外の側面への衝撃
- ●斜めからの衝撃



SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグは、後方からの衝撃・横転・または低速での側面からの衝撃では、通常は作動しません。

- ●後方からの衝突
- ●横転

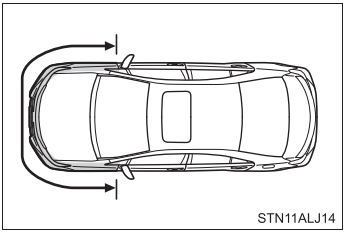


■ トヨタ販売店に連絡が必要な場合

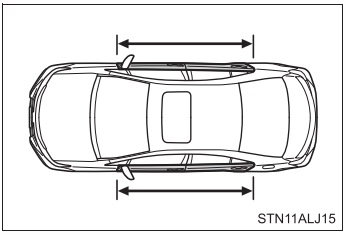
次のような場合には、修理・点検が必要になります。できるだけ早くトヨタ販売店へご連絡ください。

●いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき

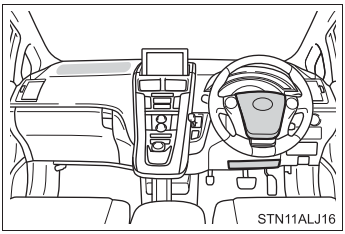
●フロント SRS エアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき


STN11ALJ14

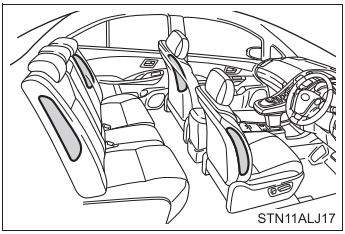
●SRS サイド&カーテンシールドエアバッグはふくらまなかったが、事故でドア部分を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき


STN11ALJ15

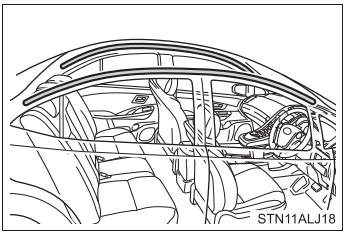
●ハンドルのパッド部分・ダッシュボードの助手席 SRS エアバッグ付近・インストルメントパネル下部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき


STN11ALJ16

●SRS サイドエアバッグが内蔵されているフロントシート・リヤシートサイドガーニッシュ表面が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき


STN11ALJ17

●SRS カーテンシールドエアバッグが内蔵されているフロントピラー部・リヤピラー部・ルーフサイド部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき


STN11ALJ18

お子さまの安全のために

お子さまを乗せるときは、次のことをお守りください。

- お子さまにも必ずシートベルトを着用させてください。シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切な子供専用シートをご用意ください。（→ P. 42）
- 運転装置にふれるのを防ぐため、お子さまはリヤシートに乗せることをおすすめします。
- 走行中にドアを開けたり、パワーウインドウを誤操作したりしないように、チャイルドプロテクター（→ P. 98）・ウインドウロックスイッチ（→ P. 130）をご使用ください。
- 小さなお子さまには、パワーウインドウ・ボンネット・トランクやシートなど、体を挟まれるおそれがある装備類を操作させないでください。

⚠ 警告

- お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた「チャイルドシートの取り付け」を参照してください。（→ P. 50）

子供専用シート

子供専用シートの固定機構を使用して、子供専用シートを固定することができます。

知っておいていただきたいこと

- 車の仕様やお子さまの年齢・体格に合わせて、適切な子供専用シートをお選びください。
- 子供専用シートの取り付け方法および取りはずし方は、それぞれの子供専用シートに付属の取扱説明書をお読みください。
- この車は2006年10月1日施行の保安基準に適合したISOFIX対応チャイルドシート固定専用バーを標準装備しています。

子供専用シートの適合性一覧表について

■ 質量グループについて

ECE R44 ※の基準に適合する子供専用シートはお子さまの体重により次の5種類に分類されます。

グループ0: 10kgまで
グループ0+: 13kgまで
グループⅠ: 9～18kg
グループⅡ: 15～25kg
グループⅢ: 22～36kg

この本では代表的な次の3種類の子供専用シートをシートベルトで固定する方法を紹介します。

※ ECE R44は、子供専用シートに関する国際法規です。

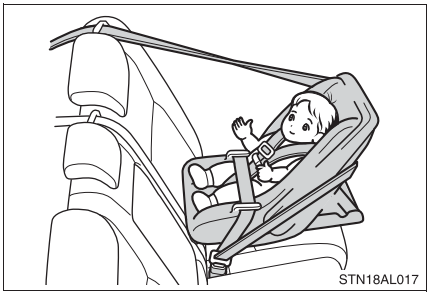
■ サイズ等級、固定具について

子供専用シートに表示される分類記号と、それにともなう取り付け器具の記号になります。

子供専用シートの種類

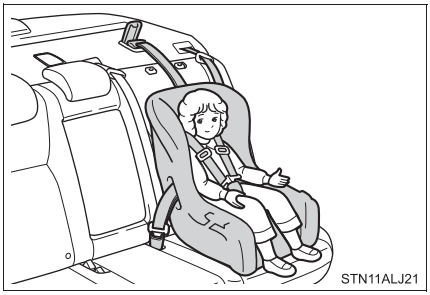
▶ ベビーシート

ECE R44 基準のグループ 0、0 ＋に相当



▶ チャイルドシート

ECE R44 基準のグループ 0 ＋、Ⅰに相当



▶ ジュニアシート

ECE R44 基準のグループⅡ、Ⅲに相当

シート位置別子供専用シート適合性一覧表（シートベルトでの取り付け）

質量グループ	着席位置（または他の場所）		
	フロントシート	リヤシート	
	助手席	左右席	中央席
0（10kg まで）	×	U	U
0＋（13kg まで）	×	U	U
Ⅰ（9 ～ 18kg）	前向き UF ※	U	U
	うしろ向き×		
Ⅱ（15 ～ 25kg）	UF ※	U	U
Ⅲ（22 ～ 36kg）	UF ※	U	U

● 上表に記入する文字の説明

U：　この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの子供専用シートに適しています。

UF：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの前向きの子供専用シートに適しています。

×：　子供専用シートを取り付けることはできません。

※　背もたれを直立状態にしてください。シートの高さ調整ができる場合は、いちばん高い位置まで上げてください。

表に記載されていない子供専用シートを使用する場合は、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。
子供専用シートの装着に関しては子供専用シートの取扱説明書もご確認ください。

シート位置別子供専用シートの適合性一覧表（ISOFIX 対応トップテザーアンカーでの取り付け）

質量グループ	サイズ等級	固定具	車両 ISOFIX 位置
			リヤシート左右席
キャリコット	F	ISO/L1	×
	G	ISO/L2	×
0（10kg まで）	E	ISO/R1	IL1
0＋（13kg まで）	E	ISO/R1	IL1
	D	ISO/R2	IL1
	C	ISO/R3	IL1
Ⅰ（9 ～ 18kg）	D	ISO/R2	×
	C	ISO/R3	×
	B	ISO/F2	IUF※1, IL1※2
	B1	ISO/F2X	IUF※1, IL1※2
	A	ISO/F3	IUF※1, IL1※2
Ⅱ（15 ～ 25kg）		（1）	×
Ⅲ（22 ～ 36kg）		（1）	×

● 上表に記入する文字の説明

（1）：サイズ等級表示（A　から　G）のない子供専用シートの各シート位置での ISOFIX 対応子供専用シート固定機構の取り扱いについては、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

IUF：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの ISOFIX 対応の前向き子供専用シートに適しています。

IL1：この質量グループでの使用を許可された「トヨタ純正 NEO　G-Child　ISO leg」に適しています。

×：　ISOFIX 子供専用シートを取り付けることはできません。

※1　子供専用シートを取り付けるときは、ヘッドレストを取りはずしてください。

※2　子供専用シートを取り付けるときは、ヘッドレストを最上段にしてください。

子供専用シートの装着に関しては子供専用シートの取扱説明書もご確認ください。

知識

■ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーについて

この車に標準装備されている ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーは、ECE R44 に適合している子供専用シート取り付け専用です。それ以外のものを使用することはできません。

■子供専用シートの選択、使用について

- お子さまに最適な子供専用シートについては、子供専用シート製造業者、または販売業者にご相談ください。
- お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまでは、お子さまに合った子供専用シートを使用してください。
- 体が十分大きく、子供専用シートが不必要なお子さまは、リヤシートに乗せて車のシートベルトを使用してください。

■シートベルトで取り付けるタイプの子供専用シートの選択について

「シート位置別子供専用シート適合性一覧表」（→ P. 44）を参照し、子供専用シートを取り付け可能な位置と、対応する子供専用シートの種類（記号）をご確認の上、適したものを選択してください。

■ECE R44 適合の ISOFIX 対応子供専用シートの選択について

「シート位置別子供専用シートの適合性一覧表」（→ P. 45）を確認して、適切なシートを選択してください。

1 お子さまの体重から、該当する「質量グループ」を確認する

（例 1）：体重が 12kg の場合、質量グループは「0 $^{+}$」になります。

（例 2）：体重が 15kg の場合、質量グループは「Ⅰ」になります。

2 サイズ等級を選択する

手順1で確認した「質量グループ」から該当するサイズ等級を確認します。※

（例 1）：質量グループが「0 $^{+}$」の場合、サイズ等級は「C」・「D」・「E」が該当します。

（例 2）：質量グループが「Ⅰ」の場合、サイズ等級は「A」・「B」・「B1」・「C」・「D」が該当します。

※ ただし、該当のサイズ等級でも適合性一覧表の「車両 ISOFIX 位置」に「×」と記載されているものは選択できません。また、「IL」と記載されている場合は、「ISOFIX 子供専用シートのリスト」（→ P. 45）で指定されている製品を使用してください。

3 子供専用シートに表示されているマーク／ラベルを確認して、基準に適合したシートであることを確認する

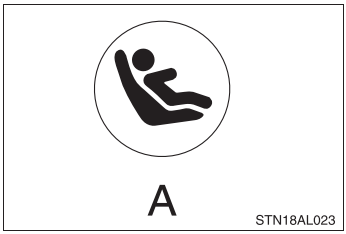
汎用（ユニバーサル）子供専用シートには、次に示すマーク・ラベル類が表示されています。※

※ 表示されている位置・記号などは、商品により異なります。

① ISOFIX 対応子供専用シートであることを示す表示

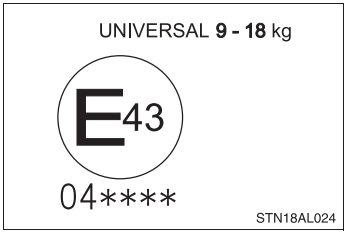
サイズ等級が示されています。（表示される文字は、製品により異なります）

手順2で確認したサイズ等級に適合しているものを選択してください。



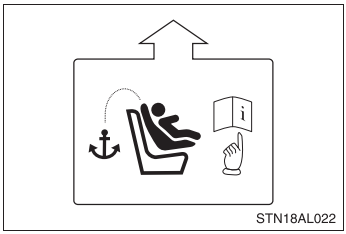
② 汎用（ユニバーサル）子供専用シートの認可マーク

UNIVERSAL は汎用品の認可であることを表し、併せて、対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。



③ トップテザー（→ P. 50）を示すマーク

商品の取り付け装置の位置により、意匠は異なります。



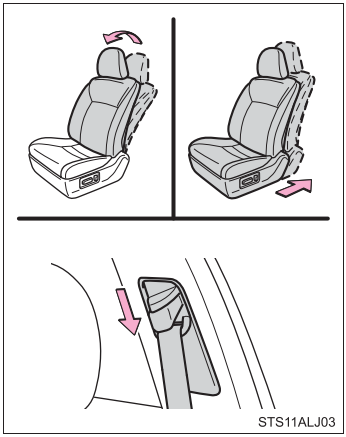
■ISOFIX 対応子供専用シートの種類（サイズ等級別）

A-ISO/F3	全高前向き幼児用チャイルドシート
B-ISO/F2	低型前向き幼児用チャイルドシート
B1-ISO/F2X	低型前向き幼児用チャイルドシート （B-ISO/F2 と別形状のもの）
C-ISO/R3	大型後向き幼児用チャイルドシート
D-ISO/R2	小型後向き幼児用チャイルドシート
E-ISO/R1	後向き乳児用チャイルドシート
F-ISO/L1	左向き位置用チャイルドシート（キャリコット）
G-ISO/L2	右向き位置用チャイルドシート（キャリコット）

■助手席に子供専用シートを取り付けるとき

やむを得ず助手席に子供専用シートを取り付ける場合には、助手席シートを次のように調整し、子供専用シートを前向きに取り付けてください。

- 背もたれを直立状態にする
- シートをいちばんうしろに下げる
- シートベルトの高さをいちばん低い位置まで下げる
- シートの高さ調整ができる場合は、いちばん高い位置まで上げる



■キャリコットについて

キャリコットは横向きに取り付けることのできるベビーシートのことです。詳しくは子供専用シート製造業者または販売業者にお尋ねください。

⚠ 警告

■子供専用シートを使用しない場合

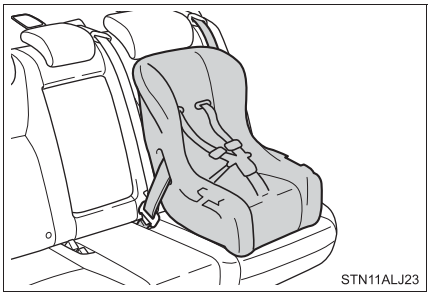
- 子供専用シートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。
- 子供専用シートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、トランク内に容易に動かないように収納してください。

チャイルドシートの取り付け

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。

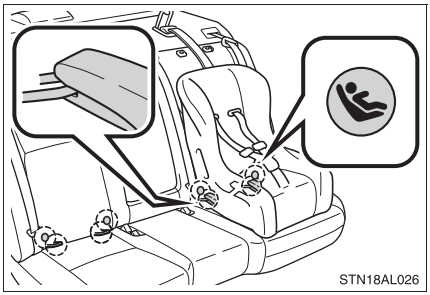
取り付け方法は、商品に付属の取扱説明書に必ず従ってください。

シートベルトによる取り付け
（→ P. 51）



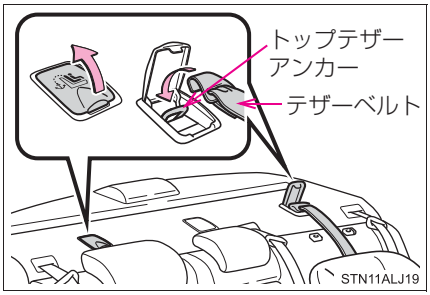
ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー（→ P. 52）

リヤ外側シートに装備されています。（固定専用バーが装備されていることを示すボタンがシートに付いています）



トップテザーアンカー（→ P. 52）

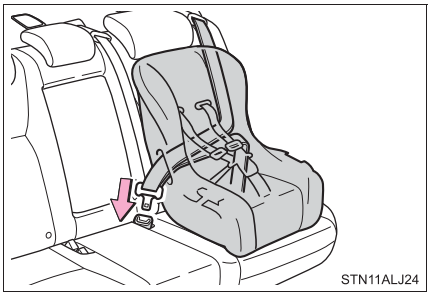
テザーベルトを固定するときに使います。
トップテザーアンカーはリヤ外側シートに装備されています。



シートベルトで固定する

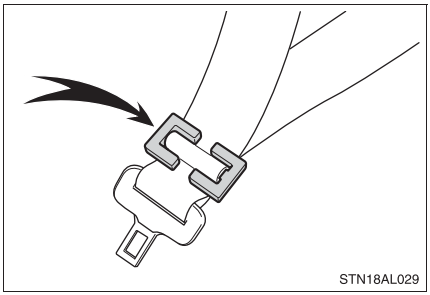
1 チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで挿し込む。ベルトがねじれていないようにする

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。



2 チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロッキングクリップ（別売）を使用して固定する

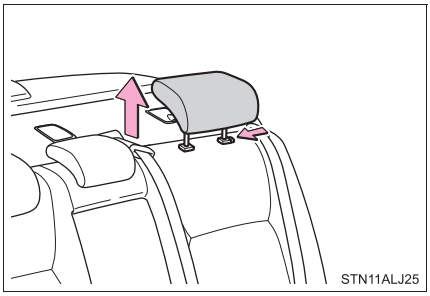
ロッキングクリップの購入にあたっては、トヨタ販売店にご相談ください。（ロッキングクリップ品番：73119-22010）



取り付け後はチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかりと固定されていることを確認してください。

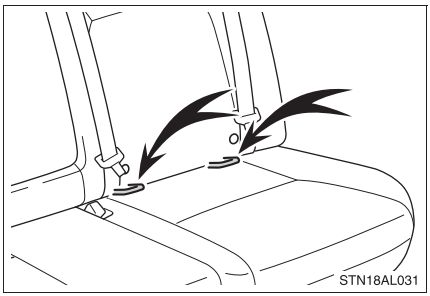
ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー＆トップテザーアンカーで固定する

1 ヘッドレストをはずす（→P. 118）



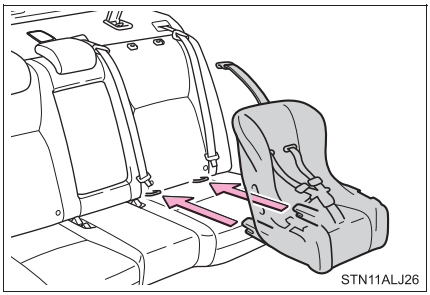
2 ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーの位置を確認する

固定専用バーは、シートクッションの奥にあります。



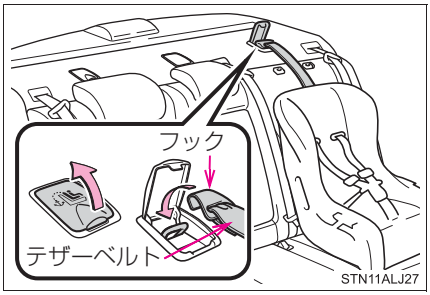
3 チャイルドシートをシートに取り付ける

チャイルドシートの取り付け金具をチャイルドシート固定専用バーに取り付けます。
取り付け方法は、それぞれのチャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。

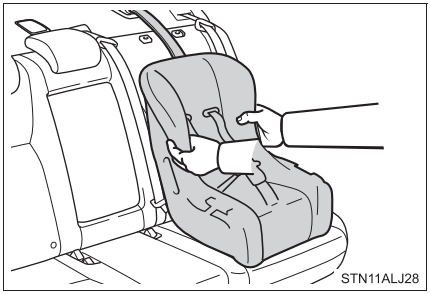


4 フタを開けてトップテザーアンカーにフックを固定し、テザーベルトを締める

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されていることを確認します。



5 取り付けたチャイルドシートを前後左右にゆすり、固定されていることを確認する



⚠ 警告

■チャイルドシートについて

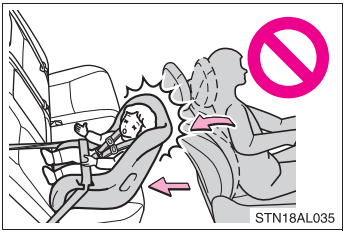
- 事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ずお子さまの年齢や体の大きさに合ったシートベルトまたはチャイルドシートを使用してください。お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントガラスや乗員、車内の装備にぶつかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用して、リヤシートに取り付けてください。
- チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分ももたれかけないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。使用方法を誤ったり、確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突時などに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■チャイルドシートを取り付けるとき

- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。
- シートベルトのプレートとバックルがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。

⚠ 警告

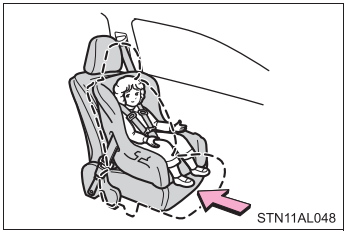
■チャイルドシートを取り付けるとき



- 運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤ席に取り付けてください。
- 助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。
- やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。
  うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  助手席側のサンバイザーに、同内容のラベルが貼られています。併せて参照してください。

⚠ 警告

■チャイルドシートを取り付けるとき



- やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばんうしろにさげて取り付けてください。
  助手席SRSエアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。お守りいただかないと、事故や急ブレーキの際に重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ISOFIX対応チャイルドシート固定専用バーを使用するときは、周辺に障害物がないか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。

排気ガスに対する注意

排気ガスには吸引すると人体に有害な物質が含まれています。

⚠ 警告

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、排気ガスが車内に侵入し、多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因となるほか、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の留意事項

トランクを閉じてください。
トランクが閉じているのに車内で排気ガス臭がするときは、ドアガラスを開けて空気を入れかえ、すみやかにトヨタ販売店で点検整備を受けてください。

■駐車するとき

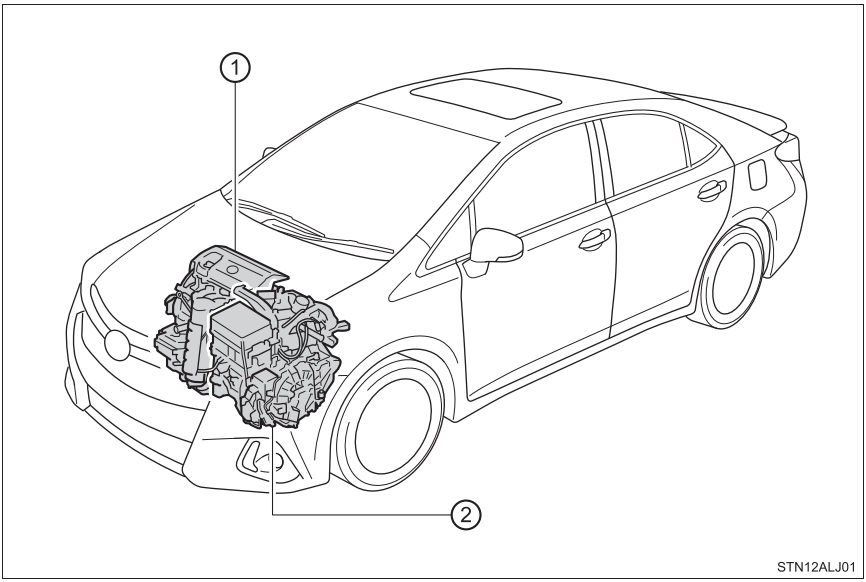
- 車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所では、ハイブリッドシステムを停止してください。
- 長時間ハイブリッドシステムが作動したままにしないでください。
やむを得ないときは、開かれた場所に車を停め、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。
- 降雪時や雪が積もった場所では、ハイブリッドシステムが作動したままにしないでください。まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して、車内に侵入するおそれがあります。

■排気管について

排気管は定期的に点検する必要があります。排気管等の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。

ハイブリッドシステムの特徴

SAI のハイブリッドシステムは、電気モーターとガソリンエンジンという 2 つのパワーのシナジー（相乗）効果により、優れた動力性能と低燃費化の両立を高い次元で実現したシステムです。さらに、排出ガスを低減、クリーン化した環境に配慮した技術となっています。



イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

① ガソリンエンジン

② 電気モーター

◆ 停車時・発進時・低速走行時

停車中はガソリンエンジンを停止※します。
発進時は電気モーターを使って発進します。
低速走行時や下り坂走行時もガソリンエンジンを停止※し、電気モーターを使って走行します。
シフトポジションが N にあるときは駆動用電池への充電が行われません。車両停止時は必ず P にしてください。また、渋滞時などでも、D または B で運転してください。

※ 駆動用電池の充電が必要なときやエンジン暖機中など、ガソリンエンジンが自動停止しないことがあります。（→ P. 59）

◆ 通常走行時

主にガソリンエンジンを使用して走行します。
必要に応じて電気モーターを発電機として動かし、駆動用電池へ充電します。

◆ 急加速時

ガソリンエンジンに加え、駆動用電池からも電気モーターに電力を供給し、電気モーターの出力を上げ、力強く加速します。

◆ 減速時・制動時（回生ブレーキ）

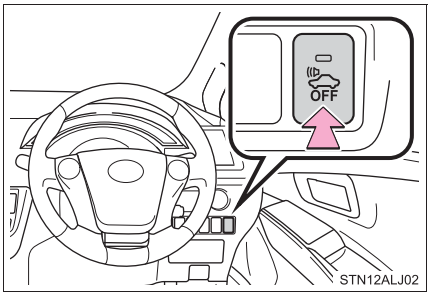
車輪が電気モーターを発電機として動かし、駆動用電池へ充電します。

車両接近通報装置

ガソリンエンジンが停止した状態での走行時、車両の接近を周囲の人に知らせるため、車速に応じた音階で音を鳴らします。車速が約 25km/h をこえると消音します。スイッチ操作で消音することもできます。

消音するには、ハイブリッドシステムが始動しているとき、スイッチを押す

スイッチ上のインジケーターが点灯します。再度スイッチを押すと ON になります。ハイブリッドシステムを始動するごとに、車両接近通報装置は ON になります。



知識

■回生ブレーキについて

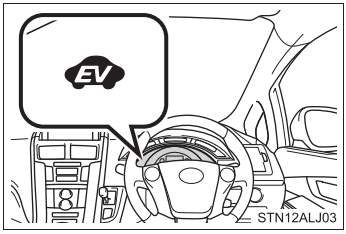
次の場合、車の運動エネルギーを電気エネルギーに変換し、駆動用電池へ充電すると共に減速力を得ることができます。

- ●シフトポジションがDまたはBで走行中に、アクセルペダルから足を離したとき
- ●シフトポジションが D または B で走行中に、ブレーキペダルを踏んだとき

■EV 走行インジケーターについて

ガソリンエンジン停止中や、電気モーターのみで走行しているときに、EV 走行インジケーターが点灯します。

インジケータは、カスタマイズ機能により点灯しないようにすることができます。



■ガソリンエンジンの自動停止について

車両状態に応じて、ガソリンエンジンは自動的に始動・停止します。
ただし、次の状態では自動停止しないことがあります。

- ●ガソリンエンジン暖機中
- ●駆動用電池の温度が高いとき、または低いとき
- ●駆動用電池充電時
- ●暖房をかけているとき

■駆動用電池の充電について

ガソリンエンジンの動力による充電や回生ブレーキにより、駆動用電池が充電されるため、車外からの充電は必要ありません。しかし、車両を長時間放置すると、少しずつ放電します。そのため少なくとも、2 ～ 3ヶ月に一度、約 30 分間または 16km ほど運転してください。
万一、駆動用電池が完全に放電し、ハイブリッドシステムを始動できないときはトヨタ販売店にご連絡ください。

■補機バッテリーの充電について

→ P. 378

■補機バッテリーがあがってしまったり、交換などで取りはずしたとき

ガソリンエンジンの自動停止が行われないことがあります。
自動停止しない状態が 2 ～ 3 日続く場合は、トヨタ販売店へご連絡ください。

■ハイブリッド車特有の音と振動について

ハイブリッド車は、READY インジケーターが点灯し、走行可能な状態でも、通常の車のように、エンジン音や振動がないことがあるため、走行可能な状態であることに気が付かない場合があります。安全のため、駐車時はパーキングブレーキをかけて、確実にシフトポジションを P にしてください。

ハイブリッドシステム始動後は、次のような音や振動が発生する場合がありますが、異常ではありません。

- エンジンルームからのモーター音
- ハイブリッドシステム始動時や停止時に聞こえる車両後方および駆動用電池からの音
- トランクを開けたときに聞こえる作動音
- ガソリンエンジン始動時や停止時に聞こえるトランスミッション付近からの音
- 急加速時のエンジン音
- ブレーキペダルを踏んだときや、アクセルペダルをゆるめたときに聞こえる回生ブレーキの音
- ブレーキペダルを操作したときに聞こえる、作動音やモーター音
- ガソリンエンジンの始動・停止による振動
- リヤシート横（左側）にある吸入口から聞こえるファンの音
  エコドライブモード時は、通常走行時に比べ、ファンの音が大きくなることがあります。

■車両接近通報装置について

次のような場合は、周囲の人に通報音が聞こえにくくなることがあります。

- 周囲の騒音が大きい場合
- 雨または強風の場合

また、車両接近通報装置は車両前側にあるので、車両前方と比較して、車両後方は聞こえにくくなることがあります。

■メンテナンスや修理・廃車について

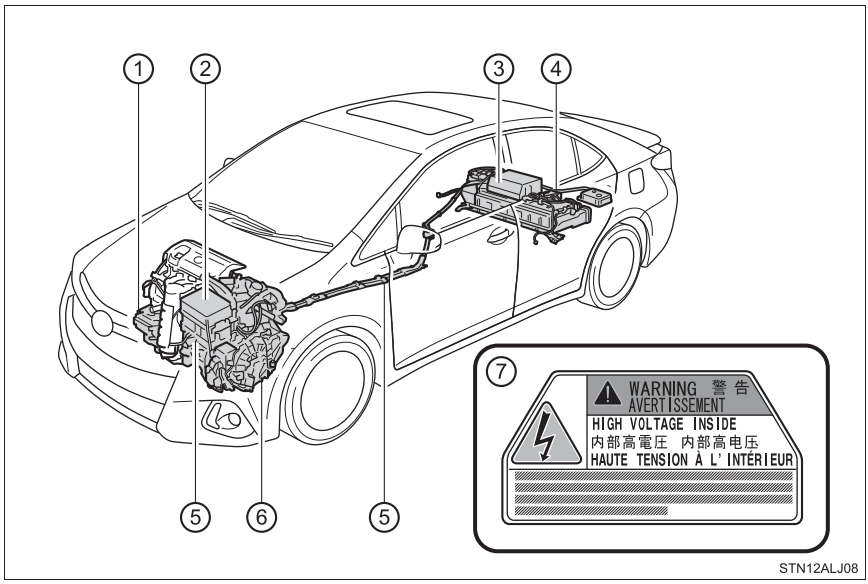
お車のメンテナンスや修理・廃車の際は必ずトヨタ販売店にご相談ください。特に廃車する場合は、トヨタ販売店を通じて駆動用電池の回収を行っていますので、ご協力ください。

■カスタマイズ機能

EV 走行インジケーターを点灯しないように変更できます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 393）

ハイブリッドシステムの注意

ハイブリッドシステムには、駆動用電池・パワーコントロールユニット・オレンジ色の高圧ケーブル・電気モーターなどの高電圧部位（最高約650V）や、冷却用ラジエーターなどの高温部位がありますので、ご注意ください。なお、高電圧部位などには、取り扱い上の注意を記載したラベルが貼付してありますので、ラベルの指示に従って正しい取り扱いをしてください。

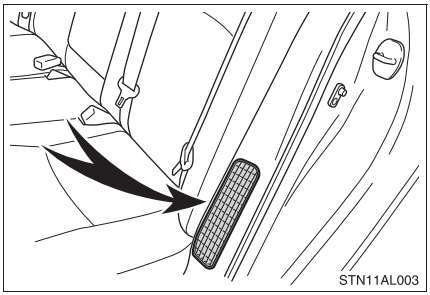


イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

① エアコンコンプレッサー
② パワーコントロールユニット
③ 駆動用電池･DC／DC コンバーター
④ サービスプラグ
⑤ 高電圧ケーブル（オレンジ色）
⑥ 電気モーター
⑦ コーションラベル

駆動用電池冷却用吸入口

リヤシート横（左側）部には、駆動用電池冷却用の吸入口があります。吸入口をふさいだりすると、駆動用電池の過熱や出力低下の原因となります。



緊急停止システム

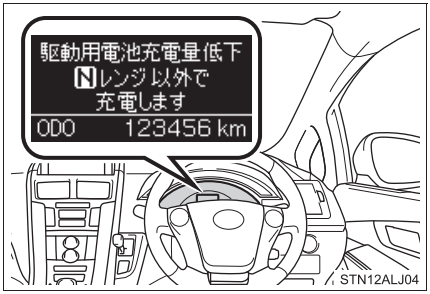
事故により衝撃を受けたときなどは、ハイブリッドシステムを停止して高電圧を遮断します。また、フューエルポンプ制御により燃料供給を停止し、燃料もれを最小限に抑えます。
この場合、ハイブリッドシステムを再始動させることができなくなるためトヨタ販売店へご連絡ください。

警告メッセージ

ハイブリッドシステムの異常やお知らせしたい事項が発生すると自動で表示されます。

警告メッセージは、マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

表示された画面の指示に従ってください。（→ P. 331）



知識

■警告灯が点灯したときや、警告メッセージが表示されたとき、または補機バッテリーとの接続が断たれたとき

ハイブリッドシステムを再始動できないおそれがあります。
もう一度始動操作をしてもREADYインジケーターが点灯しない場合はトヨタ販売店にご連絡ください。

■ガス欠になったとき

ガス欠でハイブリッドシステムが始動できないときは、燃料残量警告灯（→ P. 329）が消灯するまで給油してから再始動してください。少量の給油では始動できない場合があります。（給油量は車両水平状態で約 12L 以上です。車両の傾きによって給油量はかわります。）

■電磁波について

- 高電圧部位や高電圧配線は、電磁シールド構造になっています。従来の車や家電製品と比べて、電磁波が多いということはありません。
- アマチュア無線の一部（遠距離通信）において、受信時に雑音が混入する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

■駆動用電池について

駆動用電池には寿命があります。寿命は車の使い方、走行条件により異なります。

■適合宣言

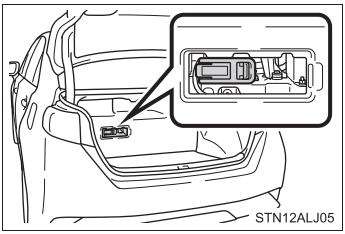
この車両は、ECE100（バッテリー電気車両安全）に基づいた水素排出量に適合しています。

⚠ 警告

■高電圧・高温について

この車は、高電圧システムを使用しています。
次のことをお守りいただかないと、やけどや感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 高電圧部位・高電圧の配線（オレンジ色）およびそのコネクターの取りはずし・分解などは絶対に行わないでください。
- 走行後はハイブリッドシステムが高温になります。車に貼ってあるラベルの指示に従い、常に高電圧・高温部位に注意してください。
- サービスプラグが駆動用電池に設置してあります。サービスプラグは絶対にさわらないでください。サービスプラグは、トヨタ販売店にて車両の修理時などに、駆動用電池の高電圧を遮断するためのものです。取り扱いを誤ると感電のおそれがあるため、絶対にさわらないでください。



⚠ 警告

■事故が発生したとき

次のことをお守りいただかないと、感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 続発事故防止のため安全な場所に停車して、パーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にして、ハイブリッドシステムを停止する
- 高電圧部位・高電圧配線（オレンジ色）などには、絶対にさわらない
- 車室内および車室外に、はみ出している電気配線には絶対さわらない
- 液体の付着やもれがある場合は絶対にさわらない
  駆動用電池の電解液（強アルカリ性）が目や皮膚にふれると失明や皮膚傷害のおそれがあり危険です。万一、目や皮膚に付着した場合はただちに多量の水で洗い流し、早急に医師の診察を受けてください。
- 万一、車両火災が発生したときは、ABC 消火器を使用して消火する
  水をかける場合は、消火栓などから大量にかけてください。
- 前輪が接地した状態でけん引しない
  電気モーターから発電され、破損の状態によっては、火災のおそれがあり危険です。（→ P. 321）
- 車の下の路面などを確認し、液体のもれ（エアコンの水以外）が見つかった場合、燃料系統が損傷している可能性があります。そのままハイブリッドシステムを始動すると燃料に引火するおそれがあり危険ですので、始動しないでください。
  この場合は、トヨタ販売店に状況を連絡するときに併せてお伝えください。

■駆動用電池について

- 絶対に転売・譲渡・改造などをしないでください。廃車から取りはずされた駆動用電池は事故防止のため、トヨタ販売店を通じて回収を行っていますので、ご協力ください。
  適切に回収されないと、次のようなことがおこり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  - 不法投棄または放置され、環境汚染となるばかりか、第三者が高電圧部位に触れてしまい、感電事故が発生する
  - 装備された車両以外で駆動用電池を使用（改造などを含む）し、感電事故、発熱・発煙・発火・爆発事故、電解液漏出事故などが発生する

  特に、転売・譲渡などを行うと、相手にこれらの危険性が認識されず、事故につながるおそれがあります。

⚠ 警告

●駆動用電池を取りはずさないままでお車を廃棄された場合、高電圧部品・ケーブル・それらのコネクターにふれると、深刻な感電の危険があります。お車を廃棄するときには、トヨタ販売店で駆動用電池を廃棄してください。駆動用電池は適切に廃棄しないと、感電を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■駆動用電池冷却用の吸入口について

●吸入口をふさぐように荷物などを置かないでください。
吸入口がふさがれると駆動用電池が過熱したり、故障の原因となります。

●吸入口は、目づまりしないよう定期的に清掃してください。

●吸入口に水や異物を入れないでください。
駆動用電池を損傷するおそれがあります。

●駆動用電池周辺に多量の水をこぼさないよう注意してください。
誤ってこぼしてしまったときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

イモビライザーシステム

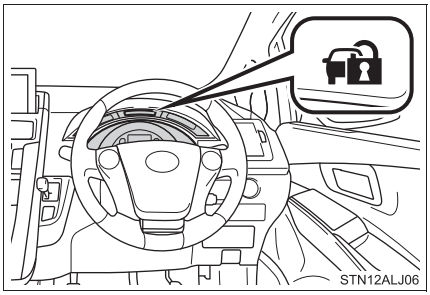
キーに信号発信機が内蔵してあり、あらかじめ登録されたキー以外ではハイブリッドシステムを始動できません。

車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

このシステムは車両盗難の防止に寄与する機能であり、すべての車両盗難に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

パワースイッチをOFFにすると、システムの作動を知らせるためにインジケーターが点滅します。

登録されたキーを携帯し、パワースイッチをアクセサリーモードまたはON モードにするとシステムが解除され、インジケーターが消灯します。



知識

■メンテナンスについて

イモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■機能が正常に作動しないおそれのある状況

周囲の環境や条件により、イモビライザーシステムが正常に作動せずハイブリッドシステムを始動できないことがあります。（→ P. 106）

⚠ 注意

■イモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

オートアラーム

オートアラームとは

オートアラームとは、侵入を検知した場合に音と光で警報する機能です。オートアラームを設定すると、次のような状況でオートアラームが作動します。

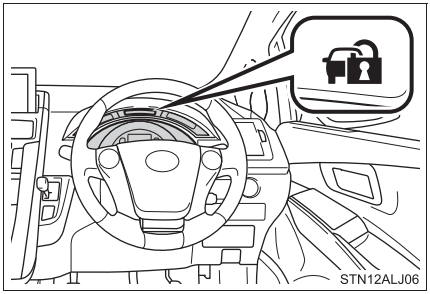
- 施錠されたドアまたはトランクが、スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレスリモコン・メカニカルキーを使わずに解錠されたり、開けられたとき
- ボンネットが開けられたとき

※ T-Connect DCM パッケージをご利用のお客様へは、オートアラームが作動した場合 E メールや電話でお知らせすることができます。
詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱書／ T-Connect ／マイカーSecurity」を参照してください。

オートアラームを設定する

ドア・トランク・ボンネットを閉め、スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使って施錠します。
30 秒以上経過すると、自動的に設定されます。

オートアラームがセットされるとインジケーターは点灯から点滅にかわります。



オートアラームの設定を解除・作動を停止する

次のいずれかを行ってください。

- ドアまたはトランクを解錠する
- パワースイッチをアクセサリーモードまたはONモードにするか、ハイブリッドシステムを始動する（数秒後に解除・停止します）

知識

■メンテナンスについて

オートアラームシステムのメンテナンスは不要です。

■ドアを施錠する前の確認

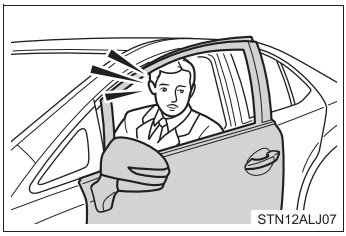
オートアラームの思わぬ作動、および盗難を防ぐため、次のことを必ず確認してください。

- 車内に人が乗っていないか
- ドアガラスとムーンルーフ★が閉じているか
- 車内に貴重品などを放置していないか

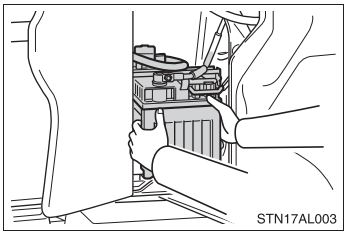
■オートアラームの作動について

次のような場合、オートアラームが作動することがあります。オートアラームを解除・作動を停止する操作を行ってください。

- 車内に残った人が、ドア・トランク・ボンネットを開けたとき
- 車内に残った人が、ロックレバー・ドアレバーで解錠したとき



- 施錠後、補機バッテリーあがりなどで補機バッテリーの充電や交換をしたとき
（→ P. 378）



■オートアラーム作動によるドアロック機能について

次のような場合、車内への不正な侵入を防止するため自動的にドアが施錠されることがあります。

- ドアがキー以外で解錠されオートアラームが作動したとき
- オートアラーム作動中にドアがキー以外で解錠されたとき
- 補機バッテリーあがりなどで充電・交換したとき

★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

⚠ 注意

■オートアラームを正常に作動させるために

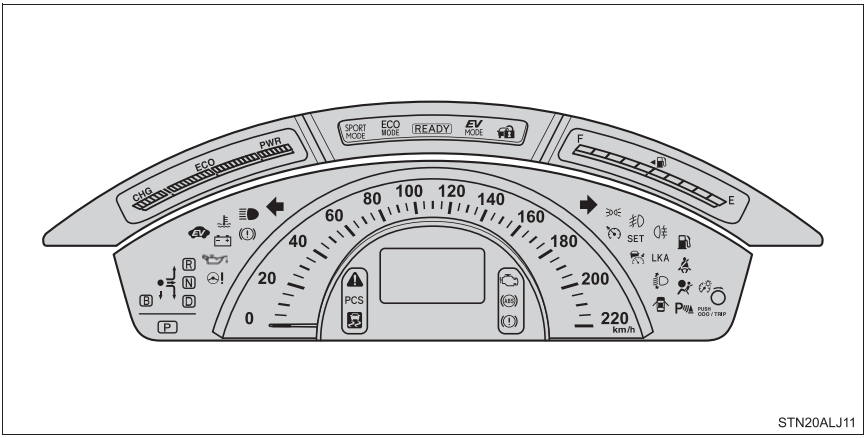
システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

メーターの見方 2

2. 計器の見方
警告灯／表示灯 72
計器類 76
マルチインフォメーション
ディスプレイ 80
エネルギーモニター／
燃費画面／ ESPO 画面 85

警告灯／表示灯

メーター内の警告灯／表示灯でお車の状況をお知らせします。
次のイラストは、説明のためすべての警告灯／表示灯を示しています。



警告灯

システム異常などを警告します。

※1
ブレーキ警告灯（→ P. 327）
（赤色）

※1
スリップ表示灯（→ P. 328）

※1
充電警告灯（→ P. 327）

※1
電子制御ブレーキ警告灯（→ P. 327）
（黄色）

油圧警告灯（→ P. 327）

半ドア警告灯（→ P. 329）

※1
エンジン警告灯（→ P. 328）

燃料残量警告灯（→ P. 329）

※1
SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯（→ P. 328）

※2
シートベルト非着用警告灯（→ P. 329）

※1
ABS &ブレーキアシスト警告灯（→ P. 328）

※1
マスターウォーニング（→ P. 329）

※1
パワーステアリング警告灯（→ P. 328）

※1
高水温警告灯（→ P. 327）

※1

PCS 警告灯★（→ P. 328）
（点滅）

※1
ヘッドランプオートレベリング警告灯（→ P. 328）
（点滅）

※1 作動確認のためにパワースイッチを ON モードにすると点灯し、数秒後またはハイブリッドシステムを始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

※2 助手席はエアコンパネルに表示されます。

★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

表示灯

システムの作動状況を表示します。

方向指示表示灯
（→ P. 160）

尾灯表示灯（→ P. 162）

ハイビーム表示灯
（→ P. 162）

フロントフォグランプ
表示灯★（→ P. 164）

リヤフォグランプ表示灯★
（→ P. 164）

READY インジケーター
（→ P. 147）

EV 走行インジケーター
（→ P. 59）

ECO MODE 表示灯
（→ P. 156）

SPORT MODE 表示灯
（→ P. 156）

EV ドライブモード表示灯
（→ P. 152）

クルーズコントロール
表示灯★（→ P. 175）

レーダークルーズコント
ロール表示灯★（→P. 179）

クルーズコントロールセッ
ト表示灯★（→ P. 175）

LKA（レーンキーピングア
シスト）表示灯★
（→ P. 191）

クリアランスソナー表示灯★
（→別冊「ナビゲーションシ
ステム取扱書」参照）

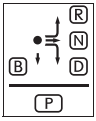
※

（点滅）
スリップ表示灯
（→ P. 201）

※

（点灯または速い点滅）
PCS 警告灯★（→ P. 205）

セキュリティ表示灯
（→ P. 67, 68）



シフトポジション表示灯
（→ P. 154）

※ 作動確認のためにパワースイッチを ON モードにすると点灯し、数秒後またはハイブリッドシステムを始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

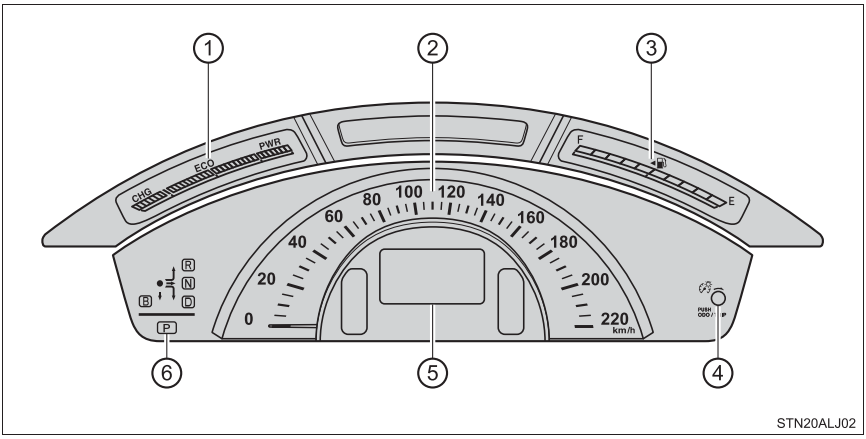
★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

⚠ 警告

■安全装置の警告灯が点灯しないとき

ABS や SRS エアバッグなど安全装置の警告灯が、ハイブリッドシステムを始動しても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

計器類



① ハイブリッドシステムインジケーター

ハイブリッドシステムインジケーターはハイブリッドシステムの出力や回生レベルを表示します。(→ P. 78)

② スピードメーター

車両の走行速度を示します。

③ 燃料計

燃料残量を示します。

④ オドメーター／トリップメーター切りかえボタン

→ P. 77

⑤ マルチインフォメーションディスプレイ

走行に関する様々な情報を表示します。(→ P. 80)

オドメーター／トリップメーターディスプレイ

オドメーター：走行した総距離を km の単位で表示します。

トリップメーター：リセットしてからの走行距離を km の単位で表示します。区間距離は、トリップ A・トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

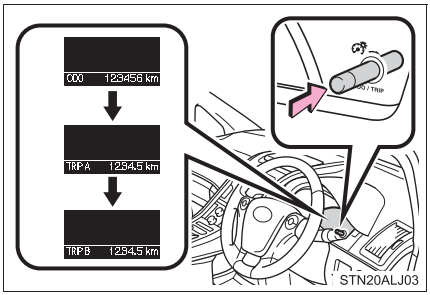
⑥ シフトポジション表示灯

選択されているシフトポジションを表示します。(→ P. 154)

表示の切りかえ（オドメーター／トリップメーター）

ボタンを押すごとに表示が切りかわります。また、トリップメーター表示中に押し続けると、走行距離を0にもどします。

通算走行距離／通算平均燃費／通算平均速度を表示しているときオドトリップメーターは表示されません。
（→ P. 80）

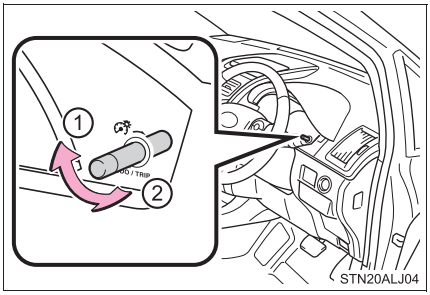


インストルメントパネル照度調整

ノブをまわして、インストルメントパネル照明（メーター・センターパネル・スイッチ照明など）の明るさを調整できます。

① 明るくする

② 暗くする



知識

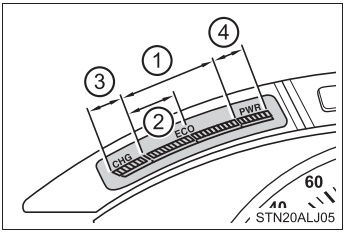
■メーター・ディスプレイの作動条件

パワースイッチが ON モードのとき

■インストルメントパネル照度の減光制御について

ランプスイッチが ON になると、インストルメントパネル照明（メーター・センターパネル・スイッチ照明など）が減光されます。ただし、照度調整ノブを右側いっぱいにまわした状態では、ランプスイッチが ON になってもインストルメントパネル照明は減光されません。
また、インストルメントパネル照度調整ノブを左側いっぱいにまわした状態では、ランプスイッチを ON にしても足元照明とリモートタッチ照明は点灯しません。

■ハイブリッドシステムインジケーターについて



① エコエリア
エコ運転（環境に配慮した走行）をしている状態を示します。

② ハイブリッドエコエリア
ガソリンエンジンの動力を使用しない状況を多く含む状態を示します。
ガソリンエンジンは、各種の条件により自動的に停止・再始動します。

③ チャージエリア
回生ブレーキ機能により、エネルギーを回収している状態を示します。

④ パワーエリア
全開走行時など、エコ運転（環境に配慮した走行）の範囲を超えている状態を示します。

- インジケーターの表示をエコエリアに保つことで、エコ運転（環境に配慮した走行）が可能です。
- チャージエリアは、回生※状態を示します。回生した電力は、駆動用電池を充電します。

※ ここでの「回生」の意味は、運動エネルギーを電気エネルギーに変換することです。

■カスタマイズ機能

メーターなどの明るさを、自動減光するセンサーの感度を変更することができます。
（カスタマイズ一覧：→P. 393）

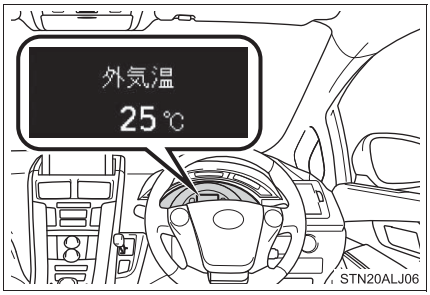
⚠ 注意

■ハイブリッドシステムや構成部品への損傷を防ぐために

この車両には、水温計のかわりに高水温警告灯（→ P. 327）が装備されています。高水温警告灯が点滅または点灯したときは、オーバーヒートのおそれがあるので、ただちに安全な場所に停車してください。完全に冷えたあと、エンジンを確認してください。（→ P. 381）

マルチインフォメーションディスプレイ

マルチインフォメーションディスプレイは、車両に関するさまざまな情報を表示したり、設定したりすることができます。



- ドライブインフォメーション（→ P. 81）

  航続可能距離や燃費など、走行に関する情報を表示します。

- レーダークルーズコントロール表示★※（→ P. 179）
- LKA（レーンキーピングアシスト）表示★※（→ P. 194）
- PCS（プリクラッシュセーフティシステム）表示★（→ P. 205）

  プリクラッシュセーフティシステムより衝突の可能性があると検知したとき表示されます。

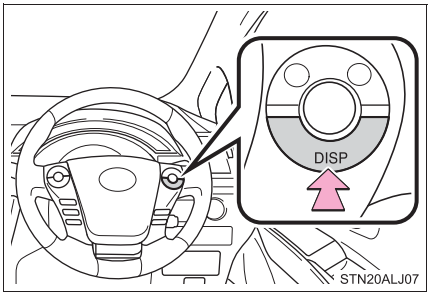
- クリアランスソナー表示★※
  （→別冊「ナビゲーションシステム取扱書」参照）
- 警告メッセージ（→ P. 331）

  各システムに異常が発生すると、自動で表示されます。DISP スイッチを押すと、表示を切りかえることができます。

※ システム使用時に自動で表示されます。DISP スイッチを押すと、表示を切りかえることができます。

◆ 操作方法

DISPスイッチを押すごとに切りかわります。



★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

ドライブインフォメーション

■ エネルギーモニター

車両駆動状況、ハイブリッド作動状況およびエネルギーの回収状況を表示します。(→ P. 86)

■ 通算走行距離／通算平均燃費／通算平均車速

リセットしてからの通算の走行距離と平均燃費と平均車速を表示します。

・ リセットするには、画面表示中に DISP スイッチを 1 秒以上押します。(→ P. 80)
ナビゲーションシステムの「区間燃費画面」もリセットされます。(→P. 90)
・ 表示される平均燃費は、参考として利用してください。

■ 瞬間燃費／給油後平均燃費

現在の瞬間燃費と給油をしてからの平均燃費を表示します。

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

■ 航続可能距離

現在の燃料残量で走行できる、およその距離を表示します。

・ 表示される距離は過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できるとは限りません。
・ 燃料給油量が少量の場合、表示が更新されないことがあります。
給油の際はパワースイッチを OFF にしてください。万一、パワースイッチを OFF にせず給油した場合、表示が更新されないことがあります。
・ 燃料の残量が残りわずかになると、航続可能距離の表示が“航続可能距離残りわずかです”に変わります。(→ P. 340)

■ 外気温

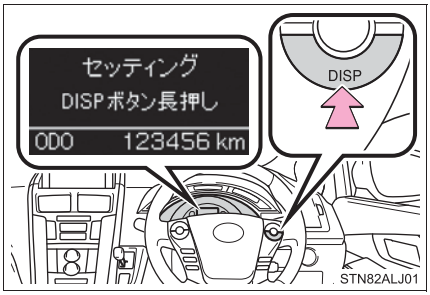
外気温を表示します。

設定

■ セッティング

EV 走行インジケーターの ON/OFF を変更できます。（→ P. 59）

1 停車した状態で、DISP ボタンを押して、マルチインフォメーションディスプレイに「セッティング」画面を表示する

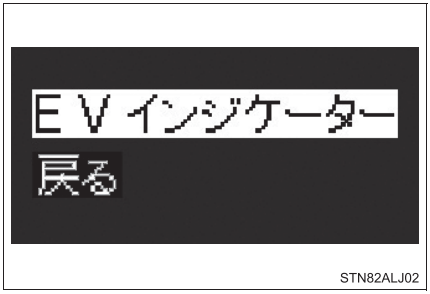


2 DISP ボタンを押し続ける

設定項目の選択画面が表示されます。

3 「EV インジケーター」を選択し、DISP ボタンを押し続ける

DISP ボタンを押すたびに、カーソルが次の項目へ移動します。



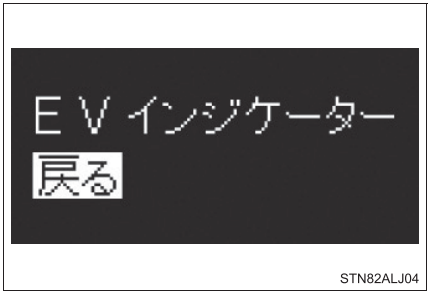
4 設定を変更する

DISP ボタンを押すとカーソルが移動します。

目的の項目にカーソルを合わせ、DISP ボタンを押し続けると、設定が変更され、3の画面にもどります。

5 「戻る」を選択して DISP ボタンを押し続ける

1 の画面にもどります。



知識

■EV 走行インジケータについて

設定で EV 走行インジケーターを OFF にすると、EV ドライブモードで EV 走行インジケータは点灯しません。（→ P. 152）

■外気温表示について

次の場合は、正しい外気温が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。

- 停車しているときや、低速走行（約 25km/h 以下）のとき
- 外気温が急激に変化したとき（車庫・トンネルの出入り口付近など）

■カスタマイズ画面について

次の場合はカスタマイズ画面が自動的に終了します。

- カスタマイズ画面表示中に警告メッセージが表示されたとき
- カスタマイズ画面表示中に走行し始めたとき

■補機バッテリー端子の脱着をしたとき

補機バッテリー端子の脱着を行うと、次のデータはリセットされます。

- 通算走行距離／通算平均燃費／通算平均車速
- 給油後平均燃費
- 航続可能距離
- 平均車速

⚠ 警告

■ディスプレイの設定を変更するとき

ハイブリッドシステムが作動している状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてからご使用ください。

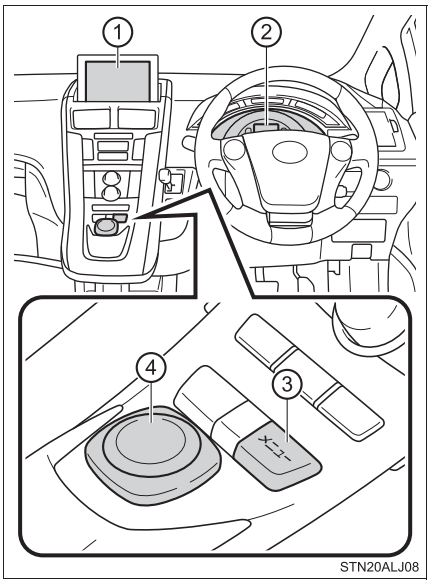
■ディスプレイの設定を変更するとき

補機バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にハイブリッドシステムが作動している状態で実施してください。

エネルギーモニター／燃費画面★／ ESPO 画面★

ハイブリッドシステムの状態を、マルチインフォメーションディスプレイおよびナビゲーション画面に表示します。

① ディスプレイ（エレクトロマルチビジョン）
② マルチインフォメーションディスプレイ
③ メニュースイッチ
④ リモートタッチノブ



★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

エネルギーモニターの見方

■ ナビゲーション画面表示

1 リモートタッチのメニュースイッチを押しメニュー画面を表示させる

2 「情報・TC」を選択する

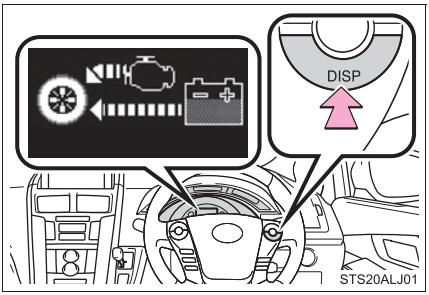
STS20ALJ16

3 「エネルギー」を選択する

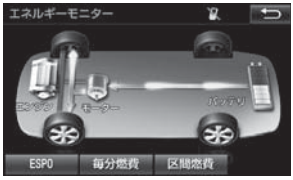
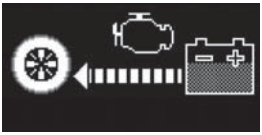
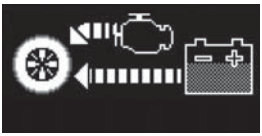
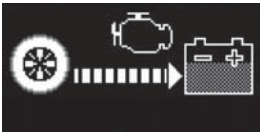
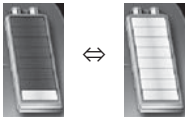
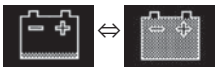
STS20ALJ17

■ マルチインフォメーションディスプレイ表示

DISP スイッチを押してエネルギーモニターを表示させる



STS20ALJ01

	ナビゲーション システム画面	マルチインフォメーション ディスプレイ
電気のエネルギーで走行しているとき		
ガソリンと電気の両方のエネルギーで走行しているとき		
ガソリンのエネルギーで走行しているとき		
駆動用電池に充電しているとき	 	
エネルギーの流れがないとき		
駆動用電池の残量表示	少ない 多い 	少ない 多い 

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

ESPO 画面の見方

1 リモートタッチのメニュースイッチを押し、「情報・TC」を選択する

2 情報画面の「ESPO」を選択する

① ステータス／エコ運転スコア表示※

エコ運転の採点結果や走行情報をトヨタスマートセンターに送信し、計算されたデータをもとにエコ運転スコアやステータスを表示します。
ステータスはエコ運転を継続することでブロンズ、シルバー、ゴールドの順にランクがアップします。

② エコレベル平均値

エコレベルメーターの平均値を表示します。

③ エコレベルメーター

ハイブリッドシステムインジケーターの表示がエコエリア内の状態を継続させることなどでメーターが増加します。

④ エコレベルインジケーター

エコレベルメーターのレベルに応じて Good・Excellent が表示されます。レベルが低い場合は表示されません。

⑤ 毎分燃費（前回ハイブリッドシステム始動～ハイブリッドシステム停止）

1 分ごとの平均燃費を最大 15 分前までグラフ表示します。

今回と前回の平均燃費を色分けして表示します。

⑥ 毎分燃費（今回ハイブリッドシステム始動～現在）

1 分ごとの平均燃費を最大 15 分前までグラフ表示します。

今回と前回の平均燃費を色分けして表示します。

⑦ 更新スイッチ※

走行情報などをトヨタスマートセンターへ送信し、ステータス／エコ運転スコア表示を更新します。

⑧ エコカルテスイッチ※

お車から送信された情報を反映して、月間の走行距離・ガソリン消費量・CO_2 排出量・平均燃費・獲得ポイント・エコ運転スコアが表示されます。

⑨ アドバイススイッチ

・ ドライバーの運転操作についてエコ運転の観点で診断した結果を表示します。良いところを確認したり、さらに良くするにはどうしたら良いかを知ることができます。

・ エコ運転や環境に関する豆知識を表示します。

※ T-Connect をご利用されているときに表示されます。
詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

燃費画面の見方

1 リモートタッチのメニュースイッチを押し、「情報・TC」を選択する

2 情報画面の「燃費」を選択する

■ 毎分燃費の見方

区間燃費画面が表示されたときは、「毎分燃費」を選択します。

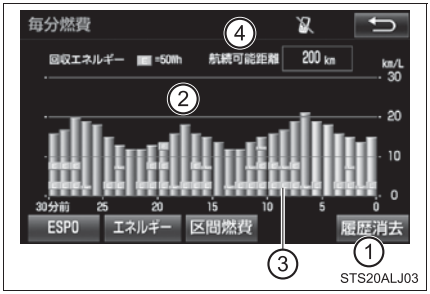
① 履歴消去

② 過去 30 分間の 1 分ごとの燃費（平均燃費）

③ 過去 30 分間の 1 分ごとのエネルギー回収量

E マーク 1 つが 50Wh です。

④ 航続可能距離（→ P. 90）



表示される平均燃費は、参考として利用してください。

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

■ 区間燃費の見方

毎分燃費画面が表示されたときは、「区間燃費」を選択します。

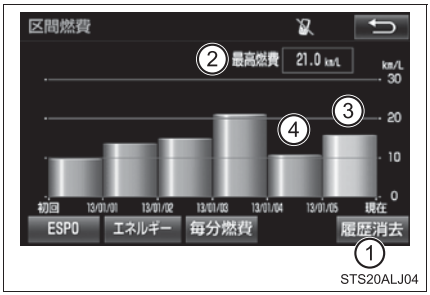
① 履歴消去

② 最高燃費表示

③ 通算燃費表示

④ 過去通算平均燃費表示

マルチインフォメーションディスプレイの「通算平均燃費」をリセットするごとの平均燃費を表示します。(→ P. 81)



リセット時の通算平均燃費値が過去最高燃費を上まわっていた場合、過去最高燃費が更新されます。

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

知識

■燃費データをリセットするには

「履歴消去」を選択すると、燃費データがリセットされます。

■航続可能距離について

現在の燃料残量で走行できるおよその距離を示します。

表示される距離は、過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できるとは限りません。

■トヨタスマートセンターへ送信する走行情報について

トヨタスマートセンターへ送信する走行情報は、ナビゲーションシステムが算出するものであり、マルチインフォメーションディスプレイに表示される走行距離や燃費などとは一致しないことがあります。

■ESPO 画面について

パソコンや携帯電話のユーザーサイト、T-Connect スマホアプリでもステータスなどをみることができます。

各部の操作 3

3-1. キー
キー 92
3-2. ドアの開閉、ロックのしかた
ドア 95
トランク 100
スマートエントリー&
スタートシステム 104
3-3. シートの調整
フロントシート 110
マイコンプリセット
ドライビングポジション
システム 113
ヘッドレスト 118
3-4. ハンドル位置・ミラー
ハンドル 120
インナーミラー 123
ドアミラー 126
3-5. ドアガラス・ムーンルーフの
開閉
パワーウインドウ 130
ムーンルーフ 133

キー

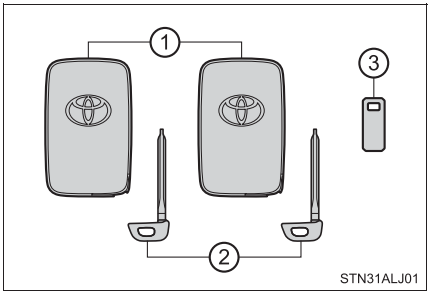
キーについて

お客様へ次のキーをお渡しします。

① 電子キー
- スマートエントリー&スタートシステムの作動 （→ P. 104）
- ワイヤレス機能の作動 （→ P. 92）

② メカニカルキー

③ キーナンバープレート



ワイヤレスリモコン

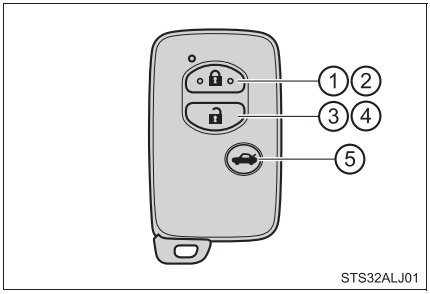
① ドアの施錠 （→ P. 95）

② ドアガラスとムーンルーフ★を閉める※

③ ドアの解錠 （→ P. 95）

④ ドアガラスとムーンルーフ★を開く※

⑤ トランクを開ける （→ P. 100）

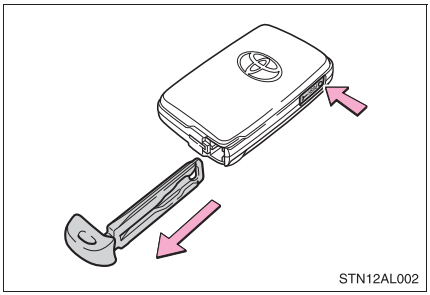


※ カスタマイズ機能での設定変更が必要です。（→ P. 398）

メカニカルキーを使うには

メカニカルキーを取り出すには、解除ボタンを押してキーを取り出してください

使用後はもとにもどし、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。（→ P. 374）



★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

知識

■メカニカルキーを紛失したとき

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのメカニカルキーから、トヨタ販売店でトヨタ純正品の新しいメカニカルキーを作ることができます。キーナンバープレートは車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。

■航空機に乗るとき

航空機に電子キーを持ち込む場合は、航空機内で電子キーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

■電池の消耗について

- ●電池の標準的な寿命は 1 ～ 2 年です。
- ●電池残量が少なくなると、ハイブリッドシステムを停止した際に車内から警告音が鳴ります。（→ P. 347）
- ●電子キーは常に電波を受信しているため、使用していないあいだでも電池が消耗します。次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。
  - ・スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが作動しない
  - ・作動範囲が狭くなった
  - ・電子キーの LED が点灯しない
- ●電池の著しい消耗を防ぐため、次のような磁気を発生する電化製品の1m以内に電子キーを保管しないでください。
  - ・TV
  - ・パソコン
  - ・携帯電話やコードレス電話機、および充電器
  - ・電気スタンド
  - ・電磁調理器

■電池の交換方法

→ P. 295

■キー登録本数の確認について

車両に登録されたキーの本数を確認することができます。詳しくはトヨタ販売店へご相談ください。

■不正キーの使用について

指定のメカニカルキー以外のキーを使用すると、キーシリンダーが空まわりして解錠できません。

⚠ 注意

■キーの故障を防ぐために

- ●落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない
- ●湿度の高いところに長時間放置しない
- ●ぬらしたり超音波洗浄器などで洗ったりしない
- ●キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたりしない
- ●分解しない
- ●電子キー表面にシールなどを貼らない
- ●テレビやオーディオ・電磁調理器などの磁気を帯びた製品や、低周波治療器などの電気医療機器の近くに置かない

■電子キー取り扱いの注意

電子キーは電波法の認証に適合しています。必ず次のことをお守りください。

- ●電池交換時以外は、不用意に分解しないでください。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
- ●必ず日本国内でご使用ください。

■キーを携帯するとき

電源を入れた状態の電化製品とは 10cm 以上離して携帯してください。10cm 以内にあると電化製品の電波と干渉し正常に機能しない場合があります。

■スマートエントリー＆スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくとき

車両に付属しているすべての電子キーをお持ちください。

■電子キーを紛失したとき

電子キーを紛失した状態で放置すると、盗難の危険性が極めて高くなります。車両に付属している残りの電子キーをすべてお持ちのうえ、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。

ドア

車外からの解錠／施錠

◆ スマートエントリー&スタートシステム

電子キーを携帯して操作します。

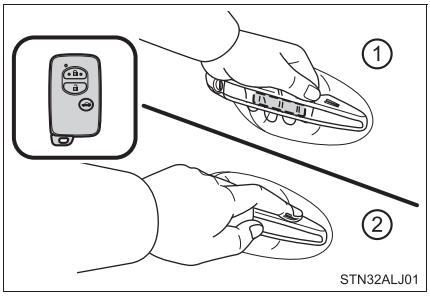
① ハンドルを握って解錠する

ハンドル裏面のセンサー部に確実に触れてください。

施錠操作後 3 秒間は解錠できません。

② ドアハンドル上側のロックセンサー部（ハンドルのくぼみ部）にふれ施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。



◆ ワイヤレスリモコン

① 全ドアを施錠する

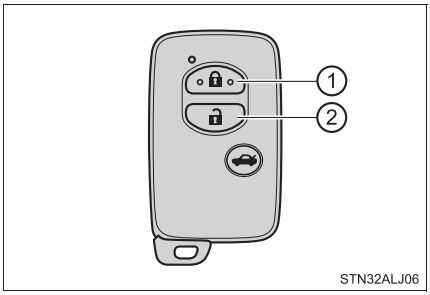
必ず施錠されたことを確認してください。

押し続けるとドアガラスとムーンルーフ★が閉まります。※

② 全ドアを解錠する

押し続けるとドアガラスとムーンルーフ★が開きます。※

※ カスタマイズ機能での設定変更が必要です。



★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

知識

■作動の合図

ドア：ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。（施錠は 1 回、解錠は 2 回）

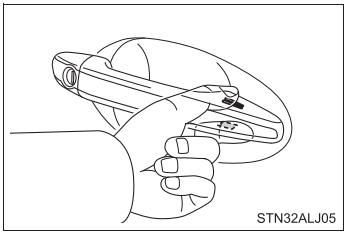
ドアガラス・ムーンルーフ★：ブザーで知らせます。

■解錠操作のセキュリティ機能

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。

■ドアハンドル上側のロックセンサーで施錠できないとき

ドアハンドル上側のロックセンサー部にふれても施錠できないときは、上下のロックセンサー部に同時にふれてください。



■半ドア警告ブザー

ドアが完全に閉まっていない状態でドアを施錠しようとすると、ブザーが鳴ります。
ドアを完全に閉めてから、もう一度施錠してください。

■オートアラームについて

スマートエントリー＆スタートシステムまたはワイヤレスリモコンで施錠するとオートアラームが設定されます。（→ P. 68）

■スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に作動しないとき

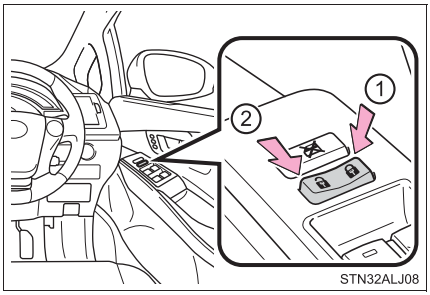
メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。（→ P. 374）
電子キーの電池が消耗しているときは、電池を交換してください。（→ P. 295）

★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

車内からの解錠／施錠

◆ ドアロックスイッチ

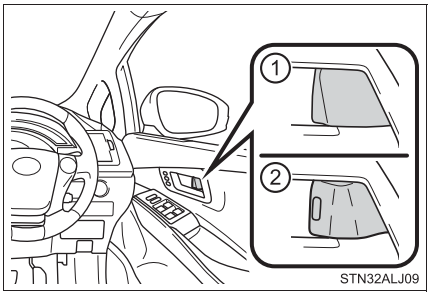
① 全ドアを施錠する
② 全ドアを解錠する



◆ ロックレバー

① ドアを施錠する
② ドアを解錠する

運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアレバーを引くと開きます。



キーを使わずに外側からフロント席を施錠するとき

1 ロックレバーを施錠側にする

2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める
パワースイッチがアクセサリーモードまたは ON モードのときや、車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。

キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

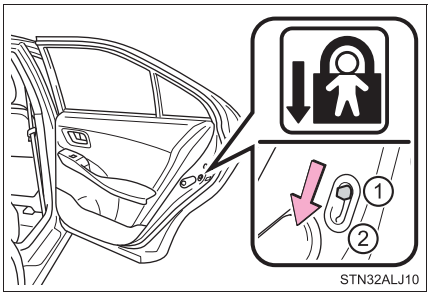
チャイルドプロテクター

施錠側にすると、リヤ席ドアが車内から開かなくなります。

① 解錠

② 施錠

お子さまが車内からリヤ席ドアを開けられないようにできます。両側のリヤ席ドアを施錠側にしてください。



知識

■チャイルドプロテクター使用時のドアの開け方

ドアを解錠して車外のドアハンドルを引くと開きます。万一、車内から開ける場合は、ドアガラスを下げて手を出し、車外のドアハンドルを引いてください。

オートドアロック・アンロック機能

次の機能を設定・解除することができます。

設定変更のしかたについては、P. 393 を参照してください。

機能	作動内容
車速感応オートドアロック	速度が約 20 km/h 以上になると全ドアが施錠されます。
シフト操作連動ドアロック	ハイブリッドシステムが作動中にシフトポジションをPから切りかえると全ドアが施錠されます。
シフト操作連動アンロック	シフトポジションをPに切りかえると全ドアが解錠されます。
運転席ドア開連動アンロック	パワースイッチを OFF にしてから運転席ドアを開けると全ドアが解錠されます。

知識

■衝撃感知ドアロック解除システム

車両が前後左右から強い衝撃を受けると、すべてのドアが解錠されます。
衝撃の度合いや事故の状況によっては作動しないことがあります。

■メカニカルキーでの施錠・解錠

メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。(→ P. 374)

■スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に働かないおそれのある状況

→ P. 106

■カスタマイズ機能

キー操作によって解錠されるドアの設定などを変更できます。
(カスタマイズ一覧：→ P. 393)

⚠ 警告

■事故を防ぐために

運転中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、不意にドアが開き車外に放り出されるなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- シートベルトを必ず使用する
- すべてのドアを確実に閉め、施錠する
- 走行中はドア内側のドアレバーを引かない
  特に、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。
- お子さまをリヤ席に乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用して車内からドアが開かないようにする

■ドアを開閉するときの留意事項

傾斜地・ドアと壁などのあいだが狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

■ワイヤレスリモコンを使ってドアガラスやムーンルーフを操作するとき

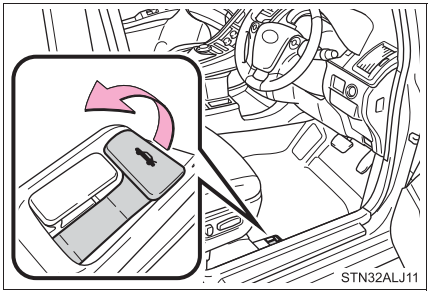
ドアガラスやムーンルーフに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスやムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

トランク

トランクオープナーやスマートエントリー&スタートシステム、ワイヤレスリモコンを使って開けることができます。

車内からトランクを開ける

レバーを引き上げて、トランクのロックを解錠する



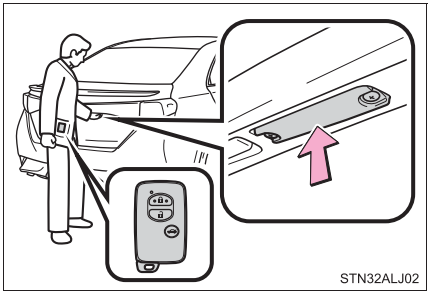
車外からトランクを開ける

◆ スマートエントリー&スタートシステム

電子キーを携帯し、トランクのスイッチを押す

次のいずれかの方法ですべてのドアを解錠したときは、電子キーを携帯しなくてもトランクを開けることができます。

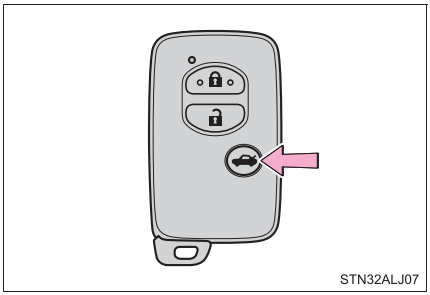
- スマートエントリー&スタートシステム
- ワイヤレス機能
- ドアロックスイッチ
- メカニカルキー
- オートドアアンロック機能



◆ ワイヤレスリモコン

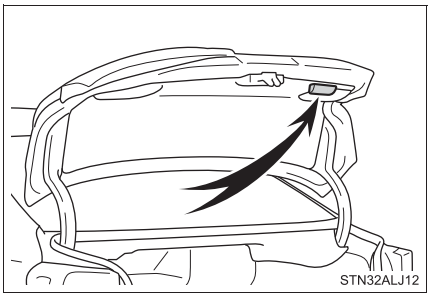
スイッチを押し続ける

ブザーが鳴ります。



トランクを閉めるとき

トランクグリップを持って、横方向に力をかけないようにトランクを引き下げ、外から押して閉めてください。



知識

■トランクランプ

トランクを開けたとき、トランクランプが点灯します。

■トランク内キー閉じ込み防止機能について

- すべてのドアが施錠されている場合、トランク内に電子キーを置いたままトランクを閉めると、警告音が鳴ります。この場合、車外にあるトランクオープンスイッチで開けられます。
- すべてのドアが施錠されている状態で、予備のキーをトランクに入れたときも、キー閉じ込み防止機能が働き、トランクを開けることができます。盗難防止のため、車から離れるときは必ずすべての電子キーを携帯してください。
- すべてのドアが施錠されている状態でトランク内に電子キーを置いても、電子キーが置かれた場所や、周囲の電波状況によっては、トランク内の電子キーを検知できないことがあります。この場合は、キー閉じ込み防止機能が働かず、トランクを閉めたときに施錠されてしまいます。トランクを閉めるときには、必ず電子キーの所在を確認してください。
- ドアがひとつでも解錠されている場合は、キー閉じ込み防止機能は働きません。この場合は、車内のトランクオープナーでトランクを開けてください。

■カスタマイズ機能

トランク解錠操作の設定などを変更できます。（カスタマイズ一覧：→P. 393）

⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行する前に

- 走行前にトランクが閉まっていることを必ず確認してください。
  完全に閉まっていないと走行中に突然開き、車外のものにあたったり、荷物が投げ出されたりして思わぬ事故につながるおそれがあります。
- トランクの中でお子さまを遊ばせないでください。
  誤って閉じ込められた場合、熱射病や窒息などを引き起こすおそれがあります。
- お子さまにはトランクの開閉操作をさせないでください。
  不意にトランクリッドが開いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

⚠ 警告

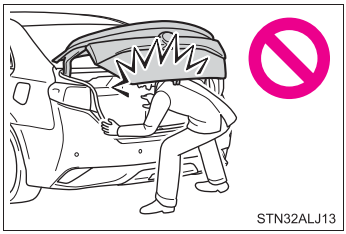
■走行中の留意事項

トランク内には絶対に人を乗せないでください。
急ブレーキ・急旋回をかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

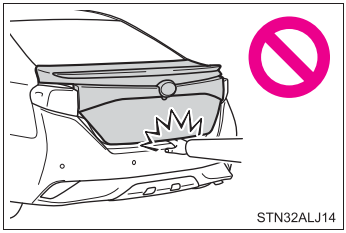
■トランクの使用にあたって

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

- トランクを開ける前に、トランクリッド上の雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでトランクリッドが突然閉じるおそれがあります。
- トランクを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- 人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 強風時の開閉には十分注意してください。
  トランクリッドが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。
- 半開状態で使用すると、トランクリッドが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。特に傾斜地では、平坦な場所よりもトランクの開閉がしにくく、急にトランクが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずトランクが全開で静止していることを確認して使用してください。


STN32ALJ13

- トランクを閉めるときは、トランクリッドで指などを挟まないよう十分注意してください。
- トランクは必ず外からトランクリッド上面を軽く押して閉めてください。トランクグリップで直接トランクを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。


STN32ALJ14

- トランクリッドにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を取り付けないでください。トランクリッドの重量が重くなると、開いたあとに突然閉じるおそれがあります。

スマートエントリー&スタートシステム

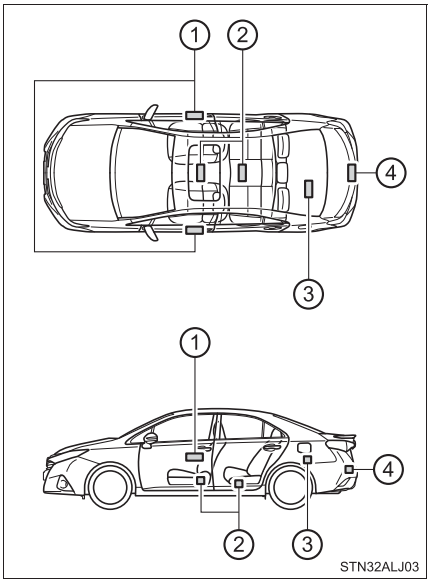
電子キーをポケットなどに携帯すると、次の操作が行えます。必ず運転者が携帯してください。

- ドアを解錠・施錠する （→ P. 95）
- トランクを開ける （→ P. 100）
- ハイブリッドシステムを始動する （→ P. 147）

知識

■アンテナの位置

① 車外アンテナ
② 車内アンテナ
③ トランク内アンテナ
④ トランク外アンテナ



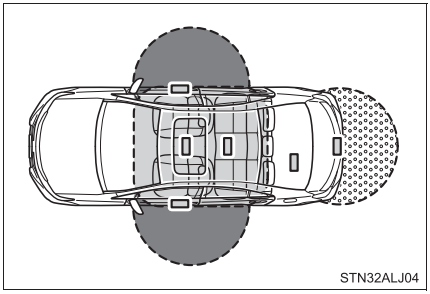
■ 作動範囲（電子キーの検知エリア）

：ドアの施錠・解錠時

ドアハンドルから周囲約 70cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。（電子キーを検知しているドアハンドルのみ作動します）

：トランクの解錠時

トランクオープンスイッチから周囲約70 cm以内で電子キーを携帯している場合に作動します。



：ハイブリッドシステム始動時またはパワースイッチ切りかえ時

車内で電子キーを携帯している場合に作動します。

■警告音と警告表示について

誤操作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、車内や車外で警告音が鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されることがあります。警告が表示されたときは、ディスプレイの表示をもとに適切に対処してください。（→P. 331）

警告音のみが鳴る場合の状況と対処方法は次の通りです。

警告音	状況	対処方法
車外から“ピー”と5 秒間鳴る	いずれかのドアが開いているときにスマートエントリー&スタートシステムで施錠しようとした	全ドアを閉めたあと、再度施錠する
車内から“ポーン、ポーン”と鳴り続ける	運転席ドアが開いている状態でパワースイッチをアクセサリーモードにした（パワースイッチがアクセサリーモードのとき運転席ドアを開いた）	パワースイッチを OFF にしたあと、運転席ドアを閉める

■節電機能

長期駐車時に電子キーの電池と車両の補機バッテリーあがりを防止するため、節電機能が働きます。

●次の状況では、スマートエントリー&スタートシステムによる解錠に時間がかかる場合があります。

・車の外約 2m 以内に電子キーを 10 分以上放置した
・5 日間以上スマートエントリー&スタートシステムを使用しなかった

●14 日間以上スマートエントリー&スタートシステムを使用しなかった場合、運転席以外での解錠ができなくなります。この場合は、運転席のドアハンドルを握る、もしくは、ワイヤレス機能、メカニカルキーで解錠してください。

■機能が正常に働かないおそれのある状況

スマートエントリー&スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコン、イモビライザーシステムが正常に作動しない場合があります。（対処方法：→P. 374）

●電子キーの電池が消耗しているとき

●近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

●無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器を携帯しているとき

●電子キーが、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき

・アルミ箔などの金属の貼られたカード
・アルミ箔を使用したタバコの箱
・金属製の財布やかばん
・小銭
・カイロ
・CD や DVD などのメディア

●近くで他の電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき

●電子キーを、次のような電波を発信する製品と同時に携帯しているとき

・他の車の電子キーや電波式ワイヤレスリモコン
・パソコンや携帯情報端末（PDA など）
・デジタルオーディオプレーヤー
・ポータブルゲーム機器

●リヤガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき

■ご留意いただきたいこと

●電子キーが作動範囲内（検知エリア内）にあっても、次のような場合は正しく作動しないことがあります。

・ドアの施錠･解錠時に電子キーがドアガラスやドアハンドルに近付きすぎる、または地面の近くや高い場所にある場合
・トランクを開けるときに電子キーが地面の近くや高い場所にある、またはリヤバンパー中央に近付きすぎた場合
・ハイブリッドシステム始動時またはパワースイッチの切りかえ時に電子キーがインストルメントパネルやフロア上・リヤシート後方のパッケージトレイ上・ドアポケット・オープントレイ、またはグローブボックス内などに置かれていた場合

●インストルメントパネル上面・ドアポケット付近に電子キーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては車外アンテナに検知されて車外からのドアロックが可能になる場合があり、電子キーが車内に閉じ込められるおそれがあるため注意してください。

●電子キーが作動範囲内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。ただし、電子キーを検知しているドア以外では、解錠できません。

●車外でもドアガラスに近い位置に電子キーがあるときは、ハイブリッドシステムの始動が可能になる場合があります。

●電子キーが作動範囲内にある場合、洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかると、ドアが施錠・解錠することがあります。（解錠された場合でも、ドアの開閉操作がなければ約 30 秒後に自動的に施錠されます）

●車両に近い位置に電子キーがあるときに解錠操作後のセキュリティ機能の作動（→ P. 96）やワイヤレスリモコンなどで施錠を行うと、スマートエントリー&スタートシステムによる解錠ができなくなることがあります。（ワイヤレスリモコンで解錠すると復帰します）

●手袋を着けてロックセンサーにふれた場合、施錠が遅れたり、施錠されなかったりすることがあります。その場合、手袋をはずしてロックセンサーにふれてください。

●ロック操作は、連続で 2 回まで有効で、3 回目以降はロック動作しません。

●キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、施錠／解錠動作をくり返すことがあります。その場合はキーを車両から 2m 以上離れた場所に保管して、洗車などをしてください。（キーの盗難に注意してください）

●車内にキーがあるときに、洗車機で洗車するなどして水をドアハンドルにかけた場合、警報がマルチインフォメーションディスプレイに表示され、車外のブザーが吹鳴することがあります。その場合は全ドアを施錠すれば警報は表示されなくなります。

●ロックセンサーの表面に氷や雪、泥が付着した場合、センサーが反応しない場合があります。反応しない場合は表面に付着した氷や雪、泥を取り除いて再度操作するか、ドアハンドル下部のロックセンサーを使って操作してください。

●ドアハンドルを操作するときに、爪がドアにあたる場合があります。ドアを傷付けたり、爪を割ったりしないよう注意してください。

●急なドアハンドル操作や、車外アンテナの作動範囲内へ急に入ってドアハンドルを操作したときは、解錠されない場合があります。その場合は、ドアハンドルを一度もとの位置にもどし、解錠されたことを確認してからドアハンドルを引いてください。

●手袋を着けてドアハンドルを握った場合は、解錠が遅れたり、解錠されなかったりすることがあります。その場合、手袋をはずしてハンドル裏面のセンサー部にふれてください。

●作動範囲内に他の電子キーがあるときは、ドアハンドルを握ってから解錠するまでの時間が少し長くなる場合があります。

■長期間運転しないとき

●盗難防止のため、電子キーを車両から 2m 以上離しておいてください。

●あらかじめスマートエントリー&スタートシステムを非作動にすることができます。（→ P. 393）

■システムを正しく作動させるために

●電子キーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合は電子キーを車両に近付けすぎないようにしてください。
作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。（誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります。：→ P. 105, 346）

●トランク内に電子キーを置かないでください。
電子キーの場所（応急用タイヤ★付近、トランク内側の端）、状況（金属製のかばんの中、金属製のものの付近など）、または周囲の電波環境によっては、キー閉じ込み防止機能が作動しない場合があります。（→ P. 102）

■スマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しないとき

●ドア・トランクの施錠・解錠：→ P. 374

●ハイブリッドシステムの始動：→ P. 374

■解錠ドアの切りかえ機能

ワイヤレスリモコンを使用して、スマートエントリー&スタートシステムで解錠できるドアの設定を切りかえることができます。
（カスタマイズ一覧→ P. 393）

■カスタマイズ機能

スマートエントリー&スタートシステムを非作動にするなどの変更ができます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 393）

★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

■カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にしたとき

- ドアの施錠・解錠：ワイヤレス機能、またはメカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。(→P. 95, 374)
- ハイブリッドシステムの始動・パワースイッチのモード切りかえ：→P. 374
- ハイブリッドシステムの停止：→P. 148

⚠ 警告

■電波がおよぼす影響について

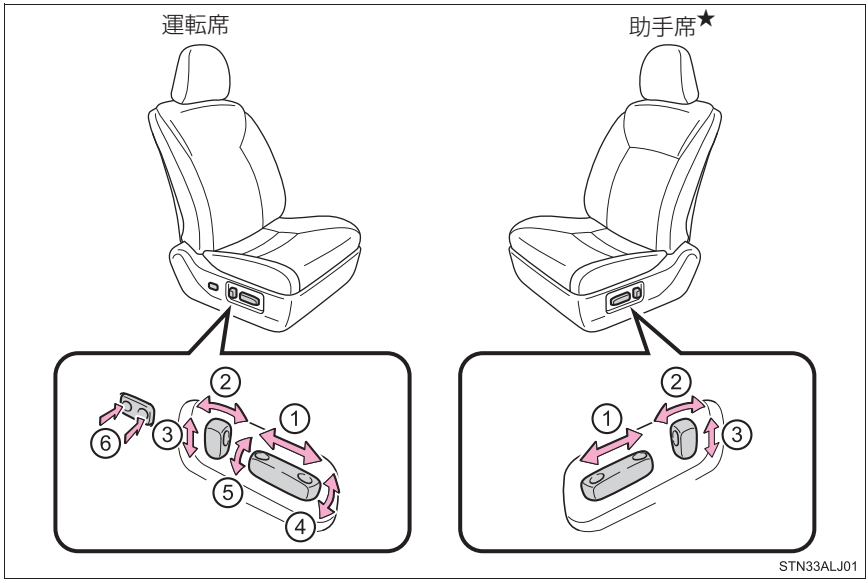
- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器を装着されている方は、室内アンテナ・車外アンテナ（→P. 104）から約 22cm 以内に近付かないようにしてください。電波により植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。
- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波が医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

スマートエントリー＆スタートシステムを非作動にすることもできます。
詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

フロントシート

調整のしかた

▶ パワーシート装着車



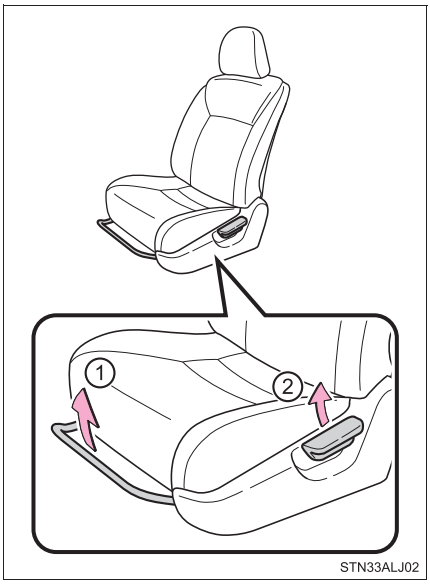
① 前後位置調整
② リクライニング調整
③ ヘッドレストの上下調整★
④ クッション前端の上下調整（運転席のみ）
⑤ シート全体の上下調整（運転席のみ）
⑥ 腰部硬さ調整（運転席のみ）

★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

▶ マニュアルシート装着車★（助手席のみ）

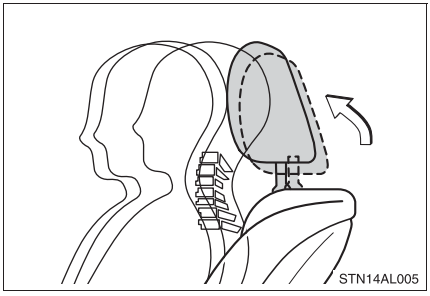
① 前後位置調整

② リクライニング調整



アクティブヘッドレスト（後方プリクラッシュセーフティシステム装着車を除く）

追突の衝撃によって、乗員の腰がシートバックを押すことでヘッドレストが少し斜め上方に動き乗員のむち打ち傷害軽減に貢献します。

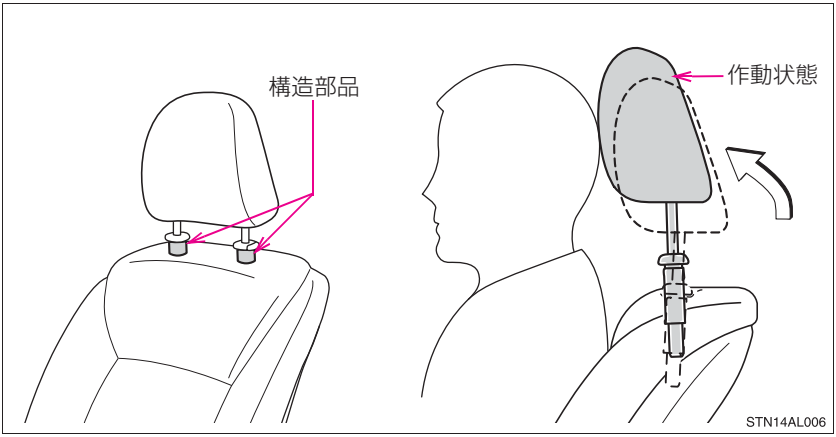


★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

知識

■アクティブヘッドレスト（後方プリクラッシュセーフティシステム装着車を除く）

シートバックへの衝撃が弱い場合でもアクティブヘッドレストが作動することがあります。なお、解除ボタンを押さずにヘッドレストを無理に押し上げると、ヘッドレストの構造部品が出てきますが、故障ではありません。



⚠ 警告

■シートを調整するとき

- 同乗者がシートにあたってけがをしないように注意してください。
- シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
  指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 足元のスペースを確保し足を挟まないように注意してください。

■リクライニング調整について

- 背もたれは必要以上に倒さないでください。
  必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- マニュアルシート装着車は、シート調整後はシートがきちんと固定されていることを確認してください。

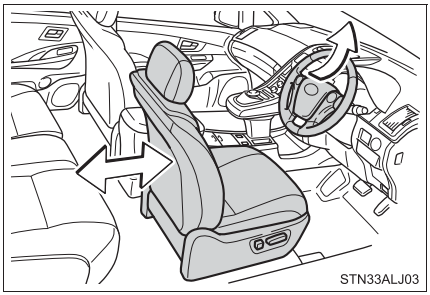
マイコンプリセットドライビングポジションシステム★

自動でシート・ハンドル・ドアミラーを動かし、乗り降りしやすい位置に調整したり、お好みのドライビングポジションに調整したりします。

パワーイージーアクセスシステム

乗降時に運転者が乗り降りしやすいよう、シートやハンドルが自動で動きます。

次のすべての操作を行ったとき、シートとハンドルが乗り降りしやすい位置に自動で調整されます。
・パワースイッチを OFF にする
・シートベルトをはずす



次のいずれかの操作を行ったとき、シートとハンドルがもとの位置にもどります。
・パワースイッチをアクセサリーモードまたは ON モードにする
・シートベルトを着用する

知識

■パワーイージーアクセスシステムの作動について

降車時に、シートの位置が最後方付近にあると、パワーイージーアクセスシステムが作動しない場合があります。

■カスタマイズ機能

パワーイージーアクセスシステムによるシート移動量を変更できます。
（カスタマイズ一覧→ P. 393）

★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

ポジションメモリー

お好みのドライビングポジション（シートの位置・ハンドルの位置・ドアミラーの角度）を登録して、ワンタッチで呼び出すことができます。ドライビングポジションは２パターンまで登録できます。

◆ 登録方法

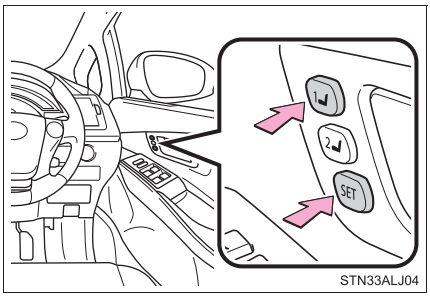
1 パワースイッチを ON モードにする

2 シフトポジションが P の位置にあることを確認する

3 運転席・ハンドル・ドアミラー角度をお好みの位置に調整する

4 SET ボタンを押しながら、または SET ボタンを押したあと３秒以内に、1または2のうち登録したいボタンをブザーが鳴るまで押す

すでに同じボタンに登録されている場合は、上書きされます。



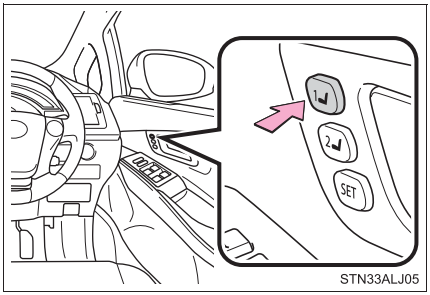
STN33ALJ04

◆ 呼び出し方法

1 パワースイッチを ON モードにする

2 シフトポジションが P の位置にあることを確認する

3 1または2のうち呼び出したいポジションのボタンをブザーが鳴るまで押す



STN33ALJ05

知識

■ドライビングポジションの呼び出し作動を途中で止めたいとき

次のいずれかの操作をします。

- SET ボタンを押す
- 1 または2のボタンを押す
- シート調整スイッチのいずれかを操作する（シートのみ作動停止）
- 電動チルト＆テレスコピックステアリングスイッチを操作する（ハンドルのみ作動停止）

■登録できるシート位置（→ P. 110）

次のフロントシート位置が登録できます。

- 前後位置調整
- リクライニング調整
- シート全体の上下調整
- クッション前端の上下調整

■パワースイッチ OFF 後の作動

運転席ドアを開けて 180 秒以内、または運転席ドアを閉め、60 秒以内に呼び出したいポジションのボタンを押すと、シートの位置が調整されます。

■ポジションメモリーを正しくお使いいただくために

登録位置が各シート調整位置の最端部にある状態で、さらに同じ方向に操作をすると、呼び出し位置にずれが生じることがあります。

メモリーコール機能

お好みのドライビングポジションに電子キーを登録することで、電子キーごとにお好みのドライビングポジションを自動で呼び出すことができます。

◆ 登録方法

お好みのドライビングポジションをあらかじめ１または２のいずれかのボタンに登録しておきます。
登録させたいキーのみ携帯して、運転席ドアを閉めてください。
車内にキーが２つ以上あると、正確に登録できません。

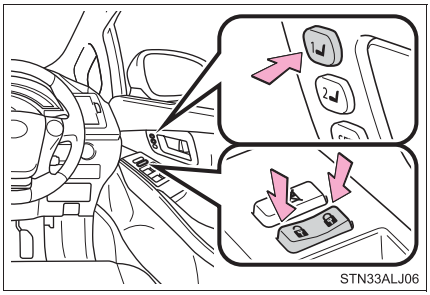
1 パワースイッチを ON モードにする

2 シフトポジションが P の位置にあることを確認する

3 登録させたいドライビングポジション（１または２）を呼び出す

4 呼び出したドライビングポジションのボタンを押しながら、ドアロックスイッチの施錠側または解錠側を“ピー”とブザーが鳴るまで押す

登録できなかった場合は、約３秒間ブザーが鳴り続けます。



◆ 呼び出し方法

1 ドライビングポジションを登録した電子キーを携帯し、運転席ドアをスマートエントリー&スタートシステムまたはワイヤレスリモコンで解錠してドアを開ける

ハンドルを除くドライビングポジションが登録された位置へ動きますが、シート位置は乗り込みやすくするために、登録された位置より少し後方に動きます。

ドライビングポジションがすでに登録された位置にある場合は、シートやミラーは動きません。

2 パワースイッチをアクセサリーモードまたはONモードにするか、シートベルトを着用する

シートとハンドルが登録したドライビングポジションに動きます。

◆ 解除方法

解除させたいキーのみ携帯してください。
車内にキーが 2 つ以上あると、正確に解除できません。

1 パワースイッチを ON モードにする

2 SET ボタンを押しながら、ドアロックスイッチの施錠側または解錠側を“ピッピッ”とブザーが鳴るまで押す

解除できなかった場合は、ブザーが約 3 秒間鳴り続けます。

知識

■メモリーコール機能によるドライビングポジションの呼び出しについて

- ●電子キーごとにドライビングポジションを登録できるため、携帯する電子キーによっては呼び出されるドライビングポジションが異なる場合があります。
- ●運転席ドア以外のドアをスマートエントリー＆スタートシステムで解錠した場合は、ドライビングポジションの呼び出しはしません。
  その場合は、登録したドライビングポジションのボタンを押してください。

■カスタマイズ機能

メモリーコール機能による解錠ドアの設定を変更できます。
（カスタマイズ一覧→ P. 393）

⚠ 警告

■シート調整時の警告

シート調整中は、シートがリヤ席乗員にあたったり、運転者の体がハンドルに圧迫されたりしないよう注意してください。

ヘッドレスト

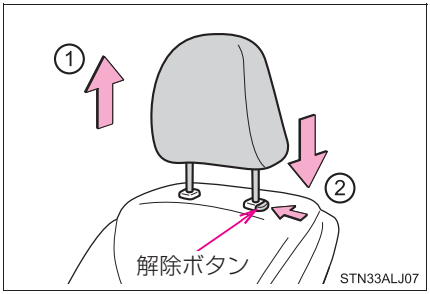
フロント席

▶ 手動式

① 上げる

② 下げる

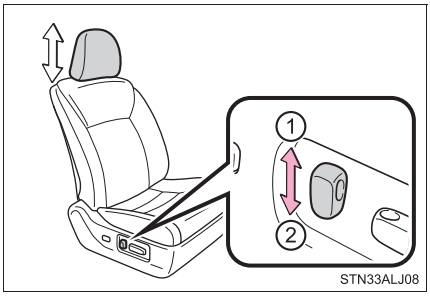
下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。



▶ 電動式

① 上がる

② 下がる

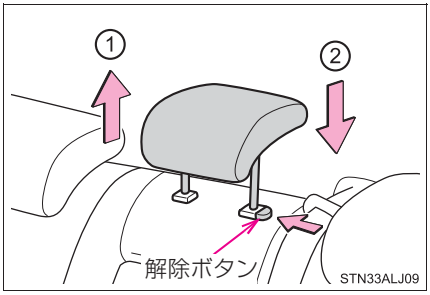


リヤ席

① 上げる

② 下げる

下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。

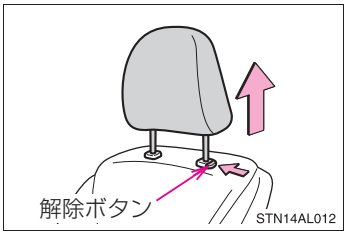


知識

■ヘッドレストを取りはずすとき

▶手動式

解除ボタンを押しながら取りはずします。

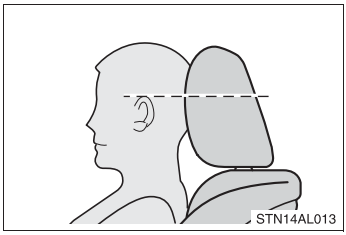


▶電動式

ヘッドレストの取りはずし、取付けについてはトヨタ販売店にご相談ください。

■ヘッドレストの高さについて （フロント席）

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。



■リヤ席について

使用するときは、常に格納位置から一段上げた位置にしてください。

⚠ 警告

■ヘッドレストについて

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

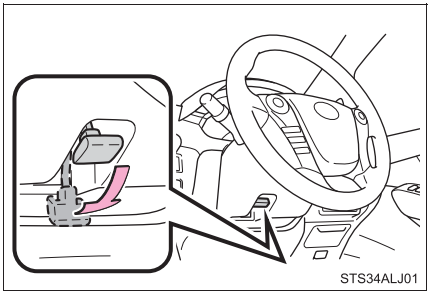
- ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ヘッドレストを必ず正しい位置に調整する
- ヘッドレストを調整したあとは、ヘッドレストを押し下げて固定されていることを確認する
- ヘッドレストをはずしたまま走行しない

ハンドル

調整のしかた

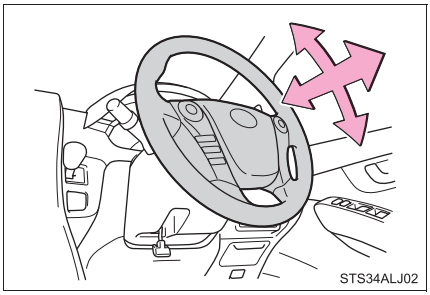
▶ 手動チルト&テレスコピックステアリング

1 ハンドルを持ち、レバーを下げる



2 ハンドルを上下・前後に動かし、適切な位置にする

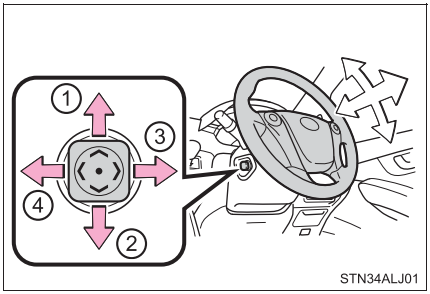
位置が決定したら、レバーを上げてハンドルを固定してください。



▶ 電動チルト&テレスコピックステアリング

スイッチを操作すると、ハンドルを次の方向に動かします。

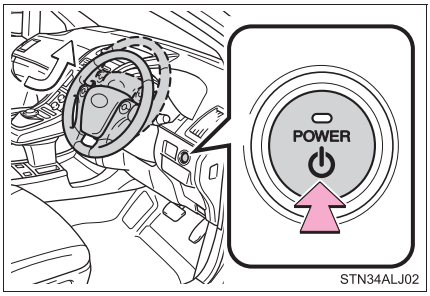
① 上方へ
② 下方へ
③ 手前へ
④ 前方へ



パワーイージーアクセスシステム（電動チルト&テレスコピックステアリング装着車）

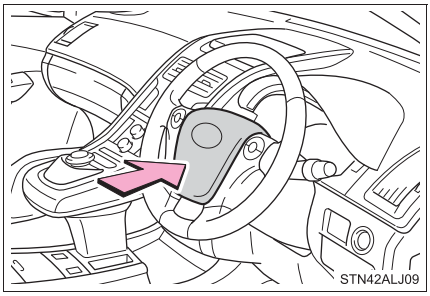
パワースイッチをOFFにすると、乗降がしやすくなるように、ハンドルが動きます。

パワースイッチをアクセサリーモードまたは ON モードにすると、もとの位置にもどります。



ホーン（警音器）

ハンドルの 周辺部を押すとホーンが鳴ります。



知識

■ハンドル位置調整の作動条件（電動チルト&テレスコピックステアリング装着車）

パワースイッチがアクセサリーモードまたは ON モードのとき※

※ シートベルトを装着していれば、パワースイッチのモードにかかわらず、ハンドルの調整ができます。

■ハンドル位置の自動調整（マイコンプリセットドライビングポジションシステム装着車）

お好みのハンドル位置をポジションメモリーに登録すると、自動で調整されます。（→P. 114）

■ハンドル位置を調整した後は（手動チルト&テレスコピックステアリング装着車）

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だとホーンが鳴らない場合があります。（→P. 120）

⚠ 警告

■走行中の警告

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。
運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ハンドル位置を調整したあとは（手動チルト＆テレスコピックステアリング装着車）

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だと、ハンドルの位置が突然かわり、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

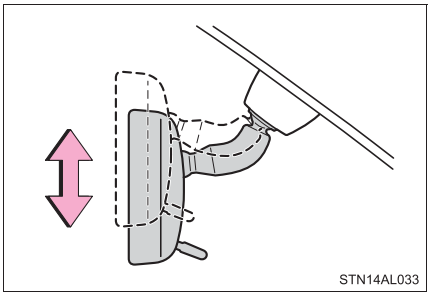
インナーミラー

後方を十分に確認できるようにミラーの位置を調整することができます。

上下調整のしかた

運転姿勢に合わせてインナーミラーの高さを調整することができます。

インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する



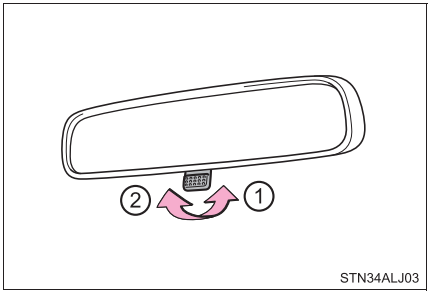
防眩機能

▶ 手動防眩ミラー

レバーを操作することで、後続車のヘッドランプによる反射光を減少させます。

① 通常使用時

② 防眩時

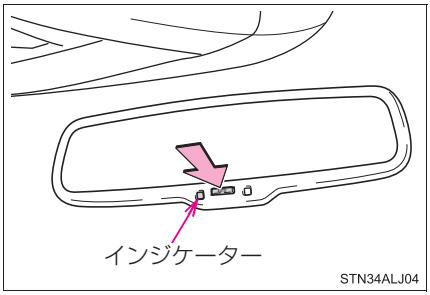


▶ 自動防眩ミラー

後続車のヘッドランプのまぶしさに応じて反射光を自動的に減少させます。

自動防眩機能の切りかえ
ON ／ OFF

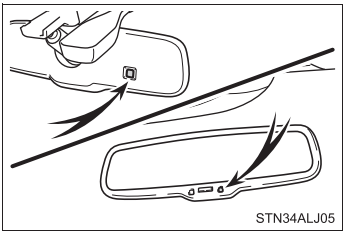
ON のときはインジケーターが点灯します。
パワースイッチを ON モードにしたときは、ミラーは常に自動防眩機能が ON になっています。
ボタンを押すとOFFになりインジケーターが消灯します。



知識

■センサーの誤作動防止（自動防眩ミラー装着車）

センサーの誤作動を防ぐため、センサーにふれたりセンサーを覆ったりしないでください。



⚠ 警告

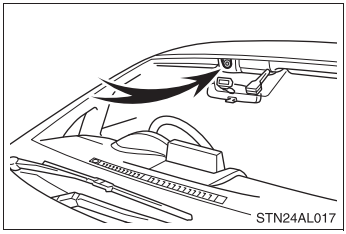
■走行中の警告

走行中はミラーの調整をしないでください。
運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■インナーミラーの調整について（LKA［レーンキーピングアシスト］装着車）

白線認識用カメラの前にかからないようにしてください。
LKA の誤作動につながるおそれがあります。



ドアミラー

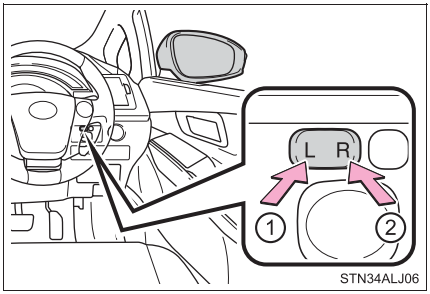
調整のしかた

▶ オート格納式ミラー非装着車

1 調整するミラーを選ぶには、スイッチを押す

① 左

② 右



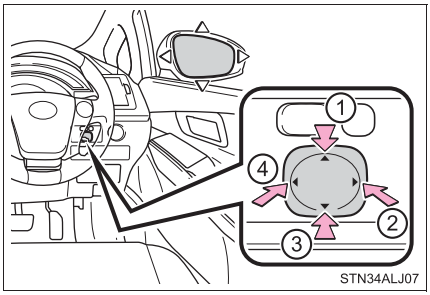
2 ミラーの鏡面を調整するにはスイッチを押す

① 上

② 右

③ 下

④ 左

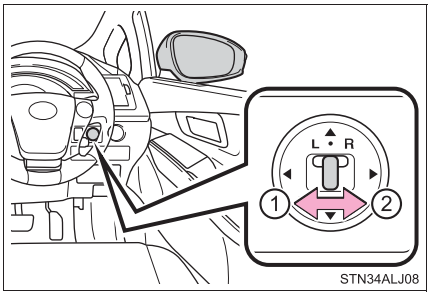


▶ オート格納式ミラー装着車

1 調整するミラーを選ぶ

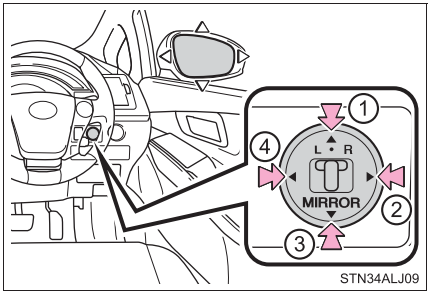
① 左

② 右



2 ミラーの鏡面を調整するにはスイッチを押す

① 上
② 右
③ 下
④ 左

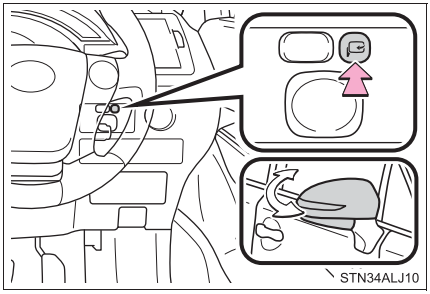


ドアミラーを格納する

▶ オート格納式ミラー非装着車

ボタンを押す

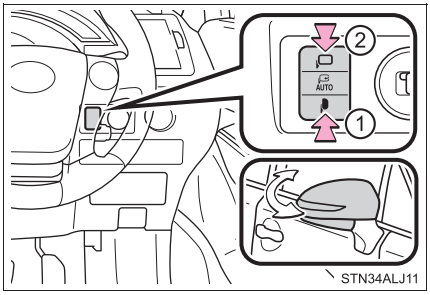
もう一度押すと、もとの位置にもどります。



▶ オート格納式ミラー装着車

① ミラーを格納する
② ミラーをもとの位置にもどす

スイッチを中立の位置（AUTO）にすると自動モードに切りかわり、ドアの施錠・解錠と連動します。



リバース連動機能について★

ミラー選択スイッチのLまたはRどちらかが選択されているときは、後退時に鏡面が下向きになり、下方が見やすくなります。
この機能を使用しないときは、ミラー選択スイッチを中立の位置（L・Rともに選択していない状態）にしてください。

知識

■鏡面調整の作動条件

パワースイッチがアクセサリーモードまたはONモードのとき

■レインクリアリングミラー

鏡面に付着した水滴を膜状に広げる親水効果を持つコーティングを施しており、雨天時における後方視認性を向上させます。

- 鏡面に汚れなどが付着したときや、地下や屋内駐車場などの日のあたらない場所に長時間駐車したときなどは親水効果が低下しますが、晴天時に1・2日間太陽光をあてることで親水効果は徐々に回復します。
- 低下した親水効果を早く回復させたいときは回復作業（→P. 273）を行ってください。

■ミラーが曇ったとき（ミラーヒーター装着車）

リヤウインドウデフォッガーを作動させると、ミラーヒーターが同時に作動し、曇りを取ることができます。（→P. 224, 232）

■ミラー角度の自動調整（マイコンプリセットドライビングポジションシステム装着車）

お好みのミラー角度をポジションメモリーに登録すると、自動で調整されます。（→P. 114）

★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

■寒冷時に「オート作動」で使用するとき（オート格納式ミラー装着車）

寒冷時に「オート作動」で使用しているとき、ドアミラーが凍結すると、自動で格納・復帰ができないことがあります。この場合、ドアミラーに付着している氷や雪などを取り除いたあと、「マニュアル作動」で作動させるか、手で動かしてください。

⚠ 警告

■走行中の留意事項

走行中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ミラーの調整をしない
- ドアミラーを格納したまま走行しない
- 走行前に必ず、運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整する

■ミラーが動いているとき

手をふれないでください。
手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

■ミラーヒーター★が作動しているとき

鏡面が熱くなるのでふれないでください。

⚠ 注意

■レインクリアリングミラーの取り扱いについて

親水効果には限りがあります。長持ちさせるためには次のことをお守りください。

- シリコーン入りの撥水剤や油膜取り剤、ワックス、その他のカーメンテナンス商品を使用する場合は、鏡面に付着させないよう十分注意してください。
- 砂の付いた布、油膜取り剤、研磨剤など、鏡面を傷付けるものでこすらないでください。
- 鏡面が凍結したときは、温水をかけるか、ミラーヒーター★を作動させるなどして解氷してください。
  鏡面の凍結部分はプラスチックの板などで削り落とさないでください。
- 撥水洗車を行ったときは、鏡面を大量の水で洗い、きれいなやわらかい布などでふき取ってください。

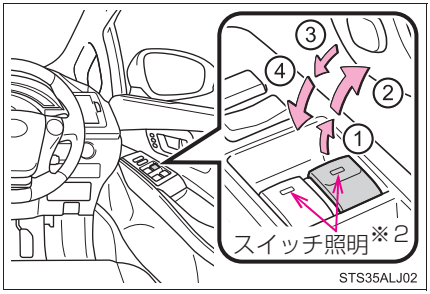
パワーウインドウ

パワーウインドウスイッチ

スイッチでドアガラスを開閉できます。

スイッチを操作すると、ドアガラスを次のように動かします。

① 閉める
② 自動全閉※1
③ 開ける
④ 自動全開※1



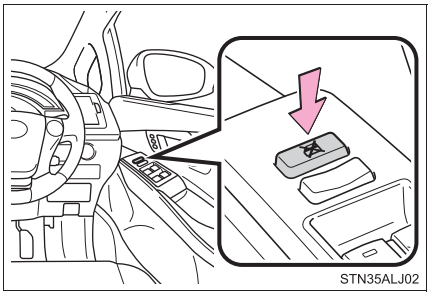
※1 途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。

※2 パワースイッチがONモードのときパワーウインドウスイッチの照明が点灯します。パワースイッチが OFF またはアクセサリーモードのときは消灯します。

ウインドウロックスイッチ

スイッチを押すと、運転席以外のドアガラスが作動不可になります。

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。



知識

■作動条件

パワースイッチが ON モードのとき

■ハイブリッドシステム停止後の作動

パワースイッチを OFF またはアクセサリーモードにしたあとでも、約 43 秒間はドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。
このときパワーウインドウスイッチの照明は点灯しません。

■挟み込み防止機能

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

■巻き込み防止機能

ドアガラスを開けているときに、異物がドア内に巻き込まれると作動が停止します。

■ドアガラスを開閉することができないときは

挟み込み防止機能や巻き込み防止機能が異常に作動してしまい、ドアガラスを開閉することができないときは、開閉することができないドアのパワーウインドウスイッチで、次の操作を行ってください。

●車を停止し、パワースイッチを ON モードの状態で、挟み込み防止機能や、巻き込み防止機能が作動したあと約４秒以内に、パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続ける。または、「自動全開」の位置で押し続けることでドアガラスを開閉することができます。

●上記の操作を行ってもドアガラスが開閉できない場合、機能の初期化を次の手順で実施してください。

1 パワースイッチを ON モードにする

2 パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを全閉にする

3 いったんパワーウインドウスイッチから手を離して、再度パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で約４秒以上引き続ける

4 パワーウインドウスイッチを「自動全開」の位置で押し続け、ドアガラスを全開にしたあと、さらにスイッチを約１秒以上押し続ける

5 再度、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを約１秒以上引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手をはなすと、最初からやり直しとなります。以上の操作を行っても反転して閉じ切らない、または全開にならない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ドアロック連動ドアガラス開閉機能

●メカニカルキーでドアガラスを開閉できます。※（→ P. 374）

●ワイヤレスリモコンでドアガラスを開閉できます。※（→ P. 95）

※ トヨタ販売店での設定が必要です。（→ P. 393）

■カスタマイズ機能

ドアロック連動ドアガラス開閉機能などの設定を変更できます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 393）

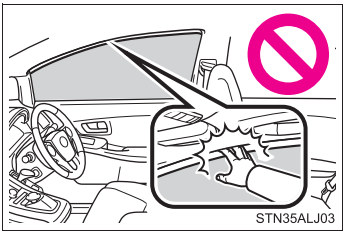
⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ドアガラスを開閉するとき

- 運転者は、乗員の操作を含むすべてのドアガラス開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはドアガラスの操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。
  また、お子さまが同乗するときはウインドウロックスイッチを使用することをおすすめします。（→ P. 130）

- ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。



- ワイヤレスリモコンやメカニカルキーを使ってドアガラスを操作するときは、ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンやメカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。
- 車から離れるときはパワースイッチを OFF にし、キーを携帯してお子さまも一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■挟み込み防止機能

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。

■巻き込み防止機能

- 巻き込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・服などを巻き込ませたりしないでください。
- 巻き込み防止機能は、ドアガラスが完全に開く直前に異物を巻き込むと作動しない場合があります。手・腕・服などを巻き込まないように注意してください。

ムーンルーフ★

頭上のスイッチでムーンルーフを開閉・チルトアップ／ダウンできます。

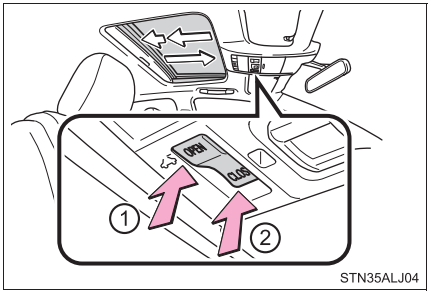
ムーンルーフを開閉する

① ムーンルーフを開く※

全開の手前の位置で止まります。（風切り音の低減機能）
全開にしたいときは、スイッチをもう一度押してください。

② ムーンルーフを閉める※

※ 途中で停止するときは、ムーンルーフスイッチを軽く押します。



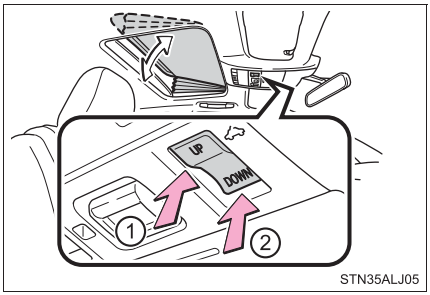
STN35ALJ04

チルトアップ／ダウンする

① チルトアップ※

② チルトダウン※

※ 途中で停止するときは、ムーンルーフスイッチを軽く押します。



STN35ALJ05

★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

知識

■作動条件

パワースイッチが ON モードのとき

■ハイブリッドシステム停止後の作動

パワースイッチを OFF またはアクセサリーモードにしたあとでも、約 43 秒間は操作できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■挟み込み防止機能

ムーンルーフを閉めるとき、またはチルトダウンするときに、ムーンルーフが異物の挟み込みを感知すると、作動が停止し少し開きます。

■サンシェード

手動で開閉できます。また、ムーンルーフが開くと連動して開きます。

■ドアロック連動ムーンルーフ開閉機能

●メカニカルキーでムーンルーフを開閉できます。※（→ P. 374）

●ワイヤレスリモコンでムーンルーフを開閉できます。※（→ P. 95）

※ カスタマイズ機能での設定変更が必要です。（→ P. 393）

■風切音の低減機能

自動で開けたときに停止する位置（全開手前位置）で走行すると、風切音を低減できます。

■ムーンルーフが正常に閉まらないとき

次の操作を行ってください。

●閉まるときに反転し、閉じ切らない場合

1 車を停止する

2 スイッチの“CLOSE”側を押し続ける※1
ムーンルーフが閉じ、再び開き、10 秒間停止します。※2 その後再び閉じ、チルトアップし、1 秒間停止します。チルトダウン後、いったん開いてから閉じます。

3 ムーンルーフが完全に閉まったことを確認し、スイッチから手を離す

●チルトダウン時に反転し、閉じ切らない場合

1 車を停止する

2 スイッチの“UP”側を押し続け※1、ムーンルーフをチルトアップ位置にする

3 スイッチから一度手を離し、再度“UP”側を押し続ける※1
ムーンルーフがチルトアップの状態で 10 秒間停止し、※2 微調節後 1 秒間停止します。チルトダウン後、いったん開いてから閉じます。

4 ムーンルーフが完全に閉まったことを確認し、スイッチから手を離す

※1 途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。

※2 10 秒間停止したあとにスイッチから手を離すと、それ以降オート作動できなくなります。その場合は、スイッチの“UP”、または、“CLOSE”側を押し続けてください。ムーンルーフがチルトアップし、1 秒間停止します。その後、チルトダウンし、いったん開いてから閉じます。ムーンルーフが完全に閉まったことを確認したら、スイッチから手を離してください。

以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ムーンルーフ開警告ブザー

パワースイッチが OFF でムーンルーフが開いていると、運転席ドアを開けたときにブザーが鳴り、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。（→ P. 335）

■カスタマイズ機能

ドアロック連動ムーンルーフ開閉機能などの設定を変更できます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 393）

⚠ 警告

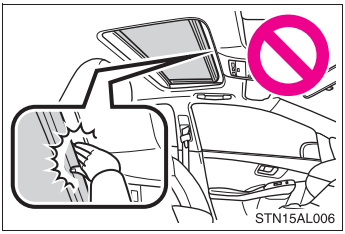
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ムーンルーフを開けているとき

- 走行中はルーフから手や顔を出さない
- 開口部に腰かけない

■ムーンルーフを開閉するとき

- 運転者は、ムーンルーフの開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはムーンルーフの操作をさせないでください。お子さまや他の人がムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。
- ムーンルーフを開閉や、チルトダウンするときは、乗員の手・腕・頭・首を挟んだり巻き込んだりしないように注意してください。
- ワイヤレスリモコンやメカニカルキーを使ってムーンルーフを操作するときは、ムーンルーフに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンやメカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。


STN15AL006

STN15AL007

- 車から離れるときはパワースイッチを OFF にし、キーを携帯してお子さまも一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■挟み込み防止機能

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、ムーンルーフが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを押し続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。

運転 4

4-1. 運転にあたって
運転にあたって 138
荷物を積むときの注意..... 146

4-2. 運転のしかた
パワー（イグニッション）スイッチ 147
EV ドライブモード 152
トランスミッション..... 154
方向指示レバー 160
パーキングブレーキ..... 161

4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方
ランプスイッチ 162
フォグランプスイッチ..... 164
ワイパー＆ウォッシャー..... 167
ヘッドランプクリーナー..... 171

4-4. 給油のしかた
給油口の開け方..... 172

4-5. 運転支援装置について
クルーズコントロール 175
レーダークルーズコントロール 179
LKA（レーンキーピングアシスト）..... 191
運転を補助する装置 200
PCS（プリクラッシュセーフティシステム）..... 205
後方プリクラッシュセーフティシステム 211

4-6. 運転のアドバイス
ハイブリッド車運転のアドバイス..... 214
寒冷時の運転..... 216

運転にあたって

安全運転を心がけて、次の手順で走行してください。

ハイブリッドシステムを始動する

→P. 147

発進する

1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトポジションを D にする（→P. 154）

シフトポジション表示灯が D であることをメーターで確認する。（→P. 76）

2 パーキングブレーキを解除する（→P. 161）

3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

停車する

1 シフトポジションは D のまま、ブレーキペダルを踏む

2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける

長時間停車する場合は、P ポジションスイッチを押してシフトポジションを P にします。（→P. 155）

駐車する

1 シフトポジションは D のまま、ブレーキペダルを踏む

2 パーキングブレーキをかける

3 P ポジションスイッチを押して、シフトポジションを P にする（→P. 155）

シフトポジション表示灯が P であることをメーターで確認する。（→P. 76）

4 パワースイッチを押してハイブリッドシステムを停止する

5 ブレーキペダルからゆっくり足を離した状態にして、パワースイッチのインジケーターが消灯していることを確認する

6 電子キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じて輪止め※を使用してください。

※ 輪止めはトヨタ販売店で購入することができます。

上り坂の発進のしかた

1 ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキをしっかりかけ、シフトポジションを D にする

シフトポジション表示灯が D であることをメーターで確認する。（→ P. 76）

2 アクセルペダルをゆっくり踏む

3 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し発進する

知識

■燃費を良くする走り方

ハイブリッド車も急加速を控えるなど、通常のガソリン車と同様の心がけが必要です。P. 214 の「ハイブリッド車運転のアドバイス」を参照してください。

■雨の日の運転について

- 雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。
- 雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。
- 雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■運転標識の取り付け

磁石式の初心運転者標識や高齢運転者標識などを樹脂バンパーやアルミ部分（ボンネット）に取り付けることはできません。

⚠ 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■発進するとき

車が動き出すことによる事故を防ぐため、READY インジケーターが点灯している状態で停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■運転するとき

●踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を十分把握した上で運転してください。

・アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。
・後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
・車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
・ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●ハイブリッド車は電気モーターでの走行時にエンジン音がしないため、周囲の人が車両の接近に気が付かない場合があります。車両接近通報装置を ON にしても、周囲の騒音などが大きい場合は、車両の接近に気が付かないことがありますので、十分注意して運転してください。
特に車両接近通報装置を OFF にしている場合は、十分注意して運転してください。

●燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を停めたりしないでください。
排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあり危険です。

●通常走行時は、走行中にハイブリッドシステムを停止しないでください。走行中にハイブリッドシステムを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、ハンドルの操作力補助がなくなり、ハンドル操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P. 320 を参照してください。

●急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキが過熱して正常に機能しなくなります。（→ P. 155）

⚠ 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■運転するとき

- 走行中はハンドル・シート・ドアミラー・インナーミラーの調整をしないでください。
  運転を誤るおそれがあります。
- すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。

■すべりやすい路面を運転するとき

- 急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなるおそれがあります。
- 急激なアクセル操作、シフト操作によるエンジンブレーキやエンジン回転数の変化は、車が横すべりするなどのおそれがあります。
- 水たまり走行後はブレーキペダルを踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられるおそれがあります。

■シフトポジションを変更するとき

- 前進側のシフトポジションに入れたまま惰性で後退したり、R に入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
  思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。
- 車両が動いているあいだは、シフトポジションを P にしないでください。
  トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が前進しているあいだは、シフトポジションを R にしないでください。
  トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が後退しているあいだは、シフトポジションを前進側のシフトポジションにしないでください。
  トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 走行中にシフトポジションをNにすると、ハイブリッドシステムの動力伝達が解除され、エンジンブレーキが効かなくなります。
- アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
  シフトポジションが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
  シフトポジションの変更後は、メーター内のシフトポジション表示灯で現在のシフトポジションを必ず確認してください。

⚠ 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したとき

できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。
必要なときにパッドの交換が行われないと、ディスクローターの損傷につながる場合があります。

パッドやローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限度をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

■停車するとき

- 不必要にアクセルペダルを踏み込まないでください。
  シフトポジションが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車が動き出すことによる事故を防ぐため、READY インジケーターが点灯しているときは常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながることを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 停車中に空ぶかしをしないでください。
  排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

⚠ 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■駐車するとき

●炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶や炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。
放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

・ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火する
・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる

●ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。

●ウインドウガラスなどには吸盤を取り付けないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。

●シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドウを開けたまま放置しないでください。
直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。

●車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトポジションをPにしてハイブリッドシステムを停止し、施錠してください。
ハイブリッド車は走行できる状態（READY インジケーターが点灯している状態）になっていても、音や振動がない場合があります。

●READY インジケーターが点灯しているとき、またはハイブリッドシステム停止直後は排気管にふれないでください。
やけどをするおそれがあります。

⚠ 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■仮眠するとき

必ずパワースイッチを OFF にしてください。
READY インジケーターが点灯した状態のまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やハイブリッドシステムの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ブレーキをかけるとき

- ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。
  ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。また、パーキングブレーキがしっかりとかからないおそれもあります。
- 電子制御ブレーキシステムが機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。
  この場合ブレーキは作動しますが、通常よりも強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。
- ブレーキシステムは２つ以上の独立したシステムで構成されており、1 つの油圧システムが故障しても、残りは作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

⚠ 注意

■運転しているとき

- 運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。
  アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、駆動力を抑制する場合があります。
- 坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■駐車するとき

必ずパーキングブレーキをしっかりとかけて、シフトポジションを P にしてください。P にしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

⚠ 注意

■部品の損傷を防ぐために

- パワーステアリングモーターの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。
- ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

■走行中にタイヤがパンクしたら

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

- ハンドルがとられる
- 異常な音や振動がある
- 車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法は P. 349, 359 を参照してください。

■冠水路走行に関する注意

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を与えるおそれがあるため、走行しないでください。

- エンストする
- 電装品がショートする
- 水を吸い込んでのエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずトヨタ販売店で次の点検をしてください。

- ブレーキの効き具合
- エンジン･ハイブリッド用トランスミッションなどのオイルやフルードの量および質の変化
- 各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良

冠水により P ポジション制御関連部品が損傷すると、シフトポジションが P に切りかえられない、または P から他のシフトポジションに切りかえられなくなる可能性があります。P から他のポジションに切りかえられない場合は、パーキングロックにより、前輪が固定されているため、他車にロープなどでけん引してもらうことはできません。その場合は、前輪を持ち上げるか、４輪とも持ち上げて運搬してください。

■P ポジションから切りかわらない時

補機バッテリーあがりの可能性があります。補機バッテリーを確認してください。(→ P. 376)

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。

⚠ 警告

■積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

- ●燃料が入った容器
- ●スプレー缶

■荷物を積むとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- ●できるだけ荷物はトランクに積んでください。
- ●次の場所には荷物を積まないでください。
  - ・運転席足元
  - ・助手席やリヤ席（荷物を積み重ねる場合）
  - ・パッケージトレイ
  - ・インストルメントパネル
  - ・ダッシュボード
  - ・ディスプレイ（エレクトロマルチビジョン）の前
- ●室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。

■荷物の重量・荷重のかけ方について

- ●荷物を積み過ぎないでください。
- ●荷重を不均等にかけないようにしてください。

これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

パワー（イグニッション）スイッチ

電子キーを携帯して次の操作を行うことで、ハイブリッドシステムの始動またはパワースイッチのモードを切りかえることができます。

ハイブリッドシステム始動のしかた

1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

2 ブレーキペダルをしっかり踏む

パワースイッチ上のインジケーターが緑色に点灯します。

緑色に点灯していないと、ハイブリッドシステムは始動しません。

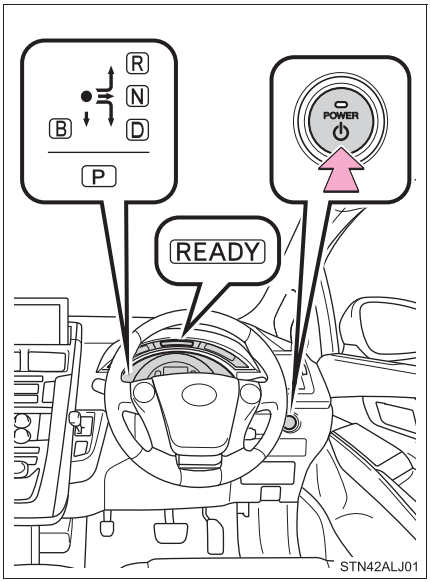
シフトポジションが N と表示されている時は、ハイブリッドシステムを始動できません。必ず P にしてから始動してください。（→ P. 154）

3 パワースイッチを押す

READYインジケーターが点灯すれば、ハイブリッドシステムは正常に始動しています。

完全にハイブリッドシステムが始動するまでブレーキペダルを踏み続けてください。

パワースイッチのどのモードからでもハイブリッドシステムを始動できます。



4 READY インジケーターが点灯したことを確認する

READY インジケーターが消灯している状態では走行できません。

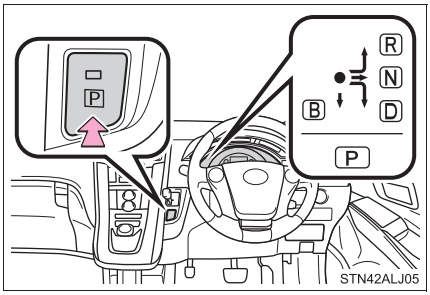
ハイブリッドシステムの停止のしかた

1 車両を完全に停止させる

2 パーキングブレーキをかける（→P. 161）

3 P ポジションスイッチを押して、シフトポジションを P にする（→P. 155）

シフトポジション表示灯が P であることをメーターで確認する。（→P. 76）



4 パワースイッチを押す

ハイブリッドシステムが停止し、メーター表示が消えます。（シフトポジション表示灯は、メーター表示が消えたあとも数秒間表示されています）

5 ブレーキペダルからゆっくり足を離した状態にしてパワースイッチのインジケーターが消灯していることを確認する

パワースイッチ切りかえ

ブレーキペダルを踏まずにパワースイッチを押すと、モードを切りかえることができます。（スイッチを押すごとにモードが切りかわります）

① OFF

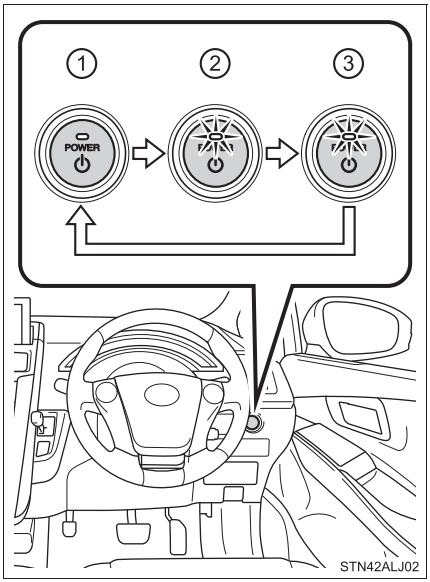
非常点滅灯が使用できます。

② アクセサリーモード

オーディオなどの電装品が使用できます。
スイッチ上のインジケーターが橙色に点灯します。

③ ON モード

すべての電装品が使用できます。
スイッチ上のインジケーターが橙色に点灯します。



知識

■自動電源 OFF 機能

シフトポジションが P にあるとき、20 分以上アクセサリーモードか 1 時間以上 ON モード（ハイブリッドシステムが作動していない状態）にしたままにしておくと、パワースイッチが自動で OFF になります。
ただし、自動電源 OFF 機能は、補機バッテリーあがりを完全に防ぐものではありません。ハイブリッドシステムが作動していないときは、パワースイッチをアクセサリーモード、または ON モードにしたまま長時間放置しないでください。

■高電圧リレーの音について

ハイブリッドシステム始動時および停止時に、車両後方から“コトン”、“カチッ”などの音が聞こえることがあります。これは高電圧リレーの音で、異常ではありません。

■電子キーの電池の消耗について

→ P. 93

■外気温が低いときは

ハイブリッドシステム始動時にREADYインジケーターの点滅時間が長くなることがあります。READY インジケーターが点灯すれば走行可能になりますので点灯するまでそのままお待ちください。

■スマートエントリー&スタートシステムが正常に働かないおそれのある状況

→ P. 106

■ご留意いただきたいこと

→ P. 107

■ハイブリッドシステムが始動しないとき

- イモビライザーシステムが解除されていない可能性があります（→ P. 67）。トヨタ販売店へご連絡ください。
- シフトポジション表示灯の N が点灯しているときは、ハイブリッドシステムを始動できません。必ず P にしてから始動してください。（→ P. 154）
  マルチインフォメーションディスプレイに「始動時は P レンジに入れてください」が表示されます。

■パワースイッチ上のインジケーターが橙色に点滅したときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■万一、READY インジケーターが点灯しないときは

正しい手順で始動操作を行っても READY インジケーターが点灯しない場合は、ただちにトヨタ販売店へご連絡ください。

■ハイブリッドシステムに異常があるときは

→P. 331

■電子キーの電池が切れたときは

→P. 295

■パワースイッチの操作について

●パワースイッチを操作する際は、短く確実に押してください。確実に押せてない場合は、モードの切りかえやハイブリッドシステムの始動ができない場合があります。また、確実に操作すれば押し続ける必要はありません。

●パワースイッチ OFF 後、すぐに再始動した場合は、ハイブリッドシステムが始動しない場合があります。パワースイッチ OFF 後の再始動は、数秒待ってから操作してください。

■自動 P ポジション切りかえ機能について

●シフトポジション P 以外の状態で、車両を完全に停止させパワースイッチを押すと、自動的にシフトポジションが P に切りかわり、パワースイッチが OFF になります。

●P ポジション以外からパワースイッチを OFF するときは、ブレーキペダルをしっかり踏み、シフトポジション※が P に切りかわったことを確認してから、ゆっくりブレーキペダルを離してください。

※ シフトポジション表示灯は、メーター表示が消えた後も数秒間表示されます。

●P ポジション制御システムが故障すると、パワースイッチを OFF にできなくなることがあります。その場合は、パーキングブレーキをかけると、スイッチを OFF にすることができます。
システムが故障した場合は、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムを非作動にしたときは

→P. 396

⚠ 警告

■ハイブリッドシステムを始動するとき

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。
思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■緊急時のハイブリッドシステム停止方法

走行中にハイブリッドシステムを緊急停止したい場合には、パワースイッチを2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してください。(→ P. 320)
ただし、緊急時以外は走行中にパワースイッチにふれないでください。走行中にハイブリッドシステムを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、ハンドルの操作力補助がなくなり、ハンドル操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。

⚠ 注意

■補機バッテリーあがりを防止するために

- ハイブリッドシステム停止中は、パワースイッチをアクセサリーモードまたは ON モードにしたまま長時間放置しないでください。
- ハイブリッドシステム停止中に、パワースイッチのインジケーターが消灯していない場合、パワースイッチが OFF になっていません。パワースイッチを OFF にしてから車両を離れてください。

■ハイブリッドシステムを始動するとき

もしハイブリッドシステムが始動しにくかったりする場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■パワースイッチの操作について

パワースイッチ操作時に引っかかりなどの違和感があるときは、故障のおそれがあります。すみやかにトヨタ販売店にご連絡ください。

EV ドライブモード

EV ドライブモードは、駆動用電池を使い電気モーターを駆動して走行するモードです。早朝、深夜の住宅街や屋内の駐車場などで、騒音や排気ガスを気にすることなく走行することができます。

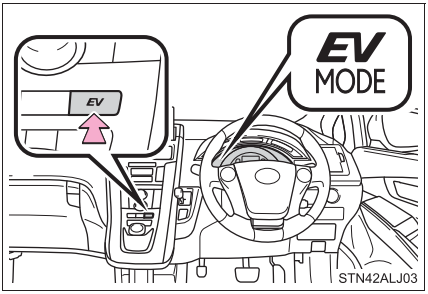
通常は車両接近通報装置が ON になっているため、静かに走行したい場合は OFF にしてください。（→ P. 58）

EV ドライブモードの ON ／ OFF を切りかえる

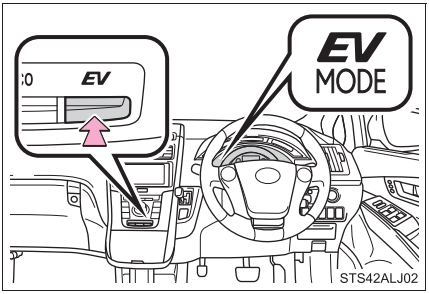
EV ドライブモードになると、EV ドライブモード表示灯が点灯します。

もう一度スイッチを押すと通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）にもどります。

▶ リモートタッチ装着車



▶ リモートタッチ非装着車



知識

■EV ドライブモードの切りかえについて

次のときは EV ドライブモードに切りかわらない場合があります。EV ドライブモードに切りかわらないときはブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

- ハイブリッドシステムが高温のとき
  炎天下に駐車したあとや登降坂、高速走行後など
- ハイブリッドシステムが低温のとき
  約 0 ℃を下まわるような低温下に長時間駐車したあとなど
- ガソリンエンジンが暖機運転中のとき
- 駆動用電池の充電量が低いとき
  目安として、エネルギーモニターの残量表示で 3 レベル以下（→ P. 87）
- 車速が 40km/h 以上のとき
- アクセルペダルを大きく踏み込んだときや坂道など
- フロントデフロスターを使用しているとき

■ガソリンエンジンが冷えているときの EV ドライブモードの切りかえについて

ガソリンエンジンが冷えているときにハイブリッドシステムを始動した場合、しばらくすると暖機運転のためガソリンエンジンが自動的に始動し、EV ドライブモードに切りかえることができなくなります。
ハイブリッドシステム始動操作後、READY インジケーターが点灯したら、ガソリンエンジンが始動する前に EV ドライブモードスイッチを押してください。

■EV ドライブモードの自動解除について

EV ドライブモードで走行中、次のときは自動的に通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）になることがあります。EV ドライブモードが解除されるときは、ブザーが鳴り、EV ドライブモード表示灯が点滅したあと、消灯します。

下記条件を満たしたとき、自動的に解除されることがあります。

●駆動用電池の充電量が低下したとき
目安として、エネルギーモニターの残量表示で 2 レベル以下（→ P. 87）

●車速が 40km/h をこえたとき
ガソリンエンジンの冷却水温が低いときは、30km/h をこえたとき。

●アクセルペダルを大きく踏み込んだときや坂道など

■EV ドライブモードの走行可能距離

EV ドライブモードの走行可能距離は、車速約 40km/h 以下で、数百 m 程度です。（走行距離は、駆動用電池の充電量や走行状態によって異なります）

■燃費について

SAI は、通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）において、最も燃費がよくなるように制御されています。EV ドライブモードを多用すると、燃費が悪くなることがあります。

⚠ 警告

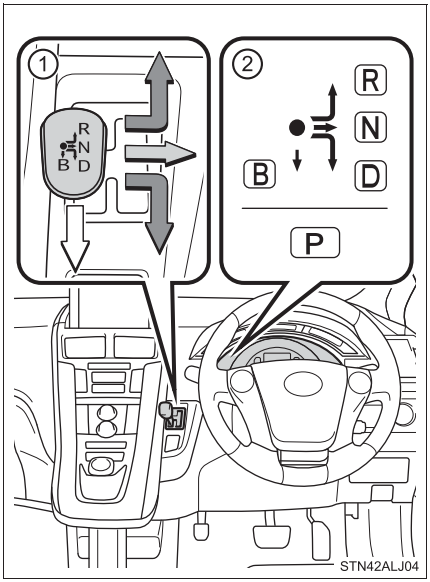
■走行中の警告

EV ドライブモードではエンジン音がしないため、周囲の人が車両の発進や接近に気が付かない場合があります。車両接近通報装置を ON にしても、周囲の騒音などが大きい場合は、車両の接近に気が付かない場合がありますので、十分注意して運転してください。
特に車両接近通報装置を OFF にしている場合は、十分注意して運転してください。

トランスミッション

シフトレバーの動かし方

① シフトレバー



シフトレバーは、ゆっくり確実に操作してください。

シフトレバーを操作したあとは、シフトレバーから手を離してください。シフトレバーが「 ● 」の位置に自然にもどります。

DまたはRポジションへ切りかえるときは、ゲートにそってそのまま操作します。

Nポジションへ切りかえるときは、右にスライドさせ、しばらく保持すると、N に切りかわります。

Bポジションへ切りかえるときは、ゲートにそって下側に操作します。
Bポジションへの切りかえはシフトポジションがDのときのみ、切りかえが可能です。

P から N・D・R へ、または D から R、および R から D へ切りかえるときは、ブレーキペダルを踏み、車が完全に停止している状態で行ってください。

② シフトポジション表示灯

シフトポジションの選択時には、メータ内のシフトポジション表示灯が切りかわったことを必ず確認してください。

D，B ポジション以外のときは、シフトポジション表示灯の B 方向への矢印と B ポジション表示が消灯します。

シフトポジションの使用目的

シフトポジション	目的および状態
P	駐車またはハイブリッドシステムの始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行※
B	坂道や急な下り坂など、 強いエンジンブレーキが必要なとき

※ 燃費向上や騒音の低減のために、通常はD ポジションを使用してください。

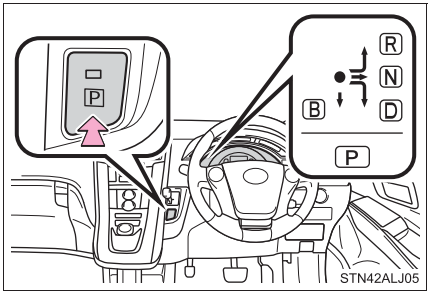
P ポジションスイッチ

P ポジションスイッチを使用して、P ポジションへ切りかえることができます。

車を完全に停止させ、ブレーキペダルを踏みながら、P ポジションスイッチを押す

シフトポジションをPにすると､スイッチの作動表示灯が点灯します。

シフトポジション表示灯の P が点灯していることを確認してください。



■ P から他のシフトポジションに切りかえるときは

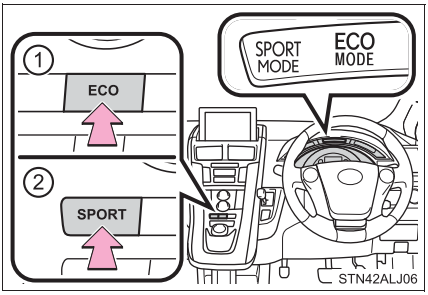
・ブレーキペダルをしっかり踏みながら､シフトレバーを操作します。ブレーキペダルを踏まずにシフトレバーを操作すると、ブザーが鳴り、シフトポジションの切りかえができません。

・P から直接､シフトポジションをB に切りかえることはできません。

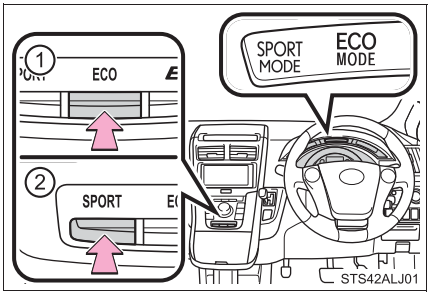
走行モードの選択

走行・使用条件に合わせて次のモードを選択できます。

▶ リモートタッチ装着車



▶ リモートタッチ非装着車



① エコドライブモード

通常にくらべてアクセルペダルの踏み込みに対するトルクの発生がゆるやかになり、またエアコン（暖房／冷房）の作動を抑え、燃費を向上させる走行に適しています。

スイッチを押すと、メーター内の ECO MODE 表示灯が点灯します。

通常走行モードにもどすときは再度スイッチを押します。

エコドライブモードを選択時にハイブリッドシステムを停止しても、エコドライブモードは継続されます。

② スポーツモード

山岳路などで、アクセルレスポンスのよい、きびきびとした走りを楽しみたいときに適しています。

スイッチを押すと、メーター内の SPORT MODE 表示灯が点灯します。

通常走行モードにもどすときは再度スイッチを押します。

知識

■シフトポジションについて

●パワースイッチが OFF のときはシフトポジションの切りかえはできません。

●パワースイッチが ON モードで、READY インジケーターが消灯しているときは、N にのみ切りかえが可能です。シフトレバーを操作して D または R の位置で保持したときも N に切りかわります。

●READY インジケーターが点灯中は、P ポジションから、D・N・R を選択できます。

●READY インジケーターが点滅中は、シフトレバーを操作しても、P ポジション以外には切りかわりません。

●D ポジション以外から直接、B ポジションに切りかえることはできません。

また、下記に示す操作をするとブザーが鳴り、シフトポジションの切りかえが無効になるときや、自動的に N ポジションに切りかわる場合があります。その場合は適切なシフトポジションに切りかえてください。

●シフトポジションの切りかえを無効にするとき

・シフトポジションPからブレーキペダルを踏まずにシフトレバーを操作したとき
・シフトポジション P または N から、B ポジションを選択したとき

●自動的にシフトポジションが N に切りかわるとき

・走行中に、P ポジションスイッチを押したとき※1
・車両が前進しているときに、シフトレバーを操作して R ポジションを選択しようとしたとき※2
・車両が後退しているときに、シフトレバーを操作して D ポジションを選択しようとしたとき※3
・シフトレバーを操作して、シフトポジションを R から B へ切りかえようとしたとき

※1 極低速走行時は、P ポジションに切りかわることがあります。(→P. 158)

※2 低速走行時は、R ポジションに切りかわることがあります。

※3 低速走行時は、D ポジションに切りかわることがあります。

■リバース警告ブザー

シフトポジションを R に入れるとブザーが鳴り、R にあることを運転者に知らせます。

■エンジンブレーキについて

シフトポジションが B のとき、アクセルペダルから足を離すと、エンジンブレーキがかかります。

・高速走行時は、通常の車にくらべてエンジンブレーキによる減速感が小さくなります。
・B ポジションでも加速することができます。

通常走行時に B ポジションにて走行し続けると、燃費の悪化につながります。通常走行時は、D ポジションで走行してください。

■エコドライブモードのエアコン作動について

エコドライブモードは暖房／冷房の作動や風量を抑制して、燃費向上を図っています。
空調の効きをより良くしたい時は、風量の調整、又はエコドライブモードの解除をしてください。

■スポーツモードの自動解除

スポーツモードを選択して走行後、ハイブリッドシステムを停止すると、自動的に通常走行モードに切りかわります。

⚠ 警告

■すべりやすい路面を走行するとき

急なアクセル操作や、シフト操作を行わないでください。エンジンブレーキ力の急激な変化が横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

■シフトレバーについて

システムを正常に作動させるため、次のことをお守りください。
お守りいただかないと、シフトレバーが定位置にもどらなくなり、走行中に思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●シフトレバーにものをぶら下げないでください。

●シフトレバーのノブを取りはずしたり、純正品以外のノブを取り付けたりしないでください。

■P ポジションスイッチについて

車が動いているときは、P ポジションスイッチにふれないでください。
停車直前など、極低速走行中に P ポジションスイッチを押すと、シフトポジションが P に切りかわることがあるため、車が急停止して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■駆動用電池の充電について

シフトポジションが N では、ガソリンエンジンが回転していても駆動用電池は充電されないため、N で長時間放置すると駆動用電池の残量が低下し、走行不能になるおそれがあります。

■P ポジション制御システムの異常が考えられるとき

次のような状態になったときは、P ポジション制御システムの異常が考えられます。安全で平坦な場所に停車し、パーキングブレーキをかけて、トヨタ販売店にご連絡ください。

- マルチインフォメーションディスプレイに P ポジション制御システムの異常警告メッセージが表示されたとき（→P. 331）
- シフトポジション表示灯が点灯しないとき

■P ポジションから切りかわらない時

補機バッテリーあがりの可能性があります。補機バッテリーを確認してください。（→P. 376）

■シフトレバーと P ポジションスイッチ操作について

シフトレバーと P ポジションスイッチの連続操作をくり返し行わないでください。システム保護のため一時的に P ポジションから切りかえることができなくなります。この場合は、約 20 秒待ってから操作してください。

方向指示レバー

操作のしかた

レバー操作により、次のように運転者の意思を表示することができます。

① 左折

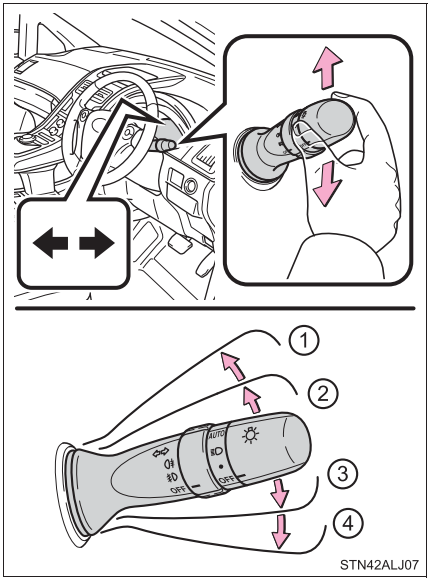
② 左側へ車線変更
（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで左側方向指示灯が点滅します。

③ 右側へ車線変更
（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで右側方向指示灯が点滅します。

④ 右折



知識

■作動条件

パワースイッチが ON モードのとき

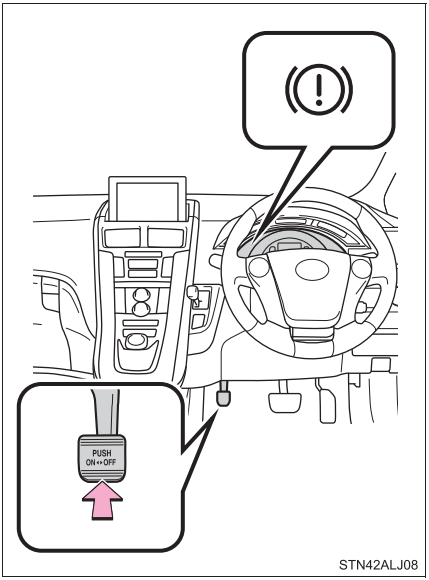
■表示灯の点滅が異常に速くなったとき

方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

パーキングブレーキ

操作のしかた

パーキングブレーキをかけるには、右足でブレーキペダルを踏みながら、左足でパーキングブレーキペダルをいっぱいまで踏み込む
（再度踏み込むと解除される）



知識

■パーキングブレーキ未解除警告ブザー

→P. 336

■冬季のパーキングブレーキの使用について

→P. 217

注意

■駐車するとき

車から離れるときは、パーキングブレーキをかけ、シフトポジションをPにし、車が動かないことを確認してください。

■走行前の注意

パーキングブレーキを完全に解除してください。
パーキングブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。

ランプスイッチ

自動または手動でヘッドランプなどを点灯できます。

操作のしかた

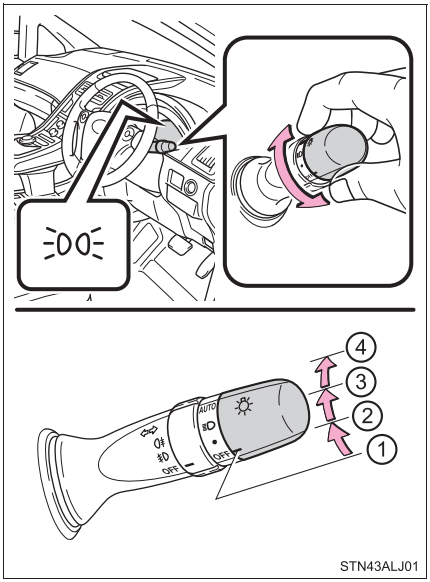
レバーの端をまわすと、次のようにランプが点灯します。

① **OFF** 消灯

② ● 車幅灯・尾灯・番号灯・インストルメントパネルランプを点灯

③ 上記ランプとヘッドランプを点灯

④ **AUTO** ヘッドランプ・車幅灯などを自動点灯・消灯（パワースイッチが　ONモードのとき）



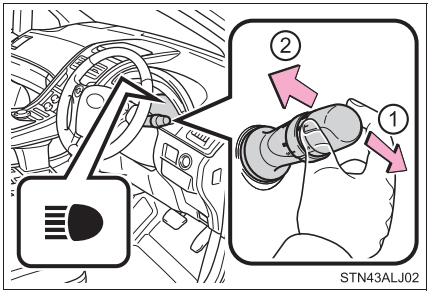
ハイビームにする

① ヘッドランプ点灯時ハイビームに切りかえ

レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。

② レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯

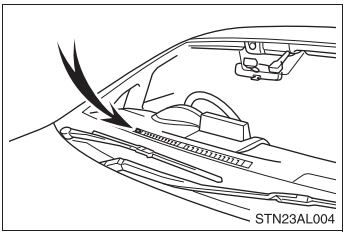
ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。



知識

■ライトセンサー

センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをフロントウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光がさえぎられると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。



■ランプ消し忘れ防止機能

パワースイッチをアクセサリーモードまたは OFF にして運転席ドアを開けるとすべてのランプが自動的に消灯します。

再びランプを点灯する場合は、パワースイッチを ON モードにするか、一度ランプスイッチを OFF にもどし、再度 ● または ≡D の位置にします。

■オートレベリングシステム

通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数・荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を自動で調整します。

■節電機能

車両のバッテリーあがりを防止するため、パワースイッチを OFF の状態でヘッドランプまたは尾灯が点灯している場合、節電機能が働き約 20 分後すべてのランプが自動消灯します。
パワースイッチを ON モードにすると節電機能は解除されます。
次のいずれかを行った場合、節電機能は一旦解除され、再度節電機能が働き約 20 分後すべてのランプが自動消灯します。

- ランプスイッチを操作したとき
- ドアを開閉したとき

■カスタマイズ機能

ライトセンサーの感度の設定などを変更できます。
（カスタマイズ一覧：→P. 399）

⚠ 注意

■補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムを停止した状態でランプ類を長時間点灯しないでください。

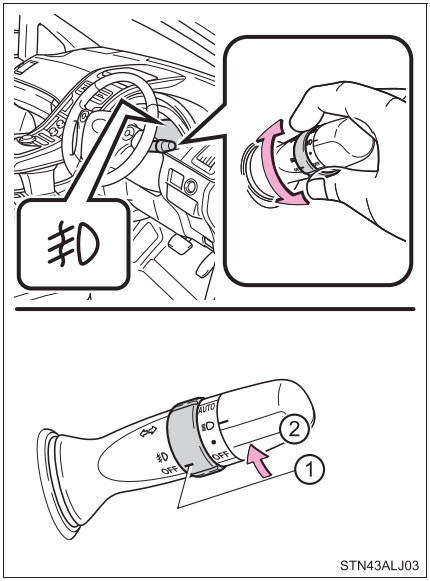
フォグランプスイッチ★

雨や霧などの悪天候下での視界を確保します。

▶ フロントフォグランプスイッチ

① **OFF** 消灯する

② 点灯する

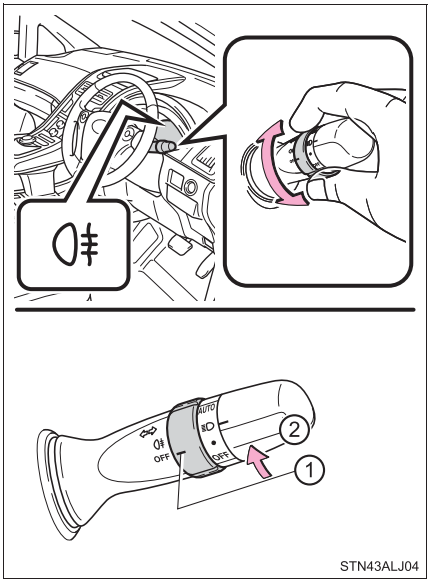


★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

▶ リヤフォグランプスイッチ

① **OFF** 消灯する

② 点灯する



STN43ALJ04

▶ フロント＆リヤフォグランプスイッチ

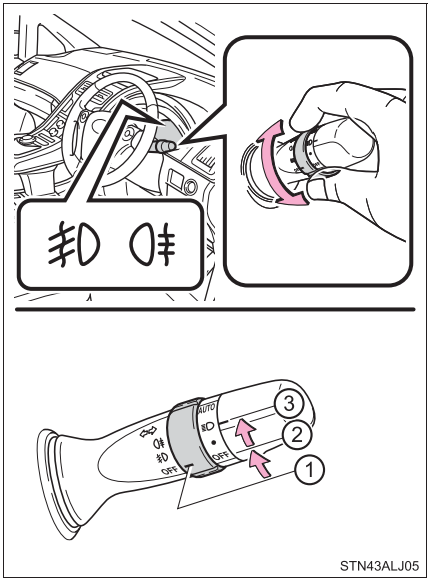
① **OFF** 消灯する

② フロントフォグランプを点灯する

③ フロント＆リヤフォグランプを点灯する

手を離すと の位置までもどります。

再度操作すると、リヤフォグランプのみ消灯します。



STN43ALJ05

知識

■点灯条件

フロントフォグランプ：
ヘッドランプまたは車幅灯が点灯しているときに使用できます。
リヤフォグランプ：

▶フロントフォグランプ装着車

フロントフォグランプが点灯しているときのみ使用できます。

▶フロントフォグランプ非装着車

ヘッドランプが点灯しているときのみ使用できます。

■リヤフォグランプについて

●リヤフォグランプが点灯しているときは、メーター内の表示灯が橙色に点灯します。

●雨・霧・雪などで視界が悪いときに後続車に自分の車の存在を知らせるために使用します。
視界が悪いとき以外に使用すると後続車の迷惑になる場合があります。
必要なとき以外は使用しないでください。

⚠ 注意

■補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムを停止した状態でランプを長時間点灯しないでください。

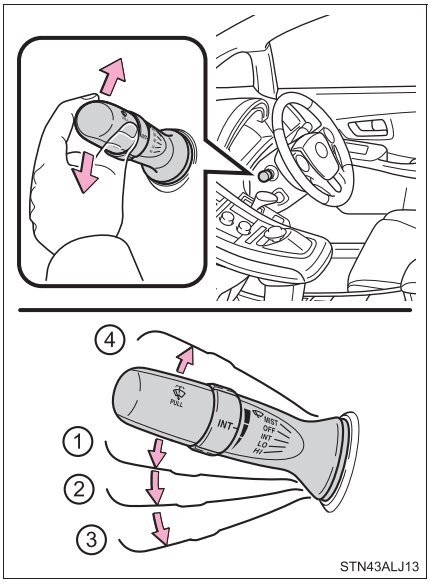
ワイパー & ウォッシャー

操作のしかた

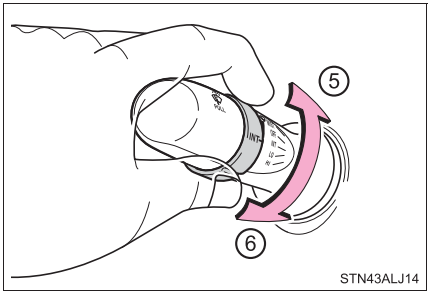
▶ 間欠時間調整式ワイパー

INT を選択しているとき、間欠作動の時間を調整することができます。次のようにレバーを操作して、ワイパーの作動を選択します。ワイパーの間欠時間も調整できます。

① 間欠作動（INT）
② 低速作動（LO）
③ 高速作動（HI）
④ 一時作動（MIST）

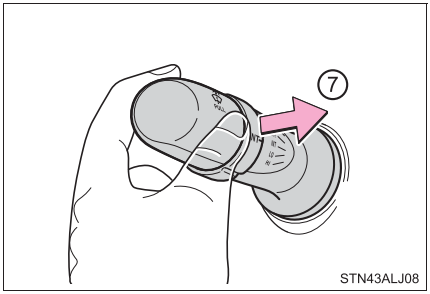


⑤ 間欠ワイパーの作動頻度（減）
⑥ 間欠ワイパーの作動頻度（増）



⑦ ウォッシャー液を出す

ワイパーが連動して作動します。



▶ 雨滴感知式ワイパー

AUTO を選択しているとき、雨滴量と車速に応じてワイパーが作動します。

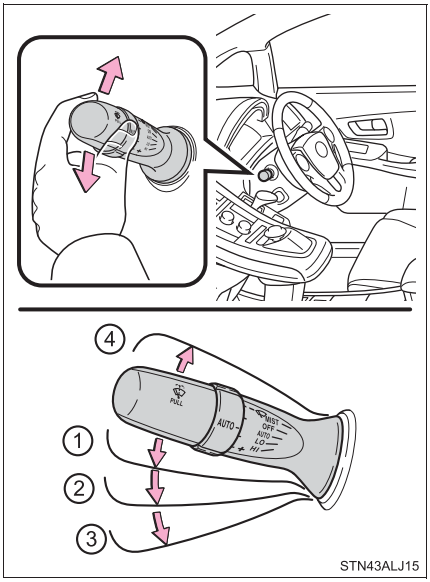
AUTO が選択されているときは、次のようにツマミをまわして、雨滴センサーの感度も調整できます。

① オート作動（AUTO）

② 低速作動（LO）

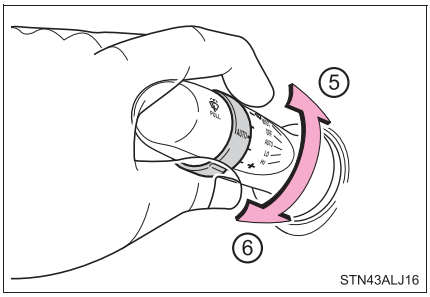
③ 高速作動（HI）

④ 一時作動（MIST）



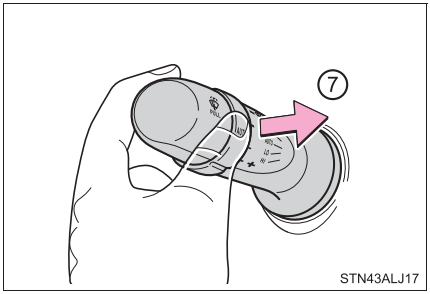
⑤ 雨滴センサーの感度調整（低）

⑥ 雨滴センサーの感度調整（高）



⑦ ウォッシャー液を出す

ワイパーが連動して作動します。
（数回作動したあと、液だれ防止としてさらに 1 回作動します）



知識

■作動条件

パワースイッチが ON モードのとき

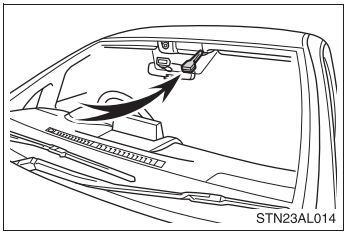
■車速による作動への影響（雨滴感知式ワイパー装着車）

AUTO モード以外でも、車速によってウォッシャー連動時のワイパー作動（液だれ防止作動が働くまでの時間）がかわります。

■雨滴感知センサー（雨滴感知式ワイパー装着車）

●雨滴感知センサーが雨滴量を判定します。

光学センサーを使用しているため、フロントウィンドウガラスに朝日や夕日が断続的にあたるときや、虫などで汚れたときに、正しく作動しないことがあります。



●パワースイッチがONモードのときにAUTOモードにすると、動作確認のためワイパーが 1 回作動します。

●雨滴感知センサーの温度が90℃以上または－ 10℃以下のときは、AUTO作動しないことがあります。その場合は、AUTO モード以外でワイパーを使用してください。

■ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

⚠ 警告

■AUTO モード時のワイパー作動について（雨滴感知式ワイパー装着車）

AUTO モードでは、センサーにふれたり、フロントウィンドウガラスに振動があるなどの要因で不意にワイパーが動くおそれがあります。ワイパーで指などを挟まないように注意してください。

■ウォッシャー使用時の警告

寒冷時はフロントウインドウガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がフロントウインドウガラスに凍りつき、視界不良を起こして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■フロントウィンドウガラスが乾いているとき

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ノズルがつまったとき

ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

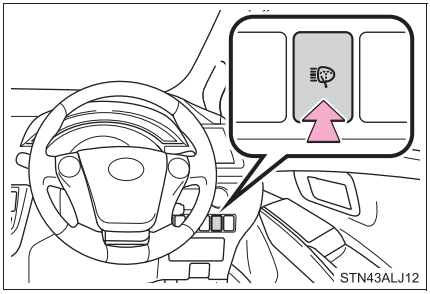
■補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムを停止した状態でワイパーを長時間作動しないでください。

ヘッドランプクリーナー★

ヘッドランプにウォッシャー液を噴射します。

スイッチを押してヘッドランプを洗浄する



知識

■作動条件

パワースイッチが ON モードでヘッドランプが点灯しているとき

⚠ 注意

■ウォッシャー液が出ないとき

ヘッドランプクリーナースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

給油口の開け方

給油する前に

- ドアとドアガラスを閉め、パワースイッチを OFF にしてください。
- 燃料の種類を確認してください。

知識

■燃料の種類

無鉛レギュラーガソリン

⚠ 警告

■給油するときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと火災を引き起こすなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 給油前にボデーなどの金属部分にふれて体の静電気を除去してください。除去したあとは給油が完了するまで、車内にもどったり、他の人やものにふれないでください。また、給油口に静電気を除去していない人を近付けないでください。
  静電気を帯電した人が給油口に近付くと、放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。
- キャップはツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。また、キャップをゆるめたときに、“シュー”という音がする場合は、その音が止まるまでキャップを保持してください。
  すぐに開けると、気温が高いときなどに、給油口から燃料が噴き出るおそれがあります。
- 気化した燃料を吸わないようにしてください。
  燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。
- 喫煙しないでください。
- 給油口にノズルを確実に挿入してください。
- 継ぎ足し給油をしないでください。
- 正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。

⚠ 注意

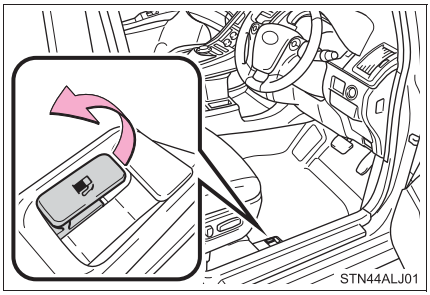
■給油するとき

指定以外のガソリンや他の燃料（粗悪ガソリン・軽油・灯油・高濃度アルコール含有燃料）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。
次のような状態になるおそれがあります。

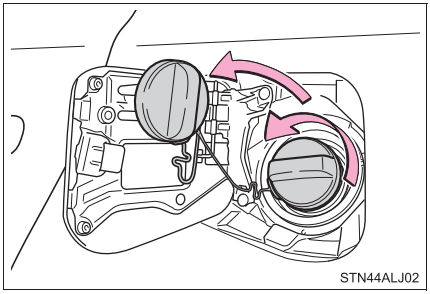
- エンジンの始動性が悪くなる
- エンジンからの異音や振動など（ノッキング）が発生する
- エンジン出力が低下する
- 排気制御システムが正常に機能しない
- 燃料系部品が損傷する
- 塗装が損傷する

給油口の開け方

1 オープナーを上げて、給油扉を開ける



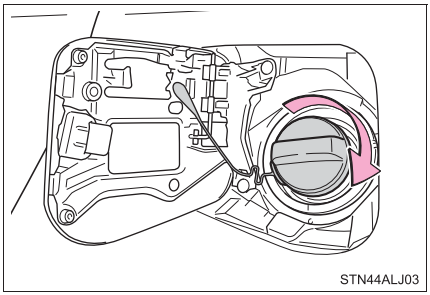
2 キャップをゆっくりまわして開け、ホルダーにはめ込む



給油口の閉め方

キャップを“カチッ”と音がするまでまわして閉める

手を離すと、キャップが逆方向に少しもどります。



⚠ 警告

■キャップが正常に閉まらないとき

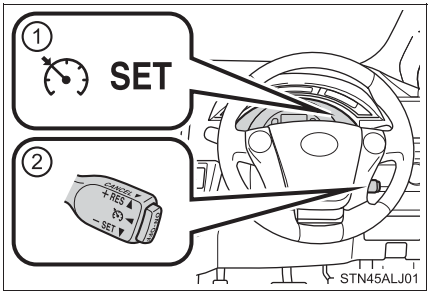
必ずトヨタ販売店へご連絡ください。
正常に閉まらないキャップをそのまま使用したり、純正品以外のキャップを使用すると、火災などを引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

クルーズコントロール★

機能概要

アクセルペダルを踏まなくても一定の速度で走行できます。

① クルーズコントロール表示灯
② クルーズコントロールスイッチ

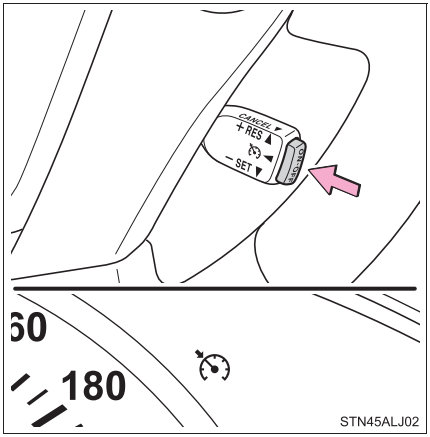


速度を設定する

1 ON/OFF スイッチを押して、システムを ON にする

メーター内のクルーズコントロール表示灯が点灯します。

OFF にするには、再度スイッチを押します。

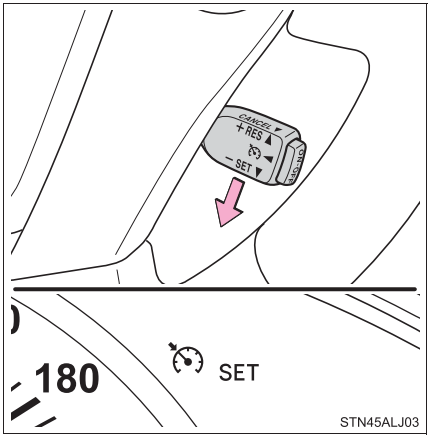


★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

2 希望の速度まで加速／減速し、レバーを下げて設定する

メーター内のセット表示灯が点灯します。

レバーを離したときの速度で定速走行できます。



設定速度をかえる

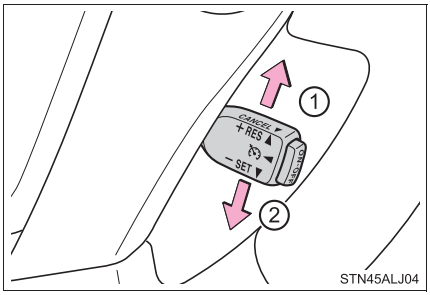
設定速度をかえるには、希望の速度になるまでレバーを操作します。

① 速度を上げる

② 速度を落とす

微調整：
レバーを上または下に軽く操作して手を離す

調整：
希望の車速になるまでレバーを保持する



設定速度は、次のとおりに増減されます。

微調整：
レバー操作するごとに約 1.6km/h

調整：
レバーを保持するあいだ

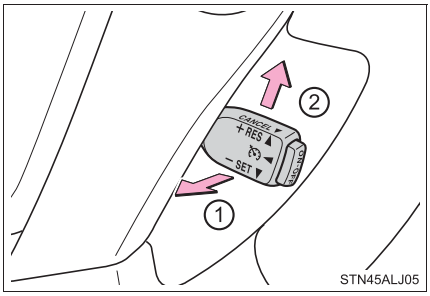
定速走行を解除する・復帰させる

① 解除するには、レバーを手前に引く

ブレーキペダルを踏んだときも解除されます。

② 定速走行にもどすには、レバーを上げる

レバーを上げると、もとの定速走行にもどります。ただし、実際の速度が約 40km/h 以下になると設定速度が消去されるため、復帰しません。



知識

■設定条件について

- シフトポジションが D のとき設定できます。
- 車速は約 40 ～約 100km/h の範囲で設定できます。

■車速設定後の加速について

- 通常走行と同様にアクセルで加速できます。加速後、設定車速にもどります。
- クルーズコントロールを解除しなくても、希望の速度まで加速して、レバーを下げることにより設定車速を変更することができます。

■定速走行の自動解除

次のとき、自動的に定速走行が解除されます。

- 設定速度より実際の速度が約 16km/h 以上低下した
- 実際の速度が約 40km/h 以下になった
- S-VSC が作動した

■定速走行中にマルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたとき

ON/OFF スイッチでシステムを一度 OFF にし、再度設定してください。
設定できないとき、またはすぐに解除されるときは、システム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

⚠ 警告

■誤操作を防ぐために

クルーズコントロールを使用しないときは、ON/OFF スイッチでシステムをOFF にしてください。

■クルーズコントロールを使用してはいけない状況

次の状況では、クルーズコントロールを使用しないでください。
車のコントロールを失い、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 交通量の多い道
- 急カーブのある道
- 曲がりくねった道
- 雨天時や、凍結路・積雪路などのすべりやすい路面
- 急な下り坂
  急な下り坂では設定車速以上になることがあります。

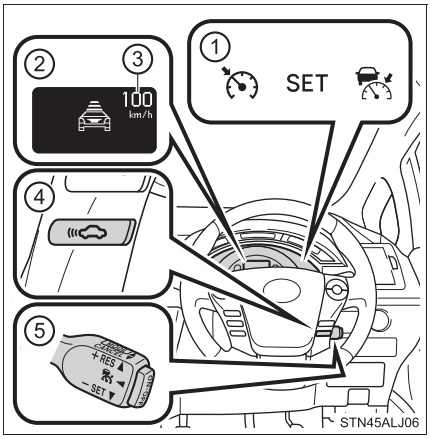
レーダークルーズコントロール★

機能概要

アクセルペダルを踏まなくても、車間制御モードで先行車の車速変化に合わせた追従走行を行ったり、定速制御モードにより一定の速度で走行できます。

先行車との車間距離が確保しやすい高速道路や自動車専用道路などで使用してください。

① 表示灯
② マルチインフォメーションディスプレイ
③ 設定速度
④ 車間距離切りかえスイッチ
⑤ クルーズコントロールスイッチ



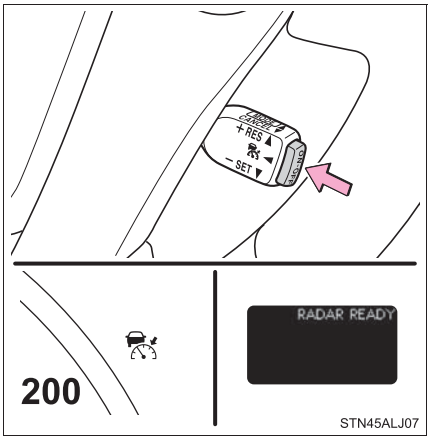
★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

車速を設定する（車間制御モード）

1 ON/OFF スイッチを押してシステムを ON にする

メーター内のレーダークルーズコントロール表示灯が点灯します。

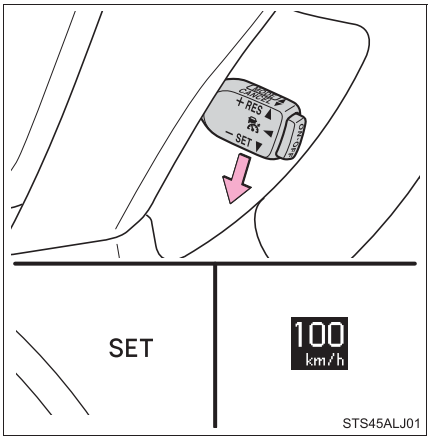
OFF にするには、再度 ON/OFF スイッチを押します。



2 希望の速度まで加速／減速し、レバーを下げて速度を設定する

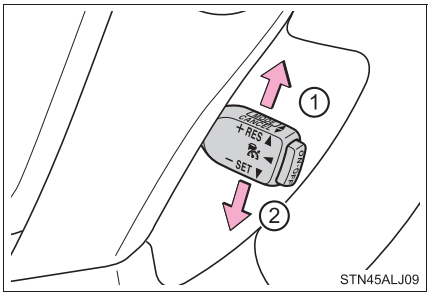
メーター内のセット表示灯が点灯しマルチインフォメーションディスプレイ内に設定速度が表示されます。

レバーを離したときの速度で定速走行できます。



設定速度をかえる

設定速度をかえるには、希望の速度が表示されるまでレバーを操作します。



① 速度を上げる

② 速度を落とす

微調整：
レバーを上または下に軽く操作して手を離す

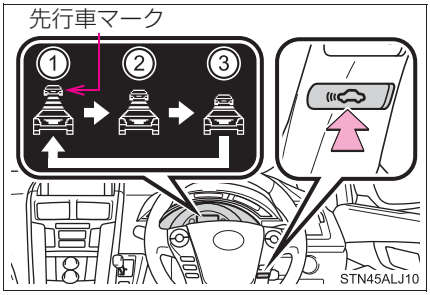
調整：
希望の車速になるまでレバーを保持する

車間制御モードでは、設定速度は、次のとおりに増減されます。：
微調整：レバー操作するごとに約 1km/h
調整：レバーを保持するあいだ、0.75 秒ごとに約 5km/h

定速制御モード（→ P. 184）では、設定速度は、次のとおりに増減されます。：
微調整：レバー操作するごとに約 1.6km/h
調整：レバーを保持するあいだ

車間距離を変更する（車間制御モード）

スイッチを押すごとに次のように車間距離を切りかえます。



① 長い

② 中間

③ 短い

パワースイッチが ON モードになるたびに①に設定されます。

先行車がいる場合、先行車マークも表示されます。

車間距離選択の目安

次の目安を参考に車間距離を選択してください。
（速度 80km/h で走行している場合）
なお、車速に応じて車間距離は増減します。

車間距離選択	車間距離
長い	約 50m
中間	約 40m
短い	約 30m

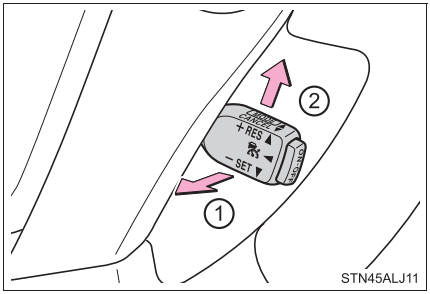
制御を解除する・復帰させる

① 解除するには、レバーを手前に引く

ブレーキペダルを踏んだときも解除されます。

② もとの制御状態にもどすには、レバーを上げる

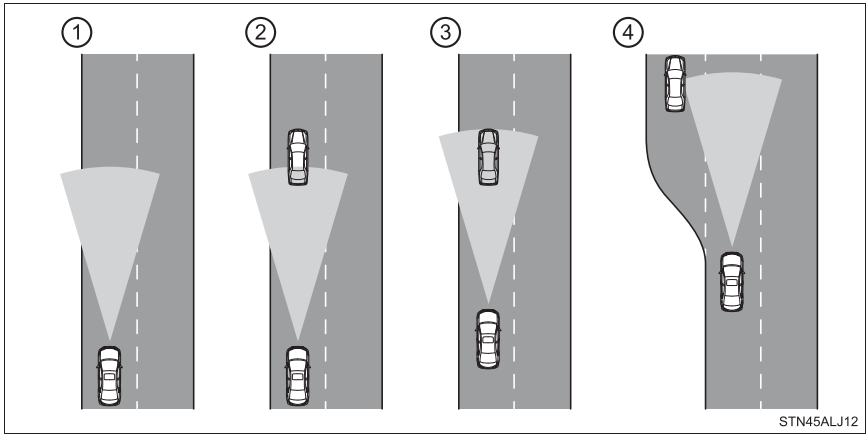
実際の速度が約40km/h以上のときにレバーを上げると、もとの定速走行にもどります。ただし、定速制御モードでは、実際の速度が約 40km/h 以下になると設定速度が消去されるため、復帰しません。



車間制御モードでの走行

レーダーセンサーにより、車両前方約 100m 以内の先行車の有無・先行車との車間距離を判定して先行車との適切な車間距離を確保する制御をします。

長い下り坂を走行しているときは、車間距離が短めになります。



① 定速走行：
先行車がいないとき

運転者が設定した車速で定速走行します。また、車間距離切りかえスイッチを操作して、希望の車間距離に設定することもできます。

② 減速走行：
設定した車速より遅い先行車が現れたとき

先行車を検知すると自動で減速し、より大きな減速が必要な場合はブレーキがかかります。十分に減速できない状態で先行車に接近した場合は、接近警報を鳴らします。

③ 追従走行：
設定した速度より遅い先行車に追従するとき

先行車の速度変化に合わせて、運転者の設定した車間距離になるよう追従します。

④ 加速走行：
設定した車速より遅い先行車がいなくなったとき

設定車速まで加速し、定速走行にもどります。

接近警報

追従走行中の他車の割り込みなど、十分な減速ができない状態で先行車に接近したときは、表示の点滅とブザーで運転者に注意をうながします。その場合は、ブレーキを踏むなど適切な車間距離を確保してください。

■ 警報されないとき

車間距離が短くても、次のような場合は警報されないことがあります。

- 先行車と自車の車速が同じか先行車の方が速いとき
- 先行車が極端な低速走行をしているとき
- 速度を設定した直後
- アクセルペダルが踏まれたとき

定速制御モードを選択する

定速制御モードを選択したときは、車間制御モードと異なり、先行車の有無に関わらず一定の速度で走行します。レーダーセンサーの汚れなどにより、車間制御モードで走行できない場合のみご使用ください。

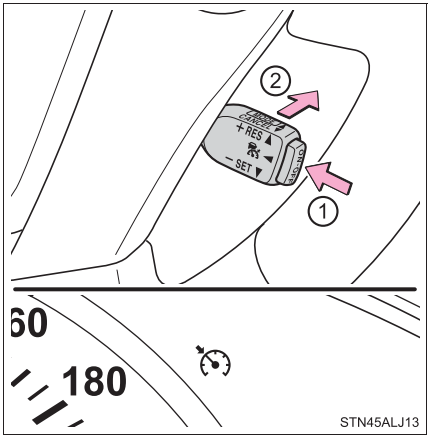
① ON/OFF スイッチを押して、システムを ON にする

OFF にするには再度 ON/OFF スイッチを押します。

② 定速制御モードに切りかえ（約 1 秒間レバーを前方に押し続ける）

定速制御モードに切りかえると、クルーズコントロール表示灯が点灯します。

定速制御モードから車間制御モードにもどすには、再度レバーを前方に約 1 秒間押し続けます。



希望の速度を設定したあとは車間制御モードに切りかえることはできません。

パワースイッチを OFF にし、再度パワースイッチを ON モードにした場合は、自動で車間制御モードにもどります。

設定速度をかえるには
→ P. 176

制御を解除する・復帰させるには
→ P. 177

知識

■設定条件について

●シフトポジションが D のとき設定できます。

●車速は約 50 ～約 100km/h の範囲で設定できます。

■車速設定後の加速について

通常走行と同様にアクセル操作で加速できます。加速後、設定車速にもどります。ただし、車間制御モード時は先行車との距離を保持するため設定車速以下になることもあります。

■車間制御走行の自動解除

次のとき、自動的に車間制御走行が解除されます。

●速度が約 40km/h 以下になった

●S-VSC が作動した

●センサーが何かでふさがれて適切に働かない

●ワイパーが高速で作動した（ワイパーの設定を AUTO モードまたは高速作動にしたとき）

その他の理由で車間制御走行が自動解除されるときは、システムが故障している可能性があります。トヨタ販売店にご相談ください。

■定速制御走行の自動解除

次のとき、自動的に定速制御が解除されます。

●設定速度より実際の速度が約 16km/h 以上低下した

●車速が約 40km/h 以下になった

●S-VSC が作動した

■LKA（レーンキーピングアシスト）使用時について

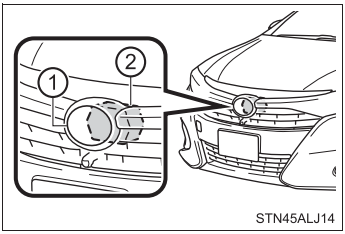
車間制御モードでレーダークルーズコントロールを使用すると、車線維持支援制御が作動します。

■レーダーセンサーとグリルカバーについて

車間制御を正しく作動させるためにセンサーとグリルカバーは常にきれいにしておいてください。（ビニールやつらら・雪など、汚れ検知機能で検知できないものもあります）
汚れを検知したときは、レーダークルーズコントロールは解除されます。

① グリルカバー

② レーダーセンサー



■レーダークルーズコントロールの警告メッセージ・警告ブザー

走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。（→ P. 334）

⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。
レーダークルーズコントロールは運転者の操作の一部を支援し、操作負担を軽減するためのシステムで、支援の範囲には限りがあります。
システムが正常に機能していても、運転者が認識している先行車の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。従って注意義務・危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。なお、誤った使い方をしたり、操作慣れなどで注意を怠ったりすると、思わぬ危険を招くことがあります。

■システムの支援内容に関する注意点

システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。
システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 運転者が見る過程での支援内容
  レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離を検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。
  運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。
- 運転者が判断する過程での支援内容
  レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離が適正かどうかを判断しており、それ以外の判断はしません。このため、危険性があるかどうかなど運転者は自ら安全の判断をする必要があります。
- 運転者が操作する過程での支援内容
  レーダークルーズコントロールは、先行車への追突を防止する機能はありません。このため、危険性があれば運転者自らが安全を確保する必要があります。

■誤操作を防ぐために

レーダークルーズコントロールを使わないときは ON/OFF スイッチでシステムを OFF にしてください。

⚠ 警告

■レーダークルーズコントロールを使用してはいけない状況

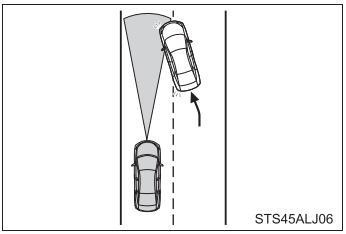
次の状況では、レーダークルーズコントロールを使用しないでください。
適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●一般道（高速道路や自動車専用道以外）
- ●歩行者や自転車等が混在している道
- ●交通量の多い道
- ●急カーブのある道
- ●曲がりくねった道
- ●雨天時や、凍結路・積雪路などのすべりやすい路面
- ●急な下り坂や急で勾配の変化が激しい坂
  急な下り坂では設定車速以上になることがあります。
- ●高速道路の出入り口
- ●レーダーセンサーが正しく働かないような悪天候時（霧・雪・砂嵐・激しい雨など）
- ●接近警報がひんぱんに鳴るとき

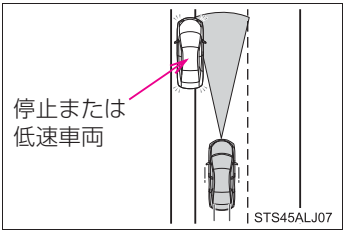
■センサーが正しく検知しないおそれのある先行車

次のような場合は、必要に応じてブレーキで減速してください。
センサーが正しく車両を検知できず、接近警報（→ P. 184）も作動しないため、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●先行車が急に割り込んできたとき

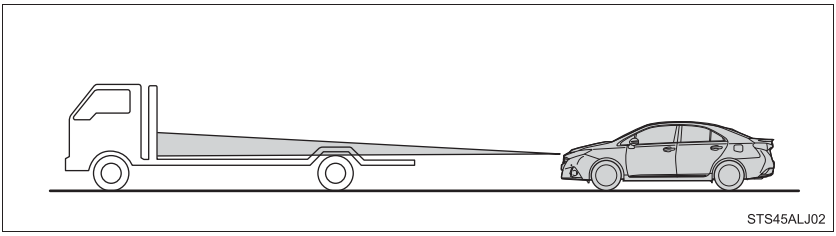


- ●先行車が低速で走行中のとき
- ●停車中の車がいるとき

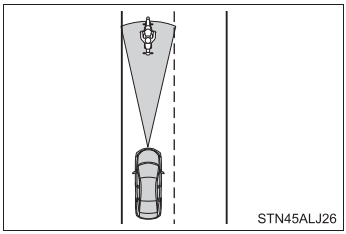


⚠ 警告

●先行車の後部分が小さすぎるとき（荷物を積んでいないトレーラーなど）

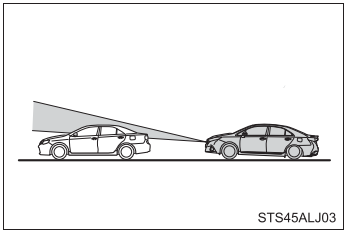


●同じ車線を二輪車が走行中のとき



●周囲の車両より水や雪がまき散らされ、レーダーセンサーの作動のさまたげになる場合

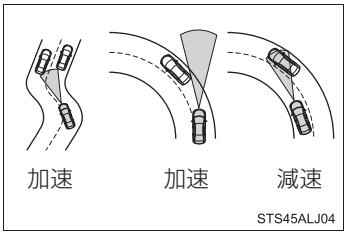
●自車の車両姿勢が上向きになる場合（重い荷物を積んだときなど）



■車間制御が正しく働かないおそれのある状況

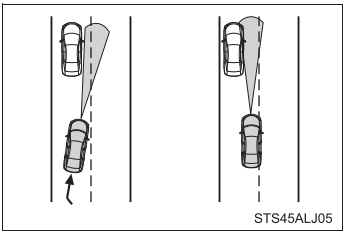
次の状況では、必要に応じてブレーキで減速してください。
レーダーセンサーが正常に車両を検知せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●カーブ路や車線幅が狭い道路などを走行する場合

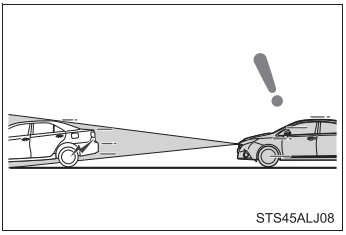


⚠ 警告

●ハンドル操作が不安定な場合や、車線内の位置が一定でない場合


STS45ALJ05

●先行車が急ブレーキをかけた場合


STS45ALJ08

■レーダーセンサーの取り扱い

レーダークルーズコントロールが効果を発揮できるように次のことをお守りください。お守りいただかないと、センサーが正しく作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

●センサーとグリルカバーは常にきれいにしておく
お手入れをする際は、センサーやグリルカバーを傷付けないよう、やわらかい布を使ってください。

●センサー周辺への強い衝撃を避ける
センサーの位置がずれると、システムに異常が起こるおそれがあります。センサー、または周辺に強い衝撃を受けた際は、必ずトヨタ販売店にて点検を受け、調整してください。

●センサーを分解しない

●センサーやグリルカバー周辺にアクセサリーを付けたり、ステッカーを貼ったりしない

●センサーやグリルカバーを改造したり塗装したりしない

●レーダーセンサーの交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください

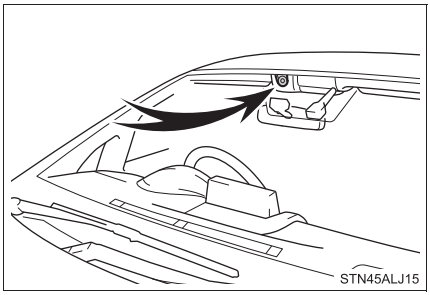
●センサーは電波法の基準に適合しています。センサーに貼り付けられているラベルはその証明ですのではがさないでください。また、センサーを分解・改造すると罰せられることがあります。

LKA（レーンキーピングアシスト）★

機能概要

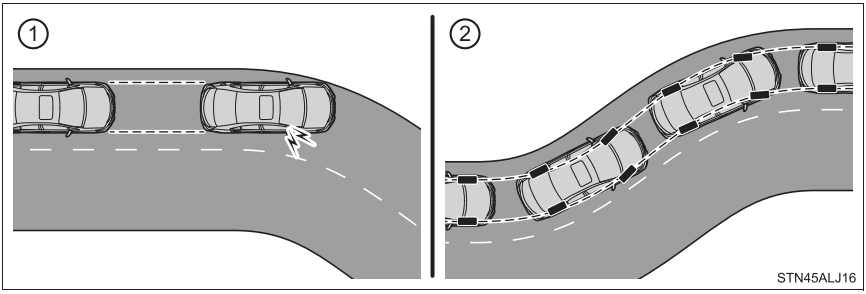
白（黄）線の整備された高速道路や急なカーブがない自動車専用道路を走行中に、インナーミラーの上の白線認識用カメラを利用して車線を認識させることにより、車線内の走行を支援します。

白線認識用カメラ



★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

LKA に含まれる機能



① 車線逸脱警報機能

車線から逸脱する可能性があるとシステムが判断した場合に、“ピピピピ・・・”というブザーや画面表示、体感警報※を用いて注意をうながします。

※ ハンドルに短時間、車線の中央方向への小さな操舵力を与えます。

② 車線維持支援機能

・車線逸脱警報機能が作動中に、車速が約 65km/h 以上でレーダークルーズコントロール（→ P. 179）の車間制御モードがセットされたときに、車線維持支援機能が作動します。

・小さい操舵力を連続的に与えることにより、車線中央付近を走行しやすいように運転者のハンドル操作を支援します。

車線維持支援機能中に、ハンドルを操作しなかったり、ハンドルに軽く手を添えた運転が続いたりしたときは、機能が一時的に解除されます。
（→ P. 195）

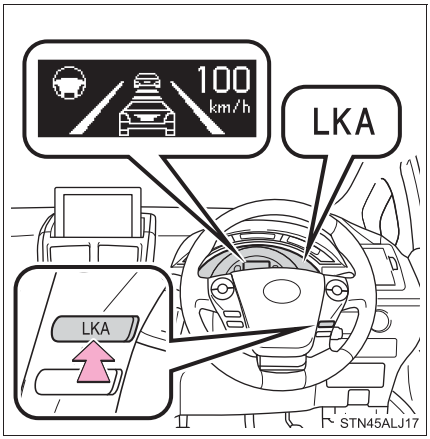
設定のしかた

LKA を使用するにはスイッチを押す

メーター内の LKA 表示灯が点灯します。

解除するには再度スイッチを押します。

LKA はパワースイッチが ON モードになるたびに解除されます。



各機能の作動条件

■ **車線逸脱警報機能**

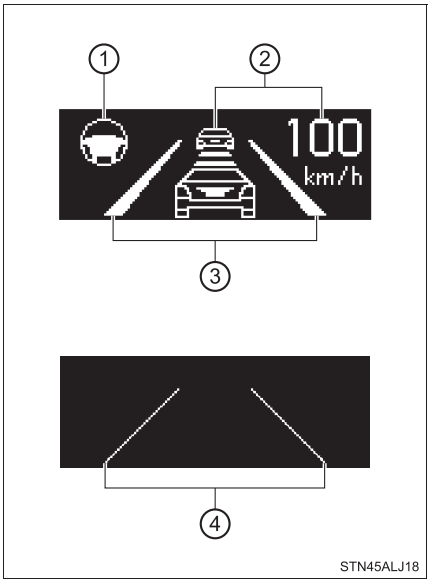
- 車速が約 50km/h 以上のとき
- 車線の幅が約 3.0m 以上のとき
- 直線路または半径約 120m よりゆるいカーブを走行しているとき

■ **車線維持支援機能**

- 車速が約 65 ～ 100km/h のとき
- レーダークルーズコントロールの車間制御モードが ON で、設定車速が 65km/h 以上のとき（レーダークルーズコントロールが定速制御モードのときは、作動しません）
- 車線の幅が約 3.0 ～ 4.0m のとき
- 直線路または半径約 200m よりゆるいカーブを走行しているとき

マルチインフォメーションディスプレイ表示

LKA が制御中のとき、車線表示とハンドル表示によって、LKA が作動していることを表示します。



① 車線維持支援機能の作動表示

ハンドル表示：
機能が作動中であることを示しています。（このときに車線逸脱警報が作動すると、ハンドルが点滅します）

ハンドル非表示：
機能が作動していないことを示しています。（このとき“ピピッ”というブザーが鳴ります）

② レーダークルーズコントロール表示

③ 車線逸脱警報機能表示（白線が太いとき）：

機能が白（黄）線を認識していることを示しています。（このとき車線逸脱警報が作動すると、白線が点滅します）

④ 車線逸脱警報機能表示（白線が細いとき）：

機能が白（黄）線を認識できていない、または機能が一時的に解除されていることを示しています。

知識

■機能の一時解除

次のいずれかの場合、機能を一時的に解除します。解除されたときの状況が改善されると、作動を再開します。

- ●車線変更に相当する程度の操舵力でハンドルを操作したとき
- ●システムが手放し運転をしていると判断したとき（車線維持支援機能は一時的に解除されますが、車線逸脱警報機能は継続します）
- ●方向指示レバーを操作したとき
- ●作動条件以外の車速になったとき（車線維持支援機能の作動中はブザーが鳴ります）
- ●走行中の白（黄）線が認識できなくなったとき（車線維持支援機能の作動中はブザーが鳴ります）
- ●ワイパースイッチを高速作動にしたとき、または AUTO モードにしてワイパーが高速作動したとき（車線維持支援機能は一時的に解除されますが、車線逸脱警報機能は継続します）
- ●車体のおよそ半分以上が白（黄）線をまたいだとき（車線維持支援機能は一時的に解除されますが、車線逸脱警報機能は継続します）
- ●車線逸脱警報機能が作動したとき
  車線逸脱警報機能が作動してから数秒間は、再度車線を逸脱しても警報は作動しません。

■車線逸脱警報について

路面状況などにより、体感警報が感じにくい場合があります。

■手放し運転警告について（→ P. 339）

車線維持支援機能中に、直線路で約 15 秒、またはカーブで約 5 秒ハンドルを操作しないと、“ピピッ”とブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイの表示が点滅し、機能が一時的に解除されます。ハンドルに軽く手を添えた運転が続いたときも同様です。
ただし路面状況などにより、作動が中断しない場合があります。

■炎天下に駐車したあとは

走行開始後、しばらくのあいだLKAは作動せず、警告メッセージ（→P. 338）が表示されることがあります。室内温度が低下し、白線認識用カメラ周辺（→P. 191）の温度が適温になると作動するので、いったんLKAスイッチをOFFにして、しばらくしてからONにしてください。

■白（黄）線が片側にしかないとき

車線維持支援機能は作動しません。また、白（黄）線が認識できていない方向への車線逸脱警報は作動しません。

■機能が正常に作動しないおそれのある状況

次の状況では、LKA が作動しない、または十分な性能が確保できない場合があります。また、白線認識用カメラが白（黄）線を正しく検知できず、車線逸脱警報機能が誤作動したり、車線維持支援機能が正しく作動しないことがありますが、故障ではありません。

- ●料金所や検札所の手前や交差点など、白（黄）線がない場所を走行するとき
- ●急カーブを走行するとき
- ●車線の幅が極端に狭いときや広いとき
- ●重い荷物の積載やタイヤ空気圧の調整不良などで、車両が著しく傾いているとき
- ●先行車との車間距離が極端に短くなったとき
- ●車線が黄色のとき（白線にくらべて認識率が低下することがあります）
- ●白（黄）線がかすれていたり、キャッツアイや置き石などのとき
- ●白（黄）線が砂ぼこりなどで見えない、または見えにくくなっているとき
- ●白（黄）線と平行に近い影があったり、白（黄）線が影の中にあるとき
- ●コンクリート路のような明るい路面を走行するとき
- ●照り返しなどにより明るくなった路面を走行するとき
- ●トンネルの出入口など明るさが急変する場所を走行するとき
- ●対向車のヘッドランプ光・太陽光などがカメラに入射するとき
- ●分岐・合流路などを走行するとき
- ●雨天・雨上がり・水たまりなどぬれた路面を走行するとき
- ●悪路や道路の継ぎ目などを走行時に、車両に大きな上下動が発生するとき
- ●夜間にヘッドランプのレンズが汚れて照射が弱いときや、光軸がずれているとき
- ●横風を受けて走行しているとき
- ●左右に傾いた道路やうねった道路を走行するとき
- ●舗装されていない道路や荒れた道路を走行するとき

■タイヤを交換したとき

冬用タイヤなど、タイヤによっては十分な性能が確保できない場合があります。

■LKA の警告メッセージ・警告ブザー

走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告表示・警告ブザーで注意をうながします。
（→ P. 338）

⚠ 警告

■LKA をお使いになる前に

LKA を過信しないでください。LKA は自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。
適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■誤操作を防ぐために

LKA を使用しないときは、LKA スイッチでシステムを OFF してください。

■LKA を使用してはいけない状況

次の状況では、LKA を使用しないでください。
適切な制御が行われず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- ●応急用タイヤ・タイヤチェーンなどを装着しているとき
- ●タイヤの残り溝が十分にないとき、または空気圧が不足しているとき
- ●路側物に白（黄）線と見間違えるような構造物・模様があるとき（ガードレール・縁石・反射ポールなど）
- ●雪道を走行するとき
- ●雨・雪・霧・砂ぼこりなどで白（黄）線が見えにくいとき
- ●道路の修復で、アスファルト修復跡や白（黄）線の跡が残っているとき
- ●雨天時や積雪・凍結などですべりやすい道路を走行するとき
- ●高速道路などの本線（走行車線・追いこし車線）以外の車線を走行するとき
- ●工事による車線規制や仮設の車線を走行するとき

⚠ 注意

■LKA の故障や誤作動を防ぐために

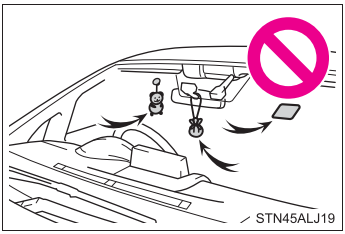
- ヘッドランプを改造したり、ランプの表面にステッカーなどを貼ったりしないでください。
- サスペンションなどを改造したり、純正品以外の部品に交換したりしないでください。
- ボンネットやグリルの上には、何も取り付けたり置いたりしないでください。また、グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）を取り付けないでください。
- サンバイザーを改造したり、純正品以外のものに交換したりしないでください。
- フロントウインドウガラスの修理が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

⚠ 注意

■白線認識用カメラ（→P. 191）

LKA の故障や誤作動を避けるために、次のことをお守りください。

- フロントウインドウガラスは、いつもきれいにしておく
  汚れていたり、雨滴・結露・氷雪などが付着していたりすると、性能が低下することがあります。
- カメラのレンズ前のフロントウインドウガラスにステッカーなどを貼らない
- カメラの近くには、何も取り付けたり、置いたりしない



- インナーミラーがカメラのレンズ前にかからないようにする
- フロントウインドウガラスにフィルムを貼らない
- カメラのレンズ前にアンテナを取り付けない
- フロントウインドウガラスが曇った場合は、フロントデフロスターでガラスの曇りを取る
  寒冷時などにヒーターを足元モードで使用していると、フロントウインドウガラスの上部が曇り、映像に影響を与えることがあります。
- ダッシュボードの上にものを置かない
  フロントウインドウガラスに映り込んだ映像を、白（黄）線と誤って認識する場合があります。
- カメラのレンズを汚したり、傷を付けたりしない
  フロントウインドウガラスの内側を掃除するときは、ガラスクリーナーなどがレンズに付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。
  カメラのレンズのお手入れは、トヨタ販売店にご相談ください。
- カメラの向きは細密に調整されているため、取り付け位置や向きを変更したり、取りはずしたりしない
- カメラに強い衝撃や力を加えない、また分解しない

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を高めるため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

◆ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

◆ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

◆ VSC（ビークルスタビリティコントロール）

急なハンドル操作や、すべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

◆ S-VSC（ステアリングアシステッドビークルスタビリティコントロール）

ABS・TRC・VSC・EPS を協調して制御します。
すべりやすい路面などの走行で急なハンドル操作をした際に、ハンドル操作力を制御することで、車両の方向安定性確保に貢献します。

◆ TRC（トラクションコントロール）

すべりやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力を確保します。

◆ ヒルスタートアシストコントロール

上り坂で発進するときに、ブレーキペダルから足を離しても一時的に制動力を保持し、発進操作を補助します。

◆ EPS（エレクトリックパワーステアリング）

電気式モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

◆ PCS（プリクラッシュセーフティシステム）★

→ P. 205

◆ 後方プリクラッシュセーフティシステム★

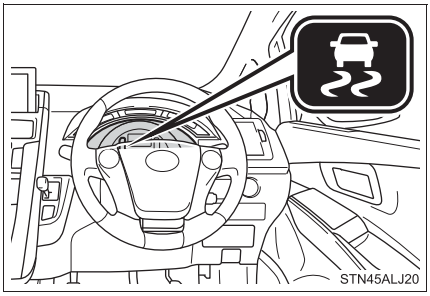
→ P. 211

◆ 緊急ブレーキシグナル

急ブレーキ時に制動灯を自動的に点滅させることにより、後続車に注意をうながし、追突される可能性を低減させます。

TRC・VSC・ABS が作動しているとき

TRC・VSC・ABS が作動しているときは、スリップ表示灯が点滅します。



知識

■ABS・ブレーキアシスト・TRC・VSC の作動音と振動

●ハイブリッドシステム始動時や発進直後、ブレーキペダルをくり返し踏んだときに、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

●上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。

・車体やハンドルに振動を感じる
・車両停止後もモーター音が聞こえる
・ABS の作動時に、ブレーキペダルが小刻みに動く
・ABS の作動終了後、ブレーキペダルが少し奥に入る

★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

■EPS モーターの作動音

ハンドル操作を行ったとき、モーターの音（“ウィーン”という音）が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■EPS の効果が下がるとき

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルをまわし続けると、EPS システムのオーバーヒートを避けるため、EPS の効果が下がりハンドル操作が重く感じられるようになります。※
その場合は、ハンドル操作を控えるか、停車し、ハイブリッドシステムを停止してください。10 分程度でもとの状態にもどります。

※ その際、LKA（レーンキーピングアシスト）が作動できない場合もあり、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されます。

■ヒルスタートアシストコントロールの作動条件

次のときシステムが作動します。

●シフトポジションが P または N 以外（前進または後退での上り坂発進時）
●車両停止状態
●アクセルを踏んでいない
●パーキングブレーキがかかっていない

■ヒルスタートアシストコントロールの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

●シフトポジションを P または N にした
●アクセルを踏んだ
●パーキングブレーキをかけた
●ブレーキペダルから足を離して約 2 秒経過した

■緊急ブレーキシグナルの作動条件

次のときシステムが作動します。

●非常点滅灯が点滅していないこと
●車速 55km/h 以上
●ブレーキペダルが踏み込まれ、車両の減速度から急ブレーキだと判断された

■緊急ブレーキシグナルの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

●非常点滅灯を点滅させた
●ブレーキペダルを離した
●車両の減速度から急ブレーキではないと判断された

⚠ 警告

■ABS の効果を発揮できないとき

- タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき（雪に覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど）
- 雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなる可能性があるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。特に次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

- 泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 道路のつなぎ目など、段差をこえたとき
- 凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■TRC の効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、TRC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

■ヒルスタートアシストコントロールの効果を発揮できないとき

- ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。急勾配の坂や、凍った路面ではヒルスタートアシストコントロールが効かないことがあります。
- ヒルスタートアシストコントロールはパーキングブレーキのように車を長時間駐停車するための機能ではありませんので、同機能を坂道での駐停車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■スリップ表示灯が点滅しているとき

TRC・VSC・ABS が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

⚠ 警告

■タイヤまたはホイールを交換するとき

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・ブランド・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。（→ P. 391）
異なったタイヤを装着すると、ABS・TRC・VSC が正常に作動しません。
タイヤ、またはホイールを交換するときは、トヨタ販売店に相談してください。

■タイヤとサスペンションの取り扱い

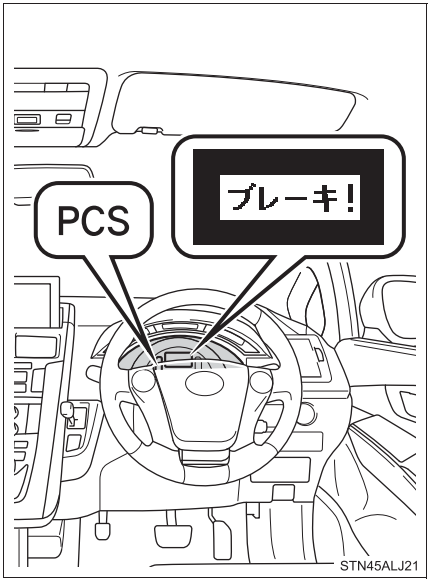
問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

PCS（プリクラッシュセーフティシステム）★

レーダーセンサーにより、前方の車両や障害物と衝突の可能性があると判断したときに、警報により運転者に対して回避操作をうながし、衝突の防止に役立ちます。前方の障害物と衝突の可能性が高い、または前方の障害物と衝突が避けられないと検知したとき、自動的にシートベルトやブレーキなどに働きかけ、乗員や車両への衝撃の軽減に寄与します。

◆ 衝突警告表示

衝突の可能性があると検知したとき、“ピーピーピー”とブザー音が鳴り、PCS 警告灯が点滅し、マルチインフォメーションディスプレイに衝突警告表示を出し、回避操作をうながします。



◆ プリクラッシュシートベルト（フロント席）

プリクラッシュセンサーにより衝突物が検知され、衝突が避けられないと判断したとき、衝突前にシートベルトを巻き取ります。
また、急ブレーキをかけたときや、車がコントロールを失ったときも同様に作動します。（→ P. 29）

ただし、VSC システムが作動していないときに、横すべりした場合は作動しません。

◆ プリクラッシュブレーキアシスト

衝突の可能性が高いときには、ブレーキペダルが踏まれる強さに反応してブレーキ力を増強します。

★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

◆ プリクラッシュブレーキ

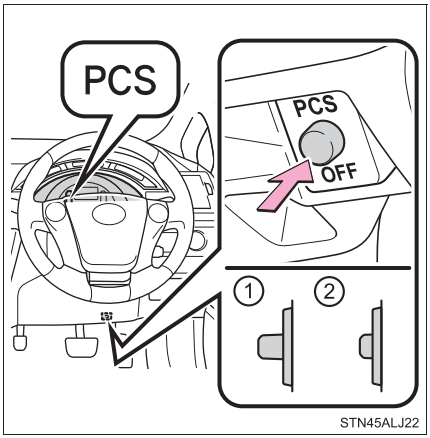
前方の車両や障害物と衝突の可能性が高いときに警告灯・衝突警告表示・ブザー音で警報を行い、さらに衝突が避けられないと判断したときは、ブレーキが自動でかかり、衝突速度を低減します。スイッチ操作で、プリクラッシュブレーキの ON/OFF 切りかえができます。

プリクラッシュブレーキの切りかえ

① プリクラッシュブレーキ ON

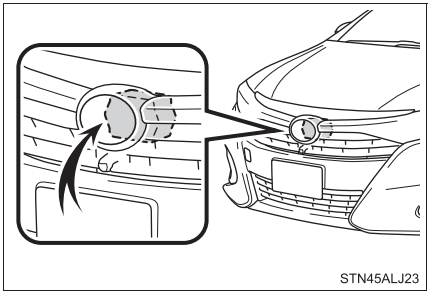
② プリクラッシュブレーキ OFF

OFF にすると PCS 警告灯が点灯します。



レーダーセンサー

レーダーセンサーにより、走行中に路上またはその付近に車や障害物があるかどうかを検知し、そのものの位置や車速・進路から衝突する可能性を事前に判断します。



知識

■システムの作動条件

●プリクラッシュシートベルトの作動条件①：

・車速が約 30km/h 以上
・緊急ブレーキや車両の横すべりを判断したとき
・フロント席の乗員がシートベルトを着用している

●プリクラッシュシートベルトの作動条件②：

・車速が約 5km/h 以上
・自車から見た前方の車両や障害物との接近速度が約 30km/h 以上
・フロント席の乗員がシートベルトを着用している

●プリクラッシュブレーキアシストの作動条件：

・車速が約 30km/h 以上
・自車から見た前方の車両や障害物との接近速度が約 30km/h 以上
・ブレーキペダルが踏まれているとき

●プリクラッシュブレーキの作動条件：

・自車速度が約 15km/h 以上
・自車から見た前方の車両や障害物との接近速度が約 15km/h 以上
・プリクラッシュブレーキ OFF スイッチが押されていないとき

■衝突の可能性がなくてもシステムが作動するとき

センサーの前方がさえぎられる次のような場合、システムが衝突の可能性があると判断し、作動することがあります。

●カーブまたは右左折時に対向車とすれ違ったとき

●車両前方の障害物（前方車両・ETC ゲートなど）に急速に接近したとき

●上り坂を走行中など進行方向の道路上方に構造物（看板・低い天井・蛍光灯など）があるとき

●幅が狭い、または天井の低い場所（橋・トンネル・高架下など）を通過するとき

●凹凸のある路面を走行するとき

●路面上に金属物、段差または突起物があるとき

●車高が極端に変化しているとき

●センサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの向きがずれているとき

●カーブの入り口の道路脇に障害物（ガードレールなど）があるとき

●自車の車両姿勢が前上がりになる場合（重い荷物を積んだときなど）

また、このとき、シートベルトがすばやく引きもどされたり、ブレーキをかけたときに通常よりブレーキが強くかかる場合があります。シートベルトが巻き取られた状態でロックした場合は車を安全な場所に停止してシートベルトをはずし、再度装着してください。

■センサーが検知しない場合

パイロンなどのプラスチック類は検知できません。人や動物・二輪車・木・雪の吹きだまりなどは検知しない場合があります。

■システムの作動しない環境

プリクラッシュセーフティシステムは、想定されていない状況では有効に作動しない場合があります。

- きついカーブや起伏がある場所
- 交差点などで、自車の進行方向に急な飛び出しがある状況
- 自車の進行方向に車の急な割り込みがある状況
- 雨・霧・雪・砂嵐などの悪天候の状況
- VSC が作動していないときに車が横すべりしている状態
- 車両姿勢が極端に変化している状態
- レーダーセンサー周辺への強い衝撃などにより、レーダーセンサーの向きがずれているとき
- 大きくハンドルをきるなどにより、障害物が前方に突然出現したとき

■システムの自動解除

システムの異常が検知された場合、センサーが障害物を検知できない状況（センサーの汚れなど）では、システムの動作が自動的に解除されます。このような場合には、衝突の可能性があってもシステムは有効に作動しません。

■システムに異常があるとき

警告灯や警告表示が点灯または点滅します。（→ P. 328, 333）

⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
  プリクラッシュセーフティシステムを日常のブレーキ操作の代わりには絶対に使用しないでください。本システムはあらゆる状況で衝突を回避または軽減するものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 本システムは衝突の回避を支援、あるいは衝突の被害を軽減することを目的として設計していますが、その効果は様々な条件※によりかわります。そのため、常に同じ性能が発揮できるものでありません。また、プリクラッシュブレーキは運転者の操作状態によっては作動しません。運転者がブレーキペダルを踏んでいたり、ハンドルを操作していると、その操作状態によっては運転者の回避操作と判断され、自動ブレーキが作動しない場合があります。

  ※ システムの作動条件（→ P. 207）、センサーが検知しない場合・システムの作動しない環境（→ P. 208）

■レーダーセンサーの取り扱い

プリクラッシュセーフティシステムが効果を発揮できるように次のことをお守りください。お守りいただかないと、センサーが正しく作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- センサーとグリルカバーは常にきれいにしておく
  お手入れをする際は、センサーやグリルカバーを傷付けないよう、やわらかい布を使ってください。
- センサー周辺への強い衝撃を避ける
  センサーの位置がずれると、システムに誤作動または異常が起こるおそれがあります。センサー、または周辺に強い衝撃を受けた際は、必ずトヨタ販売店にて点検を受け、調整してください。
- センサーを分解しない
- センサーやグリルカバー周辺にアクセサリーを付けたり、ステッカーを貼ったりしない
- センサーやグリルカバーを改造したり塗装したりしない
- レーダーセンサーの交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください
- センサーは電波法の基準に適合しています。センサーに貼り付けられているラベルはその証明ですのではがさないでください。また、センサーを分解・改造すると罰せられることがあります。

⚠ 警告

■システムの支援内容に関する注意点

プリクラッシュセーフティシステムは、警報やブレーキ制御により衝突回避支援を行うために、運転者が「見る」・「判断する」・「操作する」過程で、支援を行います。システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●運転者が見る過程での支援内容
プリクラッシュセーフティシステムは、前方の障害物を可能な範囲で検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容するシステムでも、視界不良時の運転を補助するシステムでもありません。運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

●運転者が判断する過程での支援内容
プリクラッシュセーフティシステムは、検知しうる前方の障害物の情報のみから衝突の可能性を判断するものです。安全の確保の判断は運転者自らが行う必要があります。

●運転者が操作する過程での支援内容
プリクラッシュセーフティシステムの制動制御は、衝突が避けられないと判断した段階で作動するもので、運転者の適切な操作なしに衝突を回避したり、安全に停止させるものではありません。このため、危険性があれば自らが安全を確保する必要があります。

後方プリクラッシュセーフティシステム★

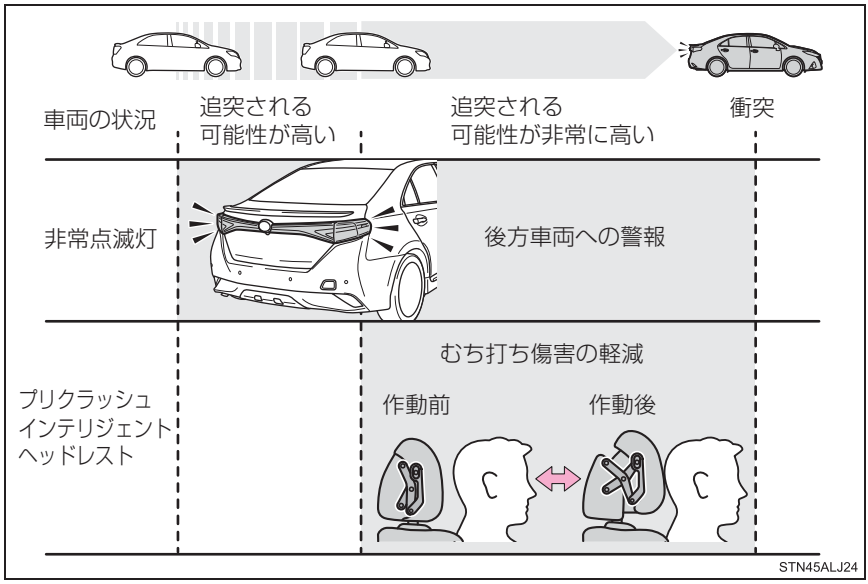
追突を予測して、後方車両への注意喚起とむち打ち傷害の軽減に貢献するためのシステムです。

◆ 後方車両への警報（非常点滅灯）

追突の可能性があると判断したときに非常点滅灯を作動させ、後方車両に注意をうながします。

◆ むち打ち傷害の軽減（プリクラッシュインテリジェントヘッドレスト）

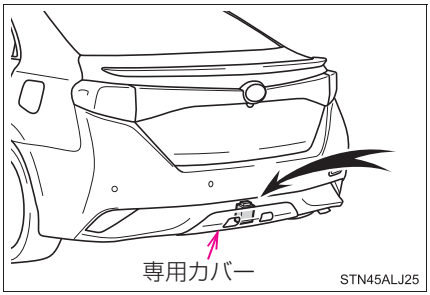
後方車両が接近し、追突される可能性が非常に高いと判断したときにフロントヘッドレスト内のセンサーにより頭部位置を検出し、追突前にプリクラッシュインテリジェントヘッドレストを適切な位置まで移動させ、追突された際のむち打ち傷害の軽減に貢献します。



★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

レーダーセンサー

レーダーセンサーにより、後方から接近するものを検知し、その位置や速度、進路から追突する可能性を事前に判断します。



知識

■システムの作動条件

パワースイッチが ON モードで、自車線内の後方車両が追突する可能性があるときに次の条件で作動します。

●後方車両への警報（非常点滅灯）

・自車から見た後方車両の接近速度が約 15 km/h 以上
・停止時または前進時でブレーキを踏んでいる
・方向指示灯や非常点滅灯が OFF

●むち打ち傷害の軽減

・自車から見た後方車両の接近速度が約 15 km/h 以上
・停止または前進している

■むち打ち傷害軽減システムについて

帽子をかぶっていたり、髪をうしろで束ねたりしているとき、プリクラッシュインテリジェントヘッドレストが適切な位置に停止できない場合があります。

■センサーが検知しにくい場合

後方プリクラッシュセーフティシステムは、すべての追突を検知できるシステムではありません。次のときは作動しない場合がありますので、周辺への注意を怠らないでください。

●車両姿勢が極端に変化しているとき

●二輪車などは検知しないことがあります

●雨滴・氷雪がリヤバンパーに付着したとき

●カーブや起伏の大きな道路のとき

●斜めからの追突やオフセットの大きな追突のとき

■追突の可能性がなくてもシステムが作動するとき

●右左折などで停車したときなどに、自車の真うしろを後続車が通過したとき

●道路脇に停車したときなどに、後続車が真横を通過したとき

●走行時、後続車が近距離から追い越したとき

●走行時または停車時、後続車が近距離まで急接近したとき

■システムに異常があるときは

警告灯や警告表示が点灯または点滅します（→P. 328, 333）

⚠ 警告

■レーダーセンサーと専用カバーの取り扱い

後方プリクラッシュセーフティシステム装着車の専用カバーはレーダーセンサーの電波透過性に影響します。システムが効果を発揮できるように次のことをお守りください。

●専用カバーは常にきれいにしておく
雨滴・氷雪などによって性能が低下することがあります。

●レーダーセンサー周辺では強い衝撃を避ける
センサーの位置がずれると、システムに異常が起こるおそれがあります。センサーまたはその周辺に強い衝撃を受けた際は、必ずトヨタ販売店にて点検を受け、修理してください。

●センサーを分解しない

●センサーは電波法の基準に適合しています。センサーに貼り付けられているラベルはその証明ですのではがさないでください。また、センサーを分解・改造すると罰せられることがあります。

●専用カバー中央部にトーイングヒッチやバイクホルダーを付けたり、保護フィルムやステッカーを貼ったりしない

●専用カバーの改造や別のものに交換しない

●専用カバーの塗装修理は絶対行わないでください。誤作動、不作動の原因となります。

●専用カバーが傷ついた場合、塗装修理は行わず、専用カバーを交換してください。交換については、トヨタ販売店に相談してください。

■プリクラッシュインテリジェントヘッドレストの取り扱い

ヘッドレストカバーは付けないでください。

ハイブリッド車運転のアドバイス

環境に配慮した経済的な運転のためには、次のことを心がけてください。

◆ エコドライブモードの利用

エコドライブモードを使用すると、通常にくらべてアクセルペダルの踏み込みに対するトルクの発生がゆるやかになります。また、エアコン(暖房／冷房)の作動を抑え、燃費向上につながります。(→ P. 158)

◆ ハイブリッドシステムインジケーターの利用

メーター内のハイブリッドシステムインジケーターの表示をエコエリアの範囲に保つことで、環境に配慮した走行が可能です。(→ P. 78)

◆ 減速時のブレーキ操作

減速時は、早めに、ゆるやかなブレーキ操作を行いましょう。
減速時に発生する電気エネルギーをより多く回収することができます。

◆ 渋滞

加速・減速のくり返しや、長い信号待ちは燃費を悪化させます。お出かけ前に交通情報を確認するなどして、なるべく渋滞を回避するようにしましょう。また渋滞の際は、ブレーキペダルをゆるめて微前進し、アクセルペダルをあまり踏まないようにしましょう。余分なガソリン消費を抑えることができます。

◆ 高速道路での運転

速度を抑え、一定速度で走行しましょう。また、料金所手前では早めにアクセルペダルをもどし、ゆるやかなブレーキ操作を行いましょう。
減速時に発生する電気エネルギーをより多く回収することができます。

◆ エアコンの ON ／ OFF

必要時以外は OFF にしましょう。余分なガソリン消費を抑えることができます。

夏季：
外気温が高いときは、内気循環モードに設定しましょう。エアコンへの負荷が減り燃費向上につながります。

冬季：
ガソリンエンジン・車室内が暖まるまで、ガソリンエンジンが自動停止しないので、燃料を消費します。また、過剰な暖房を避けると、燃費向上につながります。

◆ タイヤ空気圧の点検

タイヤ空気圧はこまめに点検しましょう。タイヤ空気圧が適切でないと、燃費の悪化につながります。
また、冬用タイヤは転がり抵抗が大きいため、乾燥した路面では燃費の悪化につながります。季節、道路状況に応じて適切なタイミングでタイヤを交換しましょう。

◆ 荷物

重い荷物が積まれていると、燃費が悪化します。不要な荷物は、積んだままにせずに降ろしましょう。また、大型ルーフキャリアの装着も重い荷物と同様に燃費の悪化につながります。

◆ 走行前の暖機運転

ガソリンエンジンが冷えているときは、ガソリンエンジンの始動／停止を自動的に行いますので、暖機運転は必要ありません。
なお、短距離走行のくり返しは、暖機運転のためのガソリンエンジン始動がひんぱんに行われることになりますので、燃費の悪化につながります。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

冬を迎える前の準備

- 次のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。
  - ・エンジンオイル
  - ・冷却水
  - ・ウォッシャー液
- 補機バッテリーの点検を受けてください。
- 冬用タイヤ（4 輪）やタイヤチェーン（前部タイヤ用）を使用してください。

  タイヤは 4 輪とも同一サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを使用してください。
  （タイヤについて：→ P. 287）

運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

- ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を溶かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。
- フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。
- 外装ランプ・車両の屋根・タイヤの周辺やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。
- 乗車する前に靴底に付いた雪をよく落としてください。

運転するとき

ゆっくりスタートし、車間距離を十分にとって控えめな速度で走行してください。

駐車するとき

パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトポジションを P にして駐車し、輪止め※をしてください。

※ 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

知識

■タイヤチェーンについて

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については次の指示に従ってください。

- 安全に作業できる場所で行う
- 前 2 輪に取り付ける
- タイヤチェーンに付属の取扱説明書に従う
- 取り付け後約 0.5 ～ 1.0km 走行したら締め直しを行う

■寒冷地用ワイパーブレードについて

- 降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。トヨタ販売店で各車指定のブレードをお求めください。
- 高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなることがあります。その場合には速度を落としてください。

⚠ 警告

■冬用タイヤ装着時の警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- 指定サイズのタイヤを使用する
- 空気圧を推奨値に調整する
- 装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない
- 冬用タイヤを装着する際は、必ず 4 輪とも装着する

⚠ 警告

■タイヤチェーン装着時の警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 50km/h（一般路）または 30km/h（氷雪路）をこえる速度で走行しない
- 路面の凹凸や穴を避ける
- 急加速・急ハンドル・急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避ける
- カーブの入り口手前で十分減速して、車のコントロールを失うのを防ぐ
- LKA（レーンキーピングアシスト）★を使用しない

■駐車時の警告

パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、必ず輪止めをしてください。
輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■タイヤチェーンの使用について

トヨタ純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。
トヨタ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると、車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。
詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

■ガラスに付いた氷を除去するとき（フロントウインドウガラス・フロントドアガラス）

たたいて割らないでください。
ガラス外側に傷がつかなくてもガラスの内側（車内側）が割れるおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

室内装備・機能 5

5-1. エアコンの使い方

オートエアコン（リモートタッチ非装着車）.....220

オートエアコン（リモートタッチ装着車）.....228

ステアリングスイッチ／助手席ドアパネルスイッチでの操作.....239

シートヒーター（快適温熱シート）.....240

5-2. 室内灯のつけ方

室内灯一覧.....242

・インテリアランプ.....243

・パーソナルランプ.....243

5-3. 収納装備

収納装備一覧.....245

・グローブボックス.....246

・コンソールボックス.....246

・カップホルダー.....247

・ボトルホルダー.....251

・小物入れ.....252

・オープントレイ.....253

トランク内装備.....254

5-4. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備.....256

・サンバイザー.....256

・バニティミラー.....256

・時計.....257

・リヤアームレスト.....257

・電動リヤサンシェード.....258

・コートフック.....260

・アシストグリップ.....261

・アクセサリーソケット.....262

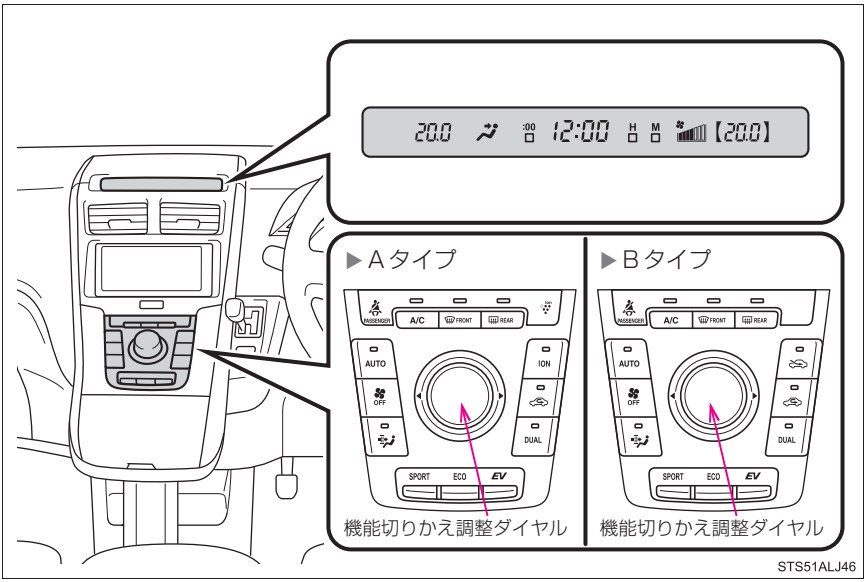
アクセサリーコンセント.....263

ステアリングスイッチ.....269

オートエアコン（リモートタッチ非装着車）

設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

エアコン操作スイッチについて



A タイプ：プラズマクラスター®（高濃度タイプ）装着車

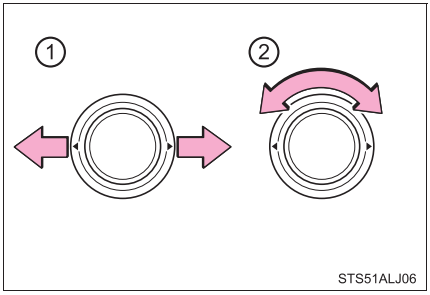
B タイプ：プラズマクラスター®（高濃度タイプ）非装着車

■ 機能切りかえ調整ダイヤルについて

を操作することにより、温度設定、風量および吹き出し口の選択と調整ができます。

① 機能の切りかえ

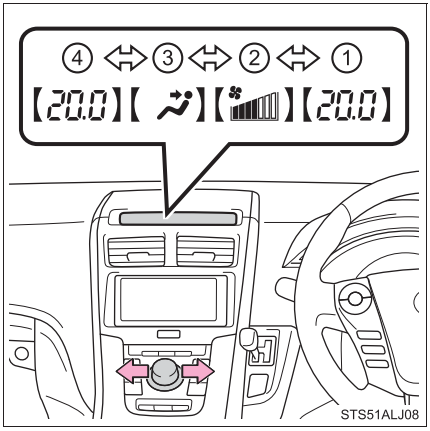
② 調整



1 を左右にスライドさせて機能を選択する

選択した機能が【 】で囲まれます。

① 設定温度（運転席側）
② 風量
③ 吹き出し口
④ 設定温度（助手席側）



2 をまわして設定を変更する

■ **温度を調整する**

1 を左右にスライドさせ、設定温度（【20.0】）を選択する

2 温度を上げるときは を右にまわし、下げるときは左にまわす

ステアリングスイッチ／助手席ドアパネルスイッチでも温度を調整できます。（→ P. 239）

■ **風量を切りかえる**

1 をスライドさせ、風量表示（【 】）を選択する

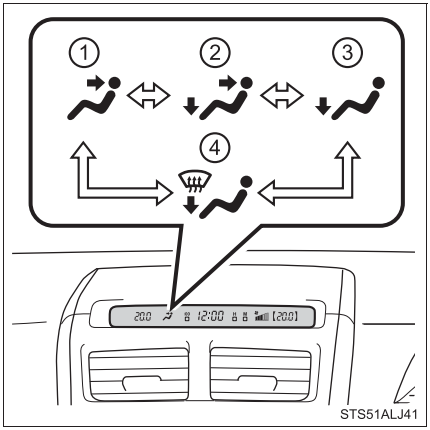
2 風量を増やすときは を右にまわし、減らすときは左にまわす

■ 吹き出し口を切りかえる

1 をスライドさせ、吹き出し口表示（【 】）を選択する

2 を右、または左にまわす

① 上半身に送風
② 上半身と足元に送風
③ 足元に送風
④ 足元に送風・ガラスの曇りを取る



■ その他の機能

- 内気循環／外気導入を切りかえる (→ P. 223)
- フロントウインドウガラスの曇りを取る (→ P. 224)
- リヤウインドウの曇りやミラーの霜をとる (→ P. 224)

オート設定で使用する

1 AUTO を押す

2 温度を設定する

3 ファンをとめたいときは、OFF を押す

■ オート設定時の作動表示灯について

風量や吹き出し口を切りかえると、AUTO スイッチの作動表示灯が消灯しますが、操作した機能以外のオート設定は継続します。

■ **運転席と助手席の設定温度を設定する**

▶ 左右独立モード

運転席側と助手席側の設定温度を独立してかえることができます。

● 助手席側の設定温度を変更する

左右独立モード時は の作動表示灯が点灯します。

▶ 連動モード

運転席側と助手席側の設定温度を同じにします。(助手席側の設定温度が運転席側と同じになります)

● を押す

連動モード時は の作動表示灯が消灯します。

その他の機能

■ **内気循環／外気導入を切りかえるには**

▶ プラズマクラスター®（高濃度タイプ）装着車

を押す

内気循環のときは作動表示灯が点灯します。

▶ プラズマクラスター®（高濃度タイプ）非装着車

または を押す

選択されている方の作動表示灯が点灯します。

■ **花粉除去機能を使用するには**

を押す

内気循環に切りかわり、上半身に送風して花粉を除去します。

外気温が低いときは、フロントウインドウガラスの曇りを防止するために除湿機能が作動する場合があります。

花粉除去モードが OFF のときも花粉はフィルターで取り除かれています。

■ プラズマクラスター®（高濃度タイプ）★を使用するには

プラズマクラスター® イオンにより、車室内を清潔に保ちつつ、自然に近いイオンバランスに整えます。

ION を押す

スイッチの表示灯が点灯します。

プラズマクラスター® はエアコン送風時に作動します。

小さな作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

※ プラズマクラスター、プラズマクラスターイオンおよび Plasmacluster はシャープ株式会社の商標です。

■ フロントウインドウガラスの曇りをとるには

FRONT を押す

「A/C」が ON になり、風量が増えます。内気循環にしている場合は、外気導入にしてください。（自動的に外気導入に切りかわることがあります。）

曇りが取れたら再度 FRONT を押すと前のモードにもどります。風量を強くし、設定温度を上げると、より早く曇りを取ることができます。

■ リヤウインドウデフォッガー & ミラーヒーター★

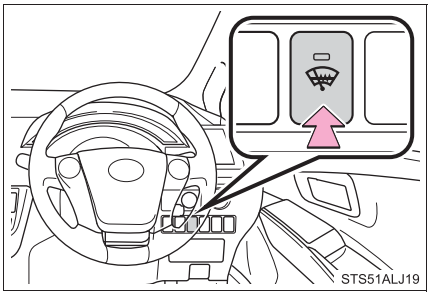
リヤウインドウの曇りを取るときや、ドアミラーから雨滴や霜を取るときに使用ください。

REAR を押す

リヤウインドウデフォッガーおよびミラーヒーターは、しばらくすると自動的に OFF になります。

■ フロントワイパーデアイサー★

フロントウインドウガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐために使用ください。



を押す

フロントワイパーデアイサーが ON のとき、スイッチの作動表示灯が点灯します。

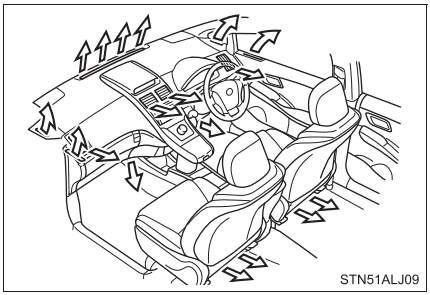
フロントワイパーデアイサーは、しばらくすると自動的に OFF になります。

★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

吹き出し口について

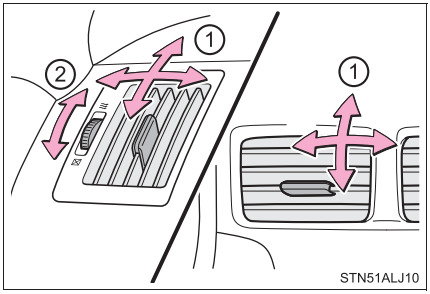
■ 吹き出し口の位置

吹き出し口の切りかえ設定により、風が出る位置や風量が変化します。(→ P. 222)



■ 風向きの調整と吹き出し口の開閉

① 風向きの調整
② 吹き出し口の開閉



知識

■オート設定の作動について

風量は温度設定と外気の状態により自動で調整されるため、AUTO を押した直後、温風や冷風の準備ができるまでしばらく送風が停止する場合があります。

■ガラスの曇りについて

●車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。その場合は、A/C を ON にすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取ることができます。

● A/C を ON から OFF にすると、ガラスが曇りやすくなります。

●内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■外気導入・内気循環について

●トンネルや渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、外気温度が高いときに冷房効果を高めたい場合は、内気循環にすると効果的です。

●設定温度や室内温度などにより、自動的に切りかわる場合があります。

■エコドライブモードのエアコン作動について

エコドライブモードは暖房／冷房の作動や風量を抑制して、燃費向上を図っています。
空調の効きをより良くしたい時は、風量の調整、又はエコドライブモードの解除をしてください。

■換気とエアコンの臭いについて

●車室外の空気を車室内に取り入れたいときは、外気導入にしてください。

●エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

■エアコンフィルターについて

→ P. 293

■設定可能な機能

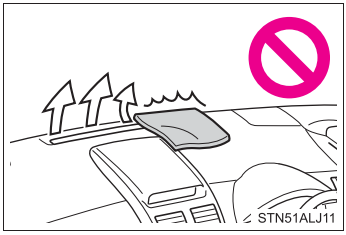
AUTO スイッチを押したとき、A/C（エアコン）が連動して ON になる機能などの設定ができます。
（カスタマイズ一覧→ P. 400）

⚠ 警告

■フロントウインドウガラスの曇りを防止するために

●外気の湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、FRONT を押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。

●フロントウインドウガラスの曇り取りをさまたげないために、吹き出し口を遮るようなものを置かないでください。送風が遮られ、曇りが取れにくくなることがあります。



■リヤウインドウデフォッガー＆ミラーヒーター★／フロントワイパーデアイサー★作動中の警告

●ドアミラーの表面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

●フロントウインドウガラス下部およびフロントピラー横の表面が熱くなっており、やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

■プラズマクラスター®（高濃度タイプ）★について

このシステムは高電圧の部品を含むため、分解・修理はしないでください。修理が必要な場合は、トヨタ販売店にお問い合わせください。

⚠ 注意

■プラズマクラスター®（高濃度タイプ）★の損傷を防ぐために

運転席側の吹き出し口の近くでスプレーを使用したり、吹き出し口にものをはめ込んだり貼ったりしないでください。システムが正常に働かなくなるおそれがあります。

■補機バッテリーあがりを防ぐために

ハイブリッドシステム停止中は、エアコンを必要以上に使用しないでください。

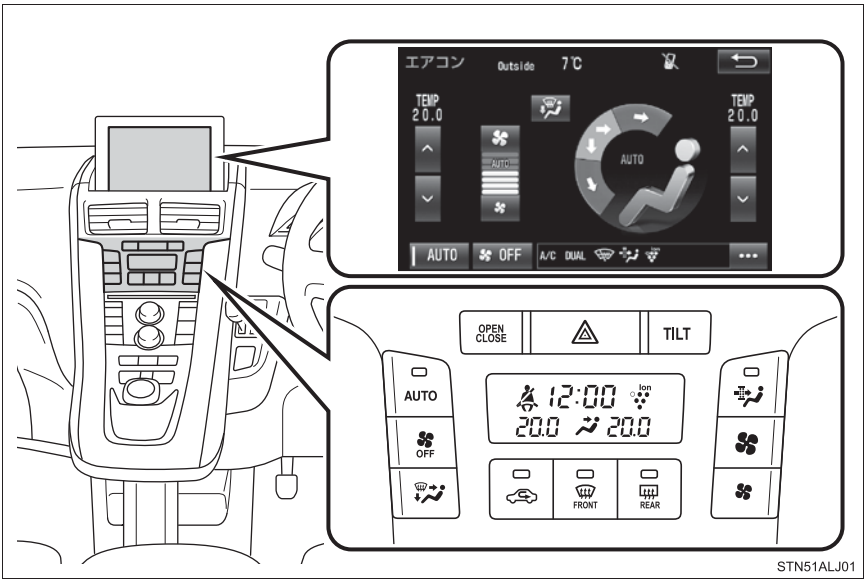
★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

オートエアコン（リモートタッチ装着車）

設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

リモートタッチのメニュースイッチを押して、“エアコン”を選択するとエアコン操作画面が表示されます。（→ P. 232）

エアコン操作スイッチについて



■ 温度を調整する

エアコン操作画面、TEMP スイッチ（運転席側／助手席側）の∧（高）または ∨（低）を押す

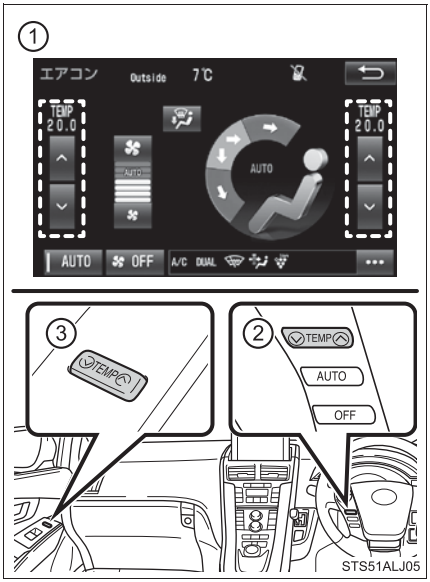
① エアコン操作画面(→P. 233)

助手席側を操作すると助手席側の温度を調整することができます。（→ P. 231）

② TEMP スイッチ（運転席側）

③ TEMP スイッチ（助手席側）

助手席側の温度を調整することができます。（→ P. 231）

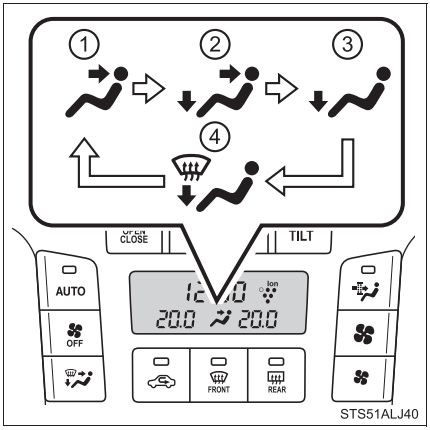


■ 風量を切りかえる

風量を増やすには：[ ] を押す

風量を減らすには：[ ] を押す

■ 吹き出し口を切りかえる



を押す

押すたびに吹き出し口が切りかわります。

① 上半身に送風

② 上半身と足元に送風

③ 足元に送風

④ 足元に送風・ガラスの曇りを取る

■ その他の機能

- 内気循環／外気導入を切りかえる (→ P. 231)
- フロントウインドウガラスの曇りを取る (→ P. 231)
- リヤウインドウの曇りやミラーの霜をとる (→ P. 232)

オート設定で使用する

1 を押す

2 温度を設定する

3 ファンをとめたいときは、 を押す

■ オート設定時の作動表示灯について

風量や吹き出し口を切りかえると、AUTO スイッチの作動表示灯が消灯しますが、操作した機能以外のオート設定（セミオート）は継続します。

■ 運転席と助手席の設定温度を設定する

▶ 左右独立モード

運転席側と助手席側の設定温度を独立してかえることができます。

● 助手席側の設定温度を変更する

エアコン操作画面のときは「DUAL」が表示されます。

▶ 連動モード

運転席側と助手席側の設定温度を同じにします。(助手席側の設定温度が運転席側と同じになります)

● オプション操作画面の「DUAL」を解除する (→ P. 234)

その他の機能

■ 内気循環／外気導入を切りかえるには

エアコン操作スイッチの を押す

内気循環のときは作動表示灯が点灯します。

■ 花粉除去機能を使用するには

を押す

花粉除去モードが ON のとき、作動表示灯が点灯します。

内気循環に切りかわり、上半身に送風して花粉を除去します。

外気温が低いときは、フロントウインドウガラスの曇りを防止するために除湿機能が作動する場合があります。

花粉除去モードが OFF のときも花粉はフィルターで取り除かれています。

■ フロントウインドウガラスの曇りをとるには

を押す

「A/C」が ON になり、風量が増えます。内気循環にしている場合は、外気導入にしてください。(自動的に外気導入に切りかわることがあります。)

風量を強くし、設定温度を上げると、より早く曇りを取ることができます。

曇りが取れたら再度

を押すと前のモードにもどります。

■ リヤウインドウデフォッガー & ミラーヒーター★

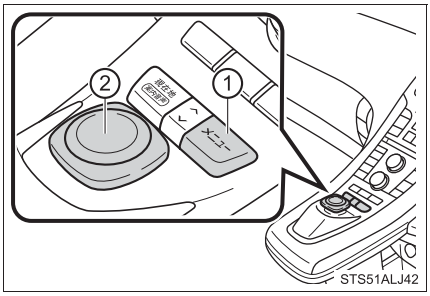
リヤウインドウの曇りを取るときや、ドアミラーから雨滴や霜を取るときに使用ください。

を押す

リヤウインドウデフォッガーおよびミラーヒーターは、しばらくすると自動的に OFF になります。

リモートタッチについて

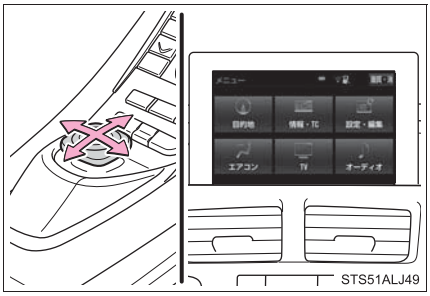
① メニュースイッチ
② リモートタッチノブ



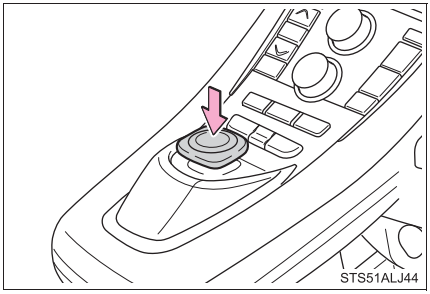
■ リモートタッチノブの操作

1 リモートタッチノブを操作して、カーソルをスイッチに合わせる。

カーソルは、リモートタッチノブを 6 秒間操作がない場合、消えます。



2 リモートタッチノブを押して決定します。



★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

エアコン操作画面について

■ ナビゲーション画面表示

1 リモートタッチのメニュースイッチを押しメニュー画面を表示させる

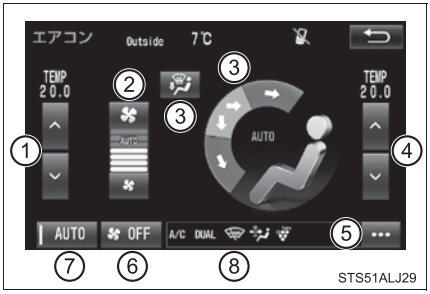
2 「エアコン」を選択する

STS51ALJ50

■ エアコン操作画面

リモートタッチノブを操作して画面上のスイッチを選択し、リモートタッチノブを押して決定します。

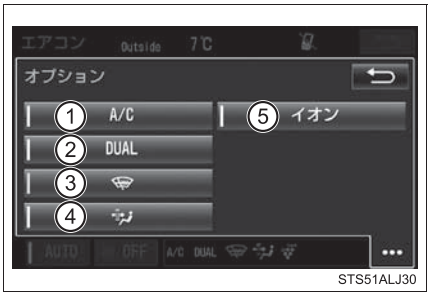
① 助手席側の温度を調整する
② 風量を切りかえる
③ 吹き出し口を切りかえる
④ 運転席側の温度を調整する
⑤ オプション操作画面を表示する (→ P. 234)
⑥ ファンを停止する
⑦ オート設定で使用する (→ P. 230)
⑧ オプション操作画面で ON になっている機能の表示



STS51ALJ29

■ **オプション操作画面**

各機能の ON/OFF を切りかえることができます。



STS51ALJ30

① A/C

エアコンの ON・OFF を切りかえます。

② DUAL

運転席側と助手席側の温度設定を左右独立モード／連動モードに切りかえる (→P. 231)

③ フロントワイパーデアイサー★

フロントウインドウガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐために使用ください。

フロントワイパーデアイサーは、しばらくすると自動的に OFF になります。

④ 花粉除去機能 (→P. 231)

⑤ プラズマクラスター®（高濃度タイプ）★

「イオン」発生装置が作動します。(→P. 236)

・「イオン」が ON のときは、プラズマクラスター® 作動表示灯（ ）が点灯します。

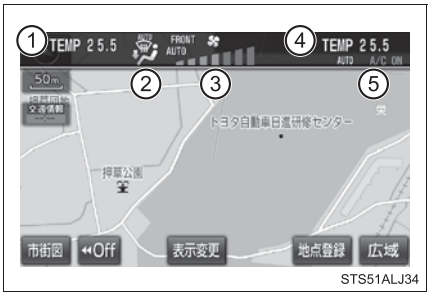
・プラズマクラスター® はエアコン送風時に作動します。

オプション操作画面で ON になっている機能はエアコン操作画面に表示されます。

★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

■ ポップアップ表示画面について

エアコン操作時にエアコンの状態を表示します。



STS51ALJ34

① 設定温度（助手席側）

② 吹き出し口

吹き出し口がセミオート時は「AUTO」が表示されます。

③ 風量

風量がセミオート時は「AUTO」が表示されます。

④ 設定温度（運転席側）

⑤ A/C の状態

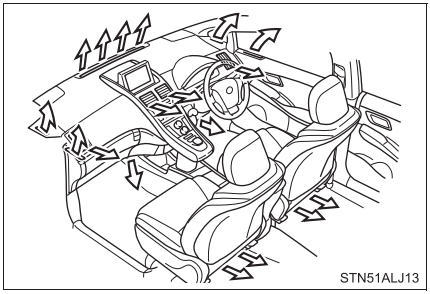
ON のときは、「A/C ON」が表示されます。

フルオート設定時は「AUTO」が表示されます。

吹き出し口について

■ 吹き出し口の位置

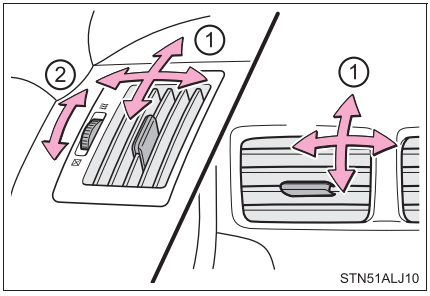
吹き出し口の切りかえ設定により、風が出る位置や風量が変化します。（→ P. 230）


STN51ALJ13

■ 風向きの調整と吹き出し口の開閉

① 風向きの調整

② 吹き出し口の開閉



STN51ALJ10

知識

■オート設定の作動について

風量は温度設定と外気の状態により自動で調整されるため、

を押した直後、温風や冷風の準備ができるまでしばらく送風が停止する場合があります。

■ガラスの曇りについて

- 車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。その場合はオプション画面で、「A/C」を ON にすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取ることができます。（→ P. 234）
- 「A/C」を ON から OFF にすると、ガラスが曇りやすくなります。
- 内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■外気導入・内気循環について

- トンネルや渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、外気温度が高いときに冷房効果を高めたい場合は、内気循環にすると効果的です。
- 設定温度や室内温度などにより、自動的に切りかわる場合があります。

■エコドライブモードのエアコン作動について

エコドライブモードは暖房／冷房の作動や風量を抑制して、燃費向上を図っています。
空調の効きを良くしたいときは、風量の調整、又はエコドライブモードの解除をしてください。

■プラズマクラスター®（高濃度タイプ）★※について

エアコンには「イオン」発生装置が搭載されています。プラズマクラスター® イオンを発生させることにより、車室内を清潔に保ちつつ快適性を向上させます。

小さな作動音が聞こえることがありますが異常ではありません。

※ プラズマクラスター、プラズマクラスターイオンおよび Plasmacluster は、シャープ株式会社の商標です。

■換気とエアコンの臭いについて

- 車室外の空気を車室内に取り入れたいときは、外気導入にしてください。
- エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

■エアコンフィルターについて

→ P. 293

■設定可能な機能

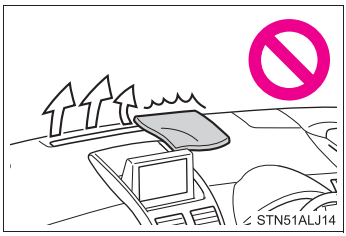
AUTO スイッチを押したとき、A/C（エアコン）が連動して ON になる機能などの設定ができます。
（カスタマイズ一覧→ P. 400）

⚠ 警告

■フロントウインドウガラスの曇りを防止するために

- 外気の湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、

を押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。
- フロントウインドウガラスの曇り取りをさまたげないために、吹き出し口を遮るようなものを置かないでください。送風が遮られ、曇りが取れにくくなることがあります。



■リヤウインドウデフォッガー＆ミラーヒーター★／フロントワイパーデアイサー★作動中の警告

- ドアミラーの表面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。
- フロントウインドウガラス下部およびフロントピラー横の表面が熱くなっており、やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

■プラズマクラスター®（高濃度タイプ）★について

このシステムは高電圧の部品を含むため、分解・修理はしないでください。修理が必要な場合は、トヨタ販売店にお問い合わせください。

■リモートタッチについて

- リモートタッチノブに指を挟んだり髪の毛を引っかけるなどして、思わぬけがをするおそれがあります。
- 環境によってリモートタッチが熱くなる、または冷たくなり、持てなくなることがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

⚠ 注意

■ プラズマクラスター®（高濃度タイプ）★の損傷を防ぐために

運転席側の吹き出し口の近くでスプレーを使用したり、吹き出し口にものをはめ込んだり貼ったりしないでください。システムが正常に働かなくなるおそれがあります。

■ 補機バッテリーあがりを防ぐために

ハイブリッドシステム停止中は、エアコンを必要以上に使用しないでください。

■ リモートタッチの取り扱い

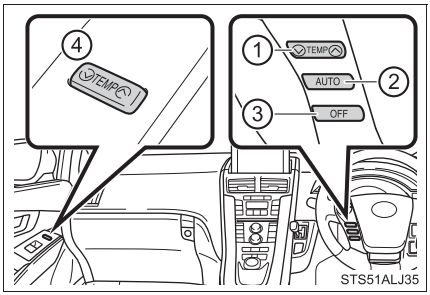
- リモートタッチの上に乗ったり、物を上に置かないでください。故障の原因になります。
- リモートタッチに飲料水や雨水などをかけないでください。変色したり漏電の原因になります。
- 低温時は、リモートタッチノブの動きが遅くなることがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

ステアリングスイッチ／助手席ドアパネルスイッチでの操作

次の機能はステアリングスイッチで操作することができます。

① TEMP スイッチ（運転席側）
② AUTO スイッチ
③ OFF スイッチ
④ TEMP スイッチ（助手席側）



設定温度をかえる

温度を上げるときは TEMP スイッチの∧（高）側を、下げるときは∨（低）側を押す

助手席側の TEMP スイッチを操作すると左右独立モードになります。
（→ P. 223, 231）

オート設定にする

AUTO スイッチを押す

A/C が作動し、吹き出し口と風量が自動的に調整されます。（→ P. 222, 230）

ファンをとめる

OFF スイッチを押す

⚠ 警告

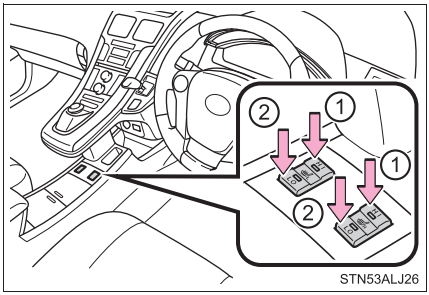
■事故を防ぐために

運転中にステアリングスイッチを操作するときは、十分注意してください。

シートヒーター（快適温熱シート）★

① HI（強）
インジケーターが点灯します。

② LO（弱）
インジケーターが点灯します。



知識

■作動条件

パワースイッチが ON モードのとき

■使用しないときは

スイッチを中立の位置にしてください。インジケーターが消灯します。

⚠ 警告

■やけどについて

- 低温やけどを負うおそれがあるため、次の方は特にご注意ください。
  - ・乳幼児・お子さま・お年寄り・病人・体の不自由な方
  - ・皮膚の弱い方
  - ・疲労の激しい方
  - ・深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬・風邪薬など）を服用された方
- シートに毛布・クッションなどを使用しないでください。
  シートヒーターの使用により保温性が高まり、異常過熱の原因になります。
- シートヒーターを必要以上に使用しないでください。
  低温やけどを負ったり、シートヒーターの異常過熱の原因になるおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

⚠ 注意

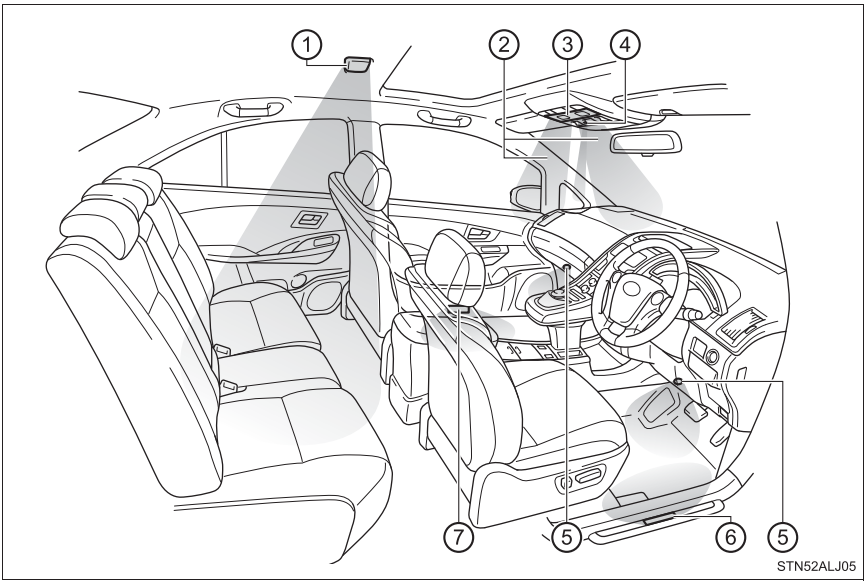
■ シートヒーターの故障を防ぐために

凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。

■ 補機バッテリーあがりを防ぐために

ハイブリッドシステムが停止しているときは、シートヒーターを使用しないでください。

室内灯一覧



① リヤインテリアランプ
（→ P. 243）

② パーソナルランプ
（→ P. 243）

③ フロントインテリアランプ
（→ P. 243）

④ リモートタッチ照明（パワースイッチがアクセサリーモードまたは ON モードのとき点灯）

⑤ 足元照明(パワースイッチがONモードのときも点灯します)

⑥ スカッフプレート照明★

⑦ ドアカーテシランプ

★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

インテリアランプ

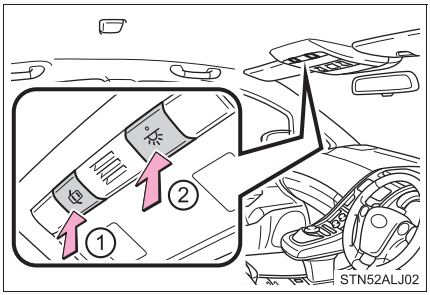
▶ フロント

① ドアの開閉作動に連動してランプの点灯・消灯を切りかえる

スイッチを押して、押し込まれた状態になると消灯になります。

② ランプの点灯・消灯を切りかえる

スイッチを押して、押し込まれた状態になると点灯になります。

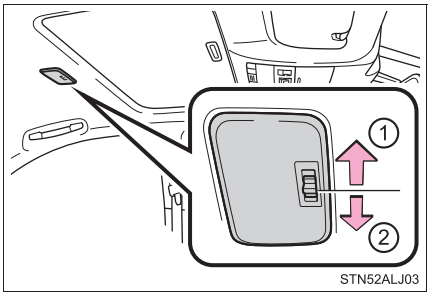


▶ リヤ

① ランプを点灯する

② ドアの開閉作動に連動してランプの点灯・消灯を切りかえる

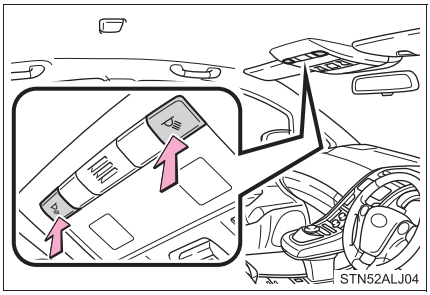
フロントインテリアランプがドア開閉作動に連動しているとき作動します。



パーソナルランプ

ランプを点灯・消灯する

スイッチを押して、押し込まれた状態になると点灯になります。



知識

■イルミネーテッドエントリーシステム

電子キーの検知・ドアの施錠／解錠・ドアの開閉・パワースイッチのモードにより、各部の照明が自動的に点灯・消灯します。

■補機バッテリーあがりを防ぐために

パワースイッチが OFF の場合、次の室内灯が点灯したままのときは、約 20 分後に自動消灯します。

- フロントインテリアランプ
- リヤインテリアランプ
- パーソナルランプ
- スカッフプレート照明
- ドアカーテシランプ
- バニティミラーランプ
- トランクランプ

■カスタマイズ機能

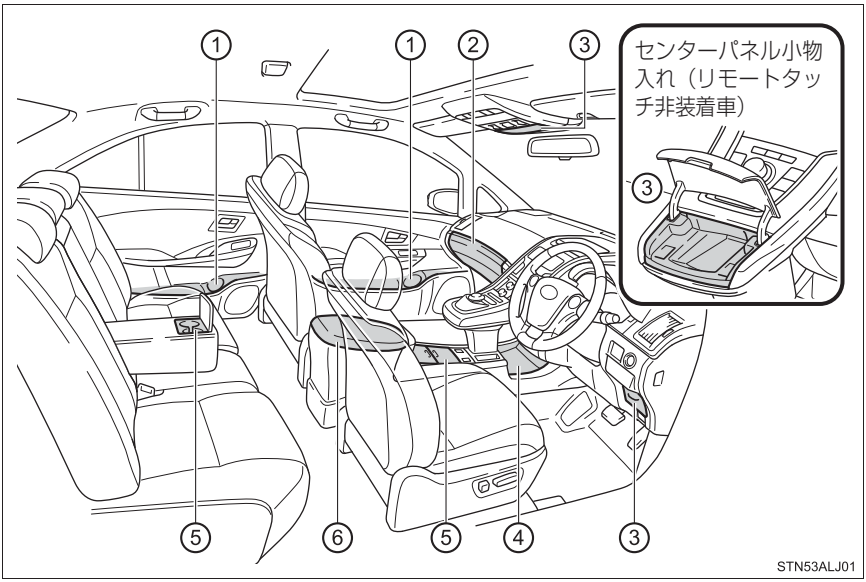
イルミネーテッドエントリーシステムの消灯までの時間などの設定を変更できます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 393）

⚠ 注意

■補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

収納装備一覧



① ボトルホルダー　（→ P. 251）
② グローブボックス（→ P. 246）
③ 小物入れ　（→ P. 252）
④ オープントレイ　（→ P. 253）
⑤ カップホルダー　（→ P. 247）
⑥ コンソールボックス　（→ P. 246）

⚠ 警告

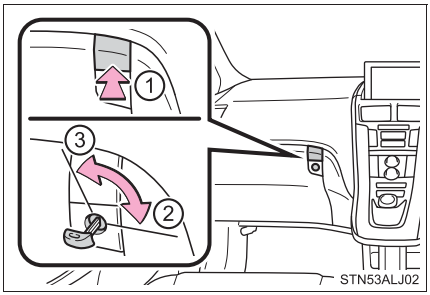
■収納装備に放置してはいけないもの

メガネ・ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。
放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

- 室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす
- 室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる

グローブボックス

① ボタンを押して開ける
② メカニカルキーで施錠
③ メカニカルキーで解錠



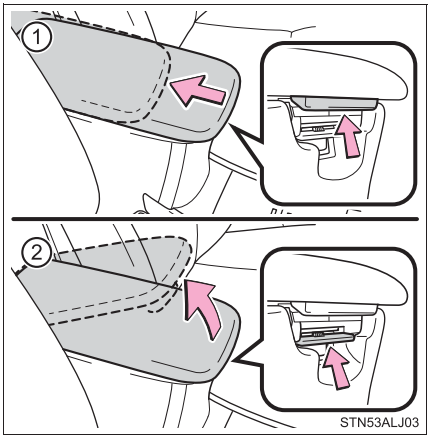
知識

■グローブボックスランプ

車幅灯点灯時は、グローブボックス内のランプが点灯します。

コンソールボックス

① ノブを握ってロックを解除し、アームレストをいちばんうしろまでスライドさせる
② ノブを握ってロックを解除し、開く

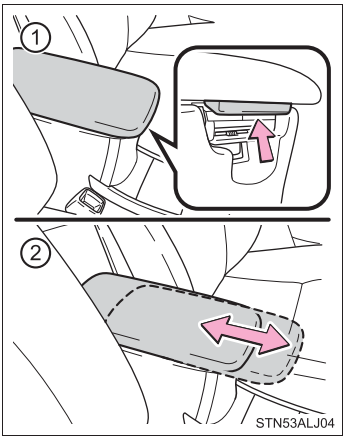


知識

■コンソールボックスのフタをアームレストとして使うときは

① ノブを握ってロック解除

② アームレストをスライドする



⚠ 警告

■走行中の警告

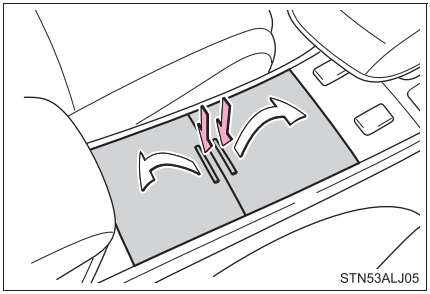
コンソールボックスを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたフタが体にあたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながりけがをするおそれがあります。

カップホルダー

■ カップホルダー（前席用）

使用の用途に合わせてホルダーの深さを変更することができます。

1 カップホルダーのフタを押して開ける

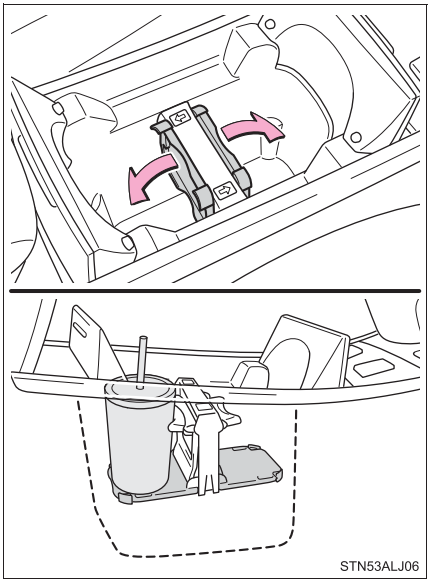


▶ カップや缶を収納する

2 トレイを開いて使用する

トレイを“カチッ”と音がするまで開く

カップの収納について（→ P. 249）



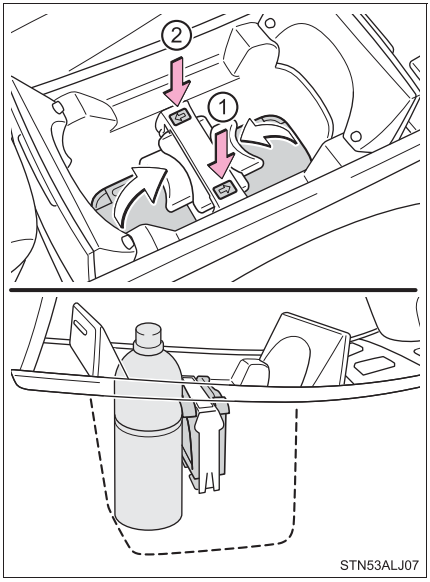
▶ ペットボトルを収納する

2 トレイを閉じて使用する

仕切りのボタンを押す

① 前側

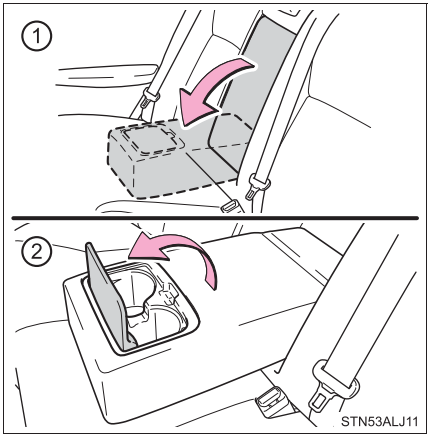
② 後側



■ カップホルダー（後席用）

① リヤアームレストを手前に倒す

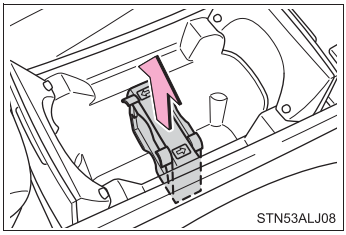
② アームレストのカップホルダーのフタを開ける



知識

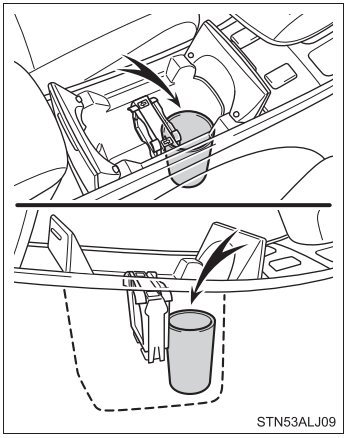
■仕切りの取りはずし（前席用）

カップホルダー内の仕切りは取りはずすことができます。



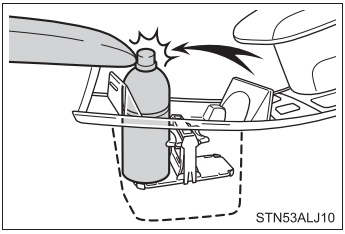
■カップなどを収納するときは（前席用）

カップホルダーの底が深いため、トレイを閉じた状態でカップを収納してしまうと、カップが取り出せなくなることがあります。その場合は仕切りを取り外して、カップを取り出してください。



■ペットボトルを収納するときは（前席用）

トレイを閉じた状態で使用してください。
アームレストをスライドした際に、ペットボトルが引っかかりアームレストの動きをさまたげる場合があります。



⚠ 警告

■収納してはいけないもの

カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。
急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。

■使わないとき

フタを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたカップホルダーのフタが体にあたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながりけがをするおそれがあります。

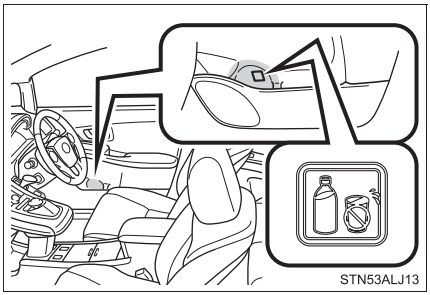
⚠ 注意

■カップホルダーの破損を防ぐために（後席用）

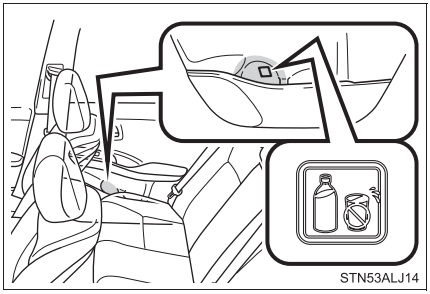
カップホルダーのフタが開いている状態で、リヤアームレストを格納しないでください。

ボトルホルダー

▶ フロントドア



▶ リヤドア



知識

■ボトルホルダーについて

●ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。

●ペットボトルの大きさ・形によっては収納できないことがあります。

⚠ 注意

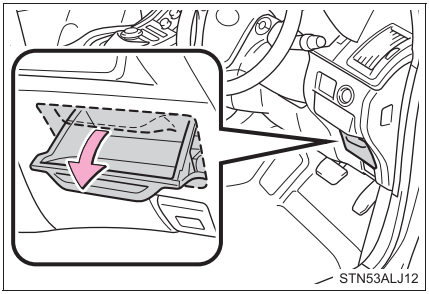
■収納してはいけないもの

ボトルホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップ・ガラス製のコップなどを収納しないでください。ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

小物入れ

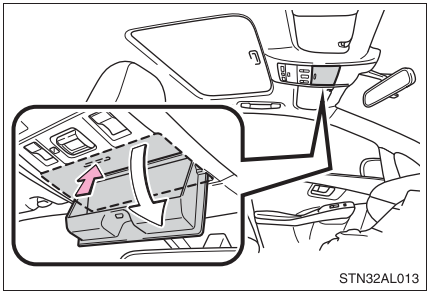
▶ 運転席小物入れ

ツマミを引いて開ける



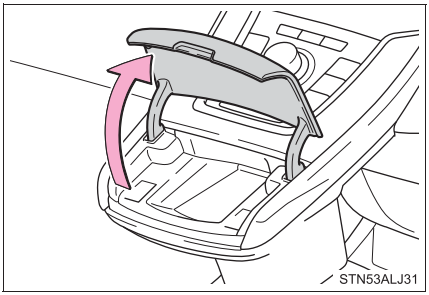
▶ オーバーヘッドコンソール

フタを押して開ける



▶ センターパネル小物入れ（リモートタッチ非装着車）

フタを持ち上げる



⚠ 警告

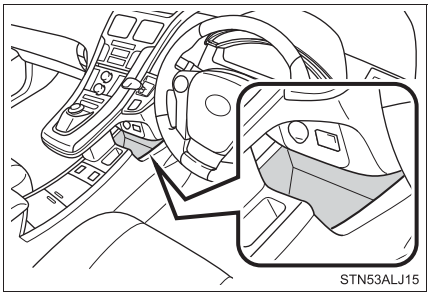
■走行中の警告

小物入れを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたフタが体にあたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながりけがをするおそれがあります。

■収納してはいけないもの（オーバーヘッドコンソールのみ）

200 g 以上のものを入れないでください。200 g 以上のものを入れるとフタが開き収納されているものが飛び出したりして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

オープントレイ



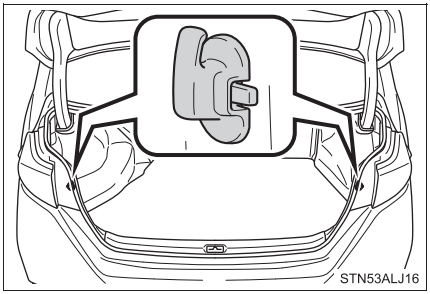
⚠ 警告

■走行中の警告

オープントレイには、転がりやすいものや、凹面からはみ出るようなものを置かないでください。
急ブレーキ時などに収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

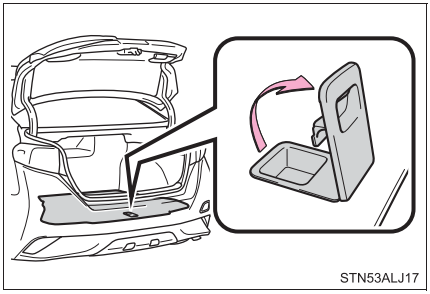
トランク内装備

買い物フック

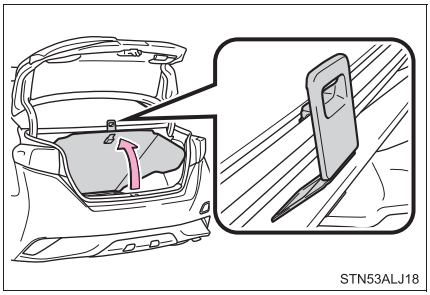


ラゲージマット

1 レバーを上へ引き上げ、ラゲージマットを持ち上げます。

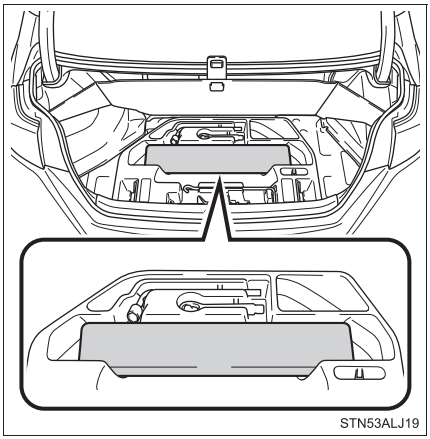


2 レバーはトランクの縁へかけることができます。



三角表示板収納スペース

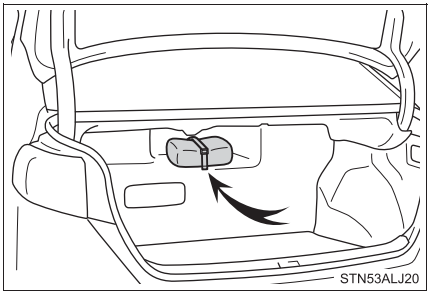
ラゲージマットの下に三角表示板を収納することができます。


STN53ALJ19

固定用バンド

お子様の着がえなどを入れておくポーチやカバン類を固定することができます。

タイヤチェーンなど重いものは収納しないでください。


STN53ALJ20

知識

■三角表示板の収納について

三角表示板のケースの大きさや形状によっては、収納できない場合があります。

注意

■買い物フックの破損を防ぐために

過度の負荷をかけないでください。

■トランクを閉めるとき

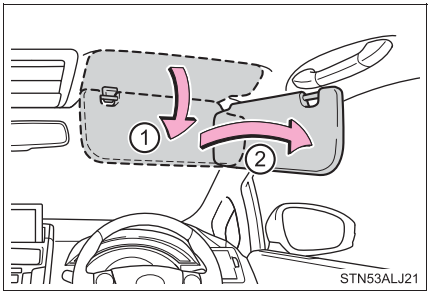
ラゲージマット上のレバーをトランクの縁へかけたままにしないでください。
ラゲージマットが損傷するおそれがあります。

その他の室内装備

サンバイザー

① 前方をさえぎるには、バイザーを下ろす

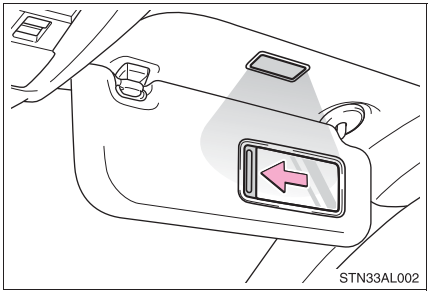
② 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックからはずし、横へまわす



バニティミラー

カバーをスライドして開ける

カバーを開けるとバニティミラーランプが点灯します。



⚠ 注意

■補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

時計

ボタンを押して時刻を調整することができます。

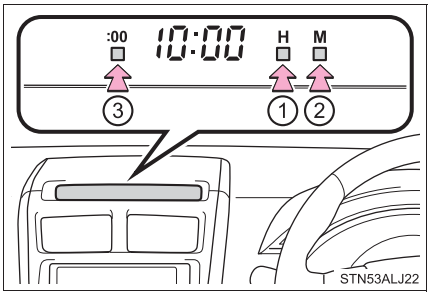
▶ リモートタッチ非装着車

① “時”を調整する（H）

② “分”を調整する（M）

③ “分”を 00 にする※（：00）

※（例）1:00 ～ 1:29 → 1:00
1:30 ～ 1:59 → 2:00



▶ リモートタッチ装着車

別冊の「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

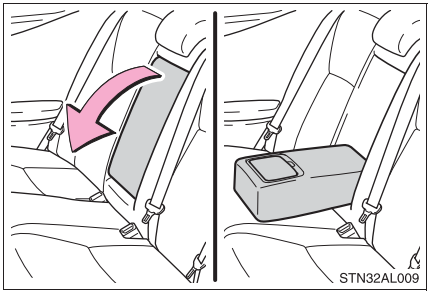
知識

■時刻が表示されるとき

パワースイッチがアクセサリーモードまたは ON モードのとき

リヤアームレスト

手前に倒して使用します。



⚠ 注意

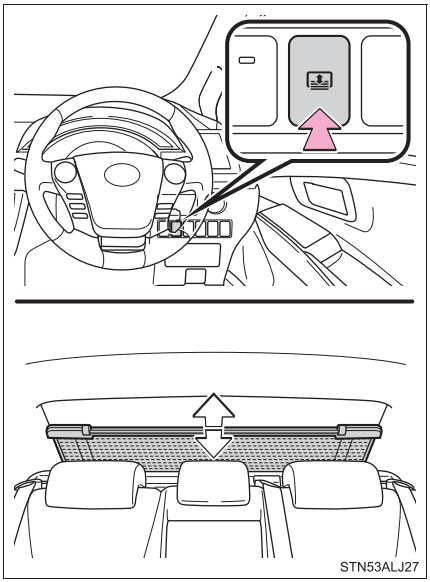
■アームレストの破損を防ぐために

過度の負荷をかけないでください。

電動リヤサンシェード★

スイッチ操作で電動リヤサンシェードが上昇／下降します。

展開／格納



知識

■電動リヤサンシェードの作動条件

パワースイッチが ON モードのとき

■パワースイッチ OFF 後の作動

パワースイッチをアクセサリーモードまたは OFF にしたあと、約 1 分間電動リヤウインドウサンシェードを操作できます。

■リバース連動機能

電動リヤサンシェードが上がった状態でシフトポジションを R にすると、後方を見やすくするために電動リヤサンシェードが下降します。

ただし次のいずれかを行うと、電動リヤサンシェードは再度上昇します。

●スイッチをもう一度押す※

●シフトポジションを P にする

★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

●シフトポジションをＰとＲ以外にし、15km/h 以上で走行する
リバース連動機能により、電動リヤサンシェードが下降した状態でハイブリッドシステムを停止した場合は、再びハイブリッドシステムを始動させて 15km/h以上で走行しても上昇しません。上昇させるには、スイッチを押してください。

※ 状況によってはリバース連動機能が働かない場合があります。その場合、スイッチを押して、電動リヤサンシェードを上昇・下降させてください。

■カスタマイズ機能

リバース連動機能を非作動にするなどの変更ができます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 393）

⚠ 警告

■電動リヤサンシェードが作動しているとき

電動リヤサンシェードの留め金部分や溝に指を置かないでください。
巻き込まれてけがをするおそれがあります。

⚠ 注意

■補機バッテリーあがりを防ぐために

ハイブリッドシステムが停止しているときは、電動リヤサンシェードを操作しないでください。

■正常に機能させるために

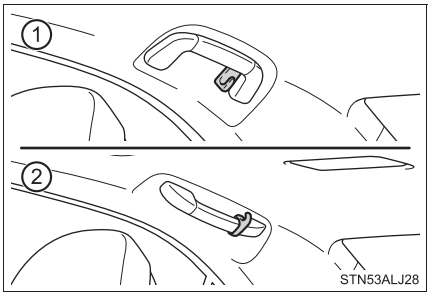
次のことをお守りください。

●電動リヤサンシェードのモーターや他の部分に負荷をかけすぎない
●開閉のさまたげになる部分にものを置かない
●電動リヤサンシェードにものを貼らない
●溝をきれいに保つ
●長時間リヤサンシェードの操作を続けない

コートフック

コートフックは、リヤ席のアシストグリップに付いています。

① 回転式アシストグリップタイプ
② 固定式アシストグリップタイプ



⚠ 警告

■コートフックへかけてはいけないもの

ハンガーや他の硬いもの、鋭利なものをかけないでください。
SRS カーテンシールドエアバッグがふくらんだときにそれらのものが飛び、重大な傷害または死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■破損を防ぐために

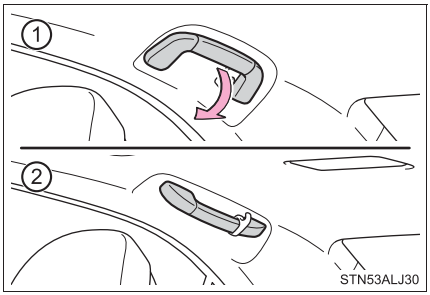
過度の負荷をかけないでください。

アシストグリップ

天井に取り付けられているアシストグリップは、走行中にシートに座っている状態で体を支えるときにお使いください。

① 回転式

② 固定式



⚠ 警告

■アシストグリップについて（回転式）

アシストグリップは、乗降時やシートから立ち上がるときなどに使用しないでください。
アシストグリップが破損し、転倒などしてけがをするおそれがあります。

⚠ 注意

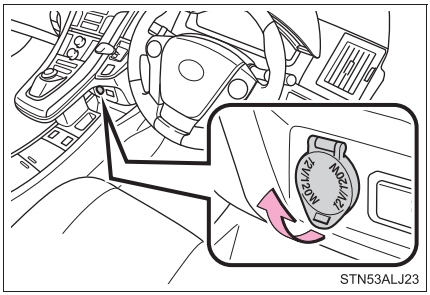
■破損を防ぐために

アシストグリップに重いものをかけたり、過度の負荷をかけたりしないでください。

アクセサリーソケット

DC12V/10A（消費電力 120W）未満の電気製品が使用するときの電源としてお使いください。

フタを開けて使用する



STN53ALJ23

知識

■作動条件

パワースイッチがアクセサリーモードまたは ON モード

⚠ 注意

■ショートや故障を防ぐために

アクセサリーソケットに異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときは、フタを閉めておいてください。

■補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムが停止した状態で、アクセサリーソケットを長時間使用しないでください。

アクセサリーコンセント★

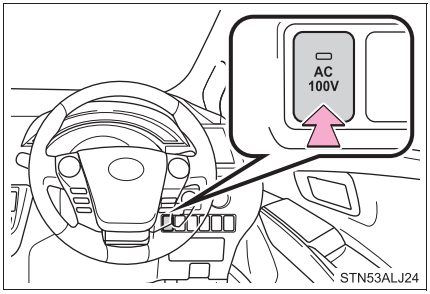
次の電気製品を使うときの電源としてお使いください。

アクセサリーコンセント：
AC100V で最大消費電力 1500W 以下の電気製品

1 メインスイッチを押す

スイッチ上の作動表示灯が点灯し、使用可能な状態になります。

スイッチを押すたびに電源のON/OFFが切りかわります。



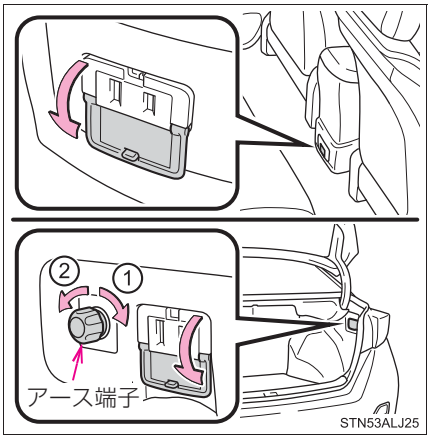
2 フタを開けて使用する

コンセントは、コンソールとラゲージルームの２か所にあります。

アース線のある電気製品を使用するときは、ラゲージルームのコンセントを使用し、アース線を接続してください。

① 締まる

② ゆるむ



★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

知識

■使用条件

アクセサリーコンセント：READY インジケーターが点灯しているとき

■駐車中または停車中に使用するときは

駆動用電池の残量が少なくなると、自動でエンジンが始動し、充電を行います。一部の自治体では、駐車中または停車中にエンジンが始動した場合、アイドリングストップに関する条例にふれ罰則の適用を受けるおそれがあります。駐車中または停車中のアクセサリーコンセントの使用については、関係する自治体に確認したうえで、適切に使用してください。

■使用しないときは

メインスイッチを OFF にして、スイッチ上の作動表示灯が消灯していることを確認してください。

■アクセサリーコンセントについて

- AC100Vで最大消費電力1500W以下の電気製品を使用してください。規定容量をこえる電気製品を使用すると、AC 電源装置の保護機能が作動し、アクセサリーコンセントが使用できなくなります。
- メインスイッチをONにした状態で、アクセサリーコンセントに電気製品のプラグを挿入した場合、電気製品側の回路構成によっては挿入時に大きな電流が流れ瞬間電力が 1500W をこえるときがあります。この場合、AC 電源装置の保護機能が作動し、自動でメインスイッチが OFF になることがあります。電源プラグ挿入後、再度メインスイッチを ON にしてください。
- 使用する電気製品によっては、ラジオやテレビに雑音が入ることがあります。
- アクセサリーコンセントの電圧は、市販のテスターでは正常な電圧を計測できません。電圧の確認が必要な場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。
- アクセサリーコンセントを使用中、リヤシート付近から冷却用ファンの音がすることがありますが、異常ではありません。

■正しく作動しないおそれがある電気製品（アクセサリーコンセント）

次のような AC100V の電気製品は、消費電力が 1500W 以下の場合でも正常に作動しないおそれがあります。

- 起動時のピーク電力が高い製品
- 精密なデータ処理をする計測機器
- 電源周波数の切りかえ（50 ／ 60Hz）のある機器
- きわめて安定した電力供給を必要とするその他の電気製品
- タイマー設定する機器など、AC 電源の出力が連続して必要な電気製品

■使用できないときは

メインスイッチの作動表示灯が消灯して、コンセントから AC 電源が出力されない場合、再度メインスイッチを ON にしても復帰しないときは、保護機能が作動していることが考えられます。この場合は、まず次の処置を行ってください。

- 電気製品のプラグを抜き、消費電力が 1500W 以下になっているかどうかを確認し、再度メインスイッチを ON にしてください。
- 電気製品のプラグを抜き、製品自体が故障していないかを確認して、再度メインスイッチを ON にしてください。
- 駆動用電池の残量を確認してください（→ P. 86）。残量が少ない場合は、シフトポジションを P にして、駆動用電池の残量を回復させ、再度メインスイッチを ON にしてください。
- 炎天下に放置した直後など車内が高温になっている場合は、エアコンを使用するなどして車内を十分に換気し、車内温度を下げ、しばらくしてから再度メインスイッチを ON にしてください。

以上の処置を行っても復帰しない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■寒冷地で使用するときは

外気温が－ 15 ℃以下になるようなときは、駆動用電池を保護するため、数十分間アクセサリーコンセントが使用できないことがあります。この場合はエアコンを使用して車内を暖房し、駆動用電池を暖めてから使用してください。

■電源周波数について

車両側の電源周波数は、50Hz に設定されています。
電気製品によっては、電源周波数の切りかえ（50Hz ／ 60Hz）機能があるので、車両と電気製品の電源周波数を一致させておいてください。
車両側の電源周波数切りかえが必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

●走行中、次のような場合は、電気製品を使用しないでください。また、電気製品を確実に固定できない状態で使用しないでください。思わぬ事故の原因となって重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

・わき見運転など、安全運転のさまたげになる場合（テレビ・ビデオ・DVDなど）
・急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、固定の不完全な電気製品の転倒・落下による事故や、発熱により火災・やけどなどのおそれがある場合（トースター・電子レンジ・電熱器・ポット・コーヒーメーカーなど）
・ペダルの下に電気製品が入り込み、ブレーキペダルが踏めなくなるおそれがある場合（ドライヤー・AC アダプター・マウスなど）

●窓を閉めたまま、蒸気が出る電気製品を使用しないでください。ガラスが曇って視界が悪化し、運転に支障が出るなど、思わぬ事故の原因となって重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、他の電装品に悪影響をおよぼすおそれがあります。やむを得ず使用するときは、窓を開けて使用してください。

●故障した電気製品は使用しないでください。アクセサリーコンセントが使用できなくなったり、感電したりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ぬれた手で電気製品のプラグを抜き挿ししたり、ピンなどをアクセサリーコンセントに挿したりしないでください。感電により重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、コンセントに雨水・飲料水・雪などが付着した場合は、乾燥させてから使用してください。

●アクセサリーコンセントの改造や分解・修理などはしないでください。また、車両に搭載されている AC100V インバーターを、市販の AC100V インバーターに組みかえないでください。思わぬ事故の原因となって、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。修理については。トヨタ販売店にご相談ください。

●使用する電気製品の取扱説明書や、製品に記載されている注意事項を必ずお守りください。

⚠ 警告

■駐車中または停車中に使用するときは

災害時などやむを得ず駐車中または停車中に使用するときは、次のことをお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故の原因になるおそれがあります。

- パーキングブレーキをしっかりとかけて、シフトポジションをPにしてください。
- 電気製品を使用中に、READY インジケーターが点灯した状態のまま車両から離れないでください。
- 車庫内や雪が積もった場所などでは、排気ガスが充満したり、滞留したりするおそれがあるため、使用しないでください。（→ P. 56）
- 状況によっては、自動でエンジンが始動するため、排気管付近に近付いたり、荷物を置いたりしないでください。また、エンジンルーム内に顔や手などを近付けないでください。
- 車外に電源コードを引いて使用する場合は、雨水の浸入などに注意してください。アクセサリーコンセントに雨水などが付着した場合は、乾燥させてから使用してください。また、電源コードをドアなどに挟まないように注意してください。
- 暖房器具などの電気製品を使用して、車中で泊まることはやめてください。
- アクセサリーコンセントは、照明機器などの電気製品と直接接続して使用するものであり、家屋などへ電気を供給する発電機として使用しないでください。また、家屋などに設置されている非常時給電システム（外部電源と接続ができる専用設備、外部電源からの供給回路が電力会社からの電気配線と分離されている設備など）に接続する場合は、当該システムの製造業者または販売業者にご相談ください。

■接続する電気製品について

使用する電気製品に付属の取扱説明書や、製品に記載されている注意事項を必ずお守りください。
電源プラグや電気製品が故障しているときは使用しないでください。
なお、次のような機器は使用しないでください。

- 医療用機器
  車両の状態によっては、一時的に AC 電源出力が断たれることがあります。
- 計量器・計測器など
  AC 電源電圧を基準にした計測機器の場合は、精度が不安定になるおそれがあります。

⚠ 注意

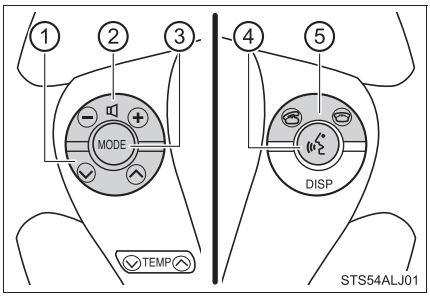
■ショートや故障を防ぐために

- 車内のトリムの近くやシートの上などで、トースターなどの熱気を出す電気製品を使用しないでください。熱により溶損したり、焼損したりするおそれがあります。
- 振動や熱などに弱い電気製品を、車内で使用しないでください。
  走行時の振動や、炎天下での駐車時の熱などにより、電気製品が故障するおそれがあります。
- アクセサリーコンセントには、AC100V 以外の電気製品を使用しないでください。また、最大消費電力の合計が 1500W を超えないようにしてください。
- アクセサリーコンセントを使用しないときは、フタを閉めてください。コンセントに異物が入ったり、飲料水などがかかったりすると、故障したり、ショートしたりするおそれがあります。
- AC アダプターを直接アクセサリーコンセントに接続しないでください。フタを損傷したり、使用中に AC アダプターが脱落したりするおそれがあります。
- お子さまに、アクセサリーコンセントをさわらせないでください。
- アクセサリーコンセントに、二股などの分岐用コンセントを接続するなど、タコ足配線をしないでください。
- アクセサリーコンセントにほこりやゴミが付着しないようにしてください。また、定期的にコンセントを掃除してください。
- 電気製品のプラグをアクセサリーコンセントに挿し込んでもゆるいときは、コンセントを交換してください。交換については、トヨタ販売店にご相談ください。
- 駆動用電池の残量によっては、アクセサリーコンセントが使用できない場合があります。できるだけ駆動用電池の残量が多い状態で使用してください。

ステアリングスイッチ

メーカーオプションのナビゲーションシステムおよび、この車のステアリングスイッチに対応している販売店装着オプションのナビゲーションシステム・オーディオを操作することができます。

・ メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車にお乗りの方は、別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。
・ 販売店装着オプションのナビゲーションシステム・オーディオ装着車は、装着された製品により操作が異なる場合があります。詳しくは製品に付属の取扱説明書を参照してください。



① TUNE/TRACK スイッチ
CD、ラジオなどの操作

② 音量調整スイッチ
音量を調整する

③ MODE（モード切りかえ）スイッチ
電源を入れる、モードの切りかえ

④ トークスイッチ
音声認識モードの開始／中止をする

⑤ 電話スイッチ
ハンズフリー機能の操作

電源を入れる

MODEを押す

スイッチを長押しするとオーディオの電源が OFF になります。

装備されたオーディオにより“ピッ”と音が鳴ることがあります。

モードを切りかえる

オーディオの電源が ON のとき、MODEを押す

押すごとにモード（CD、ラジオなど）が切りかわります。

音量を調整する

音量を大きくするときは の“+”側を、小さくするときは“−”側を押す

スイッチを押し続けると、音量を連続して調整できます。

音声認識モードを開始する

を押す

スイッチを長押しすると音声認識モードを中止することができます。

ハンズフリー機能の操作

■ **着信時の機能**

着信時に スイッチで次の操作ができます。

● 電話をとる

スイッチを押す

● 応答を保留にする

スイッチを押す

● 着信を拒否する

スイッチを長押しする

■ **発信中、通話中の機能**

● 電話を切る

スイッチを押す

■ **発信機能**

● 電話をかける

スイッチを押す

⚠ 警告

■事故を防ぐために

運転中にステアリングスイッチを操作するときは、十分注意してください。

お手入れのしかた 6

6-1. お手入れのしかた
外装の手入れ.....272
内装の手入れ.....276
6-2. 簡単な点検・部品交換
ボンネット.....279
ガレージジャッキ.....282
エンジンルームカバー.....283
ウォッシャー液の補充.....285
タイヤについて.....287
タイヤ空気圧について.....291
エアコンフィルターの交換.....293
電子キーの電池交換.....295
ヒューズの点検・交換.....297
電球（バルブ）の交換.....300

外装の手入れ

お手入れは、次の項目を実施してください。

- 水を十分かけながら車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のようなやわらかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う

  ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかける（およそ体温以下を目安としてください）

なお、ボデーコート・ホイールコート・ガラスコートなど、トヨタケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。
詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

知識

■セルフリストアリングコートについて

お車のボデーには、洗車などによる小さなすり傷を自然に復元する、傷付きにくい塗装を使用しています。

- 新車時から５～８年のあいだ、効果が持続します。
- 傷が復元するまでの時間は、傷の深さや周囲の温度により変化します。
  なお、お湯をかけて塗装を暖めると、復元するまでの時間が短くなる場合があります。
- 鍵や硬貨などによる深い傷は復元できません。
- 成分にコンパウンド（磨き粉）が含まれるワックス類は使用しないでください。

■自動洗車機を使うとき

- ドアミラーを格納し、車両前側から洗車してください。また、走行前は必ずドアミラーを復帰状態にもどしてください。
- ブラシで車体に傷が付き、塗装を損なうことがあります。
- 洗車機によっては、リヤスポイラー★が引っかかり洗車できない場合や、傷付いたり、破損するおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

■高圧洗浄機を使うとき

●室内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアガラスやドア枠付近に近付けすぎないでください。

●洗車の前に給油口が確実に閉まっていることを確認してください。

■洗車などで車に水をかけたとき

電子キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、施錠・解錠動作をくり返すことがあります。その場合はキーを車両から 2m 以上離れた場所に保管して、洗車などをしてください（キーの盗難に注意してください）。

■アルミホイール

●中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。研磨剤の入った洗剤や硬いブラシは塗装を傷めますので使用しないでください。

●夏場の長距離走行後などでホイールが熱いときは、洗剤は使用しないでください。

●洗剤を使用したあとは早めに十分洗い流してください。

■バンパーについて

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

■フロントドアガラスの撥水コーティングについて

●撥水効果を長持ちさせるため、次のことに注意してください。

・ フロントドアガラス表面の泥などの汚れを落とす
・ 汚れは早めにやわらかい湿った布などで清掃する
・ コンパウンド（磨き粉）が入ったガラスクリーナーやワックスを使用しない
・ 金属製の道具で霜取りをしない

●水滴のはじきが悪くなったときは補修することができます。
詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

■レインクリアリングミラーの親水効果回復作業について

鏡面の親水効果は、太陽光をあてることにより徐々に回復します（→ P. 128）が、早く回復させたいときは次の作業を行ってください。

1 鏡面に水をかけ、泥汚れなどを洗い流す

2 水を含ませたきれいなやわらかい布などで汚れを落とす

3 ガラスクリーナーか中性洗剤で洗浄後、十分な水で洗剤を洗い流す

4 きれいなやわらかい布などで鏡面に付いた水をふき取る

5 屋外に車両を駐車し、鏡面に太陽光を 5 時間程度あてる
(汚れの量や種類により、回復時間は異なります)

■フロントドアガラスについて

遮音性を高めるため高遮音性ガラス（合わせガラス）を使用しています。

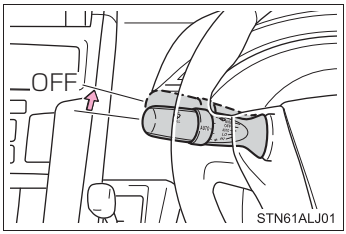
⚠ 警告

■洗車をするとき

エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

■フロントウインドウガラスを清掃するとき（雨滴感知式ワイパー装着車）

ワイパースイッチを OFF にしてください。AUTO モード（→P. 168）になっていると、次のようなときにワイパーが不意に作動し、指などを挟み重大な傷害を受けたり、ワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。



- 雨滴センサー上部のフロントウインドウガラスに手でふれたとき
- 水分を含んだ布などを雨滴センサーに近付けたとき
- フロントウインドウガラスに衝撃を与えたとき
- 車内から雨滴センサー本体にふれるなどして衝撃を与えたとき

■排気管について

排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などでふれる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

■後方プリクラッシュセーフティシステムについて（後方プリクラッシュセーフティシステム装着車）

リヤバンパーの塗装に傷が付いたときは、トヨタ販売店にご相談ください。

⚠ 注意

■塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために

●次のような場合は、ただちに洗車してください。

・海岸地帯を走行したあと
・凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
・コールタール・花粉・樹液・鳥のふん・虫の死がいなどが付着したとき
・ばい煙･油煙･粉じん･鉄粉･化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
・ほこり・泥などで激しく汚れたとき
・塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき

●塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。

●ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■ランプの清掃

●注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。ランプを損傷させるおそれがあります。

●ランプにワックスがけを行わないでください。
レンズを損傷するおそれがあります。

■自動洗車機を使用するとき（雨滴感知式ワイパー装着車）

ワイパースイッチを OFF にしてください。
AUTO モードになっていると、不意にワイパーが作動してワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。

■高圧洗浄機を使用するときは

●洗車時に高圧洗浄機でカメラやカメラ周辺に直接水を当てないでください。強い水圧により衝撃が加わり、装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。

●ノズルの先端を、下記部品の結合部やブーツ類（ゴムまたは樹脂製のカバー）、コネクタ類に近付けすぎないでください。
高い水圧がかかることにより、部品が損傷するおそれがあります。

・駆動系部品
・ステアリング部品
・サスペンション部品
・ブレーキ部品

内装の手入れ

お手入れは、次の要領で実施してください。

室内の手入れ

掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る

本革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりや砂を取り除く
- うすめた洗剤をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取る

  ウール用の中性洗剤を約 5% の水溶液までうすめたものを使用してください。
- 真水をひたした布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

合成皮革部分の手入れ

- 掃除機をかけて、大まかな汚れを取る
- スポンジややわらかい布を使用して合成皮革部分に刺激の少ない洗剤を付ける
- 数分間洗剤につけておいてから汚れを落とし、固くしぼったきれいな布で洗剤をふき取る

知識

■本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に 2 回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

■カーペットの洗浄

カーペットは常に乾いた状態を保つことをおすすめします。洗浄には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。
スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

■シートベルト

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。
シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

■スーパー UV カットガラスについて（フロントドアガラス）

- フロントドアガラスが汚れているときは、早めに水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいて清掃してくだい。
- フロントドアガラスの汚れがひどいときは、ドアガラスの開閉をくり返さないでください。

⚠ 警告

■車両への水の浸入

- 床・トランク内・駆動用電池冷却用吸入口など、車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。（→ P. 62）
  駆動用電池や電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
- SRS エアバッグの構成部品や電気配線をぬらさないでください。（→ P. 33）
  電気の不具合により、SRSエアバッグが作動したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■清掃するとき使用する溶剤について

●変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。

・シート以外の部分：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤

・シート部分：シンナー・ベンジン・アルコール、その他の酸性やアルカリ性の溶剤

●艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。
インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■革の傷みを避けるために

皮革の表面の劣化や損傷を避けるために、次のことをお守りください。

●革に付着したほこりや砂はすぐに取り除く

●直射日光に長時間さらさないようにする
特に夏場は日陰で車を保管する

●ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革に張り付くおそれがあるため、革張りの上に置かない

■床に水がかかると

水で洗わないでください。
オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因となったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■フロントウインドウガラスの内側を掃除するときは
（LKA［レーンキーピングアシスト］装着車）

白線認識用カメラ（→P. 191）にさわらないように注意してください。
誤って傷を付けたり衝撃を与えたりすると、LKA の誤作動や故障につながるおそれがあります。

■リヤウインドウガラスの内側を掃除するときは

●熱線やアンテナを損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線やアンテナにそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。

●熱線やアンテナを引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

■スーパー UV カットガラスを清掃するときは（フロントドアガラス）

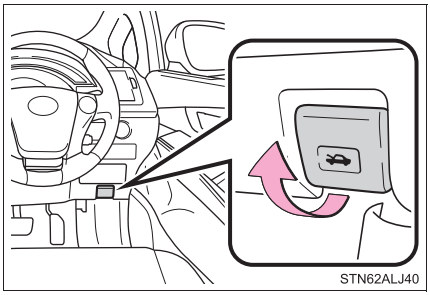
フロントドアガラスを清掃するときは、コンパウンドまたは研磨剤入り用品（ガラスクリーナー・洗剤・ワックスなど）を使用しないでください。コーティングを損傷させるおそれがあります。

ボンネット

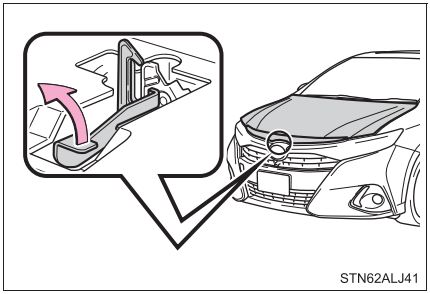
室内からロックを解除して、ボンネットを開けます。

1 ボンネット解除レバーを引く

ボンネットが少し浮き上がります。



2 レバーを引き上げて、ボンネットを開ける

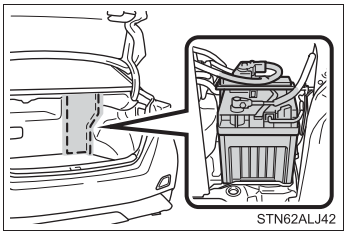


知識

■補機バッテリーについて

この車両の補機バッテリーはラゲージルーム（運転席側）のカバー内にあり、エンジンルームには搭載されていません。（補機バッテリーはバッテリー液の補充が必要ないタイプのため、バッテリー液量等の点検は不要です）

補機バッテリーがあがってしまったときは、エンジンルーム内にある救援用端子を使用して、処置を行います。（→ P. 376）



⚠ 警告

■走行前の確認

ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■修理・車検・整備点検をする場合は

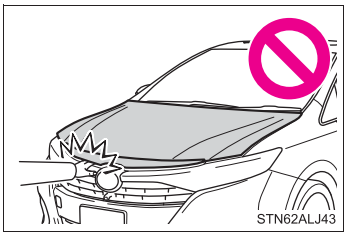
整備モードに切りかえる必要がありますので、必ずトヨタ販売店にご相談ください。高電圧システムを使用しているため、取り扱いを誤ると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■エンジンルーム点検後の確認

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。
点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていると、故障の原因になったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ボンネットを閉めるとき

手などを挟まないように注意してください。
重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



■補機バッテリーの交換について

交換する際はSAI専用品もしくは同等品をご使用ください。専用品または同等品以外を使用すると、ガス（水素）が室内に侵入したり、引火して爆発するおそれがあり危険です。
補機バッテリーの交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

⚠ 注意

■ボンネットやダンパーステーへの損傷を防ぐために

●ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。ボンネットがへこむおそれがあります。

●ボンネットには、ボンネットを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため、次のことをお守りください。

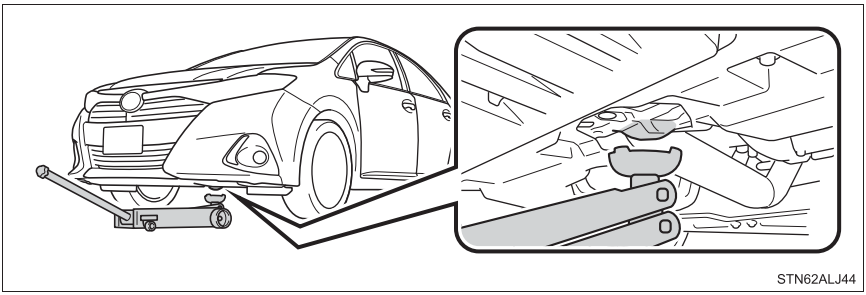
・ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない
・ロッド部を軍手などでふれない
・ボンネットにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を付けない
・ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

ガレージジャッキ

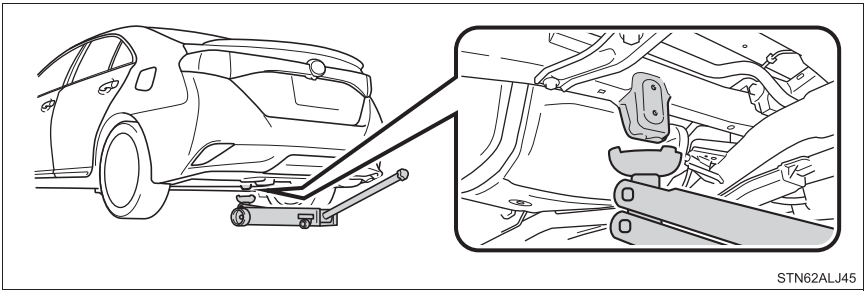
ガレージジャッキを使用するときは、ガレージジャッキに付属の取扱説明書に従って、安全に作業してください。

ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキをセットしてください。
正しい位置にセットしないと、車両が損傷したり、けがをするおそれがあります。

◆ フロント側


STN62ALJ44

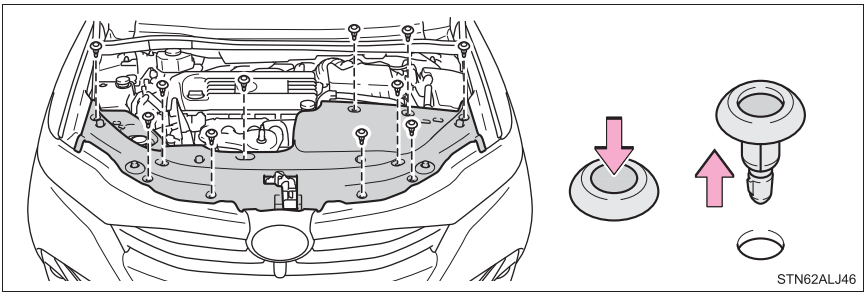
◆ リヤ側


STN62ALJ45

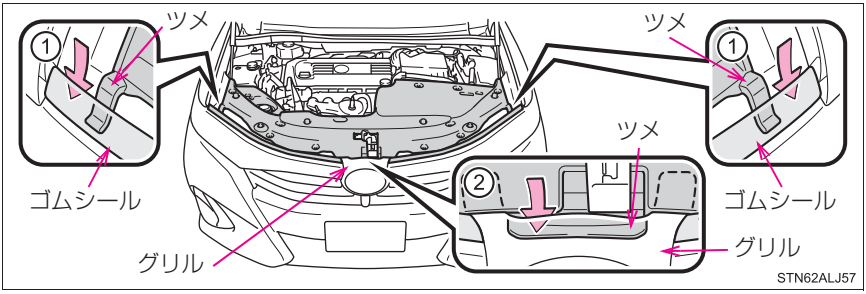
エンジンルームカバー

ヒューズや電球(バルブ)の交換･点検などを行うときに取りはずします。

エンジンルームカバーの取りはずし方



エンジンルームカバーの取り付け方



1 エンジンルームカバーを取り付ける

① ツメをゴムシール下へ入れる

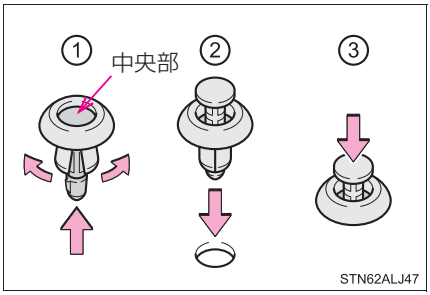
② ツメをグリル裏側へ入れる

2 クリップを取り付ける

① クリップの中央部分を押し上げる

② 挿し込む

③ クリップ中央部分を押す



⚠ 警告

■けがを防ぐために

エンジンルームカバーを取りはずす前に、パワースイッチを OFF にしてください。熱くなった部品でやけどをしたり、作動中の部品に巻き込まれて重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■エンジンルームカバー取り付け後の確認

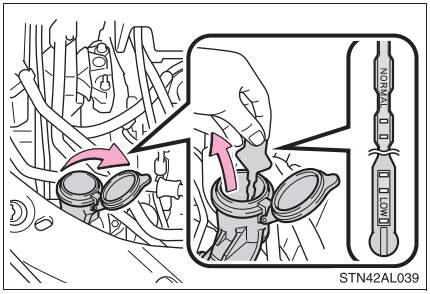
もとの場所に確実に取り付けられていることを確認してください。

ウォッシャー液の補充

補充のしかた

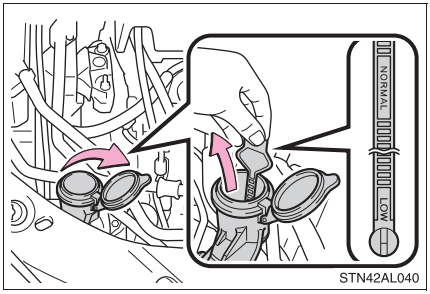
液面が LOW の位置に近付いたらウォッシャー液を補充する

▶ A タイプ



STN42AL039

▶ B タイプ



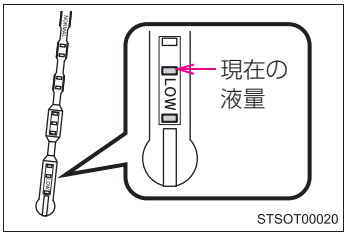
STN42AL040

知識

■ゲージの使い方

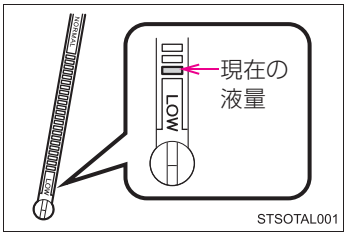
ウォッシャー液の膜が張っているゲージの穴部の位置を確認して、ウォッシャー液の残量を判断します。
残量がゲージの先端から 2 つめの穴部より下まわった（LOW の位置まで低下した）ら、ウォッシャー液を補給してください。

▶A タイプ



STSOT00020

▶B タイプ



STSOTAL001

⚠ 警告

■ウォッシャー液を補充するとき

ハイブリッドシステムが熱いときやハイブリッドシステム作動中は、ウォッシャー液を補充しないでください。
ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、ハイブリッドシステムなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■ウォッシャー液について

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。塗装にしみが付くおそれがあります。

■ウォッシャー液のうすめ方

必要に応じて水でうすめてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。
タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を 5,000km ごとに行ってください。

タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。
点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

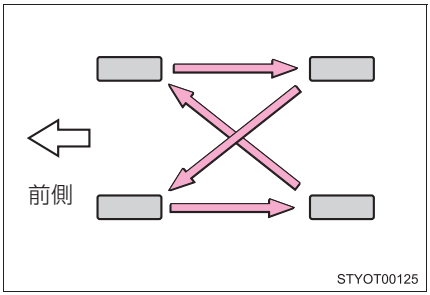
- タイヤ空気圧

  空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。
- タイヤの亀裂・損傷の有無
- タイヤの溝の深さ
- タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

タイヤローテーションのしかた

図で示すようにタイヤのローテーションを行います。

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、トヨタは定期点検ごとのタイヤローテーションをおすすめします。



知識

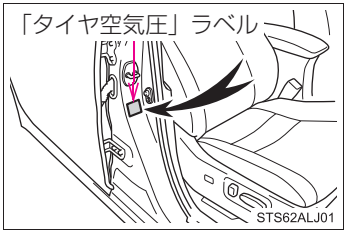
■タイヤ空気圧の数値

タイヤサイズ	空気圧※　kPa（kg/cm^2）	
	前輪	後輪
205/60R16 92V	230（2.3）	210（2.1）
215/45R18 89W	230（2.3）	210（2.1）

応急用タイヤ★：420kPa（4.2kg/cm^2）※

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

※ タイヤが冷えているときの空気圧



■タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

■低偏平タイヤについて（215/45R18 89W 装着車）

雪道や凍結路では、普通のタイヤとくらべてグリップ力が低下します。冬用タイヤかタイヤチェーンを使用し、道路状態に応じた速度で注意深く運転するようにしてください。

■低偏平タイヤの空気圧点検（215/45R18 89W 装着車）

低偏平タイヤは、走行性能を優先したタイヤです。特に空気圧は定期的に点検してください。2 週間に 1 回（最低でも 1ヶ月に 1 回）、または長距離ドライブの前には、必ず空気圧を点検してください。

★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

⚠ 警告

■点検・交換時の警告

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用する
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない
- サマータイヤ・オールシーズンタイヤ（マット&スノータイヤ）・冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）を混在使用しない
- 他の車両で使用していたタイヤを使用しない
  以前どのように使用されていたか不明なタイヤは使用しない

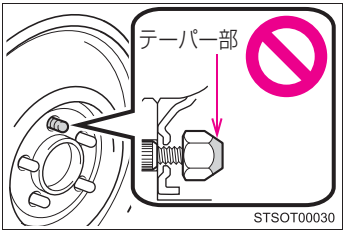
■異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルを取られたり、異常な振動を感じることがあります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 破裂などの修理できない損傷を与える
- 車両が横すべりする
- 車両の本来の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が発揮されない

■タイヤ交換時の注意

- 必ずテーパー部を内側にして取り付けてください。テーパー部を外側にして取り付けると、ホイールが破損しはずれてしまい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- ねじ部にオイルやグリースをぬらないでください。
  ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したりディスクホイールが損傷するおそれがあります。
  またナットがゆるみホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。オイルやグリースがねじ部についている場合はふき取ってください。

■異常があるホイールの使用禁止

亀裂や変形などがあるホイールは使用しないでください。
走行中にタイヤの空気が抜けて、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■低偏平タイヤについて（215/45R18 89W 装着車）

低偏平タイヤのホイールは、路面から衝撃を受けたとき、ホイールに通常より大きなダメージを与えることがあります。そのため次のことにご注意ください。

- 適切なタイヤ空気圧で使用する
  空気圧が低すぎると簡単に損傷することがあります。
- 段差や凹凸のある路面、路上にあいた穴、平らでない舗道・縁石や他の障害物を避ける
  タイヤおよびホイールがひどく損傷することがあります。

■走行中に空気もれが起こったら

走行を続けないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

■悪路走行に対する注意

段差や凹凸のある路上を走行するときは注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ・ホイール・車体などの部品も損傷するおそれがあります。

タイヤ空気圧について

タイヤの空気圧を適正に維持するために、タイヤの空気圧点検を月に 1 回以上実施してください。低偏平タイヤの場合、2 週間に 1 回、または長距離ドライブの前には必ず空気圧を点検してください。（→ P. 391）

知識

■タイヤ空気圧が適正でない場合

適切に調整されていないタイヤ空気圧で走行すると、次のようなことが起こる場合があります。

- 燃費の悪化
- 乗り心地や操縦安定性の低下
- 摩耗によるタイヤ寿命の低下
- 安全性の低下

ひんぱんにタイヤ空気圧が低下する場合は、トヨタ販売店でタイヤの点検を受けてください。

■タイヤ空気圧の点検のしかた

タイヤ空気圧の点検の際は、次のことをお守りください。

- タイヤが冷えているときに点検する
- タイヤ空気圧ゲージを必ず使用する
  タイヤの外観だけでは空気圧が適正かどうか判断できません。
- 走行後はタイヤの発熱により空気圧が高くなります。異常ではありませんので減圧しないでください。

⚠ 警告

■タイヤの性能を発揮するために

適正なタイヤ空気圧を維持してください。
タイヤ空気圧が適正に保たれていないと、次のようなことが起こるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 過度の摩耗
- 偏摩耗
- 操縦安定性の低下
- タイヤの過熱による破裂
- タイヤとホイールのあいだからの空気漏れ
- ホイールの変形、タイヤの損傷
- 走行時にタイヤが損傷する可能性の増大
  （路上障害物、道路のつなぎ目や段差など）

⚠ 注意

■タイヤ空気圧の点検・調整をしたあとは

タイヤのバルブキャップを確実に取り付けてください。
バルブキャップをはずしていると、ほこりや水分がバルブに入り空気が漏れ、タイヤの空気圧が低下するおそれがあります。

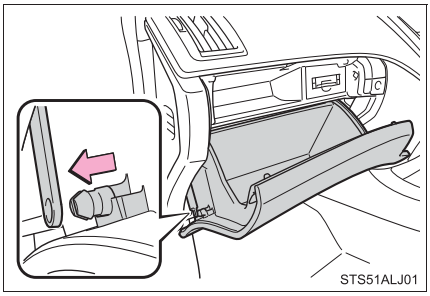
エアコンフィルターの交換

エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に交換してください。

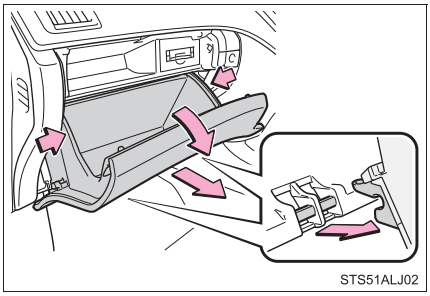
交換のしかた

1 パワースイッチを OFF にする

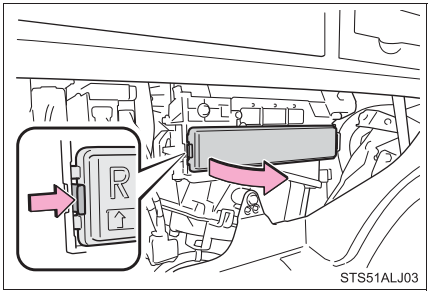
2 グローブボックスを開き、ダンパーステーのピンをはずす



3 グローブボックス側面を内側に押して上部のツメを片側ずつはずし、下部のツメをはずして取りはずす

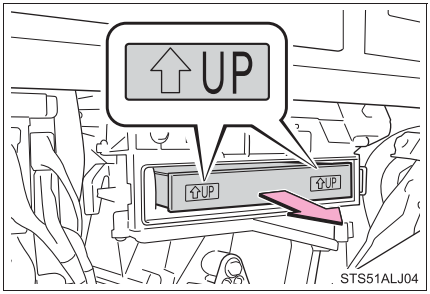


4 フィルターカバーを取りはずす



5 フィルターを取りはずし、新しいフィルターと交換する

「↑ UP」マークの矢印が上を向くように取り付けます。



知識

■エアコンフィルターの交換について

エアコンフィルターは次の時期を目安に交換してください。

20,000km[10,000km※]ごと

※ 大都市や寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区

■エアコンの風量が減少したときは

フィルターの目詰まりが考えられますので、フィルターを交換してください。

⚠ 注意

■エアコンを使用するときの注意

- フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因になることがあります。必ずフィルターを装着してください。
- フィルターは交換するタイプです。
  水洗いやエアブローによる清掃はしないでください。

電子キーの電池交換

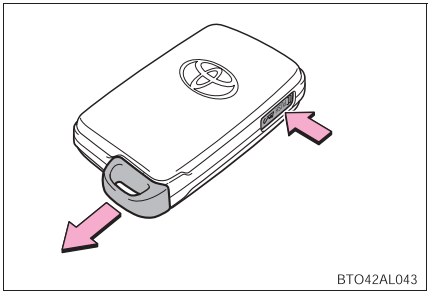
電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

用意するもの

- マイナスドライバー
- 小さいマイナスドライバー
- リチウム電池 CR1632

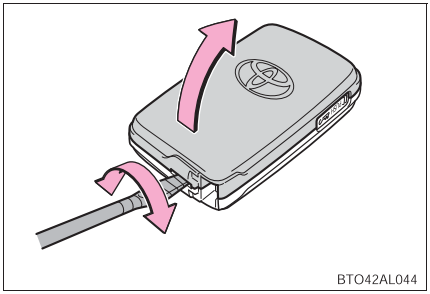
電池交換のしかた

1 メカニカルキーを抜く


BTO42AL043

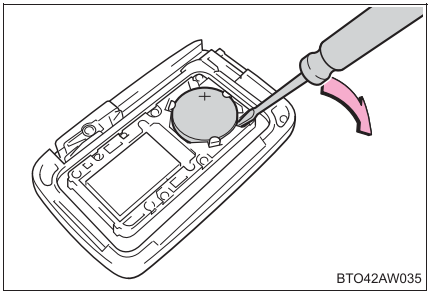
2 カバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。


BTO42AL044

3 消耗した電池を取り出す

新しい電池は、＋極を上にして取り付けます。


BTO42AW035

4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

知識

■リチウム電池 CR1632 の入手

電池はトヨタ販売店・時計店およびカメラ店などで購入できます。

■電子キーの電池が消耗していると

次のような状態になります。

- スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレス機能が作動しない
- 作動距離が短くなる

⚠ 警告

■取りはずした電池と部品について

お子さまにさわらせないでください。
部品が小さいため、誤って飲み込むと、のどなどにつまらせ重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■交換後、正常に機能させるために

次のことを必ずお守りください。

- ぬれた手で電池を交換しない
  錆の原因になります。
- 電池以外の部品に、ふれたり動かしたりしない
- 電極を曲げない

ヒューズの点検・交換

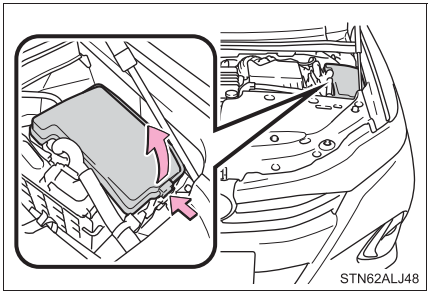
ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

1 パワースイッチを OFF にする

2 ヒューズボックスを開ける

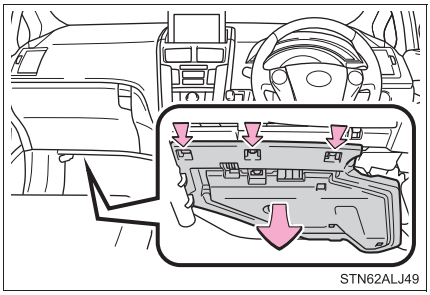
▶ エンジンルーム

ツメを押しながら、カバーを持ち上げる

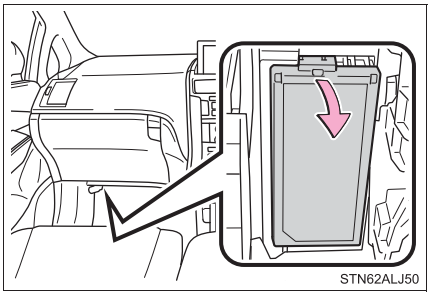


▶ 助手席足元

足元のカバーを取りはずす

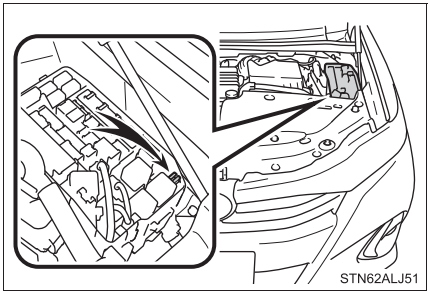


ヒューズボックスカバーを取りはずす



3 ヒューズを引き抜く

ヒューズはずしでヒューズを引き抜くことができます。

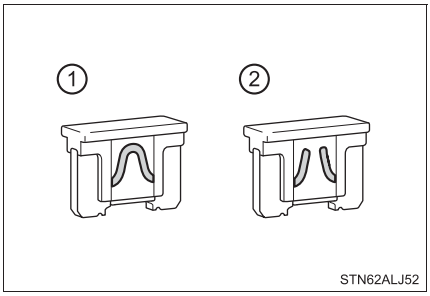


4 ヒューズが切れていないか点検する

① 正常

② ヒューズ切れ

ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。



知識

■ヒューズを交換したあとは

●交換してもランプ類が点灯しないときは、電球を交換してください。（→ P. 300）

●交換しても再度ヒューズが切れる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■補機バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

■電球（バルブ）を交換するとき

この車両に指定されているトヨタ純正品のご使用をおすすめします。一部の電球は過電流を防止する専用回路に接続されているため、この車両指定のトヨタ純正品以外は使用できない場合があります。

⚠ 警告

■車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

- 規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。
- 必ずトヨタ純正ヒューズか同等品を使用してください。
- ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

■パワーコントロールユニット近くのヒューズボックスについて

高電圧部位・高電圧の配線が近くにあるため、絶対に点検・交換を行わないでください。
取り扱いを誤ると感電し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■ヒューズを交換する前に

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

電球（バルブ）の交換

次に記載する電球は、ご自身で交換できます。電球交換の難易度は電球によって異なります。部品が破損するおそれがあるので、トヨタ販売店で交換することをおすすめします。
特にリヤフォグランプ★の電球交換は車両下側から行うことになるため、無理な姿勢で作業しないように、十分な広さのある場所で行ってください。
また、狭いところに手を入れて作業するため、確実に取りつけることができない場合があります。トヨタ販売店で交換することをおすすめします。

電球を交換するときは

・ランプ類が完全に冷えた状態で作業してください。
・けが防止のため、手袋など保護具を使用することをおすすめします。

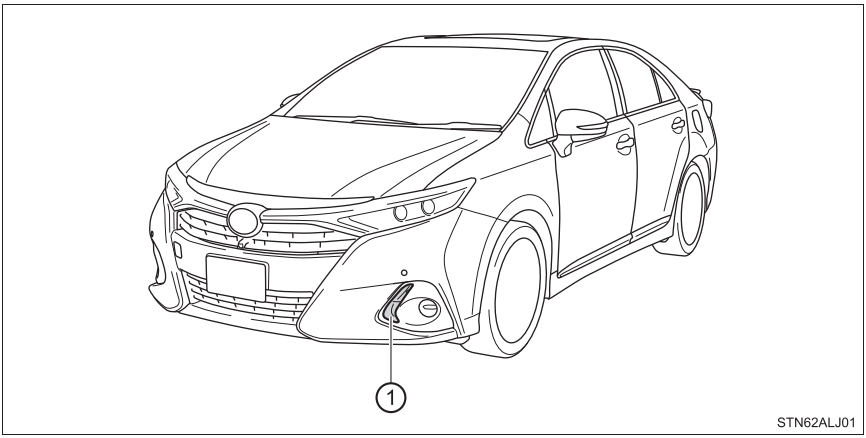
電球の用意

切れた電球の W（ワット）数を確認してください。（→ P. 392）

★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

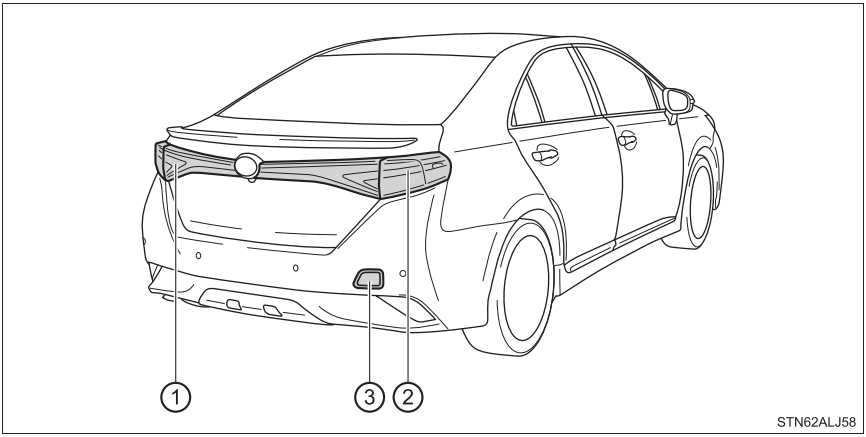
バルブ位置

■ フロント



① フロント方向指示灯／非常点滅灯

■ リヤ



① 後退灯

② リヤ方向指示灯／非常点滅灯

③ リヤフォグランプ★

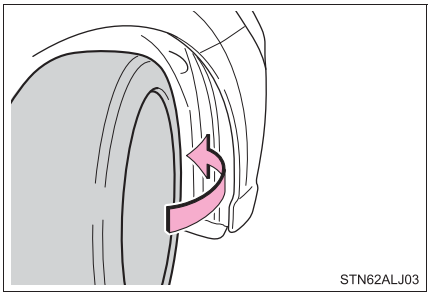
★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

電球交換のしかた

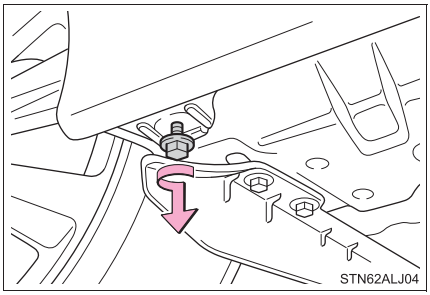
■ フロント方向指示灯／非常点滅灯

1 ハンドルをまわし、タイヤをいっぱいまで内側に向ける

タイヤの向きをかえ終わったら、パワースイッチを OFF にしてください。



2 フロントバンパー下側のボルト（1本）を取りはずす

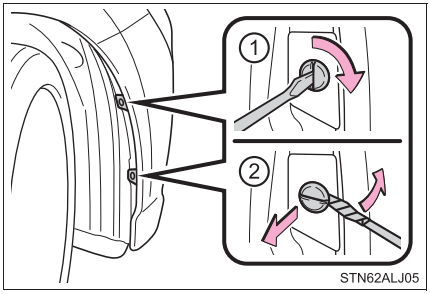


3 クリップ（2個）を取りはずす

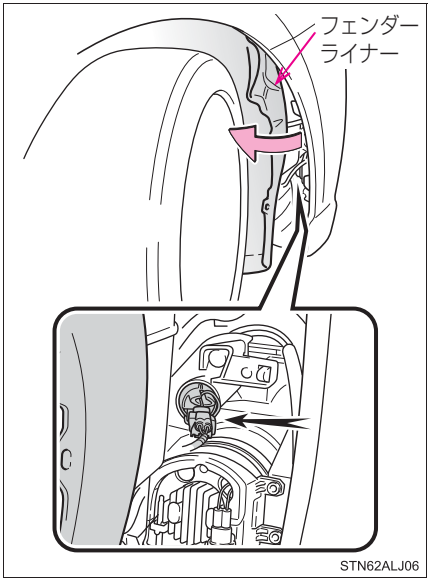
① マイナスドライバーでクリップ中央を 90 度にまわし、ロックを解除する

② クリップ中央を取りはずす

クリップ中央をマイナスドライバーで引き出し、クリップ中央を取りはずしてください。

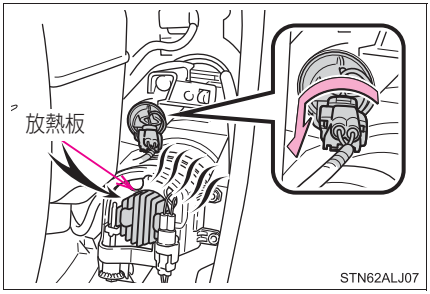


4 コネクターが見える位置まで
フェンダーライナーをめくる

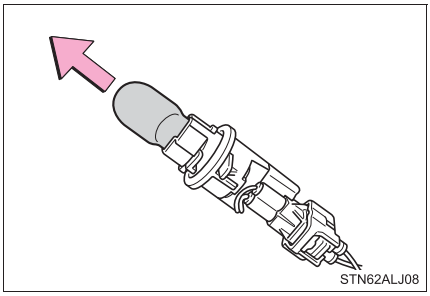


5 ソケットを取りはずす

フロントフォグランプ点灯中、消灯直後はフロントフォグランプ裏側の放熱板が高温になるため、さわらないでください。（→P. 312）



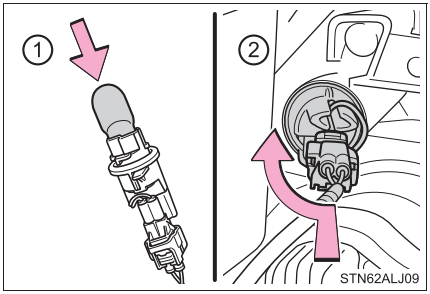
6 電球を取りはずす



7 新しい電球を取り付け、ソケットを取り付ける

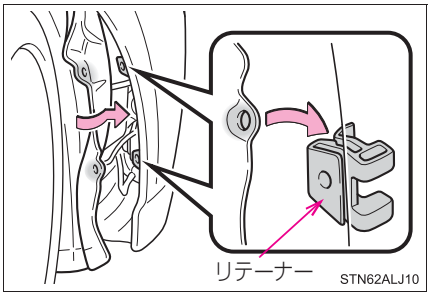
① 新しい電球を取り付ける

② ソケットを取り付ける



8 フェンダーライナーを取り付ける

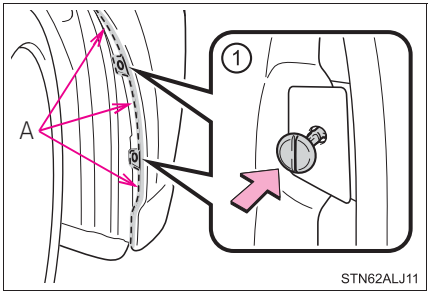
フロントバンパーに取り付いているリテーナーの溝にフェンダーライナーを差し込み、フェンダーライナーの端がフロントバンパーの内側になるように取り付けます。



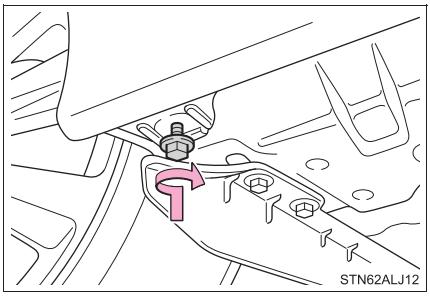
9 クリップを取り付ける

フェンダーライナー（A 部）がバンパーの内側に収まっていることを確認してからクリップを取り付けてください。

① クリップの溝を縦にしてクリップを押し込む



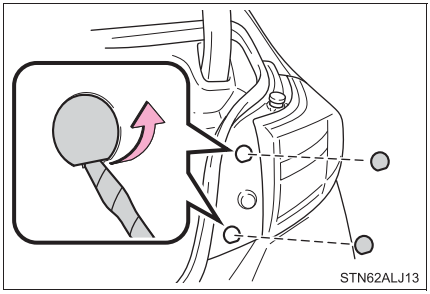
10 フロントバンパー下側のボルト（1 本）を取り付ける



■ リヤ方向指示灯／非常点滅灯

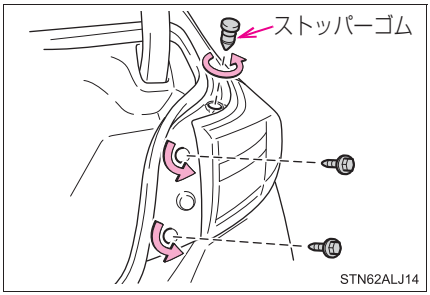
1 トランクを開け、カバー(2 個)を取りはずす

傷が付くのを防ぐため、ドライバーの先端に布などを巻いて保護することをおすすめします。



2 ボルト（2本）・ストッパーゴムを取りはずす

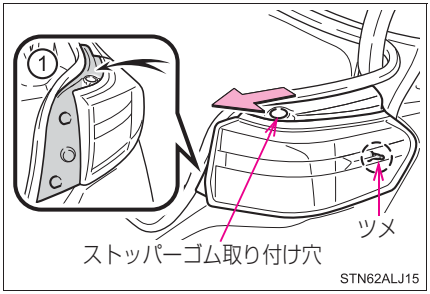
ストッパーゴムは反時計回りにまわすとはずれます。



3 ランプ本体とボデーの間にすき間をつくる

ストッパーゴム取り付け穴を持ち、ランプ本体を後方に引き、ランプ上側のツメをはずします。

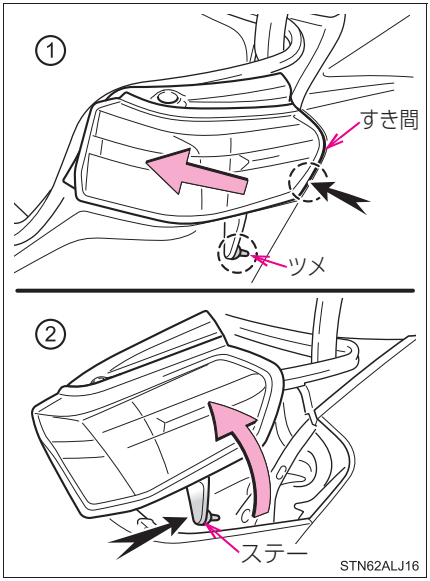
① ランプ本体の破損を防ぐため、網掛け部分は持たないでください。



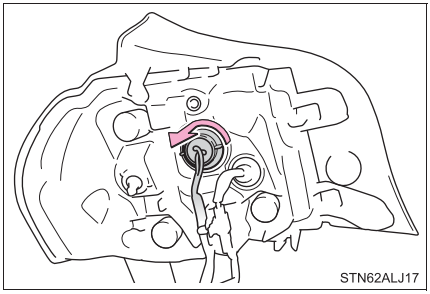
4 ランプ本体を取りはずす

① ランプ本体とボデーのすき間から、ランプ本体を持って、ランプ下側のツメをはずす

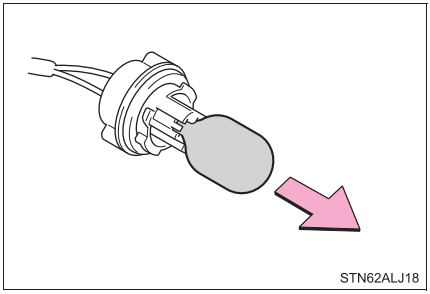
② ランプ下側のステーをリヤバンパーに接触させないように、ランプ本体を取りはずす



5 ソケットを取りはずす



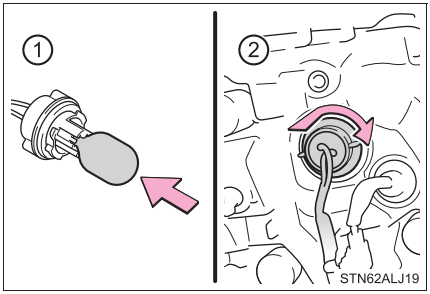
6 電球を取りはずす



7 新しい電球を取り付け、ソケットを取り付ける

① 新しい電球を取り付ける

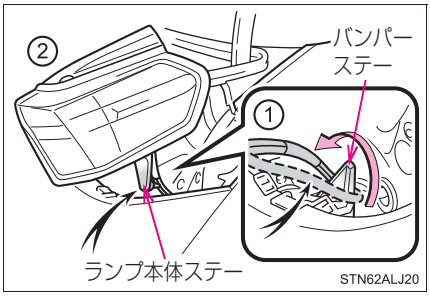
② ソケットを取り付ける



8 ランプ下側のステーをリヤバンパー内側に入れる

① ランプ本体の配線をリヤバンパーステーの内側に移動させる

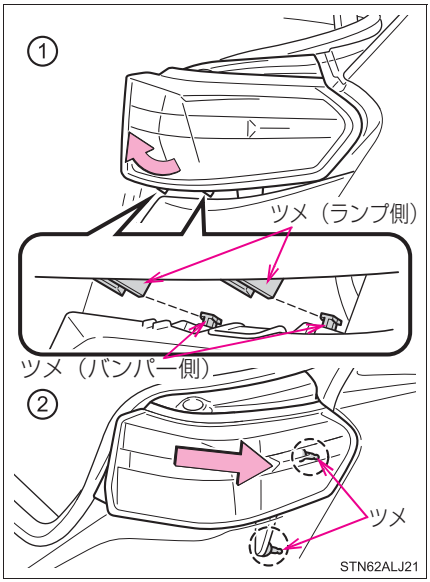
② ランプ下側のステーをリヤバンパーに接触させないように、リヤバンパーの内側に入れる



9 ランプ本体を取り付ける

① ランプ本体を少し後方へ引き上げ、ランプ本体とリヤバンパーのツメを合わせる

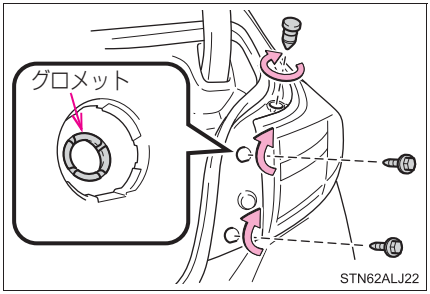
② ランプ本体を前方に押し込みランプのツメ（2カ所）をはめる



10 ボルト（2本）・ストッパーゴムを取り付ける

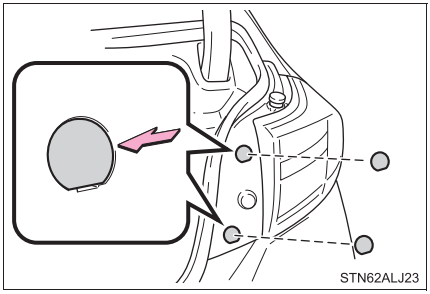
ランプ本体の穴にグロメットが収まっていることを確認してからボルトを取り付けてください。

ストッパーゴムを止まるまで時計回りにまわしてください。



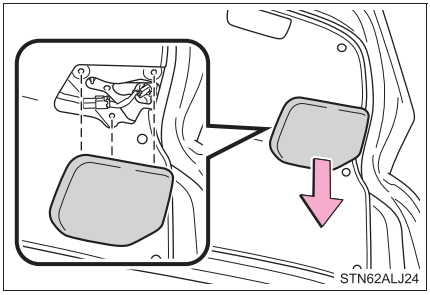
11 カバー（2個）を取り付ける

平らな面が下側に向くように取り付けてください。

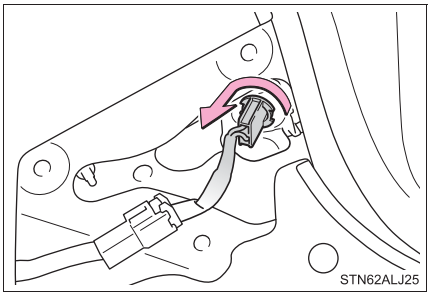


■ 後退灯

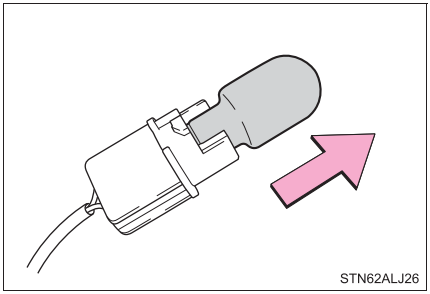
1 トランクを開け、カバーを取りはずす



2 ソケットを取りはずす



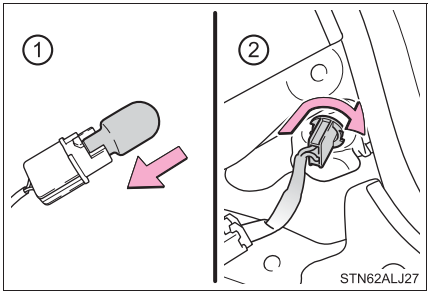
3 電球を取りはずす



4 新しい電球を取り付け、ソケットを取り付ける

① 新しい電球を取り付ける

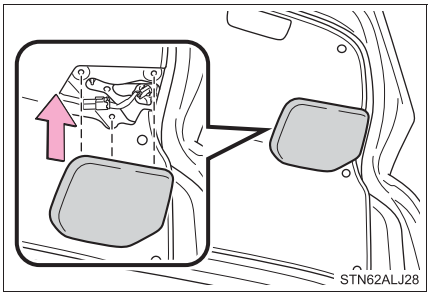
② ソケットを取り付ける



5 カバーを取り付ける

クリップ（3ヵ所）の位置を合わせてカバーを取り付ける

クリップ（3ヵ所）が確実に取り付いているか確認してください。



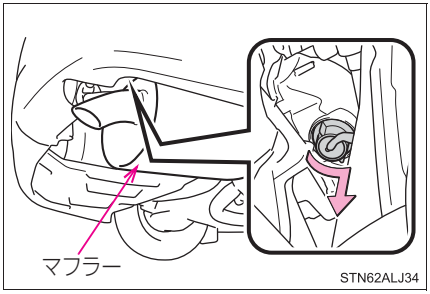
■ リヤフォグランプ★

リヤフォグランプは、マフラー上部の狭い場所に取り付けられているため、次のことをお守りください。

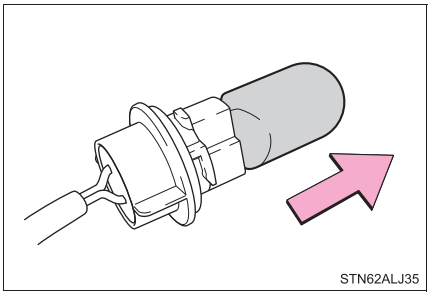
・マフラーが完全に冷えた状態で作業する（→ P. 313）
・車の部品などでけがをしないように、手袋など保護具を使用する（→ P. 313）

1 ソケットを取りはずす

マフラーの外側から手を入れてソケットを取りはずす

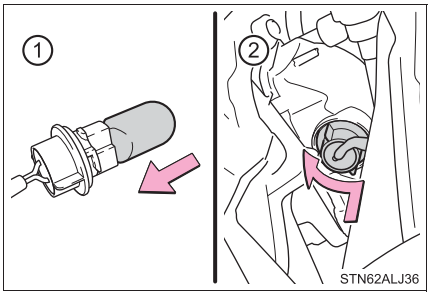


2 電球を取りはずす



3 新しい電球を取り付け、ソケットを取り付ける

① 新しい電球を取り付ける
② ソケットを取り付ける



★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

■ 次の電球を交換するには

次のランプが切れたときは、トヨタ販売店で交換してください。

- ヘッドランプ（ロー／ハイビーム）
- フロントフォグランプ
- 車幅灯
- サイド方向指示灯／非常点滅灯
- 尾灯
- 制動灯
- ハイマウントストップランプ
- 番号灯

知識

■LED ランプについて

ヘッドランプ（ロー／ハイビーム）、フロントフォグランプ、車幅灯、サイド方向指示灯／非常点滅灯、尾灯、制動灯、ハイマウントストップランプは、数個の LED で構成されています。もし LED がひとつでも点灯しないときは、トヨタ販売店で交換してください。

■レンズ内の水滴と曇り

レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。ただし、次のようなときは、トヨタ販売店にご相談ください。

- レンズ内側に大粒の水滴が付いている
- ランプ内に水がたまっている

■電球（バルブ）を交換するとき

→ P. 298

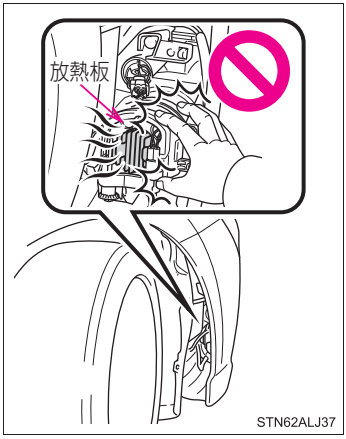
⚠ 警告

■電球を交換するとき

- 必ずハイブリッドシステムを停止し、ランプを消灯してください。消灯直後は高温になっているため、交換しないでください。やけどをすることがあります。
- 電球のガラス部を素手でふれないでください。
  やむを得ずガラス部を持つ場合は、電球に油脂や水分を付着させないために、乾いた清潔な布などを介して持ってください。
  また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れや破裂することがあります。
- 電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。取り付けが不十分な場合、発熱や発火、またはヘッドランプ内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。

■フロント方向指示灯／非常点滅灯を交換するとき

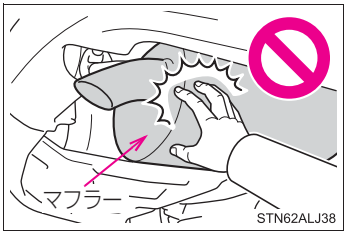
フロントフォグランプ点灯中および消灯直後は、フロントフォグランプ裏側の放熱板が高温になるため、さわらないでください。やけどをすることがあります。



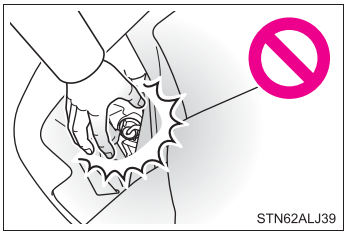
⚠ 警告

■リヤフォグランプ★を交換するとき

●マフラーが完全に冷えた状態で作業してください。
熱くなったマフラーや他の部品などでやけどをするおそれがあり危険です。



●車の部品などでけがをしないように手袋など保護具を使用してください。
鉄板の端などでけがをするおそれがあり危険です。



■お車の故障や火災を防ぐために

電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認してください。

■けがを防ぐために

電球を交換する前に、パワースイッチを OFF にしてください。
熱くなった部品でやけどをしたり、作動中の部品に巻き込まれて重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

万一の場合には 7

7-1. まず初めに

故障したときは.....316
非常点滅灯（ハザードランプ）.....317
発炎筒.....318
車両を緊急停止するには.....320

7-2. 緊急時の対処法

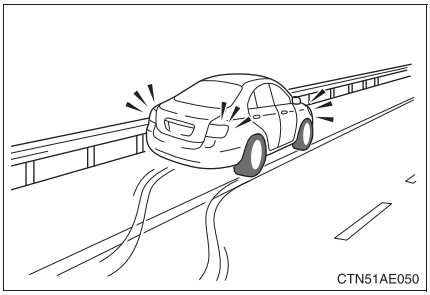
けん引について.....321
警告灯がついたときは.....327
警告メッセージが表示されたときは.....331
パンクしたときは（応急用タイヤ装着車）.....349
パンクしたときは（タイヤパンク応急修理キット装着車）.....359
ハイブリッドシステムが始動できないときは.....372
電子キーが正常に働かないときは.....374
補機バッテリーがあがったときは.....376
オーバーヒートしたときは...381
スタックしたときは.....385

故障したときは

故障のときはすみやかに次の指示に従ってください。

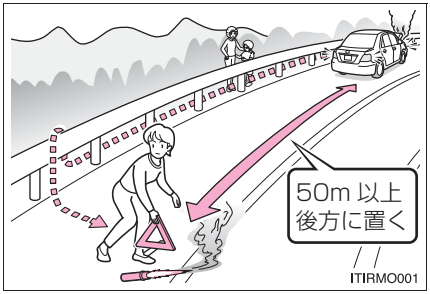
非常点滅灯（→ P. 317）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車する

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。



高速道路や自動車専用道路では、次のことに従う

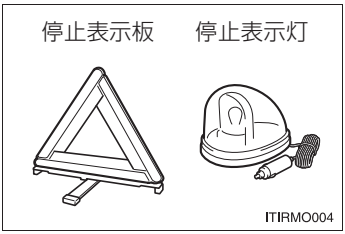
- 同乗者を避難させる
- 車両の 50m 以上後方に発炎筒（→ P. 318）と停止表示板を置くか、停止表示灯を使用する
  - ・見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。
  - ・発炎筒は、燃料もれの際やトンネル内では使用しないでください。
- その後、ガードレールの外側などに避難する



知識

■停止表示板・停止表示灯について

- 高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐停車する場合は、停止表示板または停止表示灯の表示が、法律で義務付けられています。
- 停止表示板・停止表示灯は、トヨタ販売店で購入することができます。



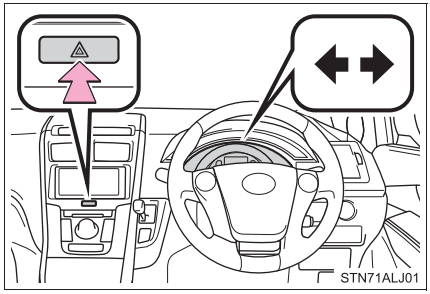
非常点滅灯（ハザードランプ）

事故などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるために使用してください。

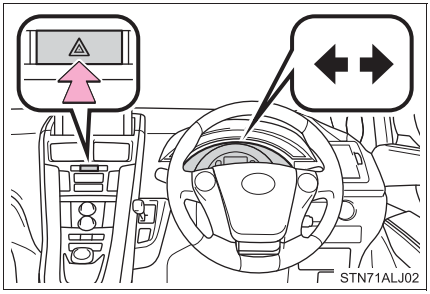
スイッチを押す

すべての方向指示灯が点滅します。もう一度押すと消灯します。

▶ リモートタッチ非装着車



▶ リモートタッチ装着車



知識

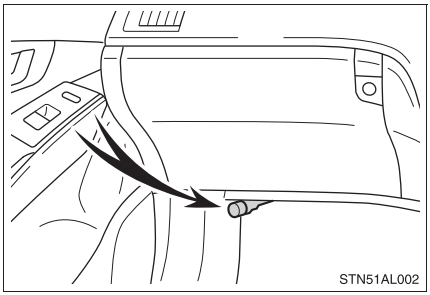
■非常点滅灯について

ハイブリッドシステム停止中（READY インジケーターが点灯していないとき）に、非常点滅灯を長時間使用すると、補機バッテリーがあがるおそれがあります。

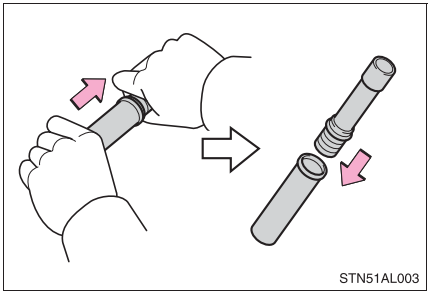
発炎筒

高速道路や踏切などでの故障・事故時に非常信号用として使用します。
（トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください）
発炎時間は約 5 分です。非常点滅灯と併用してください。

1 助手席足元の発炎筒を取り出す

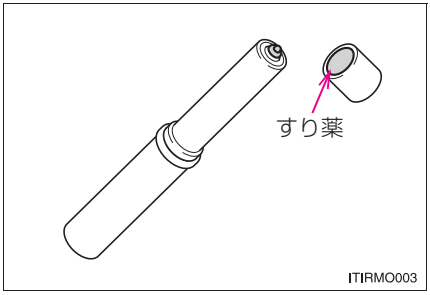


2 本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む



3 先端のフタを取り、すり薬で発炎筒の先端をこすり、着火させる

必ず車外で使用してください。
着火させる際は、筒先を顔や体に向けないでください。



知識

■発炎筒の有効期限

本体に表示してある有効期限が切れる前に、トヨタ販売店でお求めください。有効期限が切れると、着火しなかったり、炎が小さくなる場合があります。

⚠ 警告

■発炎筒を使用してはいけない場所

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■発炎筒の取り扱いについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさわらせない

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、次の手順で車両を停止させてください。

1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける

ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

2 シフトポジションを N にする

▶ シフトポジションが N になった場合

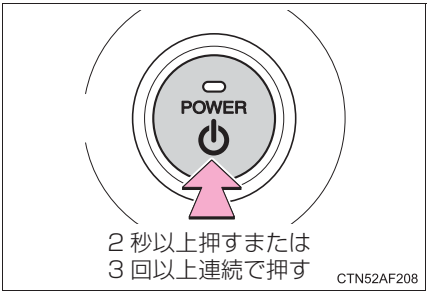
3 減速後、車を安全な道路脇に停める

4 ハイブリッドシステムを停止する

▶ シフトポジションが N にならない場合

3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる

4 パワースイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してハイブリッドシステムを停止する



5 車を安全な道路脇に停める

⚠ 警告

■走行中にやむを得ずハイブリッドシステムを停止するとき

ハンドル操作が重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。ハイブリッドシステムを停止する前に、十分に減速するようにしてください。

けん引について

けん引は、できるだけトヨタ販売店または専門業者にご依頼ください。

その場合は、レッカー車または、車両運搬車を使用することをおすすめします。

やむを得ず他車にロープでけん引してもらう場合は、車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめてください。

他車によるけん引が不可能な状況

次の場合は、パーキングロックにより前輪が固定されている可能性があるため、他車にロープでけん引してもらうことはできません。トヨタ販売店または専門業者にご依頼ください。

- シフト制御システムに異常があるとき（→P. 332）
- イモビライザーシステムに異常があるとき（→P. 67）
- スマートエントリー&スタートシステムに異常があるとき（→P. 374）
- 補機バッテリーがあがったとき（→P. 376）

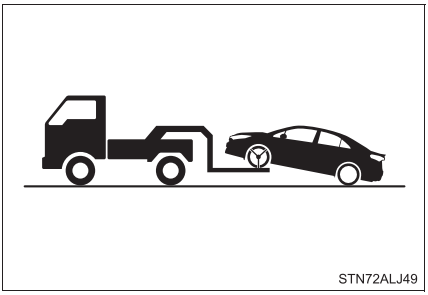
けん引の前に販売店への連絡が必要な状況

次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、トヨタ販売店または専門業者にご連絡ください。

- ハイブリッドシステム警告メッセージが表示され、車が動かない
- 異常な音がする

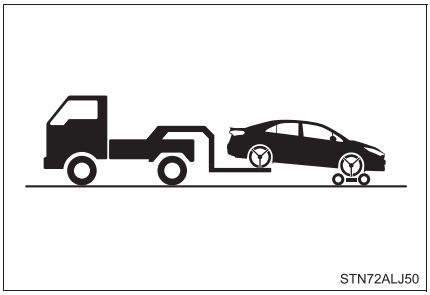
レッカー車でけん引するときは

▶ 前向きにけん引するときは



パーキングブレーキを解除する

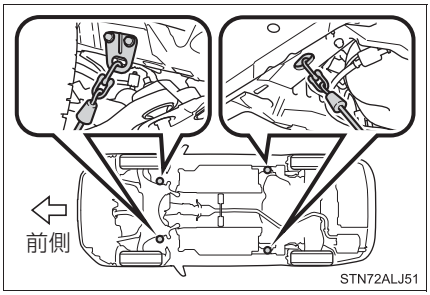
▶ うしろ向きにけん引するときは



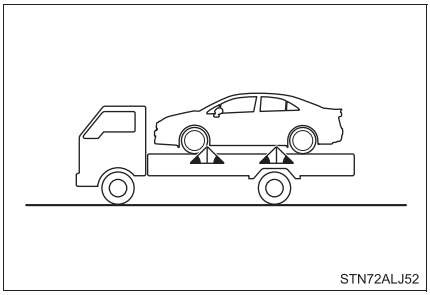
台車を使用して前輪を持ち上げる

車両運搬車を使用するとき

車両運搬車で輸送するときは、図の場所で固縛する



鎖やケーブルなどを使用して車両を固縛する場合は図に黒く示す角度が 45° になるように固縛する

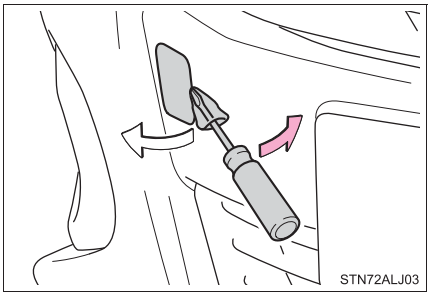


他車にけん引してもらうとき

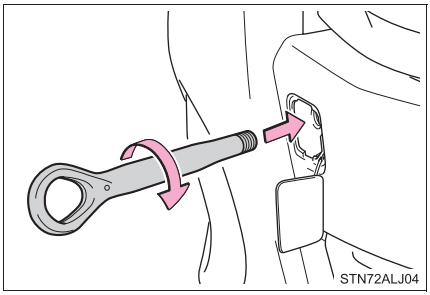
1 けん引フックを取り出す（→ P. 350, 360）

2 マイナスドライバーを使ってフタをはずす

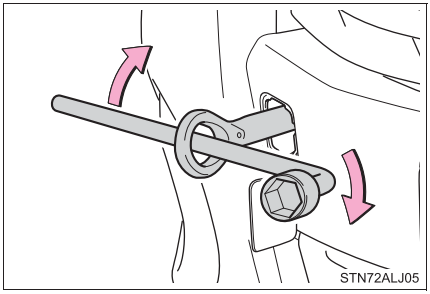
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



3 けん引フックを穴に挿し込んでまわし、軽く締める



4 ホイールナットレンチや金属の固い棒などを使い確実に取り付ける

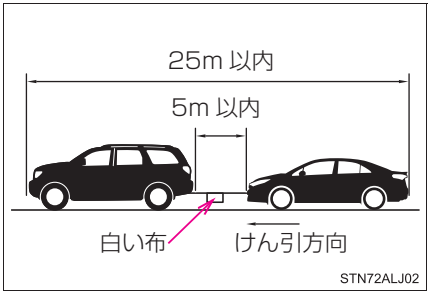


5 車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける

車体に傷が付かないように注意してください。また、前方方向でけん引してください。

6 ロープの中央に白い布を付ける

布の大きさ：
0.3m 平方（30cm × 30cm）以上



7 運転者はけん引される車両に乗り、ハイブリッドシステムを始動する

ハイブリッドシステムが始動しないときは、パワースイッチを ON モードにしてください。

8 けん引される車両のシフトポジションを N にしてから、パーキングブレーキを解除する

けん引中は、ロープがたるまないよう、減速時なども前の車の速度に合わせてください。

知識

■補機バッテリーがあがったとき

シフトポジションが P で、補機バッテリーがあがった場合は、パーキングロックにより前輪が固定されている可能性があるため、他車にロープでけん引してもらうことはできません。その場合は、前輪を持ち上げるか、4 輪とも持ち上げて運搬してください。

■けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引してもらうときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■他車にけん引してもらうときに

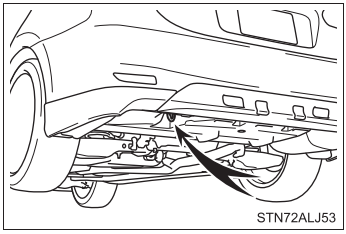
ハイブリッドシステムが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が通常より重くなったりします。

■ホイールナットレンチについて

トランクに搭載されています。（→ P. 350, 360）

■緊急用フックについて

雪の吹きだまりなどでスタックして走行できなくなったとき、やむを得ず他車に引っ張り出してもらうために使用することができます。他車をけん引することはできません。

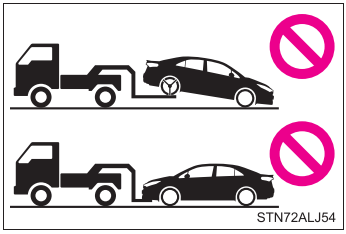


⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■レッカー車でけん引するとき

必ず前輪を持ち上げるか、４輪とも持ち上げた状態で運搬してください。前輪が地面に接地した状態でけん引すると、駆動系部品が破損したり、モーターが回転することにより発電され、故障や破損の状態によっては火災が発生するおそれがあります。



■他車にけん引してもらうときの運転について

- けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進などを避けてください。
  けん引フックやロープが破損し、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあります。
- パワースイッチを OFF にしないでください。
  パーキングロックにより、前輪が固定され、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

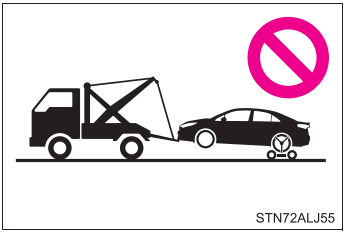
■けん引フックを車両に取り付けるとき

指定の位置にしっかりと取り付けてください。
指定の位置にしっかり取り付けていないとけん引時にフックがはずれるおそれがあります。

⚠ 注意

■レッカー車でけん引するとき

車両の損傷を防ぐため図のようなレッカー車ではけん引しないでください。



■車両運搬車に車を固縛するとき

ケーブル等で過度に締め付け過ぎないでください。車両の損傷につながるおそれがあります。

■車両の損傷を防ぐために

●けん引するときは次のことを必ずお守りください。

・ワイヤーロープは使用しない
・速度は 5km/h 以下、距離は車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめる
・前進方向でけん引する
・サスペンション部などにロープをかけない

●この車両で他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。

駆動系部品などに重大な損傷を与えるおそれがあります。

■長い下り坂でけん引するとき

レッカー車で前輪を持ち上げるか、4 輪とも持ち上げた状態でけん引してください。レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

■緊急用フックについて

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、装置の変形や車両の損傷などにつながるおそれがあります。

●やむを得ない場合以外は使用しないでください。

●緊急用フックで他車をけん引しないでください。

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。なお、点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯・警告ブザー一覧

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
（赤色）	**ブレーキ警告灯（警告ブザー※1）** ・ブレーキ液の不足 ・ブレーキ系統の異常 パーキングブレーキが解除されていないときも点灯します。解除後、消灯すれば正常です。 **→ ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。**
	充電警告灯 充電系統の異常 **→ ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。**
	油圧警告灯 エンジンオイルの圧力異常 **→ ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。**
	高水温警告灯 ・点滅：エンジンオーバーヒート気味です、注意して走行してください。 ・点灯：エンジンオーバーヒートです。車両を止めてください。→ P. 381 **→ ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。**
（黄色）	**電子制御ブレーキ警告灯** ・回生ブレーキシステムの異常 ・電子制御ブレーキシステムの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	エンジン警告灯 ・ハイブリッドシステムの異常 ・エンジン電子制御システムの異常 ・電子制御スロットルの異常 ・ハイブリッドトランスミッション電子制御システムの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
	SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 ・SRS エアバッグシステムの異常 ・プリテンショナー付きシートベルトシステムの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
	ABS & ブレーキアシスト警告灯 ・ABS の異常 ・ブレーキアシストの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
	パワーステアリング警告灯（警告ブザー） EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
 （点滅）	**PCS 警告灯★** プリクラッシュセーフティシステムの異常 システムの異常時以外にも、警告灯が次のように作動します。 ・システムの作動時には、速い点滅でお知らせします。 （→ P. 205） ・プリクラッシュブレーキを OFF にすると点灯します。 （→ P. 206） ・システムが一時的に使用できないときに点灯します。 （→ P. 339） **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
	ヘッドランプオートレベリング警告灯 自動光軸調整システムの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
	スリップ表示灯 ・VSC システムの異常 ・TRC システムの異常 ・ヒルスタートアシストコントロールシステムの異常 TRC・VSC・ABS の作動時には、点滅します。（→ P. 201） **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**

★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	半ドア警告灯（警告ブザー※2） いずれかのドア、またはトランクが確実に閉まっていない **→ 全ドアおよびトランクを閉める**
	燃料残量警告灯 燃料の残量が約 8L 以下になった **→ 燃料を補給する**
	シートベルト非着用警告灯（警告ブザー※3） 運転席・助手席シートベルトの非着用 **→ シートベルトを着用する**
	マスターウォーニング システムの異常時にブザーと共に点灯・点滅し、マルチインフォメーションディスプレイ上に警告メッセージを表示します。 **→ P. 331**

※1 ブレーキ警告ブザー：
ブレーキの効き低下につながる異常があると、警告灯の点灯と同時にブザーが鳴ります。
パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー：
→ P. 336

※2 半ドア走行時警告ブザー：
→ P. 335

※3 運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：
運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が約 20km/h 以上になると警告ブザーが 30 秒間断続的に鳴ります。その後も運転席・助手席シートベルト非着用のままだと、ブザーの音がかわり 90 秒間鳴ります。

知識

■シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について

●助手席に乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅することがあります。

●助手席に座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

■パワーステアリング警告灯／警告ブザーについて

補機バッテリーの充電が不十分な場合、または一時的に電圧が下がった場合に警告灯が点灯し、警告ブザーが鳴ることがあります。

■速度警告ブザーについて

速度警告ブザーを設定することができます。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。（→P. 401）

⚠ 警告

■パワーステアリング警告灯が点灯したとき

ハンドル操作が非常に重くなることがあります。
ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

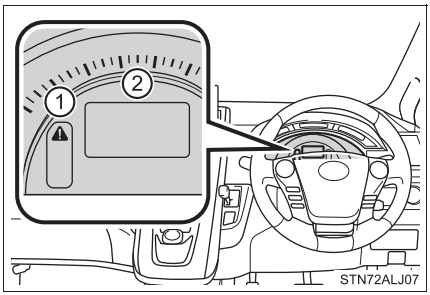
警告メッセージが表示されたときは

マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示された場合は、落ち着いて次のように対処してください。

① マスターウォーニング

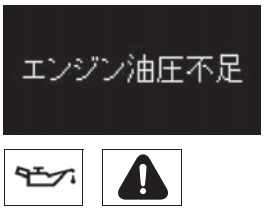
マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されているとき、点灯・点滅します。

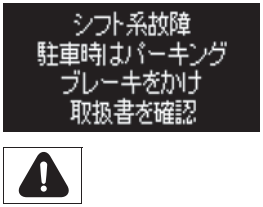
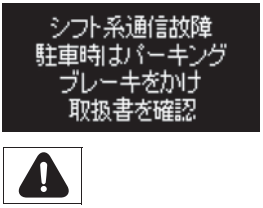
② マルチインフォメーションディスプレイ

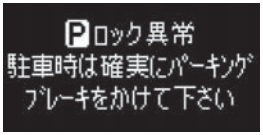
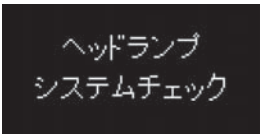


処置後に再度メッセージが表示されたときは、トヨタ販売店へご連絡ください。

警告メッセージ一覧

警告メッセージ	警告内容・対処方法
	**エンジンオイル圧力の異常** エンジンオイルの圧力が異常に低いと表示されます。 警告ブザーが鳴ります。 **→ ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。**
	ハイブリッドシステムの異常 警告ブザーが鳴ります。 **→ ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。**

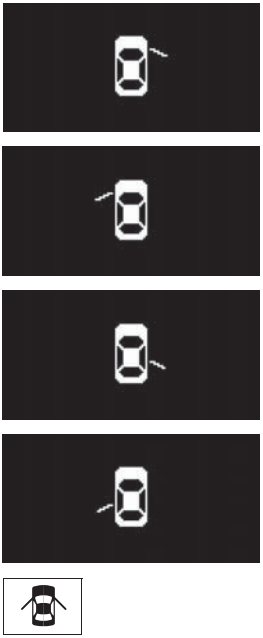
警告メッセージ	警告内容・対処方法
	**シフト制御システムの故障** パーキングロック機構が働かない可能性があります。駐車時は平坦な場所を選び、パーキングブレーキを確実にかけてください。 ハイブリッドシステムを始動できない可能性があります。 パワースイッチを OFF にできなくなることがあります。その場合はパーキングブレーキをかけると OFF にすることができます。 ・警告ブザーが鳴ります **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
	**シフト制御システムの通信故障** 自動 P ポジションの切りかえ機能（→ P. 150）が働かない可能性があります。パワースイッチを OFF にする前に確実に P ポジションスイッチを押し、シフトポジション表示灯または P ポジションスイッチの表示灯で、シフトポジションが P であることを必ず確認してください。 ハイブリッドシステムを始動できない可能性があります。 駐車時は平坦な場所を選び、パーキングブレーキを確実にかけてください。 ・警告ブザーが鳴ります **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
	シフト制御システムの故障 放置するとシステムが正しく動かず思わぬ危険や故障を招くおそれがあります。 ・警告ブザーが鳴ります **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**

警告メッセージ	警告内容・対処方法
 	**P ポジション制御システムの異常** 警告ブザーが鳴ります。 この場合は、パーキングロック機構が働かない可能性があります。 駐車時は平坦な場所を選び、パーキングブレーキを確実にかけてください。また、パワースイッチを OFF にできなくなることがあります。この場合はパーキングブレーキをかけると OFF にすることができます。 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
 （点滅）	**LED ヘッドランプシステムの異常** 警告ブザーが鳴ります。 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
   （点滅）	**PCS（プリクラッシュセーフティシステム）★の異常** 警告ブザーが鳴ります。 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
 	クリアランスソナー★の異常 警告ブザーが鳴ります。 異常のあるソナーが点滅して表示されます。 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**

★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

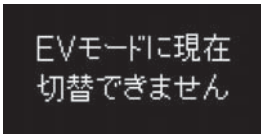
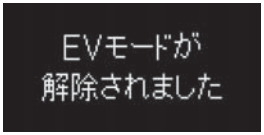
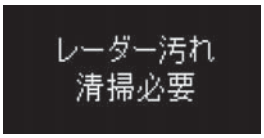
警告メッセージ	警告内容・対処方法
	クルーズコントロールシステム★の異常 **レーダークルーズコントロールシステム★の定速制御モード異常** 警告ブザーが鳴ります。 ON ／ OFF スイッチを一度 OFF にし、再度設定してください。 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
	レーダークルーズコントロール★の車間制御モード異常 警告ブザーが鳴ります。 ON ／ OFF スイッチを一度 OFF にし、再度設定してください。 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
	パワーステアリングシステムの異常 警告ブザーが鳴ります。 ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**

★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
	**各ドアが確実に閉まっていない** パワースイッチが ON モードのとき、開いているドアが表示されます。 各ドアが確実に閉まっていない状態のまま、車速が 5km/h をこえたときにはブザーが鳴ります。 **→ 開いているドアを閉める**
	ボンネットが確実に閉まっていない パワースイッチが ON モードのとき、表示されます。 **→ ボンネットを閉める**
	トランクが確実に閉まっていない パワースイッチが ON モードのとき、表示されます。 **→ トランクを閉める**
 （点滅）	**ムーンルーフ★が確実に閉まっていない状態でパワースイッチを OFF にして運転席ドアを開けた** 警告ブザーが鳴ります。 **→ ムーンルーフを閉める**

★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
	パーキングブレーキが解除されていない パーキングブレーキをかけたまま、車速が 5km/h をこえたときには ⚠ が点滅しブザーが鳴ります。 **→ パーキングブレーキを解除する**
⚠（点滅）	**駆動用電池の残量が低下** 警告ブザーが断続して鳴ります。 **→ シフトポジションが N の状態では充電できないため、長時間停車するときはシフトポジションを P にする**
⚠（点滅）	**長時間シフトポジションがNになっているため駆動用電池の残量が低下** 警告ブザーが連続して鳴ります。 **→ 車両を動かす場合は、ハイブリッドシステムを再始動する**
⚠（点滅）	**ハイブリッドシステムが始動している状態でシフトポジションが P 以外のとき、運転席ドアを開けた** 警告ブザーが連続して鳴ります。 **→ シフトポジションを P にする**
⚠（点滅）	**シフトポジションが N のとき、アクセルペダルを踏んだ** 警告ブザーが連続して鳴ります。 **→ アクセルペダルから足を離し、シフトポジションを D または R にする**

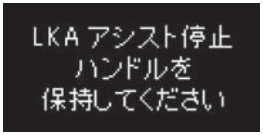
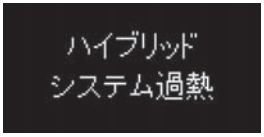
警告メッセージ	警告内容・対処方法
	**EV ドライブモードに切りかえできない状況※** 警告ブザーが鳴ります。 EV ドライブモードを使用できない理由（暖機中／電池充電不足／ EV 速度域超過／アクセル踏み過ぎ）の表示がでる場合があります。 **→ EV ドライブモードが使用できる状況になってから使用する**
 （3 回点滅）	**EV ドライブモードが自動解除された※** 警告ブザーが鳴ります。 EV ドライブモードを使用できない理由（電池充電不足／ EV 速度域超過／アクセル踏み過ぎ）の表示がでる場合があります。 **→ しばらく走行する**
 	クリアランスソナー★のセンサー部分の汚れ、氷などの付着 警告ブザーが鳴ります。 異常のあるソナーと車両マークが点滅して表示されます。 **→ 汚れおよび氷などを取り除く**
 	**レーダークルーズコントロール★のセンサー部分の汚れ、氷などの付着** 警告ブザーが鳴ります。 **→ 汚れおよび氷などを取り除く**

※ EV ドライブモードの作動条件については、P. 152 を参照してください。

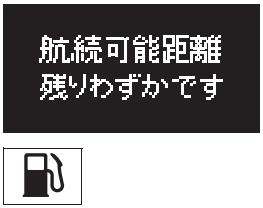
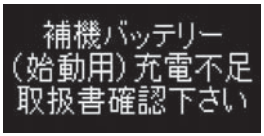
★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

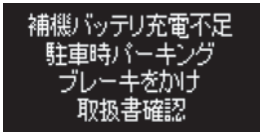
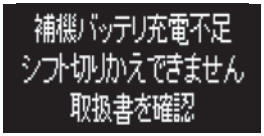
警告メッセージ	警告内容・対処方法
	レーダークルーズコントロール★の車間制御の測定不可 警告ブザーが鳴ります。 **→ ワイパーを止めるか、オートを解除または高速作動以外に切り替える**
 （点滅）	**（レーダークルーズコントロール★の車間制御中）衝突の危険性** 警告ブザーが鳴ります。 **→ ブレーキを踏む**
 PCS （点滅）	**衝突の可能性が高い、またはプリクラッシュブレーキが作動している（プリクラッシュセーフティシステム★）** 警告ブザーが鳴ります。 **→ ブレーキで減速する**
	LKA（レーンキーピングアシスト）★の異常 警告ブザーが鳴ります。 **→ 安全な場所に停止後、ハイブリッドシステムを始動し直し、LKA を再起動する**
	LKA（レーンキーピングアシスト）★の一時停止 警告ブザーが鳴ります。 ・ 白線認識用カメラが作動範囲外の高温状態 ・ パワーステアリングシステムの作動制限中 **→ しばらく走行してから LKA を再起動する**

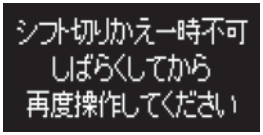
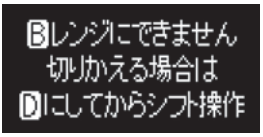
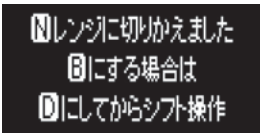
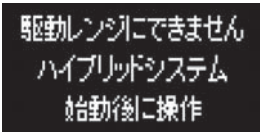
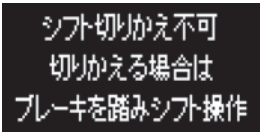
★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

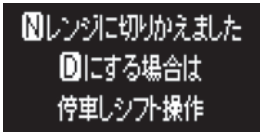
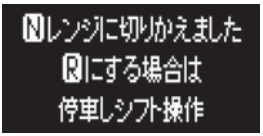
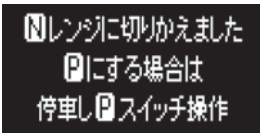
警告メッセージ	警告内容・対処方法
	(LKA [レーンキーピングアシスト] ★制御中) 車線逸脱警報 警告ブザーが連続して鳴ります。 白線またはハンドルマークが点滅して表示されます。 **→ 周囲の安全を確認してから、ハンドルを操作して車両を車線内にもどす**
 	**(LKA [レーンキーピングアシスト] ★車線維持支援機能中) 手放し運転警告** 警告ブザーが“ピピッ”と鳴ります。 3 秒間表示後、車線逸脱警報表示に切りかわります。 **→ ハンドルをしっかりにぎる**
 	**ハイブリッドシステムの過熱** 警告ブザーが鳴ります。 負荷の高い走行状況（例えば、長い上り坂を走行）のときにメッセージが表示される場合があります。 **→ 車両を停車して点検する（→ P. 381）**
 	PCS（プリクラッシュセーフティシステムまたは後方プリクラッシュセーフティシステム）★が現在機能していない ・ グリル、後方の専用カバーまたはセンサーが汚れている状態 **→ グリル、後方の専用カバー（→ P. 206，212）またはセンサーの汚れを取り除く** ・ システムの過熱保護のため一時的に機能していない状態 **→ 通常温度になるまでしばらく待つ**

★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
	燃料の残量が 約 8 L 以下になった **→ 約 12 L 以上燃料を補給する（→ P. 172）**
	燃料の残量が 約 6 L 以下になった※ 1 **→ 約 12 L 以上燃料を補給する（→ P. 172）**
	補機バッテリーが充電不足 **→ 数秒後※ 2 に表示が消えたときは 約 15 分以上、ハイブリッドシステムが作動した状態を保持し、補機バッテリーを充電してください。** **→ 表示が消えないときは 「補機バッテリーがあがったときは」（→ P. 376）の手順でハイブリッドシステムを始動してください。**

警告メッセージ	警告内容・対処方法
 	**補機バッテリー充電不足** パーキングロック機構が働かない可能性があります。 ハイブリッドシステムを始動できない可能性があります。 パワースイッチを OFF にできなくなることがあります。その場合はパーキングブレーキをかけると OFF にすることができます。 補機バッテリー充電後も、シフトポジションを P から P 以外に切りかえるまでメッセージが表示され続ける場合があります。 ・警告ブザーが鳴ります **→ 駐車時は平坦な場所を選び、パーキングブレーキを確実にかけてください** **→ 約 15 分以上、ハイブリッドシステムが作動した状態を保持し、補機バッテリーを充電してください。** **→ ハイブリッドシステムが始動できないときは「補機バッテリーがあがったときは」（→ P. 376）の手順でハイブリッドシステムを始動してください。** **→ 表示が消えないときは** **補機バッテリーが劣化している可能性があります。** **その状態で放置しておくと、補機バッテリーあがりを起こすおそれがあるため、トヨタ販売店で補機バッテリーの点検を受けてください。**
 （点滅）	**補機バッテリー充電不足** シフトポジションを切りかえできない可能性があります。 ・警告ブザーが鳴ります **→ 約 15 分以上、ハイブリッドシステムが作動した状態を保持し、補機バッテリーを充電してください。** **→ ハイブリッドシステムが始動できないときは「補機バッテリーがあがったときは」（→ P. 376）の手順でハイブリッドシステムを始動してください。** **→ ひんぱんに表示されるときは** **補機バッテリーが劣化している可能性があります。** **その状態で放置しておくと、補機バッテリーあがりを起こすおそれがあるため、トヨタ販売店で補機バッテリーの点検を受けてください。**

警告メッセージ	警告内容・対処方法
 （点滅）	シフトレバーとPポジションスイッチの操作を短時間にくり返した 警告ブザーが鳴ります。 → しばらく時間をおいてから、シフトポジションを切りかえる
 （点滅）	シフトポジションが P、または N のときに B に切りかえようとした 警告ブザーが鳴ります。 → シフトポジションをDにしてからBに切りかえる
 （点滅）	シフトポジションが R のときに B へ切りかえようとした シフトポジションが N に切りかわります。 ・警告ブザーが鳴ります → シフトポジションを D にしてから B にする
 （点滅）	パワースイッチが ON モードのとき（READY インジケーター消灯中）に、シフトポジションを R、D または B に切りかえようとした 警告ブザーが鳴ります。 → ハイブリッドシステムを始動後、シフトポジションを R、D または B に切りかえる
 （点滅）	ブレーキペダルを踏まずに、シフトポジションを P から切りかえようとした 警告ブザーが鳴ります。 → シフトポジションを P から切りかえるときは、ブレーキペダルを踏んで切りかえる

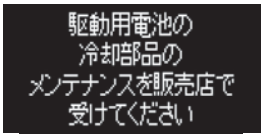
警告メッセージ	警告内容・対処方法
 （点滅）	**車両が後退しているときに、シフトポジションを D へ切りかえようとした** シフトポジションが N に切りかわります。 ・警告ブザーが鳴ります **→ 車両を停車させてから、シフトポジションを切りかえる**
 （点滅）	**車両が前進しているときに、シフトポジションを R へ切りかえようとした** シフトポジションが N に切りかわります。 ・警告ブザーが鳴ります **→ 車両を停車させてから、シフトポジションを切りかえる**
 （点滅）	**車両が動いているときに、P ポジションスイッチを操作し、シフトポジションを P へ切りかえようとした** シフトポジションが N に切りかわります。 ・警告ブザーが鳴ります **→ 車両を完全に停車させてから、P ポジションスイッチを操作する**

※1 マルチインフォメーションディスプレイに航続可能距離が表示されている場合、メッセージが表示されます。

※2 約 6 秒間表示されます。

その他に表示されるメッセージ

次のメッセージが表示されたときは、対処方法に従って処置することで、消灯させることができます。

表示メッセージ	表示内容・対処方法
	**駆動用電池の冷却部品のメンテナンス時期** フィルターが目づまりしている、冷却用の吸入口がふさがれている、またはダクトにすき間があるなどが考えられます。 **→ トヨタ販売店で駆動用電池の冷却部品のメンテナンスを受けてください**

知識

■レーダークルーズコントロール★の警告メッセージについて

次のような場合は、車間距離が短くても、車間制御中の警告メッセージが表示されないおそれがあります。

- ●先行車と自車の車速が同じか先行車の方が速いとき
- ●先行車が非常に低速で走行しているとき
- ●速度を設定した直後
- ●アクセルペダルが踏まれたとき

■LKA（レーンキーピングアシスト）★の車線逸脱警報について

次のような場合は、白（黄）線をまたいでも警告メッセージが表示されません。

- ●LKA の作動条件以外の車速のとき
- ●白（黄）線を認識できていないとき
- ●車線変更に相当する程度の操舵力でハンドルを操作したとき

⚠ 注意

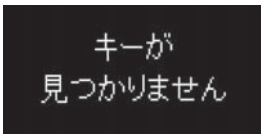
■「補機バッテリー（始動用）充電不足」・「補機バッテリー充電不足」がひんぱんに表示されるときは

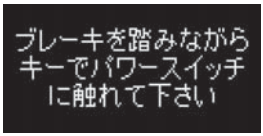
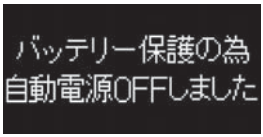
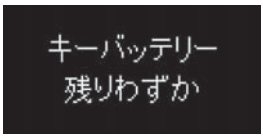
補機バッテリーが劣化している可能性があります。その状態で放置しておくと、補機バッテリーあがりを起こすおそれがあるため、トヨタ販売店で補機バッテリーの点検を受けてください。

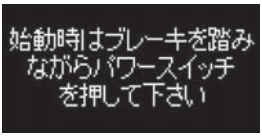
車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容・対処方法
1 回	なし	（点滅）	電子キーを携帯していないか、電子キーが正常に作動しない状態でハイブリッドシステムを始動しようとした **→ 電子キーを携帯してハイブリッドシステムを始動する**

★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容・対処方法
1回	3回	キーが見つかりません （点滅）	パワースイッチが OFF 以外の状態で運転席以外のドアが開閉され同乗者が電子キーを持ち出した **→ 電子キーを車内にもどす**
			シフトポジションがPの状態でパワースイッチを OFF にせずにキーを持ち出したまま運転席ドアが開閉された **→ パワースイッチを OFF にするまたは電子キーを車内にもどす**
1回	連続音	キーが見つかりません 電源をOFFして下さい （交互に表示） （点滅）	パワースイッチをOFFにせずに、電子キーを外に持ち出してドアを施錠しようとした **→ パワースイッチを OFF にしたあと、再度施錠する**
1回	なし	キーが見つかりません （点滅）	正規の電子キーが車室内にない状態で走行をはじめた **→ 車室内に電子キーがあるか確認する**

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容・対処方法
連続音	なし	 （点滅）	シフトポジションがP以外の状態で、パワースイッチを OFF にせずに運転席ドアが開いた **→ シフトポジションを P にする**
連続音	連続音	  （交互に表示） （点滅）	シフトポジションがP以外の状態でパワースイッチを OFF にせずにキーを持ち出したまま運転席ドアが開閉された **→ シフトポジションを P にする** **→ 電子キーを車内に入れる**
1回	連続音	 （点滅）	車内に電子キーを置いたまま、スマートエントリー＆スタートシステムでドアを施錠しようとした **→ 車内から電子キーを取り出したあと、再度施錠する**
1回	連続音	 （点滅）	車内に電子キーを置いたまま、フロントドアを開き、ロックレバーを施錠側にしてドアハンドルを引いたままドアを閉めて施錠しようとした **→ 車内から電子キーを取り出したあと、再度施錠する**

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容・対処方法
1回	なし	 （点滅）	・メカニカルキーで解錠してパワースイッチを押した際、車室内でキーを検出できなかった ・パワースイッチを押したとき車室内でキーを検出できないことが2回連続で続いた **→ ブレーキを踏みながら電子キーでパワースイッチにふれる**
1回	なし	 （点滅）	シフトポジションが N の状態でハイブリッドシステムを始動しようとしている **→ シフトポジションを P に入れてからハイブリッドシステムを始動させる**
なし	なし		自動電源 OFF 機能が作動した **→ 次回ハイブリッドシステム始動時に、約 5 分間ハイブリッドシステムが作動した状態を保持し補機バッテリーを充電する**
1回	なし	 	電子キーの電池残量が少ない **→ 新しい電池と交換する（→ P. 295）**

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容・対処方法
1回	なし	 （点滅）	パワースイッチが OFF の状態で運転席のドアを開閉してからハイブリッドシステムを始動せずにパワースイッチをアクセサリーモードに2回した **→ ブレーキを踏んでパワースイッチを押す**
			電子キーが正常に働かないときのハイブリッドシステムの始動の方法（→ P. 374）でパワースイッチに電子キーをふれた **→ ブザーが鳴ってから10秒以内にパワースイッチを押す**

知識

■警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

パンクしたときは（応急用タイヤ装着車）

この車両には、応急用タイヤが搭載されています。パンクしたタイヤを、備え付けの応急用タイヤと交換してください。
（タイヤについての詳しい説明は P. 287 を参照してください）

⚠ 警告

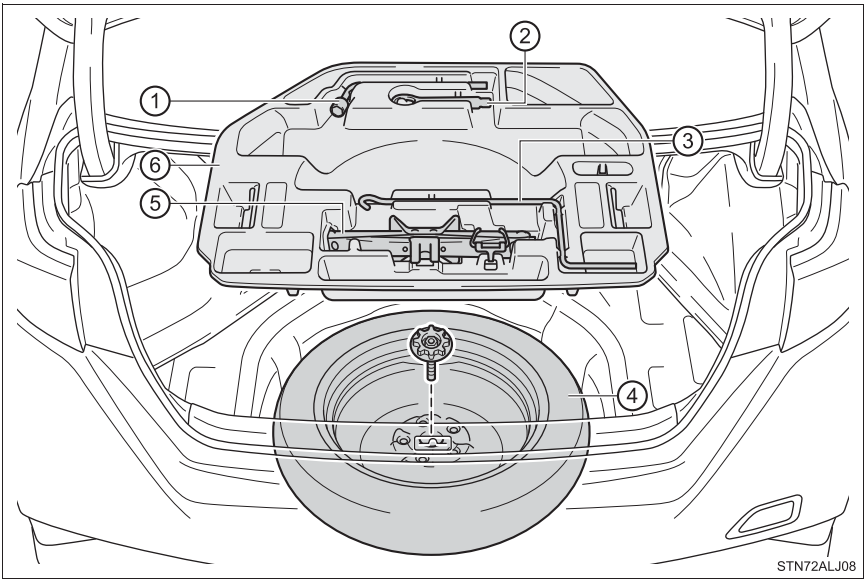
■タイヤがパンクしたときは

パンクしたまま走行しないでください。
短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ジャッキで車体を持ち上げる前に

- 地面が固く平らな場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- P ポジションスイッチを押して、シフトポジションを P にする
- ハイブリッドシステムを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる

工具とジャッキの位置



① ホイールナットレンチ
② けん引フック
③ ジャッキハンドル
④ 応急用タイヤ
⑤ ジャッキ
⑥ ツールトレイ

⚠ 警告

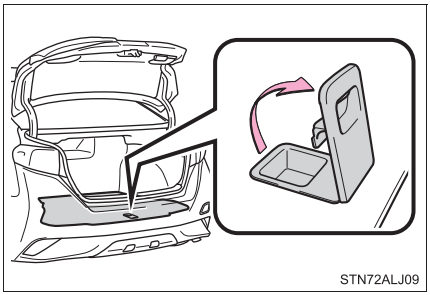
■ジャッキの使用について

次のことをお守りください。
ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

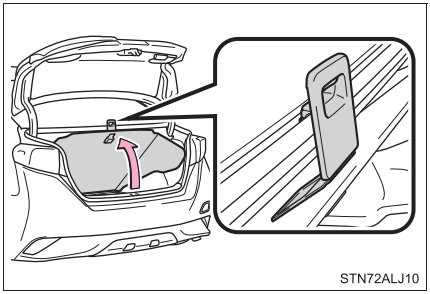
- ジャッキはタイヤ交換・タイヤチェーン取り付け・取りはずし以外の目的で使用しない
- 備え付けのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため、他の車に使ったり他の車のジャッキをお客様の車に使用したりしない
- ジャッキはジャッキセット位置に正しくかける
- ジャッキで支えられている車の下に体を入れない
- 車がジャッキで支えられている状態で、ハイブリッドシステムを始動したり車を走らせない
- 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
- 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものを置かない
- 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- 車の下にもぐり込んで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する
- 車を下げるときは、周囲に人がいないことを確認し、人がいるときは声をかけてから下げる

ジャッキと応急用タイヤの取り出し方

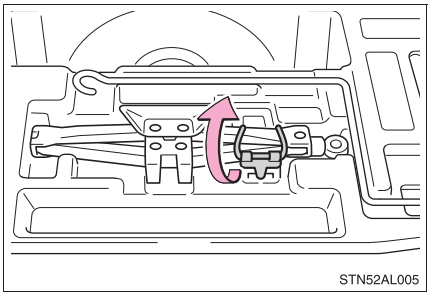
1 ラゲージマットを持ち上げる


STN72ALJ09

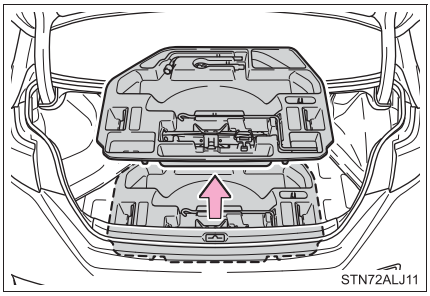
2 フックを使ってラゲージマットを固定する


STN72ALJ10

3 ジャッキの留め具を取りはずす

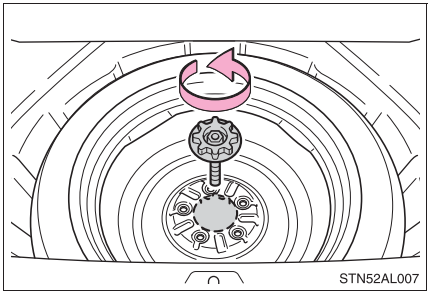

STN52AL005

4 ツールトレイを取り出す


STN72ALJ11

5 留め具をはずし、スペアタイヤを取り出す

スペアタイヤの留め具が固くてまわらないときは、車載のレンチを使用してください。（タイヤを固定するときは、留め具を手で取り付けてください。レンチなどの工具は使用しないでください）



⚠ 警告

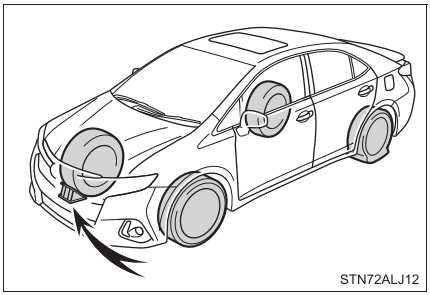
■応急用タイヤを収納するとき

ボデーと応急用タイヤとのあいだに、指などを挟まないように注意してください。

パンクしたタイヤの交換

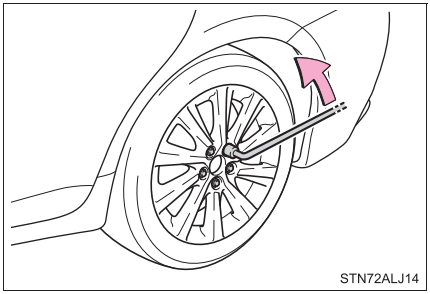
1 輪止め※をする

※ 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

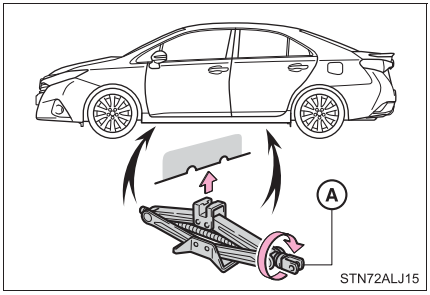


パンクしたタイヤ		輪止めの位置
前輪	左側	右側後輪うしろ
	右側	左側後輪うしろ
後輪	左側	右側前輪前
	右側	左側前輪前

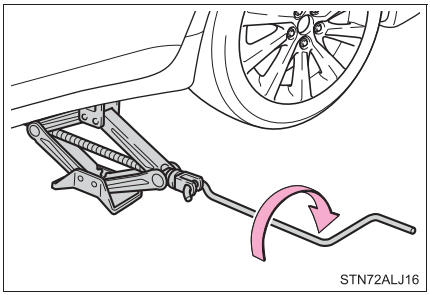
2 ナットを少し（約 1 回転）ゆるめる



3 ジャッキの A 部を手でまわして、ジャッキ溝をジャッキセット位置にしっかりかける

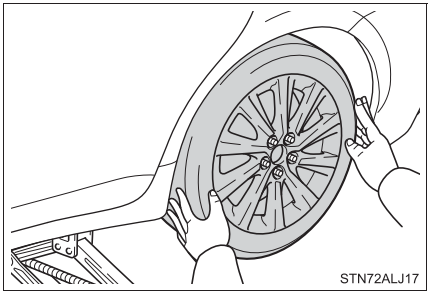


4 タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる



5 ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの表面に傷が付かないよう表面を上にします。



⚠ 警告

■タイヤ交換について

●走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているためタイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。

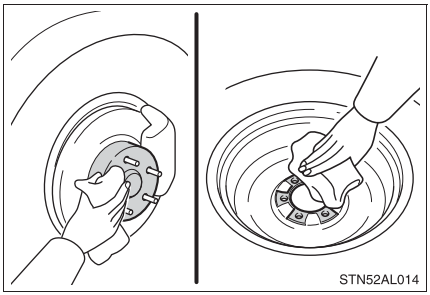
●次のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

・ねじ部にオイルやグリースを塗らない
ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。またナットがゆるみホイールが落下するおそれがあります。オイルやグリースがねじ部に付いている場合はふき取ってください。
・ホイールの交換後は、すぐに 103N・m（1050kgf・cm）の力でナットを締める
・タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する
・ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店で点検を受ける
・ナットを取り付けるときは、必ずテーパー部を内側にして取り付ける
（→ P. 289）

応急用タイヤの取り付け

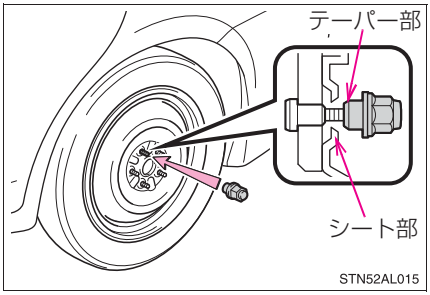
1 ホイール接触面の汚れをふき取る

ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。

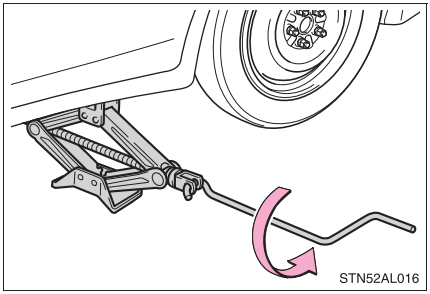


2 応急用タイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする

ナットのテーパー部がホイールのシート部に軽くあたるまでまわす

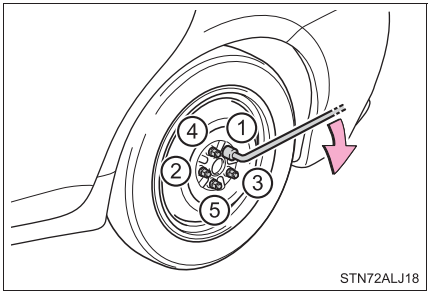


3 車体を下げる



4 図の番号順でナットを 2、3 度しっかり締め付ける

締め付けトルク：
103N・m（1050kgf・cm）



5 すべての工具・ジャッキ・パンクしたタイヤを収納する

知識

■応急用タイヤについて

●タイヤの側面に TEMPORARY USE ONLY と書かれています。応急用にのみ使用してください。

●空気圧を必ず点検してください。（→ P. 391）

■応急用タイヤを装着しているとき

標準タイヤ装着時にくらべ車高が低くなっています。

■雪道・凍結路で前輪がパンクしたとき

1 後輪を応急用タイヤに交換する

2 パンクした前輪をはずした後輪に交換する

3 タイヤチェーンを前輪に装着する

⚠ 警告

■応急用タイヤを使用するとき

●お客様の車専用になっているため、他の車には使用しないでください。

●同時に 2 つ以上の応急用タイヤを使用しないでください。

●できるだけ早く通常のタイヤと交換してください。

●急加速・急ハンドル・急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避けてください。

■応急用タイヤを装着しているとき

正確な車両速度が検出できない場合があり、次のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

・ABS
・ブレーキアシスト
・S-VSC
・LKA（レーンキーピングアシスト）★
・レーダークルーズコントロール★
・クルーズコントロール★
・クリアランスソナー★
・GPS ボイスナビゲーション★
・バックガイドモニター★
・TRC
・PCS★
・EPS

■応急用タイヤ使用時の速度制限

応急用タイヤを装着しているときは、100km/h 以上の速度で走行しないでください。
応急用タイヤは、高速走行に適していないため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

⚠ 注意

■ タイヤチェーンの装着について

応急用タイヤには、タイヤチェーンを装着しないでください。
タイヤチェーンが車体にあたり、車を損傷したり走行に悪影響をおよぼしたりするおそれがあります。

パンクしたときは（タイヤパンク応急修理キット装着車）

タイヤパンク応急修理キット装着車には、スペアタイヤが搭載されていません。

タイヤがパンクしたときは、タイヤパンク応急修理キットで応急修理することができます。釘やネジなどが刺さった程度の軽度なパンクを応急修理できます。（パンク補修液 1 本につき、応急修理できるタイヤは 1 本です）

タイヤパンク応急修理キットで応急修理したタイヤの修理・交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

⚠ 警告

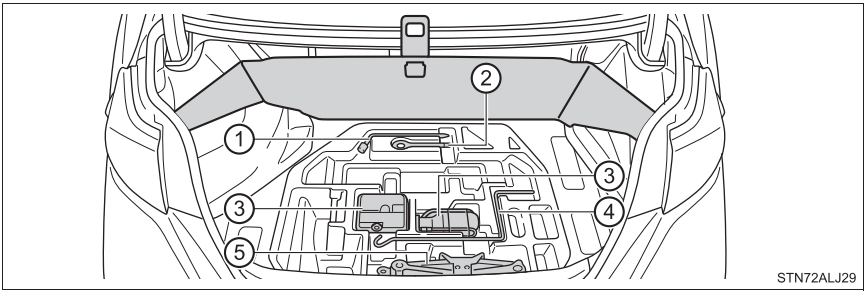
■パンクしたままの走行について

タイヤがパンクした状態で走行を続けないでください。
短い距離の運転でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

応急修理する前に

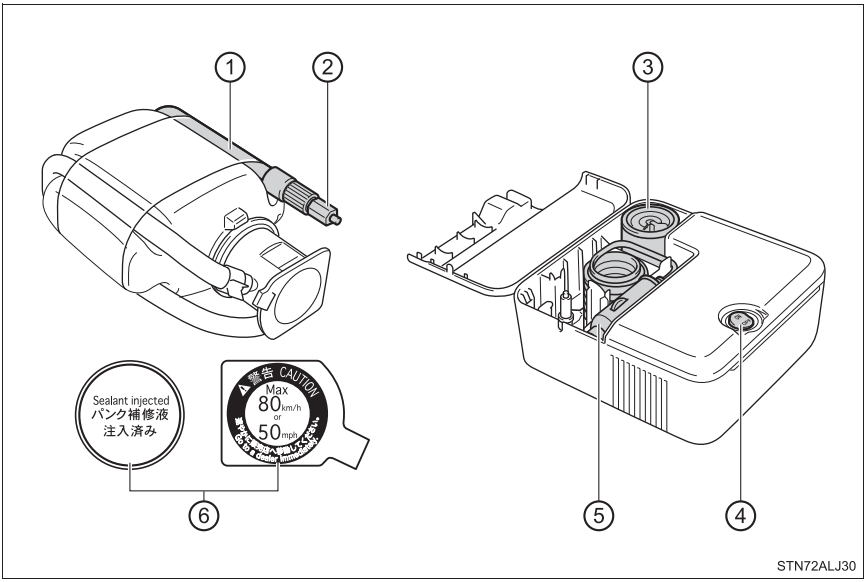
- 地面が固く平らな場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- P ポジションスイッチを押して、シフトポジションを P にする
- ハイブリッドシステムを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる

タイヤパンク応急修理キット・工具の搭載位置



① ホイールナットレンチ
② けん引フック
③ タイヤパンク応急修理キット
※ ジャッキの使い方（→P. 353）
④ ジャッキハンドル
⑤ ジャッキ※

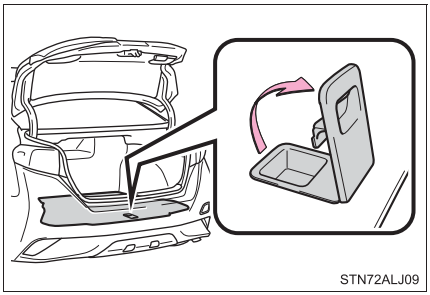
タイヤパンク応急修理キットの内容／各部の名称



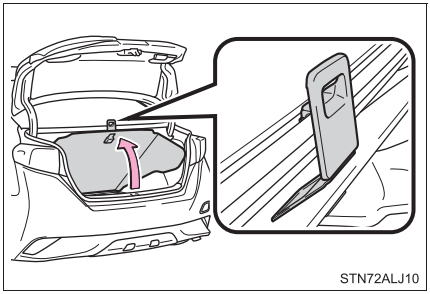
① ホース
② 空気逃がしキャップ
③ 空気圧計
④ 電源スイッチ
⑤ 電源プラグ
⑥ ラベル

応急修理キットの取り出し方

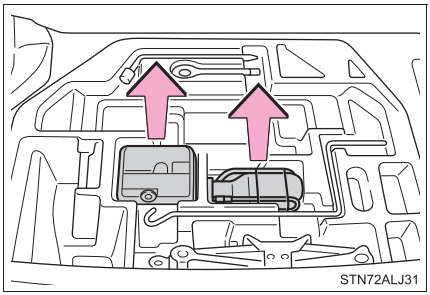
1 ラゲージマットを持ち上げる


STN72ALJ09

2 フックを使ってラゲージマットを固定する

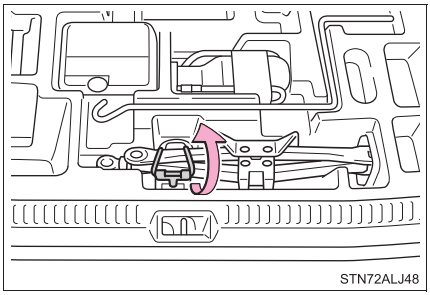

STN72ALJ10

3 応急修理キットを取り出す


STN72ALJ31

ジャッキの取り出し方

ジャッキの留め具を取りはずす

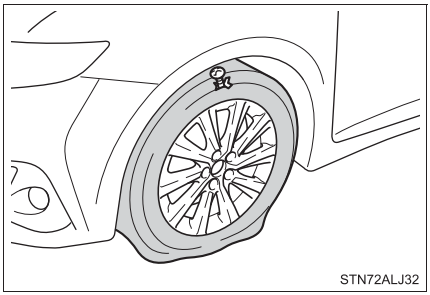

STN72ALJ48

応急修理する前に

タイヤの損傷程度を確認してください。

釘やネジなどが刺さっている場合のみ、タイヤを応急修理してください。

・タイヤに刺さっている釘やネジなどは抜かないでください。抜いてしまうと穴が大きくなりすぎ、応急修理ができなくなることがあります。

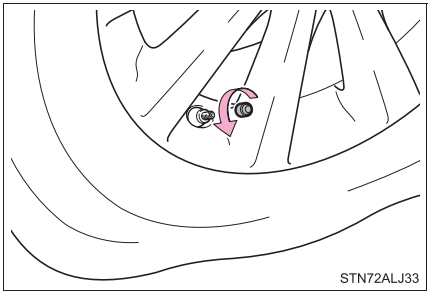

STN72ALJ32

・パンク補修液がもれないようにするため、パンク箇所が分かっている場合は、パンク箇所が上になるように車両を移動してください。

応急修理するとき

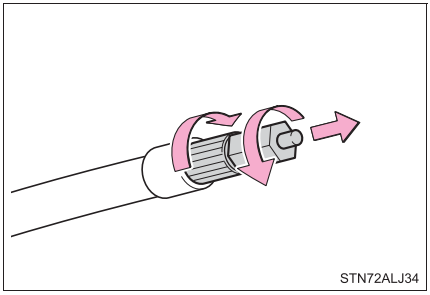
1 応急修理キットを取り出す

2 パンクしたタイヤのバルブからバルブキャップを取りはずす


STN72ALJ33

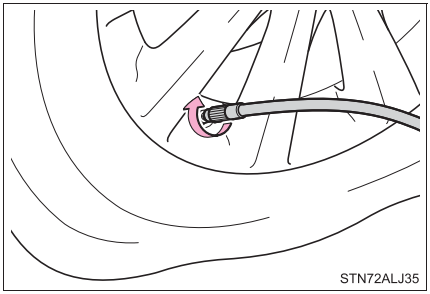
3 ボトルの保護フィルムをはがしホースをのばす
ボトルのホースから空気逃がしキャップを取りはずす

ボトルに同封されているパンク補修液注入済ラベルは指定の位置へ貼り付けます。(9へ) 空気逃がしキャップは再度使用するため、なくさないように保管してください。

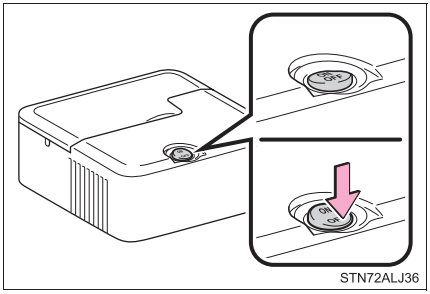

STN72ALJ34

4 ボトルのホースをパンクしたタイヤのバルブに接続する

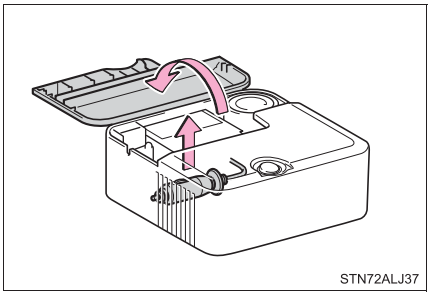
ホース先端を時計まわりにまわしてしっかりと最後までねじ込む。



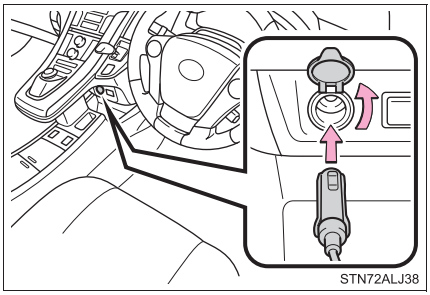
5 コンプレッサーのスイッチがOFF であることを確認する



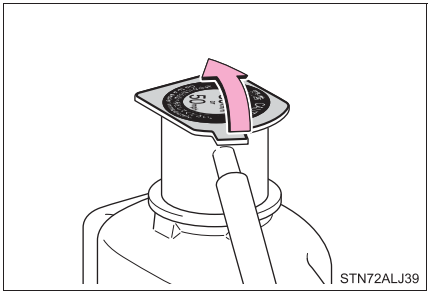
6 フタを開けてコンプレッサーの電源プラグをはずす



7 コンプレッサーの電源プラグをアクセサリーソケットに挿し込む（→P. 262）

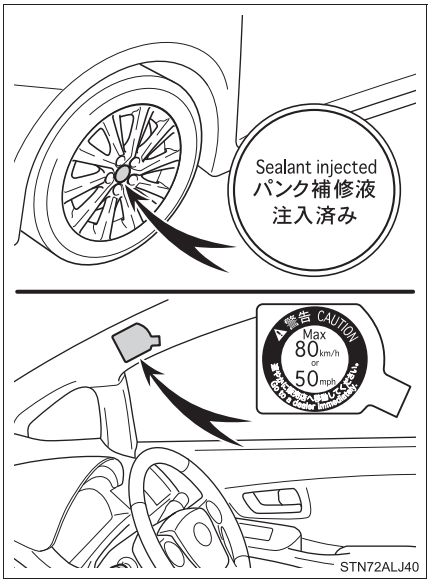


8 速度制限ラベルをはがす



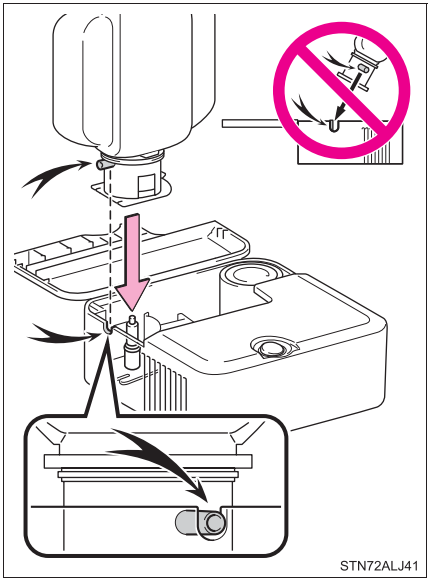
9 付属のラベル２枚を図のようにそれぞれ貼り付ける

ホイールの汚れや水分を十分に拭き取ってからラベルを貼り付けてください。ラベルを貼り付けることができない場合は、トヨタ販売店にてタイヤを修理・交換するときにパンク補修液注入済であることを必ずお伝えください。



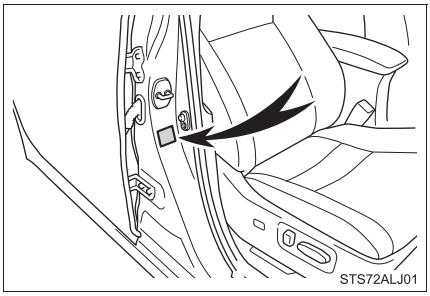
10 ボトルをコンプレッサーに接続する

右の図のように、ボトルをまっすぐコンプレッサーに挿入・接続し、ボトルの突起がケースの溝にしっかり合っているか確認してください。



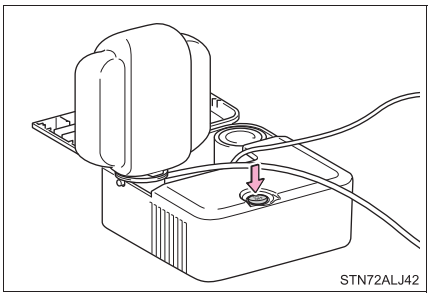
11 タイヤの指定空気圧を確認する

運転席側の空気圧ラベルで確認することができます。（→ P. 288）



12 ハイブリッドシステムを始動する

13 コンプレッサーのスイッチをONにし、パンク補修液と空気を充填する



14 空気圧が指定空気圧になるまで空気を充填する

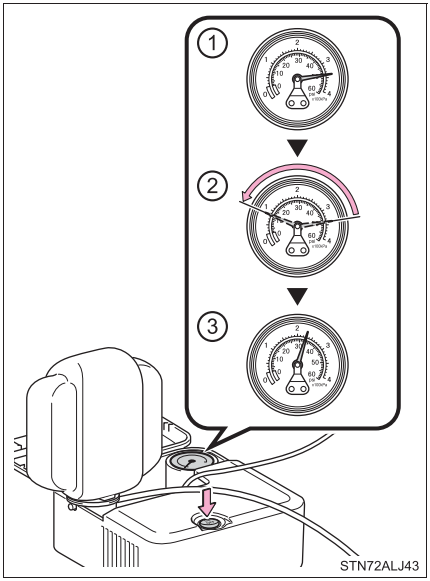
① スイッチ ON 直後は、パンク補修液を注入するため、一時的に空気圧計が上昇する

② 1分程度（低温の場合は 5 分程度）で実際の空気圧表示になる

③ 指定空気圧になるまで充填する

空気圧は、コンプレッサーのスイッチを OFF にして確認してください。空気の入れすぎに注意して、指定空気圧になるまで充填・確認をくり返してください。

35 分以上充填しても指定空気圧にならない場合は、応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。



空気を入れすぎたときは、指定空気圧になるまで空気を抜いてください。
（→ P. 288, 391）

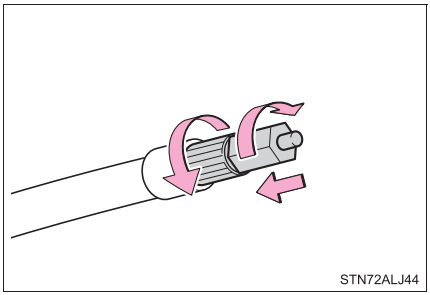
15 コンプレッサーのスイッチが OFF であることを確認した上で、アクセサリーソケットから電源プラグを抜く
バルブからボトルのホースを取りはずす

ホースを取りはずすときにパンク補修液が漏れる可能性があります。

16 バルブキャップを応急修理したタイヤのバルブに取り付ける

17 ボトルのホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

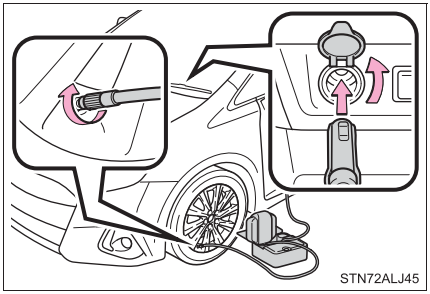
空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液が漏れ、お車が汚れる可能性があります。



18 いったん、ボトルとコンプレッサーを接続したままラゲージルームに収納する

19 タイヤ内のパンク補修液を均等に広げるために、ただちに約5 km、安全に走行する（速度 80 km/h 以下）

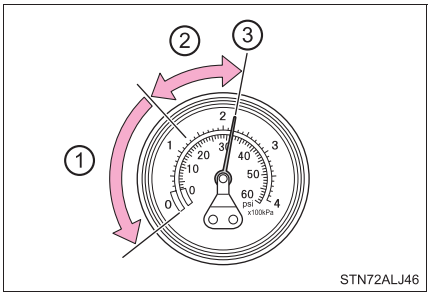
20 走行後、ボトルのホースから空気逃がしキャップを取りはずし、再度応急修理キットを接続する


STN72ALJ45

21 コンプレッサーのスイッチを約5秒間 ON にし、OFF にしてから空気圧を確認する

① 空気圧が 130 kpa (1.3 kg/cm^2) 未満の場合：応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

② 空気圧が 130 kpa (1.3 kg/cm^2) 以上、指定空気圧未満の場合：22 へ

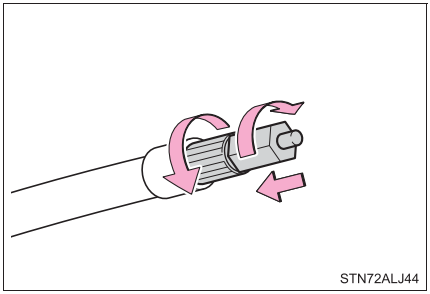


③ 空気圧が指定空気圧（→ P. 288）の場合：23 へ

22 コンプレッサーのスイッチをONにして指定空気圧まで空気を充填し、再度約5 km 走行後にあらためて 20 から実施する

23 ボトルのホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液が漏れ、お車が汚れる可能性があります。


STN72ALJ44

24 ボトルとコンプレッサーを接続したままラゲージルームに収納します

25 急ブレーキ、急加速、急ハンドルを避け、慎重に 80 km/h 以下で運転してトヨタ販売店へ行きます

タイヤの修理・交換についてはトヨタ販売店にご相談ください。

知識

■応急修理キットで修理できないパンク

次の場合は、応急修理キットでは応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

- ●タイヤ空気圧が不十分な状態で走行してタイヤが損傷しているとき
- ●タイヤ側面など、接地面以外に穴や損傷があるとき
- ●タイヤがホイールから明らかにはずれているとき
- ●タイヤに 4mm 以上の切り傷や刺し傷があるとき
- ●ホイールが破損しているとき
- ●2 本以上のタイヤがパンクしているとき
- ●1 本のタイヤに 2 箇所以上の切り傷や刺し傷があるとき

■応急修理後のタイヤのバルブについて

応急修理キットを使用したときは、タイヤのバルブを新品に交換してください。

■応急修理キットの点検について

パンク補修液の有効期限の確認は定期的に行ってください。

有効期限はボトルに表示されています。

有効期限が切れたパンク修理液は使用しないでください。応急修理キットによる修理が正常にできない場合があります。

有効期限が切れる前に交換してください。交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

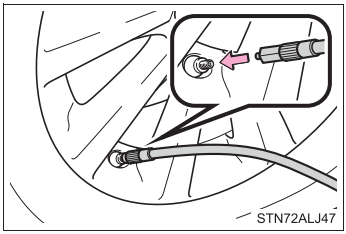
■応急修理キットについて

- ●応急修理キットのパンク補修液は、1 本のタイヤを一度だけ応急修理できます。使用したパンク補修液の交換は、トヨタ販売店にご相談ください。
- ●外気温度が− 30 ℃～ 60 ℃のときに使用できます。
- ●応急修理キット搭載車両の装着タイヤ専用です。指定タイヤサイズ以外のタイヤや、他の用途には使用しないでください。
- ●パンク補修液が衣服に付着すると、シミになる場合があります。
- ●パンク補修液がホイールやボデーに付着した場合、放置すると取れなくなるおそれがあります。ぬれた布などですみやかにふき取ってください。
- ●応急修理キット作動中は、大きな音がしますが故障ではありません。

■空気を入れすぎてしまったとき

1 タイヤからホースを取りはずす

2 ホース先端に空気逃がしキャップをかぶせ、キャップの突起部をタイヤのバルブに押しあてて空気を抜く



3 ホースから空気逃がしキャップを取りはずし、ホースを再接続する

4 応急修理キットのスイッチを ON にして数秒間経過後、スイッチを OFF にして空気圧計を確認する
指定空気圧より低いときは、再度、応急修理キットのスイッチを ON にし、指定空気圧になるまで空気を充填してください。

⚠ 警告

■応急修理キットについて

- 応急修理キットは指定の位置に収納してください。
急ブレーキ時などに応急修理キットが飛び出したりして破損したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 応急修理キットはお客様の車専用です。他の車には使わないでください。他の車に使うと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 指定タイヤサイズ以外のタイヤや他の用途には使用しないでください。パンク修理が完全に行われず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■パンク補修液について

- 誤って飲み込むと健康に害があります。その場合はできるだけたくさんの水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。
- もし目に入ったり、皮膚に付着したりした場合には、水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。

⚠ 警告

■パンクしたタイヤを応急修理するとき

- 車両を安全で平坦な場所に停止させてください。
- 走行直後、ホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。
  走行直後のホイールやブレーキまわりは高温になっている可能性があるため手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。
- タイヤを車両に取り付けた状態で、バルブとホースをしっかりと接続してください。
- 接続が不十分な場合、空気がもれたり、パンク補修液が飛散したりするおそれがあります。
- 充填中にホースがはずれると、圧力でホースが急に動くおそれがあり危険です。
- 充填後、ホースを取りはずすときや空気を抜くときにパンク補修液が飛散する場合があります。
- 作業手順に従って応急修理を行ってください。
  手順どおりに行わないとパンク補修液が噴出する場合があります。
- 破裂の危険があるので、応急修理キットの作動中は補修中のタイヤから離れてください。タイヤに亀裂や変形が発生している場合、ただちにキットのスイッチを OFF にし、修理を中止してください。
- 応急修理キットは、長時間作動させると過熱する可能性があります。10 分以上連続で作動させないでください。
- 応急修理キットの作動中は、部分的に熱くなります。使用中、または使用後の取り扱いには注意してください。
- 速度制限シールは指定位置以外に貼らないでください。ハンドルのパッド部分などの SRS エアバッグ展開部に貼ると、SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

■補修液を均等に広げるための運転について

- 低速で慎重に運転してください。特にカーブや旋回時には注意してください。
- 車がまっすぐ走行しなかったり、ハンドルをとられたりする場合は、停車し、次のことを確認してください。
  - タイヤを確認してください。タイヤがホイールからはずれている可能性があります。
  - 空気圧を確認してください。130 kPa（1.3 kg/cm^2）未満の場合は、タイヤが大きなダメージを受けている可能性があります。

⚠ 注意

■応急修理をするとき

- タイヤに刺さった釘やネジを取り除かずに応急修理を行ってください。取り除いてしまうと、応急修理キットでは応急修理ができなくなる場合があります。
- 応急修理キットに防水機能はありません。降雨時などは、水がかからないようにして使用してください。
- 砂地などの砂ぼこりの多い場所に直接置いて使用しないでください。砂ぼこりなどを吸い込むと、故障の原因になります。
- 応急修理キットは倒れた状態では正常に作動しません。必ず立ててご使用ください。

■応急修理キットについて

- 応急修理キットは DC12V 専用です。他の電源での使用はできません。
- 応急修理キットにガソリンがかかると、劣化するおそれがあります。ガソリンがかからないようにしてください。
- 応急修理キットは指定の位置に収納し、お子さまが誤って手をふれないようご注意ください。
- 分解・改造などは絶対にしないでください。また、圧力計などに衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

ハイブリッドシステムが始動できないときは

ハイブリッドシステムが始動できない原因は状況によって異なります。
次のことをご確認いただき、適切に対処してください。

正しいハイブリッドシステムの始動方法（→ P. 147）に従っても始動できない

次の原因が考えられます。

- 電子キーが正常に働いていない可能性があります。※（→ P. 374）
- 燃料が入っていない可能性があります。
  給油してください。
- イモビライザーシステムに異常がある可能性があります。※（→P. 67）
- P ポジション制御システムに異常がある可能性があります。※
- 電子キーの電池切れやヒューズ切れなど、電気系統異常の可能性があります。異常の種類によっては、ハイブリッドシステムを一時的な処置でかけることができます。（→ P. 373）

※ P ポジションから切りかえることができない可能性があります。

室内灯・ヘッドランプが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- 補機バッテリーあがりの可能性があります。（→ P. 376）
- 補機バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。
  （→ P. 279）

室内灯・ヘッドランプが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- 補機バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。
  （→ P. 279）
- 補機バッテリーあがりの可能性があります。（→ P. 376）

対処の方法がわからないとき、あるいは対処をしてもハイブリッドシステムが始動できないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

緊急始動機能

通常のハイブリッドシステム始動操作でハイブリッドシステムが始動しないときは、次の手順でハイブリッドシステムが始動する場合があります。
緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

2 パワースイッチをアクセサリーモードにする

3 ブレーキペダルをしっかり踏んでパワースイッチを約 15 秒以上押し続ける

上記の方法でハイブリッドシステムが始動しても、システムの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

電子キーが正常に働かないときは

電子キーと車両間の通信がさまたげられたり（→ P. 106）、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー&スタートシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、次の手順でドアやトランクを開けたり、ハイブリッドシステムを始動したりすることができます。

ドアの施錠・解錠、キー連動操作

■ ドア

メカニカルキー（→ P. 92）を使って次の操作ができます。（運転席ドアのみ）

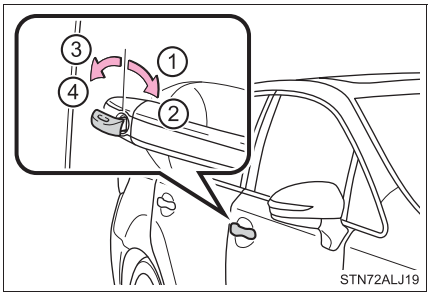
① 全ドア施錠

② ドアガラスとムーンルーフが閉まる（まわし続ける）※

③ 全ドア解錠

④ ドアガラスとムーンルーフが開く（まわし続ける）※

※ トヨタ販売店での設定が必要です。（→ P. 393）

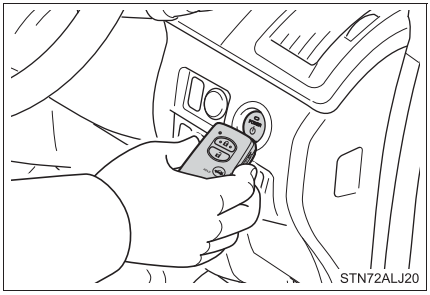


ハイブリッドシステム始動の方法

1 ブレーキペダルを踏む

2 電子キーのトヨタエンブレム面で、パワースイッチにふれる

この操作中にいずれかのドアが開閉されると、スマートエントリー&スタートシステムがパワースイッチにふれた電子キーを正しく検知できず警告音が鳴ります。



3 ブザーが鳴ってから 10 秒以内に、ブレーキペダルをしっかりと踏み込んで、パワースイッチを押す

処置をしても作動しないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

知識

■ハイブリッドシステムの停止方法

通常のハイブリッドシステムの停止方法と同様に、パーキングブレーキをかけ、シフトポジションをPにしてパワースイッチを押します。

■電池交換について

ここで説明しているハイブリッドシステムの始動方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。(→P. 295)

■電子キーが正常に働かない場合について

カスタマイズ機能※でスマートエントリー&スタートシステムがキャンセルになっていないことを確認してください。
スマートエントリー&スタートシステムがキャンセルになっている場合には、通常にしてください。
(カスタマイズ一覧→P. 393)

※ カスタマイズ設定については、ナビゲーション画面で確認することができます。
操作方法については、別冊「ナビゲーションシステム取扱書」をご覧ください。

■パワースイッチのモードの切りかえ

ブザーが鳴ってから10秒以内に、ブレーキペダルから足を離してパワースイッチを押すと、ハイブリッドシステムが始動せず、スイッチを押すごとにモードが切りかわります。(→P. 148)

⚠ 警告

■メカニカルキーを使ってドアガラスやムーンルーフを操作するとき

ドアガラスやムーンルーフに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、メカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスやムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

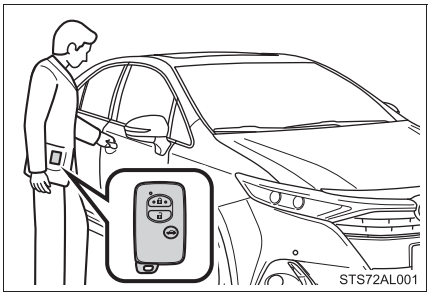
補機バッテリーがあがったときは

補機バッテリーがあがった場合、次の手順でハイブリッドシステムを始動することができます。

ブースターケーブルと 12V のバッテリー付き救援車があれば、次の手順に従って、ハイブリッドシステムを始動させることができます。

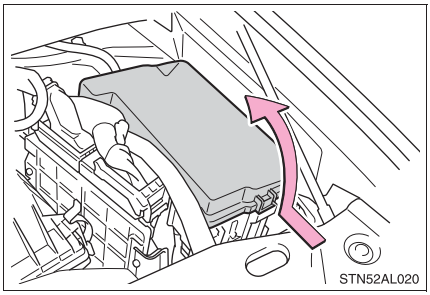
1 電子キーを携帯していることを確認する

ブースターケーブル接続時、場合によっては、オートアラームが作動し自動的にドアが施錠されます。(→P. 69)



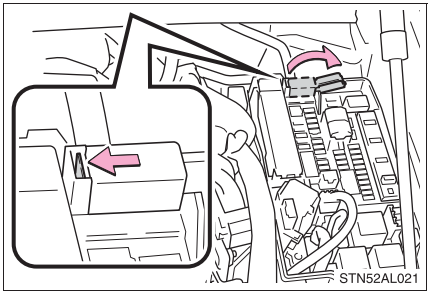
2 ボンネットを開けて、ヒューズボックスのカバーをはずす

ツメを押しながら、フタを持ち上げてはずします。

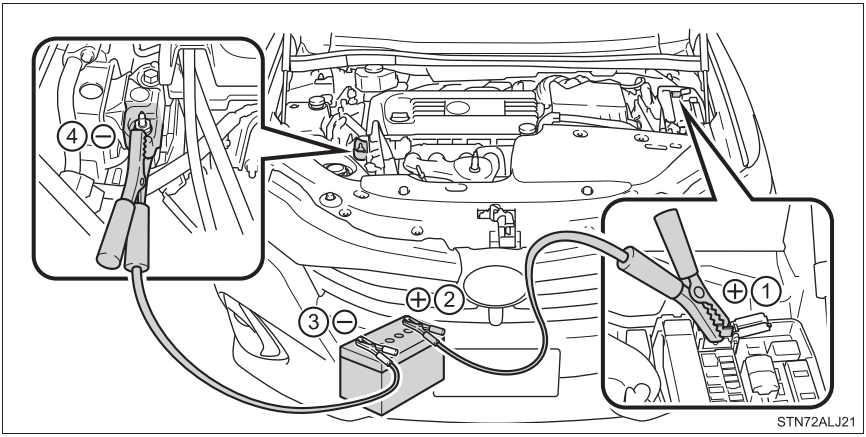


3 ヒューズボックス内の救援用端子のカバーを開ける

ツメを軽く引きながら、カバーを開けます。



4 ブースターケーブルを次の順につなぐ



① 赤色のブースターケーブルを自車の救援用端子につなぐ

② 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの＋端子につなぐ

③ 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの－端子につなぐ

④ 黒色のブースターケーブルのもう一方の端を未塗装の金属部（図に示すような固定された部分）につなぐ

5 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車の補機バッテリーを充電する

6 救援車のエンジン回転を維持したまま、パワースイッチをいったんONモードにしてからハイブリッドシステムを始動する

7 READY インジケーターが点灯することを確認する

点灯しない場合はトヨタ販売店にご連絡ください。

8 ハイブリッドシステムが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす

9 救援用端子カバーを閉じ、ヒューズボックスのカバーをもとどおりに取り付ける

ハイブリッドシステムが始動しても、早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■補機バッテリーあがり時の始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■補機バッテリーあがりを防ぐために

●ハイブリッドシステムが停止しているときは、ランプやオーディオの電源を切ってください。

●渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■補機バッテリーについて

→ P. 279

■補機バッテリーの充電について

補機バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長期間放置すると、補機バッテリーがあがってハイブリッドシステムを始動できなくなるおそれがあります。（補機バッテリーはハイブリッドシステムの作動中に自動で充電されます）

■補機バッテリーあがり時や取りはずし時など

●パワースイッチを　OFF　にしてすぐにバッテリーターミナルを取りはずすと、ディスプレイ（ナビゲーションなど）に関連する一部のデータがハードディスクに正常に保存されないことがあります。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

●補機バッテリーがあがった直後はスマートエントリー＆スタートシステムによるドアの解錠ができない場合があります。解錠できなかった場合はワイヤレスリモコン、またはメカニカルキーで解錠・施錠を実施してください。

●補機バッテリーがあがったあとの、最初の始動操作ではハイブリッドシステムが始動できないことがありますが異常ではありません。再度始動操作を行ってください。

●車両は常に電源の状態を記憶しています。補機バッテリーあがり時、補機バッテリー脱着後は、バッテリーをはずす前の状態に復帰します。補機バッテリーを脱着する際は、パワースイッチを OFF にしてから行ってください。
補機バッテリーがあがる前の状態が不明の場合、補機バッテリー接続時は特に注意してください。

●シフトポジションが P の状態で補機バッテリーがあがった場合は、シフトポジション P から切りかえることができません。この場合パーキングロックにより前輪が固定されているため、前輪を持ち上げないと車両の移動ができません。

●補機バッテリーを再接続したときは、ハイブリッドシステムを始動させ、ブレーキペダルを踏み、シフトポジションがすべてのポジションに切りかえられることをシフトポジション表示灯で確認してください。

●補機バッテリーを充電・交換する場合は、車内にキーがないことを確認してください。オートアラームが作動するとキーが車内に閉じ込められるおそれがあります。(→ P. 69)

⚠ 警告

■補機バッテリーの引火または爆発を防ぐために

補機バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

- ブースターケーブルは正しい端子以外に接続しない
- ＋端子に接続したブースターケーブルの先を付近のブラケットや未塗装の金属部に接触させない
- ブースターケーブルは＋側と－側の端子を絶対に接触させない
- 補機バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■補機バッテリーの取り扱いについて

補機バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

- 補機バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液（酸）が皮膚・衣服・車体に付着しないようにする
- 必要以上、顔や頭などを補機バッテリーに近付けない
- 誤ってバッテリー液が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
  また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく
- 誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける
- 補機バッテリーの支柱・ターミナル・その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う
- お子さまを補機バッテリーに近付けない

⚠ 警告

■補機バッテリーあがりの処置をしたあと

早めにトヨタ販売店で補機バッテリーの点検を受けてください。
補機バッテリーが劣化している場合、そのまま使い続けると補機バッテリーから異臭ガスが発生し、乗員に健康障害をおよぼすおそれがあり危険です。

■補機バッテリーの交換について

→ P. 280

⚠ 注意

■救援用端子について

この車の救援用端子は、他の車から応急的に補機バッテリーを充電するためのものです。この救援用端子を使用して、他の車のバッテリーあがりを救援することはできません。

■ブースターケーブルの取り扱いについて

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

オーバーヒートしたときは

次のような場合は、オーバーヒートの可能性があります。

- 高水温警告灯（→ P. 327）が点滅または点灯したり、ハイブリッドシステムの出力が低下する（スピードが出ないなど）
- マルチインフォメーションディスプレイに「ハイブリッドシステム過熱」（→ P. 339）が表示される
- エンジンルームから蒸気が出る

対処方法

■ 高水温警告灯が点滅または点灯したとき

1 安全な場所に停車し、エアコンを OFF にしてから、ハイブリッドシステムを停止する

2 蒸気が出ている場合：
蒸気が出なくなったことを確認してから、注意してボンネットを開ける

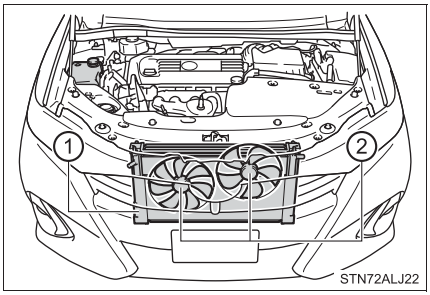
蒸気が出ていない場合：
注意してボンネットを開ける

3 ハイブリッドシステムが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

① ラジエーター

② ファン

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにトヨタ販売店に連絡してください。

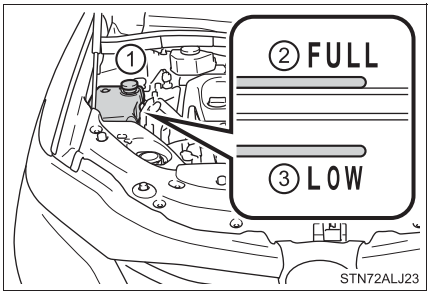


4 冷却水の量がリザーバータンクの“FULL”（上限）と“LOW”（下限）のあいだにあるかを点検する

① リザーバータンク

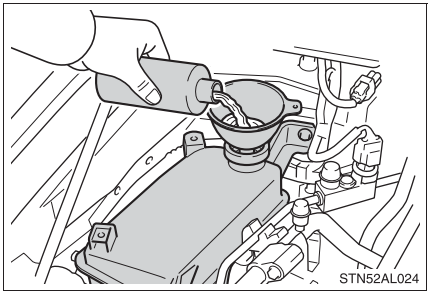
② “FULL”（上限）

③ “LOW”（下限）



5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。



6 ハイブリッドシステムを始動し、エアコンを作動させてラジエーター冷却用のファンが作動しているか、およびラジエーターコアやホースなどから冷却水もれがないことを再度確認する

ハイブリッドシステムが冷えた状態での始動直後は、エアコンを ON にすることでファンが作動します。ファンの音や風で確認してください。わかりにくいときは、エアコンの ON・OFF をくり返してください。
（ただし、氷点下となる寒冷時はファンが作動しないことがあります）

7 ファンが作動していない場合：
すぐにハイブリッドシステムを停止し、トヨタ販売店に連絡する

ファンが作動している場合：
最寄りのトヨタ販売店で点検を受ける

■ マルチインフォメーションディスプレイに「ハイブリッドシステム過熱」が表示されたとき

1 安全な場所に停車する

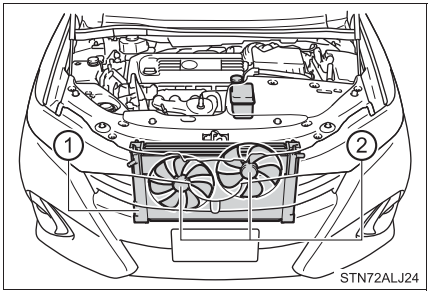
2 ハイブリッドシステムを停止し、注意してボンネットを開ける

3 ハイブリッドシステムが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

① ラジエーター

② ファン

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにトヨタ販売店に連絡してください。

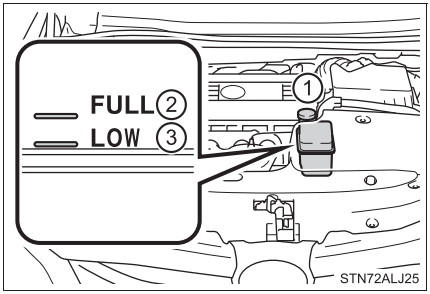


4 冷却水の量がリザーバータンクの“FULL”（上限）と“LOW”（下限）のあいだにあるかを点検する

① リザーバータンク

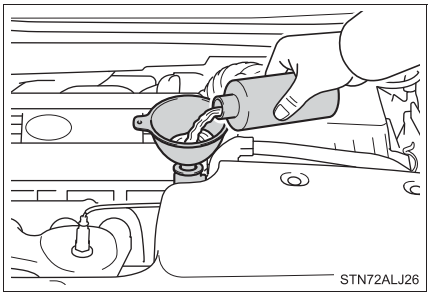
② “FULL”（上限）

③ “LOW”（下限）



5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。



6 ハイブリッドシステムを始動し、マルチインフォメーションディスプレイを確認する

表示が消えない場合：
ハイブリッドシステムを停止してトヨタ販売店に連絡する

表示が消えている場合：
最寄りのトヨタ販売店で点検を受ける

⚠ 警告

■エンジンルームを点検しているとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

- エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっています。
- ハイブリッドシステムを停止したときは、パワースイッチ上のインジケーターと READY インジケーターが消灯していることを確認してください。
  ハイブリッドシステムが作動していると、ガソリンエンジンが自動的に動き出したり、ガソリンエンジンが停止していても、冷却ファンが急にまわり出すことがあります。ファンなどの回転部分にふれたり、近付いたりすると、手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）が巻き込まれたりして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハイブリッドシステムおよびラジエーターが熱い場合は冷却水リザーバータンクのキャップを開けないでください。
  高温の蒸気や冷却水が噴き出すおそれがあります。

⚠ 注意

■冷却水を入れるとき

ハイブリッドシステムが十分に冷えてからゆっくり入れてください。
ハイブリッドシステムが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、ハイブリッドシステムが損傷するおそれがあります。

■冷却系統の故障を防ぐために

次のことをお守りください。

- 異物（砂やほこりなど）を冷却水に混入させない
- 冷却水用添加剤を使用しない

スタックしたときは

ぬかるみや砂地・雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは次の方法を試みてください。

1 パーキングブレーキをかけシフトポジションを P にして、ハイブリッドシステムを停止する
2 前輪周辺の土や雪などを取り除く
3 前輪の下に木や石などをあてがう
4 ハイブリッドシステムを再始動する
5 シフトポジションを D または R に入れ、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルペダルを踏む

知識

■シフトポジションを切りかえるときは

ブレーキペダルを踏み、車が完全に停止している状態で行ってください。

リジェクト機能が働き、シフトポジションの切りかえを無効にする場合や、自動的に N ポジションに切りかわる場合があります。

⚠ 警告

■脱出するとき

前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車・ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何もないことを確認してください。
スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■シフトレバーを操作するとき

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■ハイブリッドトランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために

- 前輪が空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。
- 上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

車両情報 8

8-1. 仕様一覧
メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）.....388
8-2. カスタマイズ機能
ユーザーカスタマイズ機能一覧.....393

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）

使用するオイルや液類の品質により、お車の寿命は著しく左右されます。お車には、最も適した弊社純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。

指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

指定燃料	容量［L］（参考値）
無鉛レギュラーガソリン	55

エンジンオイル

指定銘柄	容量［L］（参考値※1）	
	オイルのみ交換	オイルとオイルフィルター交換
トヨタキヤッスルモーターオイル SN 0W-20※2 —API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 0W-20 トヨタキヤッスルモーターオイル SN 5W-20 —API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 5W-20 トヨタキヤッスルモーターオイル SN 5W-30 —API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 5W-30 トヨタキヤッスルモーターオイル SN 10W-30 —API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 10W-30	4.1	4.3

※1 エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンの暖機後にハイブリッドシステムを停止し、5 分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

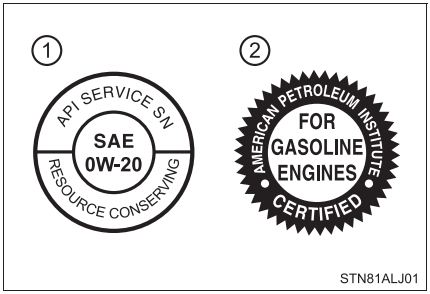
※2 0W-20 は上記表の指定銘柄の中では、最も省燃費性に優れるオイルです。

■ 指定エンジンオイル

API 規格 SN/RC、SM/EC か、ILSAC 規格に合致したオイルをご使用ください。なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION（イルサックサーティフィケーション）マークがついています。

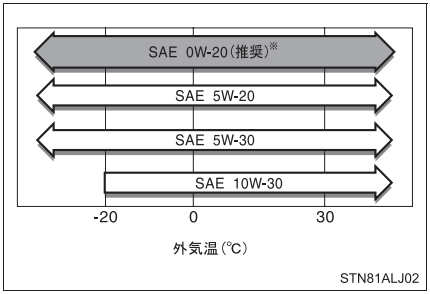
① API マーク

② ILSAC CERTIFICATIONマーク



■ エンジンオイル推奨粘度

下記図に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。



※ 0W-20 は新車時に充填されており、上記図に示す中では、最も省燃費性に優れるオイルです。

オイル粘度について（例として 0W-20 で説明します）：

・ 0W-20 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。

・ 0W-20 の 20 は、高温時の粘度特性を示しています。
粘度の高い（数値が大きい）オイルは高速または重負荷走行に適しています。

ラジエーター

指定銘柄	容量［L］（参考値）	
トヨタ純正スーパーロングライフクーラント 凍結保証温度 濃度 30%　－ 12°C 濃度 50%　－ 35°C	ガソリンエンジン	7.3
	インバーター	2.9

トランスミッション

指定銘柄	容量［L］（参考値※）
トヨタ純正オートフルード　WS	4.1

※ 交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください

ブレーキ

■ ブレーキフルード

指定銘柄
トヨタ純正ブレーキフルード 2500H-A

■ ブレーキペダル

項目	基準値［mm］
遊び	1 ～ 6
踏み込んだときの床板とのすき間※	82

※ ハイブリッドシステムが作動している状態で、196N（20kgf）の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

■ パーキングブレーキ

項目	基準値（回数）
踏みしろ 操作力 300N（31kgf）のときのノッチ※数	8 ～ 11

※ ノッチとは、パーキングブレーキをかけるときの節度（“カチッ”という音）のことです。

ウォッシャータンク

容量 [L]（参考値）	
ヘッドランプクリーナー非装着車	2.5
ヘッドランプクリーナー装着車	4.8

タイヤ・ホイール

タイヤサイズ		ホイールサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa（kg/cm^2）	
			前輪	後輪
標準タイヤ	205/60R16 92V	16 × 6 1/2J	230 (2.3)	210 (2.1)
	215/45R18 89W	18 × 7J	230 (2.3)	210 (2.1)
応急用タイヤ★	T135/70D17 102M	17 × 4T	420（4.2）	

★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

電球（バルブ）※

電球		W（ワット）数
車外	フロント方向指示灯／非常点滅灯	21
	リヤ方向指示灯／非常点滅灯	21
	後退灯	16
	リヤフォグランプ★	21
車内	バニティミラーランプ	8
	フロントインテリアランプ／パーソナルランプ	8
	リヤインテリアランプ	8
	トランクランプ	3.8

※ 表に記載のないランプは LED を採用しています。

車両仕様

名称	型式	エンジン	電動機型式	駆動方式
SAI	AZK10	2AZ-FXE (2.4L ガソリン)	2JM	FF（前輪駆動）

★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

ユーザーカスタマイズ機能一覧

お車に装備されている各種の機能は、ご希望に合わせてトヨタ販売店で作動内容を変更することができます。また、ナビゲーションシステム★・マルチインフォメーションディスプレイ・ワイヤレスリモコンの操作により、設定を変更することができる機能もあります。

設定変更のしかた

■ ナビゲーションシステムで設定するには（ナビゲーションシステム装着車）

1 リモートタッチのメニュースイッチを押し、「設定･編集」を選択する

2 「設定・編集」画面の「車両」を選択する

3 設定を変更したいカテゴリーを選択する

STS82ALJ01

4 一覧表示された中から設定を変更する項目を選択する

5 機能の作動内容を選択する

作動・非作動を変更できる機能では、「する」（作動）・「しない」（非作動）を選択します。

音量やセンサーの感度などを変更できる機能では、「+」または「−」を選択してレベルを調整し、「完了」を選択します。

■ マルチインフォメーションディスプレイで設定するには

→ P. 82

★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

■ ワイヤレスリモコンで設定するには

ワイヤレスリモコンを使用して、スマートエントリー&スタートシステムで解錠できるドアの設定を切りかえることができます。切りかえの操作は車外（車両から 1m 以内）で行ってください。

1 パワースイッチを OFF にする。

2 キー表面のインジケーターが点滅していないのを確認後、 ボタンと同時に または のいずれかを約５秒押し続ける。

操作を行うごとに次の表のように設定が切りかわります。（続けて切りかえ操作を行う場合は、ボタンから手を離したあと、５秒以上間隔をあけてから2を行ってください。）

マルチインフォメーションディスプレイ表示	解錠できるドア	ブザー音
	運転席のドアハンドルを握ると運転席のみ解錠 助手席のドアハンドルを握ると全席解錠	車外：“ピピッ”（3回） 車内：“ポーン”（1回）
	いずれかのフロントドアハンドルを握ると全席解錠	車外：“ピピッ”（2回） 車内：“ポーン”（1回）

オートアラームの誤作動防止のため、設定切りかえ後はいったんワイヤレスリモコンで解錠し、ドアを開閉してください。（ ボタンを押して 30 秒以内にドアを開けなかった場合は、ドアが再び施錠されオートアラーム設定されます。）

オートアラームが作動し警告が鳴ってしまったときは、作動を停止する操作を行ってください。（→ P. 68）

車両カスタマイズ設定一覧

機能によっては、他の機能と連動して設定がかわるものもあります。詳しくはトヨタ販売店へお問い合わせください。

① ナビゲーションシステムの画面操作で設定変更可能
表の中の（ ）で表されるものはナビゲーションシステムの画面に表示される内容となっています。

② 車両のスイッチ操作で設定変更可能
（それぞれの設定操作については P. 393 を参照ください。）

③ トヨタ販売店で設定変更可能

■ ドアロック（→ P. 95, 374）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
メカニカルキーによる解錠	1 回で全ドア解錠	1 回で運転席ドア解錠、連続 2 回で全ドア解錠	—	—	○
車速が 20km/h 以上になると全てのドアを施錠させる機能（車速感応オートドアロック）	あり	なし	○	—	○
シフトポジションを P 以外にしたときに全てのドアを施錠させる機能（シフト操作連動ドアロック）	なし	あり	○	—	○
シフトポジションを P にしたときに全てのドアを解錠させる機能（シフト操作連動アンロック）	あり	なし	○	—	○
運転席ドアを開けたときに全てのドアを解錠させる機能（運転席ドア開連動アンロック）	なし	あり	○	—	○

■ スマートエントリー&スタートシステム、ワイヤレスドアロック共通（→P. 95, 104）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
ドアを施錠・解錠したときの作動確認ブザー音	あり	なし※1	—	—	○
ドアを施錠・解錠したときの作動確認ブザー音量（施錠・解錠時ブザー音量調節）	レベル 7	0	○	—	○
		レベル 1 ～ 7※2			
ドアを施錠・解錠したときの非常点滅灯の点滅（施錠・解錠時非常点滅灯応答）	あり	なし	○	—	○
ドアを解錠後、ドアを開けなかった場合の自動施錠時間	30 秒	60 秒	—	—	○
		120 秒			
いずれかのドアが開いている状態で施錠したときの警告ブザー音	あり	なし	—	—	○

※1 機能なしにした場合は、音量値に関わらず吹鳴しません。

※2 設定値が高いほど音量がおおきくなります。

■ スマートエントリー&スタートシステム（→P. 104）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
スマートエントリー&スタートシステム	あり	なし	○	—	○
解錠ドアの選択(スマートドアアンロック)	全席	運転席	○	○	○
ドア施錠操作受付回数	2 回	無制限	—	—	○

■ 車両接近通報装置（→P. 58）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
接近通報の作動音の音量設定	レベル 1	レベル 2	—	—	○
		レベル 3	—	—	○

■ ワイヤレスドアロック（→P. 95, 101）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
ワイヤレス機能	あり	なし	—	—	○
ワイヤレスリモコンのドア解除ボタン操作（ボタン2回操作アンロック）	1回で全ドア解錠（しない）	1回で運転席ドア解錠、連続2回で全ドア解錠（する）	○	—	○
ワイヤレスリモコンのトランク解除ボタン操作	1回押し続ける（短）	1回押し	—	—	○
		2回押し			
		1回押し続ける（長）			
		OFF			

■ マイコンプリセットドライビングポジションシステム★（→P. 113）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
パワースイッチをOFFにしたときに自動的に運転席シートが後方に移動するときの移動量（降車時運転席シート移動量調整）	短め（少なめ）	OFF	○	—	○
		標準			
運転席ドアを開いた時ドライビングポジションが呼び出される解錠ドアの選択	運転席ドア	全席（助手席）	—	—	○

■ ドアミラー（→P. 126）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
ドアミラーを自動で格納させる機能	ドアの施錠・解錠と連動	OFF	—	—	○
		パワースイッチと連動			

★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

■ パワーウインドウ（→ P. 130）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
メカニカルキーを施錠または解錠操作し続けたときにパワーウインドウが開閉する機能	なし	あり	—	—	○
ワイヤレスリモコンの施錠または解錠ボタンを押し続けたときにパワーウインドウが開閉する機能	なし	あり	—	—	○
ワイヤレスリモコンボタン操作によるパワーウインドウ開閉時のブザー音	あり	なし	—	—	○

■ ムーンルーフ★（→ P. 133）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
メカニカルキーを施錠または解錠操作し続けたときにムーンルーフが開閉する機能※3	あり	なし	—	—	○
メカニカルキーでの開閉操作時の作動※3	スライドのみ	チルトのみ	—	—	○
ワイヤレスリモコンの施錠または解錠ボタンを押し続けたときにムーンルーフが開閉する機能	あり	なし	—	—	○
ワイヤレスリモコンのボタン操作での開閉操作時の作動	スライドのみ	チルトのみ	—	—	○

※3 ワイヤレスリモコンまたはドアキーでのパワーウインドウの開閉が可能なときのみ設定できます。

★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

■ ランプ自動点灯・消灯システム（→ P. 162）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
周囲の明るさに応じてヘッドランプなどを自動的に点灯･消灯させるセンサーの感度（コンライト感度調整）	レベル 3	レベル 1 ～ 5※4	○	—	○
周囲の暗さを検知してからヘッドランプなどが点灯するまでの時間	標準	長め※5	—	—	○

※4 設定値が高いほど、周囲が明るいときに点灯・消灯するようになります。

※5 長めにすると、暗さを検知してから点灯するまでの時間が長くなります。

■ クリアランスソナー★（別冊「ナビゲーションシステム取扱書」参照）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
バックセンサーが感知する距離（画面表示ブザータイミング）	約 150cm 以内	約 60cm 以内	○	—	○
クリアランスソナー作動時のブザー音量（ブザー音量設定）	3（中）	1 ～ 5※6（小～大）	○	—	○
ナビゲーション画面へのクリアランスソナー表示（ソナー表示）	表示	非表示	○	—	○
障害物との距離が 3 秒間以上変化しないときのブザー音	あり	なし	—	—	○
シフトポジションを N にしたときのブザー音※7	あり	なし	—	—	○
シフトポジションが N･D･B のときに作動するリヤセンサーの設定	OFF	全リヤセンサー / リヤコーナーセンサーのみ	—	—	○

※6 設定値が高いほど音量が大きくなります。

※7 シフトポジションが N のときに障害物を検知した場合に作動します。

★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

■ エアコン（→ P. 220, 228）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
AUTO スイッチが ON のとき、外気導入と内気循環を自動的に切りかえる（内外気切替AUTOスイッチ連動）	する	しない	○	—	○
AUTO スイッチを ON にしたとき、A/C（エアコン）スイッチが連動してONになる機能（エアコンAUTOスイッチ連動）	する	しない	○	—	○

■ イルミネーション（→ P. 242）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
ドアの開閉後に点灯している室内灯が自動で消灯するまでの時間（室内照明消灯時間調節）	15 秒	OFF※8	○	—	○
		7.5 秒			
		30 秒			
パワースイッチ OFF 後の室内灯自動点灯機能	あり	なし	—	—	○
ドアを解錠したときの室内灯自動点灯	あり	なし	—	—	○
電子キーを携帯して車両に近づいたときの室内灯自動点灯	あり	なし	—	—	○
足元照明の点灯	あり	なし	—	—	○
リモートタッチ照明の点灯★	あり	なし	—	—	○

※8 OFF を選択すると自動消灯機能による室内灯の遅延点灯はしません。

■ EV 走行インジケーター（→ P. 59）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
EV 走行インジケーターの作動	ON	OFF	—	○	○

★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

■ メーター（→P. 76）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
周囲の明るさに応じてメーターなどのディスプレイ照度減光センサーの感度	0	－2～＋2※9	—	—	○
周囲の明るさに応じて減光したディスプレイ照度を元に戻すセンサーの感度	0	－2～＋2	—	—	○
車速が 104km/h 以上になったときの速度警告ブザー音	なし	あり	—	—	○

※9 設定値が高いほど、周囲が明るいときに照明を減光するようになります。

■ エコドライブモード（→P. 156）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
エコドライブモード時に暖房･冷房の作動を抑える空調制御機能	する	しない	—	—	○

■ 電動リヤサンシェード★（→P. 258）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
シフトポジションを R にしてから、リヤサンシェード格納機能が開始するまでの時間	0.7 秒	0 秒	—	—	○
		0.9 秒	—	—	○
		1.2 秒	—	—	○
シフトポジションを R にしたときのリヤサンシェード格納機能	あり	なし	—	—	○

★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

知識

■車両カスタマイズについて

●「車速感応オートドアロック」と「シフトポジションをＰ以外にしたときの全ドア施錠（シフト操作連動ドアロック）」を両方とも「あり」にした場合次のように作動します。

・シフトポジションをＰ以外にすると全ドアが施錠されます。
・全ドアが施錠された状態で発進した場合、車速感応オートドアロックは作動しません。
・発進前にいずれかのドアロックを解錠してから発進した場合は、車速感応オートドアロックが作動します。

●「スマートエントリー＆スタートシステム」の設定が「なし」の場合、「解錠されるドアの選択」の設定はできません。

●解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠が作動したときの合図は、「作動の合図（非常点滅灯）」・「作動の合図音量（ブザー音量調整）」の設定に依存します。

■次の状態になるとマルチインフォメーションスイッチ操作でのカスタマイズモードが自動的に終了します。

●カスタマイズモード画面表示後に警告メッセージが表示された。

●パワースイッチが OFF になった。

●カスタマイズモード画面表示中に走行し始めた。

■ナビゲーション画面でカスタマイズ設定を行うとき

安全な場所に停車し、パーキングブレーキをかけ、シフトポジションをＰにしてください。また、補機バッテリーあがりを防ぐため、ハイブリッドシステムが作動している状態で操作を行ってください。

⚠ 警告

■ナビゲーション画面でカスタマイズ設定を行うとき

ハイブリッドシステムが作動した状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

さくいん

こんなときは
（症状別さくいん）.....404
車から音が鳴ったときは
（音さくいん）.....407
アルファベット順さくいん.....409
五十音順さくいん.....410

次の装備は、別冊「ナビゲーションシステム取扱書」をお読みください。

- GPS ボイスナビゲーション
- オーディオ＆ビジュアル
- 音声操作システム
- クリアランスソナー
- ETC システム /ITS スポット対応 DSRC システム
- バックガイドモニター
- ワイドビューフロントモニター
- ハンズフリー
- T-Connect

こんなときは（症状別さくいん）

お困りの際は、トヨタ販売店にご連絡いただく前にまず次のことを確認してください。

施錠／解錠／ドアの開閉ができない

キーをなくした

- メカニカルキーをなくした場合、トヨタ販売店でトヨタ純正の新しいメカニカルキーを作ることができます。（→ P. 93）
- 電子キーをなくすと盗難の危険性が極めて高くなるため、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。（→ P. 94）

施錠・解錠できない

- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？ （→ P. 295）
- パワースイッチが ON モードになっていませんか？
  施錠するときは、パワースイッチを OFF にしてください。（→ P. 148）
- 電子キーを車内に置き忘れていませんか？
  施錠するときは、電子キーを携帯していることを確認してください。
- 電波状況により、機能が正常に働いていない可能性があります。（→ P. 106）

リヤドアが開かない

- チャイルドプロテクターがかかっていませんか？
  チャイルドプロテクターがかかっていると車内からは開きません。いったん車外から開けて、チャイルドプロテクターを解除してください。（→ P. 98）

誤ってトランク内にキーを閉じ込めた

- キー閉じ込み防止機能が働き、通常通りトランクを開けることができます。キーを取り出してください。（→ P. 102）

故障かな？と思ったら

ハイブリッドシステムが始動できない

- ブレーキペダルをしっかりと踏みながらパワースイッチを押していますか？（→ P. 147）
- シフトポジションは P になっていますか？（→ P. 155）
- キーが車内の検知される場所にありますか？（→ P. 105）
- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？
  このときは、一時的な方法でハイブリッドシステムを始動することができます。（→ P. 374）
- 補機バッテリーがあがっていませんか？（→ P. 376）

パワーウインドウスイッチを操作してもドアガラスが開閉しない

- ウインドウロックスイッチが押されていませんか？
  ウインドウロックスイッチが押されていると、運転席以外のパワーウインドウは操作できなくなります。（→ P. 130）

パワースイッチが自動的に OFF になった

- 一定時間アクセサリーモードまたはONモード（ハイブリッドシステムが作動していない状態）にしておくと、自動電源 OFF 機能が作動します。（→ P. 149）

警告音・アラーム・ホーンが鳴りだした

- 警告音が鳴りだしたときは、「車から音が鳴ったときは（音さくいん）」（→ P. 407）をご確認ください。

警告灯や警告メッセージが表示されたとき

- 警告灯や警告メッセージが表示されたときは、P. 327、331 をご確認ください。

メモリーコール機能が作動しない（→ P. 117）

- 電子キーごとにドライビングポジションを登録できるため、ドライビングポジションが既に呼び出された位置にある場合は、シートやミラーは動きません
- 運転席ドア以外のドアをスマートエントリー＆スタートシステムで解錠した場合は、ドライビングポジションの呼び出しはしません。その場合は登録したドライビングポジションのボタンを押してドライビングポジションを呼び出してください。

トラブルが発生した

タイヤがパンクした

- 応急用タイヤ装着車
  車を安全な場所に停め、パンクしたタイヤを応急用タイヤに交換してください。（→ P. 349）
- タイヤパンク応急修理キット装着車
  車を安全な場所に停め、タイヤパンク応急修理キットでパンクしたタイヤを応急修理してください。（→ P. 359）

立ち往生した

- ぬかるみ・砂地・雪道などで動けなくなったときの脱出方法を試してください。（→ P. 385）

車から音が鳴ったときは（音さくいん）

次の状況のとき、車の状態や誤操作などをお知らせするために警告音が鳴ります。

車に乗るとき／降りるとき

状況	原因	詳細
解錠したとき	盗難防止装置（オートアラーム）が作動した ※	P. 68
ドアを開閉したとき	電子キーを車内に置き忘れている	P. 346
	シフトポジションがＰ以外になっている	P. 346
	窓・ムーンルーフ★が開いている（ハイブリッドシステム停止中のみ）	P. 135
	盗難防止装置（オートアラーム）が作動した ※	P. 68
トランクを閉めたとき	電子キーをトランク内に置き忘れている	P. 102
ハイブリッドシステムを停止したとき	電子キーの電池残量が少なくなっている	P. 347
施錠しようとしたとき（施錠できないとき）	いずれかのドアが確実に閉まっていない	P. 105
	電子キーを車内に置き忘れている	P. 346
	シフトポジションがＰ以外になっている	

※ ドアまたはトランクを解錠するか、パワースイッチをアクセサリーモード、またはONモードにするか、ハイブリッドシステムを始動すると、警報を解除することができます。

★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

走行しているとき

状況	原因	詳細
走り出したとき	いずれかのドアが確実に閉まっていない	P. 335
	パーキングブレーキが解除されていない	P. 336
	運転席・助手席のシートベルトを着用していない※1	P. 329
シフトポジションの切りかえをしたとき	無効なシフト操作した※2	P. 157
ブレーキペダルを踏んだとき（きしみやひっかき音）	ブレーキパッドが摩耗しているおそれがある	P. 142
先行車に接近したとき	レーダークルーズコントロール★を使用している	P. 184
前方の障害物と衝突しそうになったとき	PCS（プリクラッシュセーフティシステム）★が作動した	P. 205
車線からはずれそうになったとき	LKA（レーンキーピングアシスト）★を使用している	P. 192

※1 助手席に荷物を置いている場合にもブザーが鳴ることがあります。

※2 シフトポジションの切りかえが無効になるときや、自動的に N ポジションに切りかわる場合があります。その場合は適切なシフトポジションに切りかえてください。

★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

アルファベット順さくいん

A/C
（エアコン）. 220, 228
ABS
（アンチロックブレーキシステム）. 200, 328
DISP
（ディスプレイ）. 80
EDR
（イベントデータレコーダー）.. 8
EPS
（エレクトリックパワーステアリング）. 201
EV
（エレクトリックビークル）. 152
FF
（フロントエンジンフロントドライブ）. 392
ILSAC CERTIFICATION
（イルサックサーティフィケーション）. 389
ISOFIX
（アイソフィックス／イソフィックス）. 42, 50
LKA
（レーンキーピングアシスト）. 191, 338, 339
PCS
（プリクラッシュセーフティシステム）. 205, 328, 333
S-VSC
（ステアリングアシステッドビークルスタビリティコントロール）. . . 200
SRS
（サプリメンタルレストレイントシステム）. 33, 328
TRC
（トラクションコントロール）. 200
VSC
（ビークルスタビリティコントロール）. 200

五十音順さくいん

あ

アームレスト
（リヤアームレスト）..... 257
アウターミラー（ドアミラー）... 126
操作 126
リバース連動機能 128
アクセサリーコンセント 263
アクセサリーソケット 262
アクセサリーモード 148
アシストグリップ 261
足元照明 242
アラーム 68
オートアラーム 68
音さくいん 407
警告ブザー 327, 331
アンチロックブレーキシステム
（ABS）..... 200
アンテナ（スマートエントリー&
スタートシステム）..... 104

い

EV ドライブモード 152
イグニッションスイッチ
（パワースイッチ）..... 147
位置交換
（タイヤローテーション）..... 287
イベントデータレコーダー
（EDR）..... 8
イモビライザーシステム 67
イルミネーテッドエントリー
システム 244
インジケーター
ハイブリッドシステム
インジケーター 78
表示灯 74
READY 147
インテリアランプ 243
インナーミラー 123

う

ウインカー（方向指示灯）..... 160
電球（バルブ）の交換 300
方向指示レバー 160
ワット数 392
ウインドウ 130
ウォッシャー 167
パワーウインドウ 130
リヤウインドウ
デフォッガー 224, 232
ウインドウロックスイッチ 130
ウォーニングランプ（警告灯）.... 327
ウォッシャー 167
液の補給 285
スイッチ 167
タンク容量 391
冬の前の準備・点検 216
動けなくなったときは
（スタック）..... 385
雨滴感知式ワイパー 168
運転 138
運転を補助する装置 200
寒冷時の運転 216
正しい運転姿勢 26
手順 138
ハイブリッド車運転の
アドバイス 214
ポジションメモリー 114
運転席小物入れ 252

え

AC100V 電源 263
エアコン
オートエアコン（リモートタッチ装着車）..... 228
オートエアコン（リモートタッチ非装着車）..... 220
フィルターの交換 293
エアバッグ 33
SRS エアバッグ警告灯 328
作動条件 37
配置 33
ESPO 画面 88
エネルギーモニター 86
エレクトリックパワーステアリング（EPS）.... 201
機能 201
パワーステアリング警告灯 ... 328
エレクトロマルチビジョン 85
エンジン
イモビライザーシステム 67
エンジン警告灯 328
エンジンスイッチ 147
エンジンルームカバー 283
オーバーヒート 381
ハイブリッドシステムの始動方法 147
パワースイッチ（イグニッションスイッチ／エンジンスイッチ）..... 147
ボンネット 279
エンジンオイル 388
警告メッセージ 331
冬の前の準備・点検 216
メンテナンスデータ 388
エンジンスイッチ（パワースイッチ）..... 147
エンジンフード（ボンネット）.... 279
開け方 279
警告メッセージ 335
エンジンルーム 283
エンジンルームカバー 283
エンジンルームから蒸気が出ている 381

お

オイル（エンジンオイル）..... 388
応急用タイヤ 349
空気圧 391
交換方法 349
オーディオ※
オートアラーム 68
オートドアロック・アンロック機能 98
オートレベリングシステム（ヘッドランプ）..... 163
オーバーヒート 381
オープナー
トランク 100
ボンネット 279
お子さまを乗せるとき 41
ウインドウロックスイッチ 130
お子さまの安全のために 41
子供専用シート 42
シートベルトの着用 30
チャイルドシートの取り付け ... 50
チャイルドプロテクター 98
オドメーター 76
機能 76
表示の切りかえ・リセットボタン 77

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

か

カーテシランプ
装着位置 242
ワット数 392
カーテンシールドエアバッグ 33
カーペット 277
洗浄 277
フロアマットの取り付け方 24
外気温度表示 81
回生ブレーキ 59
外装の電球（バルブ） 300
交換要領 300
ワット数 392
快適温熱シート 240
買い物フック 254
ガス欠になったとき 63
カスタマイズ機能 393
型式 392
カップホルダー 247
カメラ
白線認識用カメラ（LKA） 191
ガラスの曇り取り（リヤウインドウデフォッガー） 224, 232
ガレージジャッキ 282
冠水路走行 145
寒冷時の運転 216

き

キー 92
キーナンバープレート 92
キーの構成 92
キーレスエントリー 104, 147
キーをなくした 93, 94
正常に働かない 374
施錠・解錠ができない 374
電子キー 92
電池が切れた 295, 374
ハイブリッドシステムが始動できない 374
メカニカルキー 92, 374
ワイヤレスリモコン 95, 100
キーレスエントリー 104
スマートエントリー&スタートシステム 104
ワイヤレスドアロック 95, 100
給油 172
給油のしかた 172
メンテナンスデータ 388
給油後平均燃費 81
緊急時シートベルト固定機構 30
緊急始動機能（ハイブリッドシステム） 373
緊急時の対処
オーバーヒートした 381
キーの電池が切れた 295, 374
警告灯がついた 327
警告メッセージが表示された 331
けん引 321
故障したときは 316
車両を緊急停止する 320
スタックした 385
電子キーが正常に働かない 374
ハイブリッドシステムが始動できない 372
発炎筒 318
パンクした 349, 359
補機バッテリーがあがった 376
緊急停止システム 62

く

空気圧（タイヤ）..... 391
メンテナンスデータ 391
区間距離計（トリップメーター）... 76
機能 76
切りかえ・リセットボタン..... 77
駆動用電池 61
警告メッセージ 336, 343
充電について 59
搭載位置..... 61
冷却用吸入口..... 62
曇り取り
ミラーヒーター 224, 232
リヤウインドウデフォッガー 224, 232
クラクション（ホーン）..... 121
クリアランスソナー※
警告メッセージ 333, 337
操作※
クリアランスランプ（車幅灯）... 162
スイッチ..... 162
電球（バルブ）の交換..... 311
クリップ
エンジンルームカバー..... 283
フロアマット..... 24
クルーズコントロール..... 175
クルーズコントロール..... 175
警告メッセージ 334, 337, 338
レーダークルーズコントロール 179
グローブボックス..... 246
グローブボックスランプ 246

け

警音器（ホーン）..... 121
計器類（メーター）..... 76
照度調整 77
マルチインフォメーションディスプレイ..... 80
メーター 76
警告灯..... 73, 327
ABS &ブレーキアシスト..... 328
SRS エアバッグ 328
エンジン 328
高水温 327
シートベルト非着用..... 329
充電..... 327
スリップ表示灯..... 328
電子制御ブレーキ..... 327
燃料残量 329
パーキングブレーキ表示灯 327
パワーステアリング..... 328
半ドア 329
PCS..... 328
プリテンショナー..... 328
ブレーキ 327
ヘッドランプオートレベリング..... 328
マスターウォーニング 329
油圧..... 327

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

警告ブザー
シートベルト非着用 329
接近警報（レーダークルーズコントロール）..... 184, 338
速度警告..... 330
手放し運転警告（LKA）..... 195, 339
パーキングブレーキ未解除走行時 329, 336
パワーステアリング 330
半ドア..... 96, 105, 335
半ドア走行時..... 335
ブレーキ..... 329
ムーンルーフ開 135, 335
油圧 331
リバース 157
警告メッセージ..... 331
化粧ミラー（バニティミラー）... 256
けん引..... 321
けん引されるとき 321
フック..... 323

こ

交換
エアコンフィルターの交換.... 293
キーの電池..... 295
タイヤ..... 349
電球（バルブ）..... 300
ヒューズ 297
工具（ツール）..... 350, 360
航続可能距離 81, 89, 340
後退灯（バックアップランプ）
電球（バルブ）の交換..... 300
ワット数 392
高電圧部位..... 61
コーションラベル 61
コートフック..... 260
後方プリクラッシュセーフティシステム..... 211
固定用バンド..... 255
子供専用シート..... 42
選択方法 42
取り付け方 50
小物入れ..... 252
コンソールボックス 246
コンライト（自動点灯・消灯装置）..... 162

さ

サービスプラグ..... 61, 64
サイドエアバッグ 33
サイド方向指示灯 160
電球（バルブ）の交換..... 311
方向指示レバー..... 160
サイドミラー（ドアミラー）..... 126
操作..... 126
リバース連動機能 128
三角表示板収納スペース..... 255
サンシェード
電動リヤサンシェード..... 258
ムーンルーフ 134
サンバイザー..... 256

し

シート 110
子供専用シート 42
正しい運転姿勢 26
調整 110
手入れ 276
パワーイージーアクセス システム 113
ヘッドレスト 118
ポジションメモリー 114
メモリーコール機能 116
シートヒーター（快適温熱シート） 240
シートベルト 28
お子さまの着用 30, 31
緊急時シートベルト固定機構 ... 30
シートベルト非着用警告灯 329
高さ調整 28
正しく着用するには 28
着け方・はずし方 28
手入れ 277
妊娠中の方の着用 31
シートベルト非着用警告灯 329
シートベルトプリテンショナー 29
機能 29
プリテンショナー警告灯 328
シートポジションメモリー 114
事故が発生したとき（ハイブリッドシステムの注意） 65
室内灯（インテリアランプ） 242
始動のしかた 147
シフトポジション 155
シフトレバー 154
シフトポジションの切りかえ 154
操作 154
リバース警告ブザー 157
締め付けトルク（ホイール） 356
ジャッキ
ガレージジャッキ 282
車載ジャッキ 350, 360
ジャッキハンドル 350, 360
車幅灯 162
電球（バルブ）の交換 311
ランプスイッチ 162
車両型式 392
車両仕様（スペック） 388
車両接近通報装置 58
車両データの記録 7
車両を緊急停止するには 320
ジュニアシート 43
瞬間燃費 81
仕様（車両仕様） 388
衝撃感知ドアロック解除システム 99
初期設定 131, 135, 395

す

スイッチ
- アクセサリーコンセント..... 263
- EV ドライブモード..... 152
- イグニッション 147
- ウインドウロック 130
- ウォッシャー..... 167
- AC100V メインスイッチ..... 263
- ECO MODE..... 156
- LKA..... 193
- オーディオ※
- クリアランスソナー※
- クルーズ
  - コントロール 175, 179
- シート調整..... 110
- シートヒーター 240
- シートポジションメモリー.... 113
- 車間距離切りかえ（レーダー
  - クルーズコントロール）..... 181
- 車両接近通報一時停止..... 58
- 助手席ドアパネル 239
- SPORT MODE..... 156
- ステアリング
  - スイッチ 239, 269
- DISP 80
- 電動リヤサンシェード..... 258
- 電話※
- ドアミラー..... 126
- ドアロック 97
- トーク※
- パワーウインドウ..... 130
- パワースイッチ..... 147
- ハンドル位置調整..... 120
- 非常点滅灯
  - （ハザードランプ）..... 317
- フォグランプ 164
- プリクラッシュブレーキ
  - OFF..... 206
- フロントワイパー
  - デアイサー..... 224, 234
- ヘッドランプクリーナー 171
- ヘルプネット※
- ポジションメモリー..... 113
- ムーンルーフ 133
- ランプ 162
- リヤウインドウ
  - デフォッガー..... 224, 232
- レーダークルーズ
  - コントロール..... 179
- ワイドビューフロント
  - モニターメイン※
- ワイパー 167

スカッフプレート照明..... 242

スタック..... 385

ステアリングホイール
（ハンドル）..... 120
- 位置調整 120
- ステアリング
  - スイッチ 239, 269
- ポジションメモリー 113

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

ストップランプ（制動灯）
緊急ブレーキシグナル..... 201
電球（バルブ）の交換 311
スノータイヤ（冬用タイヤ）..... 216
スピードメーター..... 76
スペアタイヤ（応急用タイヤ）... 349
空気圧..... 391
交換方法 349
スペック（車両仕様）..... 388
スマートエントリー&
スタートシステム..... 104
アンテナの位置 104
カスタマイズ設定 393
警告ブザー..... 105, 344
警告メッセージ 344
作動範囲..... 105
正常に働かないとき 374
節電機能..... 106
電波がおよぼす
影響について 109
ドアの解錠・施錠 95
トランクの解錠 100
ハイブリッドシステムの
始動 147
スモールランプ（車幅灯）..... 162
電球（バルブ）の交換..... 311
ランプスイッチ 162

せ

清掃 272, 276
アルミホイール.....273
外装.....272
シートベルト 277
内装.....276
レーダーセンサー 190, 209
制動灯
緊急ブレーキシグナル 201
電球（バルブ）の交換.....311
積算距離計（オドメーター）.....76
機能.....76
表示の切りかえ・
リセットボタン 77
セキュリティ
インジケーター 67, 68
接近警報（レーダークルーズ
コントロール）.....184, 338
センサー
インナーミラー.....124
雨滴感知センサー.....169
ライトセンサー.....163
レーダーセンサー.....186, 206
洗車 272
前照灯（ヘッドランプ）.....162
電球（バルブ）の交換.....311
ライトセンサー.....163
ランプ消し忘れ防止機能 163
ランプスイッチ.....162
センターパネル小物入れ.....252

そ

走行モード
（ドライブモード）..... 152, 156
速度計（スピードメーター）..... 76

た

ターンシグナルランプ
（方向指示灯）..... 160
電球（バルブ）の
交換..... 302, 305
方向指示レバー 160
ワット数 392
タイヤ..... 287
応急用タイヤ..... 349
空気圧..... 391
交換 349
締め付けトルク 356
低偏平タイヤ..... 288
点検 287
パンク応急修理キット..... 359
パンクしたときは 349, 359
ホイールサイズ 391
ローテーション
（位置交換）..... 287
タイヤが空まわりする
（スタックした）..... 385
タイヤチェーン..... 216

ち

チェーン（タイヤチェーン）.....216
チャイルドシート 42
ISOFIX バーでの
取り付け 45, 52
シートベルトでの固定.....44, 51
選択方法 42
チャイルドプロテクター.....98
駐車ブレーキ
（パーキングブレーキ）.....161
警告メッセージ.....336
操作.....161
未解除走行時警告ブザー 336
メンテナンスデータ.....390

つ

ツール（工具）.....350, 360

て

低偏平タイヤ.....288
手入れ.....272, 276
アルミホイール.....273
外装.....272
シートベルト 277
内装.....276
レーダーセンサー.....190, 209
テールランプ（尾灯）.....162
電球（バルブ）の交換.....311
ランプスイッチ.....162

デフォッガー
（リヤウインドウ
デフォッガー）..... 224, 232
電気モーター 61
電球（バルブ）
交換要領（外装バルブ）..... 300
ワット数..... 392
点検基準値
（メンテナンスデータ）..... 388
電源（AC100V/1500W）..... 263
電子キー 92
作動範囲..... 105
正常に働かないとき 374
節電機能..... 106
電池が切れた..... 374
電池交換..... 295
電池交換（キー）..... 295
電話スイッチ※ 269

と

ドア..... 95
オートドアロック・
アンロック機能 98
警告メッセージ 335
衝撃感知ドアロック解除
システム..... 99
スマートエントリー&
スタートシステム..... 104
チャイルドプロテクター..... 98
ドアガラス..... 130
ドアロックスイッチ 97
半ドア警告灯 329
半ドア走行時警告ブザー..... 335
ロックレバー..... 97
ワイヤレスリモコン 95
ドアカーテシランプ 242
位置..... 242
ワット数..... 392
ドアミラー..... 126
操作..... 126
リバース連動機能..... 128
盗難防止装置
イモビライザーシステム 67
オートアラーム..... 68
トークスイッチ※..... 269
時計※ 257
トップテザーアンカー..... 50
ドライビングポジション
メモリー..... 114
トラクションコントロール
（TRC）..... 200
トランク..... 100
オープナー 100
キー閉じ込み防止機能..... 102
警告メッセージ..... 335
電子キーが正常に
働かないとき..... 374
トランク内の装備..... 254
ワイヤレスリモコン..... 100
トランクランプ..... 102
トランスミッション 154
操作..... 154
メンテナンスデータ 390
トリップインフォメーション
（マルチインフォメーション
ディスプレイ）..... 80
トリップメーター 76
機能..... 76
切りかえ・リセットボタン 77

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

な

内装
収納装備 245
手入れ 276
ナビゲーションシステム※

に

ニーエアバッグ 33
荷物
積むときの注意 146
トランク 100, 254

ぬ

ぬかるみにはまった（スタック） 385

ね

燃費
給油後平均燃費 81
瞬間燃費 81
平均燃費 81
燃費画面 89
燃料 388
給油 172
種類 388
燃料残量警告灯 329
容量 388
燃料計 76

は

パーキングブレーキ 161
警告メッセージ 336
操作 161
ブレーキ警告灯 327
未解除走行時警告ブザー 336
メンテナンスデータ 390
パーソナルランプ 243
排気ガス 56
ハイビーム（ヘッドランプ） 162
電球（バルブ）の交換 311
ランプスイッチ 162
ハイブリッドシステム 57
EV ドライブモード 152
運転のアドバイス 214
オーバーヒート 381
回生ブレーキ 59
ガス欠になったとき 63
緊急始動機能 373
緊急時の停止方法 320
緊急停止システム 62
駆動用電池冷却用吸入口 62
警告メッセージ 331
高電圧部位 61
サービスプラグ 61, 64
事故が発生したとき 65
始動できないときは 372
始動方法 147
車両接近通報装置 58
充電 59
注意 61
特徴 57

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

特有の音と振動 60
パワー（イグニッション）
スイッチ 147
補機バッテリーがあがった 376
メンテナンス・
修理・廃車するとき 60
ハイブリッドシステム
インジケーター 78
ハイマウントストップランプ
電球（バルブ）の交換 311
ハザードランプ（非常点滅灯） ... 317
後方車両への警報 211
スイッチ 317
電球（バルブ）の
交換 302, 305
ワット数 392
挟み込み防止機能
パワーウインドウ 130
ムーンルーフ 134
発炎筒 318
バックアップランプ（後退灯）
電球（バルブ）の交換 308
ワット数 392
バッテリー（駆動用電池） 61
充電について 59
搭載位置 61
冷却用吸入口 62
バッテリー（補機バッテリー） ... 279
搭載位置 279
補機バッテリーがあがった 376
補機バッテリーを
交換するとき 280
バニティ（化粧用）ミラー 256
バニティミラーランプ 256
装備について 256
ワット数 392
バルブ（電球）
交換要領（外装のバルブ） 300
ワット数 392
パワーイージーアクセス
システム 113
パワーウインドウ 130
ウインドウロックスイッチ 130
閉めることが
できないときは 131
操作 130
ドアロック連動ドアガラス
開閉機能 131
挟み込み防止機能 130
パワーコントロールユニット 61
パワー（イグニッション）
スイッチ 147
パワーステアリング 201
警告メッセージ 334
パワーステアリング警告灯 328
パンクした
応急用タイヤ装着車 349
タイヤパンク応急修理キット
装着車 359
番号灯
（ライセンスプレートランプ） ... 162
電球（バルブ）の交換 311
ランプスイッチ 162
ワット数 392
ハンドル
（ステアリングホイール） 120
位置調整 120
ポジションメモリー 114

ひ

ビークルスタビリティ
コントロール（VSC）..... 200
ヒーター
エアコン・
デフォッガー 224, 232
シートヒーター 240
非常点滅灯（ハザードランプ）... 317
スイッチ 317
電球（バルブ）の
交換 302, 305
ワット数 392
後方車両への警報 211
非常用電源 263
尾灯（テールランプ）..... 162
電球（バルブ）の交換 311
ランプスイッチ 162
ヒューズ 297
表示灯 74
日よけ（サンバイザー）..... 256
ヒルスタートアシスト
コントロール 201

ふ

ブースターケーブルの
つなぎ方 376
フォグランプ 164
スイッチ 164
電球（バルブ）の
交換 310, 311
ブザー
シートベルト非着用警告 329
接近警報（レーダークルーズ
コントロール）..... 184, 338
手放し運転警告
（LKA）..... 195, 339
パーキングブレーキ未解除
走行時警告 336
半ドア走行時警告 335
ブレーキ警告 327
ムーンルーフ開警告 335
リバース警告 157
フック
買い物フック 254
けん引フック 323
コートフック 260
フロアマット固定フック 24
フューエルメーター（燃料計）..... 76
フューエルリッド（給油口）..... 172
給油のしかた 172
冬の前の準備（寒冷時の運転）.... 216
冬用タイヤ 216
プリクラッシュセーフティ
システム（PCS）..... 205
機能 205
警告
メッセージ 333, 338, 339
後方プリクラッシュ
セーフティシステム 211
PCS OFF スイッチ 206
PCS 警告灯 328
プリクラッシュインテリジェント
ヘッドレスト 211

ブレーキ
回生ブレーキ……59
警告ブザー……327
パーキングブレーキ……161
ブレーキ警告灯……327
メンテナンスデータ……390
ブレーキアシスト……200
ABS &ブレーキアシスト
警告灯……328
機能……200
ブレーキ付近からキーキー音が
聞こえる……142
ブレーキフルード……390
フロアマット……24
フロントシート……110
シートヒーター……240
シートポジションメモリー……113
正しい運転姿勢……26
調整……110
手入れ……276
ヘッドレスト……118
ポジションメモリー……114
フロントフォグランプ……164
スイッチ……164
電球（バルブ）の交換……311
フロント方向指示灯……160
電球（バルブ）の交換……302
方向指示レバー……160
ワット数……392

へ

平均車速……81
平均燃費……81
ヘッドランプ……162
クリーナー……171
電球（バルブ）の交換……311
ライトセンサー……163
ランプ消し忘れ防止機能……163
ランプスイッチ……162
ヘッドランプオートレベリング
システム……163
警告灯……328
ヘッドレスト……118
アクティブヘッドレスト……111
プリクラッシュ
インテリジェント
ヘッドレスト……211
ベビーシート……43
ヘルプネットスイッチパネル※

ほ

ホイール
交換（タイヤ）……287, 349
メンテナンスデータ……391
方向指示灯……160
電球（バルブ）の
交換……302, 305
方向指示レバー……160
ワット数……392
ホーン（警音器）……121
補機バッテリー……279
交換するとき……280
搭載位置……279
補機バッテリーがあがった……376

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

保証 9
ボトルホルダー 251
ボンネット 279
開け方 279
警告メッセージ 335

ま

マイコンプリセット
ドライビングポジション
システム 113
マスターウォーニング 329, 331
マルチインフォメーション
ディスプレイ 80
エネルギーモニター 86
警告メッセージ 331
ドライブインフォメーション ... 81

み

ミラー
インナーミラー 123
ドアミラー 126
バニティミラー 256

む

ムーンルーフ 133
警告ブザー 135
警告メッセージ 335
操作 133
ドアロック連動ムーンルーフ
開閉機構 134
挟み込み防止機能 134

め

メーター（計器類） 76
警告灯 327
照度調整 77
表示灯 74
マルチインフォメーション
ディスプレイ 80
メーター 76
メカニカルキー 92
メモリーコール機能 116
メンテナンスデータ 388

も

モーター（電気モーター） 57
モーターでの走行
（EV ドライブモード） 152

ゆ

ユーザーカスタマイズ機能 393
雪道ですべって動けない
（スタックした） 385
油脂類 388

ら

ライセンスプレートランプ
（番号灯） 162
電球（バルブ）の交換 311
ランプスイッチ 162
ワット数 392
ラゲージマット 254
ラゲージルーム
（トランク） 100, 254

ラジエーター
オーバーヒート 381
メンテナンスデータ 390
ランプ
室内灯 242
スカッフプレート照明 242
電球（バルブ）の交換 300
パーソナルランプ 243
非常点滅灯
（ハザードランプ） 317
フロントフォグランプ 164
ヘッドランプ（前照灯） 162
方向指示灯（ターンシグナル
ランプ／ウインカー） 160
ライトセンサー 163
ランプ消し忘れ防止機能 163
リヤフォグランプ 164
ワット数 392
ランプ消し忘れ防止機能 163

り

リバース連動機能
ドアミラー 128
リヤサンシェード 258
リモートタッチ※
リヤアームレスト 257
リヤウインドウ
デフォッガー
スイッチ 224, 232
リヤフォグランプ 164
スイッチ 164
電球（バルブ）の交換 310
ワット数 392
リヤ方向指示灯 160
電球（バルブ）の交換 305
方向指示レバー 160
ワット数 392

る

ルームミラー
（インナーミラー） 123
ルームランプ（室内灯） 242

れ

冷却水 390
冬の前の準備 216
メンテナンスデータ 390
冷却装置（ラジエーター） 390
オーバーヒート 381
メンテナンスデータ 390
レーダークルーズ
コントロール 179
警告
メッセージ 334, 337, 338
接近警報 184, 338
レーダーセンサー 186
レーンキーピングアシスト
（LKA） 191
警告メッセージ 338, 339
操作 191
レバー
シフト 154
方向指示 160
ボンネット解除 279
ロック（ドア） 97

ろ

ロック
ウインドウロック 130
スマートエントリー&
スタートシステム 104
チャイルドプロテクター 98
ドア 95
ワイヤレスリモコン 95, 101

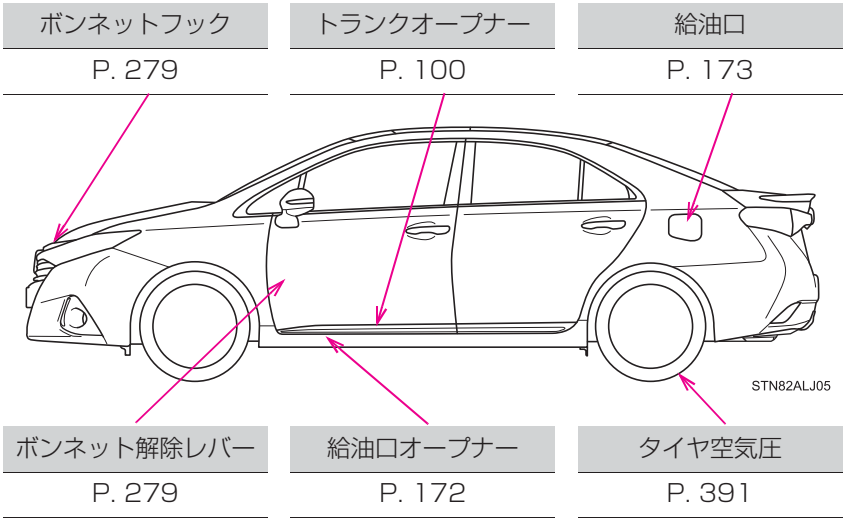
※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

わ

ワイパー & ウォッシャー..... 167
ワイパーブレード（寒冷地用）... 217
ワイヤレスリモコン..... 92, 95, 101
作動の合図..... 96, 101
操作 92, 95, 101
電池の交換..... 295
半ドア警告ブザー 96
ワックス 272
ワット数 392

ガソリンスタンドでの情報

給油や交換などの際に必要になる項目をまとめてあります。



燃料の容量（参考値）	55L
燃料の種類	無鉛レギュラーガソリン　P. 388
タイヤが冷えているときの空気圧	標準タイヤ： タイヤサイズ / 前輪 kPa (kg/cm^2) / 後輪 kPa (kg/cm^2) 205/60R16 92V / 230（2.3） / 210（2.1） 215/45R18 89W / 230（2.3） / 210（2.1） 応急用タイヤ★：420kPa（4.2kg/cm^2）
エンジンオイル容量（参考値）	オイルのみ交換時：4.1L オイルとフィルター交換時：4.3L
エンジンオイルの種類	トヨタキヤッスルモーターオイル ・SN 0W-20（API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 0W-20） ・SN 5W-20（API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 5W-20） ・SN 5W-30（API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 5W-30） ・SN 10W-30（API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 10W-30）

★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

お問い合わせ、ご相談は
下記へお願いいたします。

トヨタ自動車株式会社　お客様相談センター

全国共通・フリーコール

0800-700-7700

フリーコール

オープン時間　365日　9:00～18:00

所在地　〒450 - 8711　　名古屋市中村区名駅4丁目7番1号

「個人情報保護方針」については、
http://www.toyota.co.jpにて掲載しております。

トヨタ自動車株式会社
http://toyota.jp

M 75044
01999-75044
OS-2015年 7 月28日
2015年 5 月11日 初版
2015年 8 月 4 日 2 版
SAI